



千葉市種ヶ谷津遺跡（第5次）

—廃棄物（木くず）中間処理施設の拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2020

株式会社 グリーンアース
公益財団法人 千葉市教育振興財団





種ヶ谷津遺跡全景





例言

- 1 本書は、千葉市中央区生糸町 2060-1 (ほか)に所在する種ヶ谷津遺跡の炭化物（木くず）中間処理施設の搬入工事に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業は、株式会社グリーンアースの委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財团法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
- 3 発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
- ・確認調査
期間：2017（平成29）年9月7日～2017（平成29）年10月20日 面積：885 m²/9,518 m² 担当者：長原亘（千葉市埋蔵文化財調査センター）
- ・本調査
期間：2018（平成30）年4月9日～2018（平成30）年12月17日 面積：7,380 m² 担当者：小林嵩（公益財团法人千葉市教育振興財団）
- 4 整理および本書の製作・編集は、吉村延子・新田清美・田中葉月・北田典子・岸本充・廣田哲徳・吉原大河の協力を得て、小林が担当して行った。
- 5 整理期間は、2019（平成31）年4月1日～2020（令和2年）年3月22日にかけて、断続的に行った。
- 6 遺構・遺物の撮影は小林・塚原勇人が行った。
- 7 遺構の空撮業務は株式会社東京航業研究所に委託して行った。
- 8 出土鉄製品の保存処理業務は株式会社イビゾクに委託して行った。
- 9 出土炭化材の樹種同定は株式会社パレオ・ラボに委託して行った。
- 10 本書の執筆は小林・岸本・吉原が行い、第3章は西野雅人（千葉市埋蔵文化財調査センター）が執筆し、第4章は小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が執筆した。
- 11 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 12 発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・株式会社グリーンアース

凡例

- 1 本書に掲載した遺構図の方針は、公共建物の北を基準としている。
- 2 土層及く遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新改 標準土色帖」による。
- 3 本文中の柄の縮尺は原則として以下のとおりである。
遺構実測図：1/40・1/60・1/600
遺物実測図：土器1/4・1/3 鉄製品1/2 土製品1/3 石器・石製品1/3・1/2・1/1
- 4 遺構・遺物の図面はAdobe Systems 社製Adobe Illustratorで編集作業を行った。
- 5 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製Adobe Photoshopで編集作業を行った。
- 6 本文中の遺構の略称は以下とのとおりである。
堅穴建物跡：SI 潟跡：SD 土坑：SK 柱穴：P 烧土跡：SL

凡例

遺構

	貝層		粘土		燃焼面
	炭化材		山砂		

遺物

	赤彩・被熱範囲
	黒彩



目次

例言・凡例

目次

第1章 種ヶ谷津遺跡の概要	1
1 遺跡の立地	1
2 周辺の遺跡	1
3 過去の調査歴	1
4 調査の方法	2
第2章 検出した遺構と遺物	6
1 縄文時代	6
2 弥生時代	14
3 古墳時代	15
4 古代	80
5 近世	81
6 時期不明	86
第3章 貝サンプルの分析結果	100
第4章 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の樹種同定	104
第5章 まとめ	112
写真図版	
抄録	

表目次

第1表 貝サンプル一覧	101	第2表 貝類種名一覧	101
第3表 同定結果	101	第4表 貝種組成	102
第5表 貝類計測値分布	102	第6表 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の樹種同定結果	104
第7表 出土遺物集計表	115	第8表 出土遺物観察表	125

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第2図 種ヶ谷津遺跡と周辺遺跡の調査歴	4
第3図 遺構配図図	5	第4図 縄文時代遺構配図	7
第5図 第9号堅穴建物跡	8	第6図 第9・13・17・27・31・35・37号土坑	9
第7図 第38・64・65号土坑、第19号柱穴、土坑出土遺物（1）	11	第8図 土坑出土遺物（2）	12
第9図 縄文時代遺構外（1）	12	第10図 縄文時代遺構外（2）	13
第11図 弥生時代遺構外	14	第12図 古墳時代遺構配図	16
第13図 第4号堅穴建物跡（1）	17	第14図 第4号堅穴建物跡（2）	18
第15図 第4号堅穴建物跡（3）	19	第16図 第5号堅穴建物跡（1）	19
第17図 第5号堅穴建物跡（2）	20	第18図 第5号堅穴建物跡（3）	21
第19図 第6号堅穴建物跡（1）	22	第20図 第6号堅穴建物跡（2）	23
第21図 第6号堅穴建物跡（3）	24	第22図 第7号堅穴建物跡（1）	25
第23図 第7号堅穴建物跡（2）	26	第24図 第8号堅穴建物跡（1）	27
第25図 第8号堅穴建物跡（2）	28	第26図 第10号堅穴建物跡（1）	30



第27図 第10号竖穴建物跡(2)	31	第28図 第10号竖穴建物跡(3)	32
第29図 第11号竖穴建物跡(1)	32	第30図 第11号竖穴建物跡(2)	33
第31図 第11号竖穴建物跡(3)	34	第32図 第12号竖穴建物跡(1)	35
第33図 第12号竖穴建物跡(2)	36	第34図 第12号竖穴建物跡(3)	37
第35図 第12号竖穴建物跡(4)	38	第36図 第12号竖穴建物跡(5)	39
第37図 第13号竖穴建物跡	40	第38図 第14号竖穴建物跡(1)	42
第39図 第14号竖穴建物跡(2)	43	第40図 第15号竖穴建物跡(1)	43
第41図 第15号竖穴建物跡(2)	44	第42図 第16号竖穴建物跡(1)	45
第43図 第16号竖穴建物跡(2)	46	第44図 第16号竖穴建物跡(3)	47
第45図 第16号竖穴建物跡(4)	48	第46図 第17号竖穴建物跡(1)	49
第47図 第17号竖穴建物跡(2)	50	第48図 第18号竖穴建物跡(1)	51
第49図 第18号竖穴建物跡(2)	52	第50図 第19号竖穴建物跡(1)	54
第51図 第19号竖穴建物跡(2)	55	第52図 第19号竖穴建物跡(3)	56
第53図 第20号竖穴建物跡(1)	56	第54図 第20号竖穴建物跡(2)	57
第55図 第21号竖穴建物跡(1)	57	第56図 第21号竖穴建物跡(2)	58
第57図 第22号竖穴建物跡(1)	60	第58図 第22号竖穴建物跡(2)	61
第59図 第23号竖穴建物跡(1)	61	第60図 第23号竖穴建物跡(2)	62
第61図 第24号竖穴建物跡(1)	62	第62図 第24号竖穴建物跡(2)	63
第63図 第24号竖穴建物跡(3)	64	第64図 第25号竖穴建物跡(1)	66
第65図 第25号竖穴建物跡(2)	67	第66図 第26号竖穴建物跡(1)	67
第67図 第26号竖穴建物跡(2)	68	第68図 第27号竖穴建物跡(1)	69
第69図 第27号竖穴建物跡(2)	70	第70図 第28号竖穴建物跡(1)	71
第71図 第28号竖穴建物跡(2)	72	第72図 第2・3号土坑	72
第73図 第4・6・11・12・15・18号土坑	75	第74図 第19・22・29・30・32・33・40号土坑	77
第75図 第56・57・58・60・68・69号土坑・土坑出土遺物	78	第76図 古墳時代遺構外	79
第77図 古代遺構外	80	第78図 近世遺構配置図	82
第79図 第2号溝跡(1)	83	第80図 第2号溝跡(2)・第48・62号土坑・第1～3号焼土跡	84
第81図 近世遺構外	85	第82図 第5・7・8・10・14・16・20・21・23号土坑	87
第83図 第24～26・28・34・36・39・41～44号土坑	89	第84図 第45～47・49～54号土坑	91
第85図 第56・59・61・63・66・67・70～72号土坑	93	第86図 第73～81号土坑	95
第87図 第82～86号土坑	96	第88図 第1～18・20～22号柱穴	99

写真図版目次

- 図版1 調査区遠景(北から)、調査区遠景(南から)
図版2 調査区全景(北側)、調査区全景(南側)
図版3 調査前現況(北から)、第9号竖穴建物跡全景(北西から)、第9号土坑全景(南から)、第13号土坑全景(南から)、第



- 17号土坑全景(北東から)、第27号土坑全景(西から)、第31号土坑全景(南西から)、第35号土坑全景(北東から)
- 国版4 第37号土坑全景(北東から)、第38号土坑全景(南東から)、第38号土坑貝層検出状況(西から)、第64号土坑全景(東から)、第65号土坑全景(北西から)、第4号壁穴建物跡全景(南西から)、第4号壁穴建物跡カマド全景(南西から)、第4号壁穴建物跡遺物出土状況(西から)
- 国版5 第4号壁穴建物跡遺物出土状況2(北西から)、第4号壁穴建物跡遺物出土状況3(南東から)、第4号壁穴建物跡遺物出土状況4(南東から)、第4号壁穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況(北西から)、第5号壁穴建物跡全景(南から)、第5号壁穴建物跡遺物出土状況(南東から)、第5号壁穴建物跡2区遺物出土状況(南東から)、第5号壁穴建物跡カマド遺物出土状況1(南東から)
- 国版6 第5号壁穴建物跡カマド遺物出土状況2(南東から)、第6号壁穴建物跡全景(西から)、第6号壁穴建物跡カマド遺物出土状況(北西から)、第6号壁穴建物跡カマド横遺物出土状況(南西から)、第7号壁穴建物跡全景(南西から)、第7号壁穴建物跡遺物出土状況(南東から)、第7号壁穴建物跡粘土出土状況(北西から)、第8号壁穴建物跡全景(西から)
- 国版7 第8号壁穴建物跡カマド土層断面(南から)、第10号壁穴建物跡全景(西から)、第10号壁穴建物跡カマド土層断面(南西から)、第11号壁穴建物跡全景(西から)、第11号壁穴建物跡遺物出土状況(北東から)、第12号壁穴建物跡全景(西から)、第12号壁穴建物跡遺物出土状況1(北から)、第12号壁穴建物跡遺物出土状況2(北西から)
- 国版8 第13号壁穴建物跡全景(南西から)、第14号壁穴建物跡全景(北西から)、第14号壁穴建物跡カマド土層断面(南西から)、第14号壁穴建物跡1区遺物出土状況(北東から)、第15号壁穴建物跡全景(南西から)、第16号壁穴建物跡全景(西から)、第16号壁穴建物跡遺物出土状況(北東から)、第17号壁穴建物跡全景(北東から)
- 国版9 第17号壁穴建物跡カマド全景(東から)、第17号壁穴建物跡貯蔵穴土層断面(西から)、第17号壁穴建物跡遺物出土状況(北西から)、第18号壁穴建物跡全景(南西から)、第18号壁穴建物跡カマド全景(西から)、第18号壁穴建物跡1区遺物出土状況(南東から)、第18号壁穴建物跡カマド遺物出土状況(東から)、第19号壁穴建物跡全景(南西から)
- 国版10 第19号壁穴建物跡カマド全景(南西から)、第20号壁穴建物跡全景(南西から)、第21号壁穴建物跡全景(西から)、第21号壁穴建物跡カマド全景(西から)、第21号壁穴建物跡カマド土層断面(南西から)、第21号壁穴建物跡遺物出土状況1(北西から)、第21号壁穴建物跡新遺物出土状況2(北西から)、第22号壁穴建物跡全景(西から)
- 国版11 第22号壁穴建物跡カマド遺物出土状況(南西から)、第23号壁穴建物跡全景(北西から)、第24号壁穴建物跡全景(南から)、第24号壁穴建物跡貯蔵穴1全景(北から)、第24号壁穴建物跡P5遺物出土状況(南から)、第25号壁穴建物跡全景(南東から)、第25号壁穴建物跡遺物出土状況(北から)、第26号壁穴建物跡全景(東から)
- 国版12 第26号壁穴建物跡貯蔵穴全景(東から)、第26号壁穴建物跡遺物出土状況1(東から)、第26号壁穴建物跡遺物出土状況2(東から)、第26号壁穴建物跡遺物出土状況3(南東から)、第26号壁穴建物跡遺物出土状況4(南東から)、第27号壁穴建物跡全景(南西から)、第28号壁穴建物跡カマド全景(東から)、第28号壁穴建物跡カマド全景(東から)
- 国版13 第28号壁穴建物跡遺物出土状況1(東から)、第28号壁穴建物跡遺物出土状況2(北西から)、第2号土坑全景(南西から)、第3号土坑全景(南西から)、第4号土坑全景(南東から)、第6号土坑全景(南東から)、第10・11号土坑全景(西から)、第12号土坑全景(東から)
- 国版14 第15号土坑全景(南から)、第18号土坑全景(南から)、第19号土坑全景(南から)、第22号土坑・第3号柱穴全景(東から)、第29号土坑全景(西から)、第30号土坑全景(北西から)、第32号土坑全景(南東から)、第33号土坑全景(北東から)
- 国版15 第40号土坑全景(北東から)、第55号土坑全景(北から)、第57号土坑全景(北から)、第58号土坑全景(北から)。



第60号土坑全景（北から）、第68号土坑全景（北から）、第69号土坑全景（北から）、第2号溝跡調査区北側土層断面（西から）

図版16 第2号溝跡・第1号焼土跡土層断面（南から）、第48号土坑全景（北から）、第62号土坑全景（北西から）、第2号焼土跡全景（北西から）、第2号焼土跡土層断面（南西から）、第3号焼土跡（北西から）、テストピット3号土層断面（西から）、調査風景1

図版17 調査風景2～8、調査終了状況（南から）

図版18 第9号堅穴建物跡・第9号土坑・第13号土坑・第17号土坑・第27号土坑・第35号土坑・第37号土坑・第38号土坑・第19号柱穴・縄文時代遺構外

図版19 縄文時代遺構外・弥生時代遺構外・第4号堅穴建物跡

図版20 第4号堅穴建物跡・第5号堅穴建物跡

図版21 第6号堅穴建物跡

図版22 第7号堅穴建物跡・第8号堅穴建物跡・第10号堅穴建物跡

図版23 第10号堅穴建物跡・第11号堅穴建物跡

図版24 第12号堅穴建物跡

図版25 第12号堅穴建物跡

図版26 第12号堅穴建物跡・第13号堅穴建物跡・第14号堅穴建物跡・第15号堅穴建物跡

図版27 第16号堅穴建物跡・第17号堅穴建物跡

図版28 第17号堅穴建物跡・第18号堅穴建物跡

図版29 第18号堅穴建物跡・第19号堅穴建物跡・第20号堅穴建物跡

図版30 第20号堅穴建物跡・第21号堅穴建物跡・第22号堅穴建物跡

図版31 第22号堅穴建物跡・第23号堅穴建物跡・第24号堅穴建物跡・第25号堅穴建物跡

図版32 第25号堅穴建物跡・第26号堅穴建物跡・第27号堅穴建物跡

図版33 第27号堅穴建物跡・第28号堅穴建物跡・第2号土坑・第3号土坑・第12号土坑

図版34 第22号土坑・第29号土坑・第33号土坑・第40号土坑・第55号土坑・第58号土坑・古墳時代遺構外・古代遺構外・近世遺構外





第1章 種ヶ谷津遺跡の概要

1 遺跡の立地（第1図）

種ヶ谷津遺跡は千葉市内でも南西部にある生実谷の支谷である赤井谷津に面した台地上に位置している。赤井谷津は東京湾に向けて開口する幅約100mの谷津で、遺跡付近では支谷の幅は約60mを測る。

種ヶ谷津遺跡は赤井谷津の南側の台地上に位置している。台地の両側は支谷が入り込み、その支谷間の東西約650m、南北約300mが種ヶ谷津遺跡の範囲となる。台地は北に向けて緩やかに傾斜しており、今回の調査範囲内でも約7mの比高差がある。過去の調査成果も踏まえると、遺構は大半が台地の北側縁辺に集中し、谷津から離れるに従い遺構の密度は希薄となる。

2 周辺の遺跡（第1図）

種ヶ谷津遺跡周辺には旧石器時代から奈良・平安時代までの遺跡が数多く存在し、調査されている。旧石器時代の遺跡としては種ヶ谷津遺跡の東側の台地上に位置する締目沢遺跡からナイフ形石器が出土している。縄文時代の遺跡は、おゆみ野地区（千葉東南部ニュータウン）の開発に伴う発掘調査で多く見つかっている。特に中期には大規模貝塚である有吉北・南貝塚が形成され、拠点的な集落であったと考えられている。後期の遺跡としても木戸作貝塚や小金沢貝塚を挙げることができ、後期～晩期の遺跡としては六通貝塚などを挙げることができる。このように、おゆみ野地区は縄文時代を通じ、規模に差はあるが、生活域となっていたようである。一方、種ヶ谷津遺跡近辺では遺構の検出例はほぼなく、前期後葉～中期初頭の土器が締目沢遺跡から出土しているのみである。弥生時代の遺跡は周辺には非常に少なく、おゆみ野地区の小金沢古墳群やバクチ穴遺跡から弥生時代前期末葉～中期前葉の土器が僅かに出土している。明確な遺構としては有吉遺跡で池上式期・宮ノ台式期の堅穴建物跡が僅かに検出されているが、種ヶ谷津遺跡近辺では遺構・遺物ともに検出されていない。古墳時代の遺跡は多く、主体となる時期は後期であり、締目沢遺跡、大道遺跡、榎作遺跡で検出されている。特に榎作遺跡は非常に遺構の密度が高い。古墳時代前期～中期にかけての遺跡は近辺には希薄であり、本遺跡南側の赤塚支谷に集中し、石柱などが出土した上赤塚1号墳や、滑石製石鏡などが出土した七廻塚古墳、市内最大の前方後円墳である大覚寺山古墳が位置している。古代の遺跡としては、おゆみ野地区では高沢遺跡などで比較的大規模な集落が検出されているが、近辺では大道遺跡や榎作遺跡に、比較的小規模な集落が展開していたようである。中世以降はおゆみ野地区を含めても遺跡数は少なくなり、おゆみ野地区では伯父名台遺跡から台地整形区画などが検出されているが、近辺では様相は不明瞭である。

3 過去の調査歴（第2図）

種ヶ谷津遺跡の発掘調査は、昭和54・56年度、昭和58年度、平成5・6年度、平成10年度に行われ、本調査が5回目となる。過去の調査では、旧石器時代の石器ブロックや縄文時代前期～後期にかけての土器片が調査区内から出土しているが、明確な遺構は確認されていない。遺構が確認されるのは古墳時代以降で、前期後葉～中期に位置づけられる堅穴建物跡が僅かにある。中期の集落跡は現状の調査成果からすると希薄であるが、中期終末ないし後期初頭に台地縁辺部を中心に比較的多くの検出され

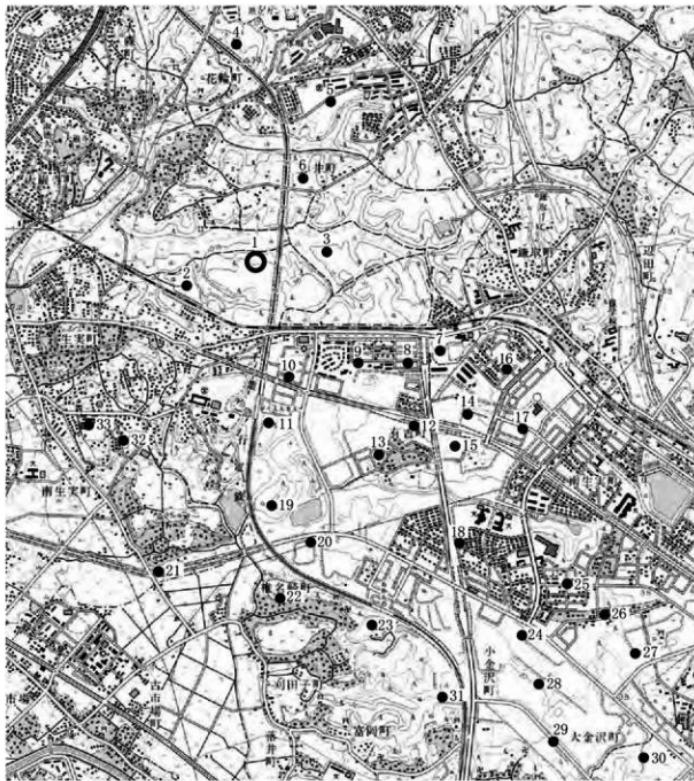


るようになり、台地上が開発されたものと考えられ、後期を通じて集落が形成される。古墳時代後期以降、集落は一度途絶え、生活痕跡は確認されないが、奈良時代に谷津の縁辺部から遺物の集中区が検出されている。土器集積遺構と呼称される遺構が複数検出され、古墳時代後期の堅穴建物跡が廃絶された後の庭地に土器などが投棄された例も検出された。遺物の時期は概ね8世紀代後半に位置づけられる遺物が主体を占め、遺物の総数は92,960点を数える。これらの遺物は完形品となるものが多いことから、破損したものを投棄したのではなく、完形品のまま置かれたことが指摘されている。また、壺などの供給具が多い一方で、煮沸具である甕も多いが、甕に煮炊きに使用した痕跡がほぼ認められないこと、奈良三彩が複数個体出土していること、鉄製儀鏡や佐波理製の垂飾なども出土していることから、使用した生活用具を廃棄したのではなく、何らかの祭祀行為が行われたものと考えられる。その後、中世以降の様相は不明瞭で、溝跡などが検出されるに留まっている。

なお、昭和54・56年度調査を第1次調査、昭和58年度調査を第2次調査、平成5・6年度調査を第3次調査、平成10年度調査を第4次調査、本報告の平成30年度調査を第5次調査と呼称する。遺構番号は、財団法人千葉市文化財調査協会が調査を行った平成10年度調査からの通し番号とした。

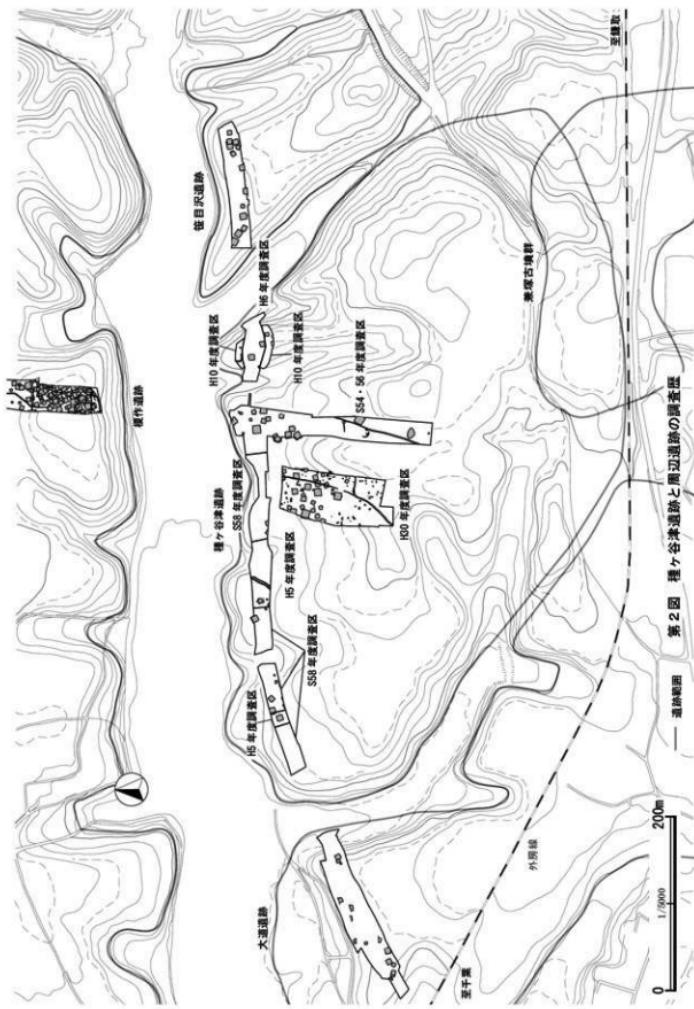
4 調査の方法（第3図）

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。グリッドは10m単位とし、南北方向は算用数字で、東西方向はアルファベットの大文字で表記した。更にグリッド内部を5m四方で4つに分け、アルファベットの小文字（北西:a、北東:b、南西:c、南東:d）で表記した。なお、本調査の際に旧石器時代の遺構・遺物を確認するため、部分的にトレンチを設定したが（第3図）、遺構・遺物は検出されなかった。

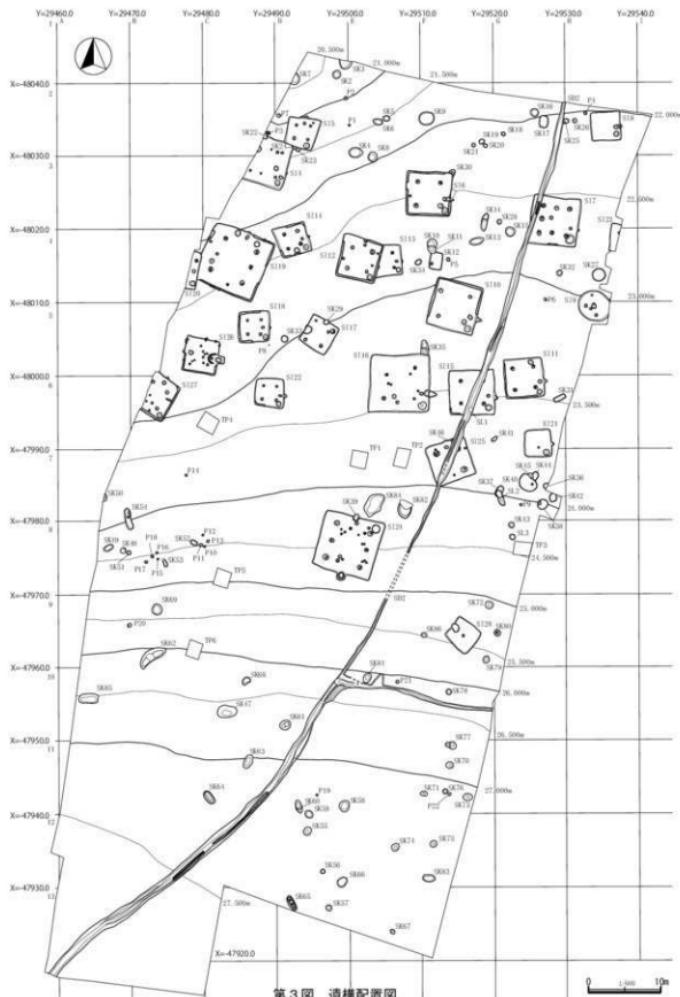


1. 種ヶ谷津遺跡
2. 大道遺跡
3. 笹目沢遺跡
4. 谷津遺跡
5. 仁戸名遺跡
6. 榎作遺跡
7. 錬取場台遺跡
8. 南二重櫻遺跡
9. 高沢遺跡
10. 有吉遺跡
11. 上赤塚1号墳
12. 有吉南遺跡
13. 有吉城跡
14. 有吉北貝塚
15. 有吉南貝塚
16. 錬取遺跡
17. 馬ノ口遺跡
18. 木戸作遺跡
19. 城ノ台遺跡
20. 崇名崎遺跡
21. 神門遺跡
22. 伯父名台遺跡
23. 今台遺跡
24. 小金沢古墳群
25. 六通遺跡
26. 六通貝塚
27. 六通金山遺跡
28. 御塚台遺跡
29. ムコアラク遺跡
30. 太田法師遺跡
31. 神明社裏遺跡
32. 大覺寺山古墳
33. 七廻塚古墳

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 稲ヶ谷本道跡と辺道跡の調査区





第2章 検出した遺構と遺物

1 繩文時代（第7・8表・第4～10図）

（1）概要

繩文時代の遺構としては、堅穴建物跡1軒、土坑10基、柱穴1基が検出された。時期が判断できる遺構としては加曾利E II式期の遺構で占められ、その他に黒浜式・阿玉台式・加曾利B 2式の可能性がある遺構が検出された。また、調査区内及び古墳時代・近世の遺構から土器・土製品・石器・石製品が出土している。遺構外出土の土器は阿玉台式～加曾利E II式期が多いが、縄文前期前葉～後期の資料も少量ではあるが出土している。遺物の総数は集計表（第7表）に記載した。

（2）堅穴建物跡（第7・8表、第5図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形。規模：長軸<4.34m、短軸4.13m、深さ0.23m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。ソフトロームを床面にしており、明確な硬化面は確認されなかった。ピットが5基検出され、壁溝は確認されなかった。炉は住居の中央付近から検出され、長軸0.65m、短軸<0.51m、深さ0.14mを測る。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：遺物の出土は少なく、建物跡南側の覆土及び床面から出土している。第5図7～12は土器片錐であり、比較的多く出土している。第5図13は土器片錐の未成品と考えられ、土器片錐の製作を行っていたと考えられる。また、被熱礫及び剥片が出土している。時期：出土した土器の文様構成から、加曾利E II式期。

（3）土坑

第9号土坑（第7・8表、第6・7図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸2.10m、短軸1.79m、深さ0.40m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から縄文土器・土師器が少量出土し、いずれも破片である。時期：出土遺物から、黒浜式期の可能性がある。

第13号土坑（第7・8表、第6・7図）

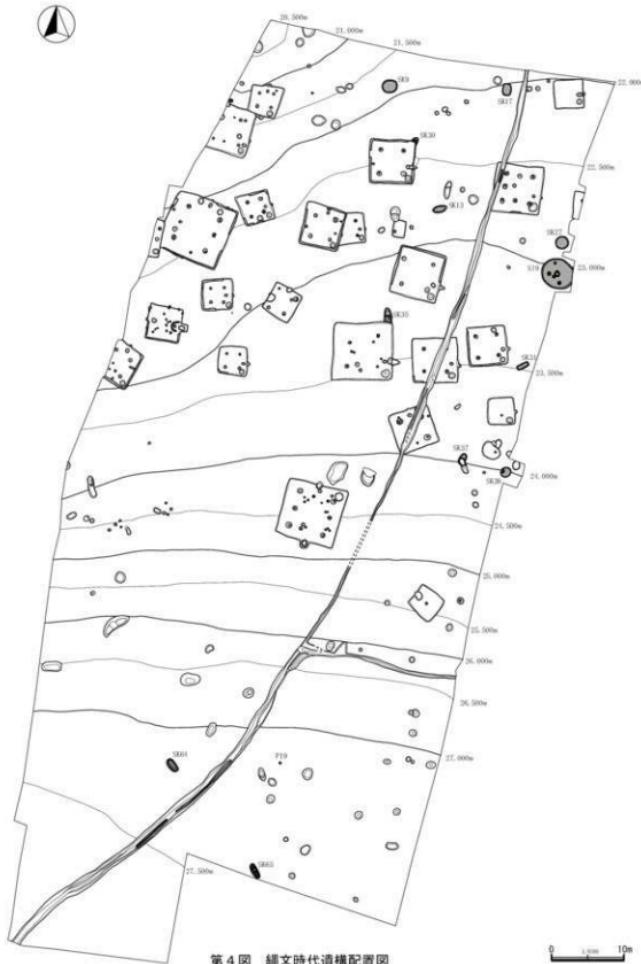
重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸2.00m、短軸0.96m、深さ0.28m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から加曾利E II～III式の深鉢片が1点のみ出土している。時期：出土遺物から、加曾利E II～III式期の可能性がある。

第17号土坑（第7・8表、第6・7図）

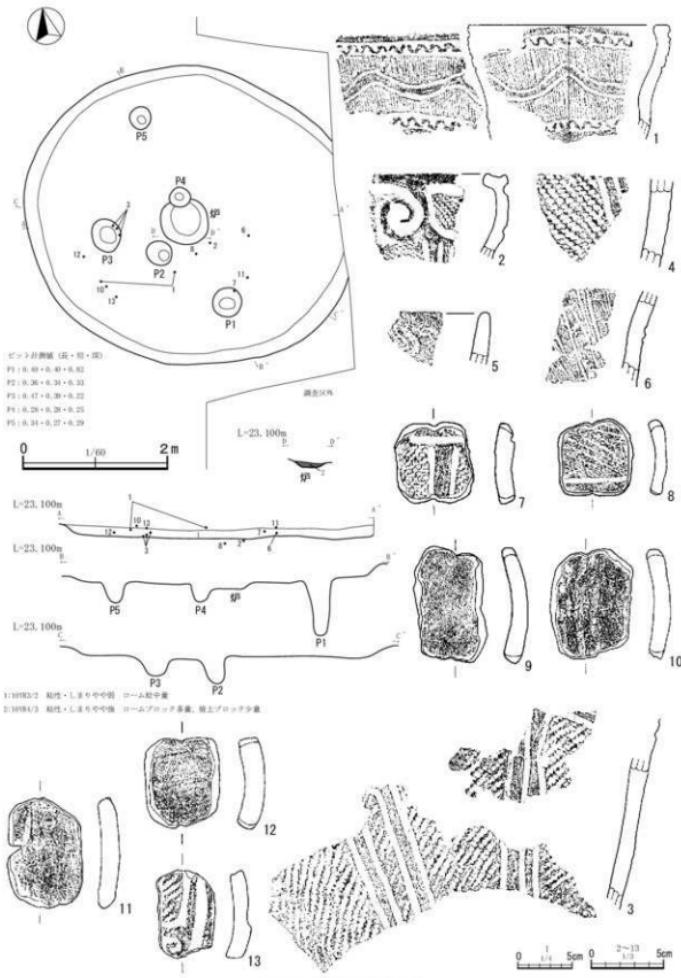
重複関係：なし。平面形態：隅丸方形。規模：長軸1.63m、短軸1.21m、深さ0.42m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から縄文土器・石器・土師器が少量出土し、いずれも破片である。時期：出土遺物及び遺構の形態から、縄文時代の可能性がある。

第27号土坑（小堅穴・第7・8表、第6・8図）

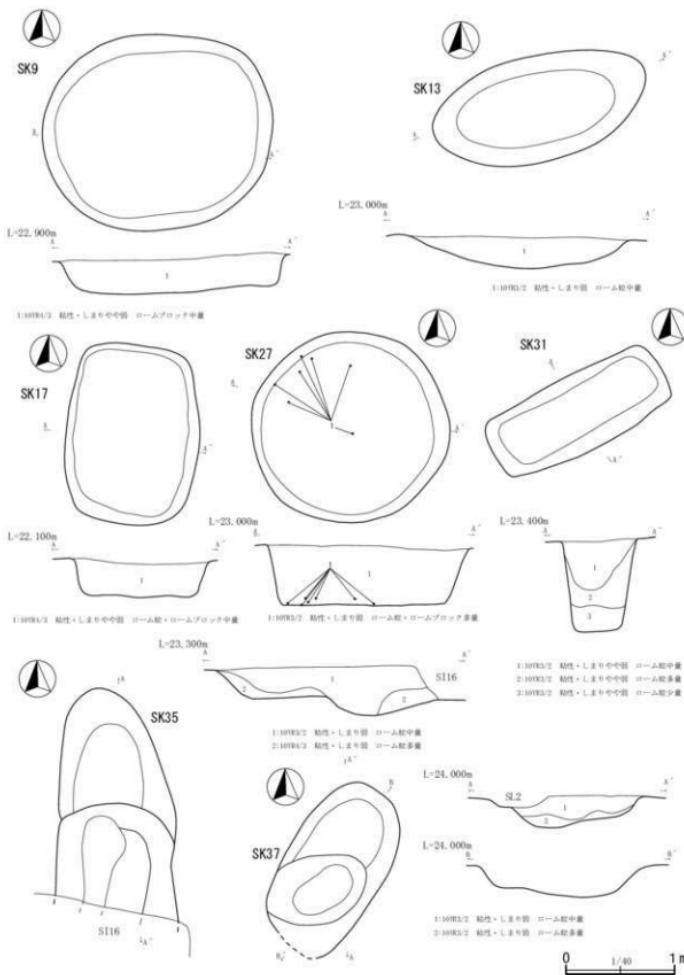
重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.83m、短軸1.73m、深さ0.54m。構造：小堅穴と呼



第4図 繩文時代遺構配置図



第5図 第9号竪穴建物跡



第6図 第9・13・17・27・31・35・37号土坑



ばれる遺構である。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：遺物の出土は少ないが、床面付近から加曾利E II式の深鉢がまとまって出土している。時期：出土遺物から、加曾利E II式期。

第31号土坑（陥穴）（第6図）

重複関係：なし。平面形態：長方形。規模：長軸1.73m、短軸0.70m、深さ0.89m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：遺物は出土していないが、形態から縄文時代の陥穴である可能性が高い。

第35号土坑（第7・8表、第6・8図）

重複関係：第16号竪穴建物跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：不整規円形と考えられる。規模：長軸2.00m、短軸1.07m、深さ0.55m。構造：底面は段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から加曾利E II式の深鉢が細片で少量出土している。時期：出土遺物から、加曾利E II式期の可能性がある。

第37号土坑（第7・8表、第6・8図）

重複関係：第2号焼土跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：楕円形。規模：長軸1.64m、短軸0.91m、深さ0.39m。構造：底面は傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から加曾利E II式の深鉢が細片で少量出土している。時期：出土遺物から、加曾利E II式期。

第38号土坑（小竪穴・第7・8表、第7・8図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.48m、短軸1.33m、深さ0.84m。構造：小竪穴と呼ばれる遺構である。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。柱穴が1基検出された。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。また、覆土上層からイボキサゴ主体の小規模な貝層が検出された。遺物：覆土上層を中心に加曾利E II式の深鉢が少量出土しているが、細片でほぼ占められている。図示はしなかったが第8図2・3と同一個体の破片が少量ある。時期：出土遺物から、加曾利E II式期。

第64号土坑（陥穴・第7図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸2.01m、短軸1.08m、深さ1.54m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：遺物は出土していないが、形態から縄文時代の陥穴である可能性が高い。

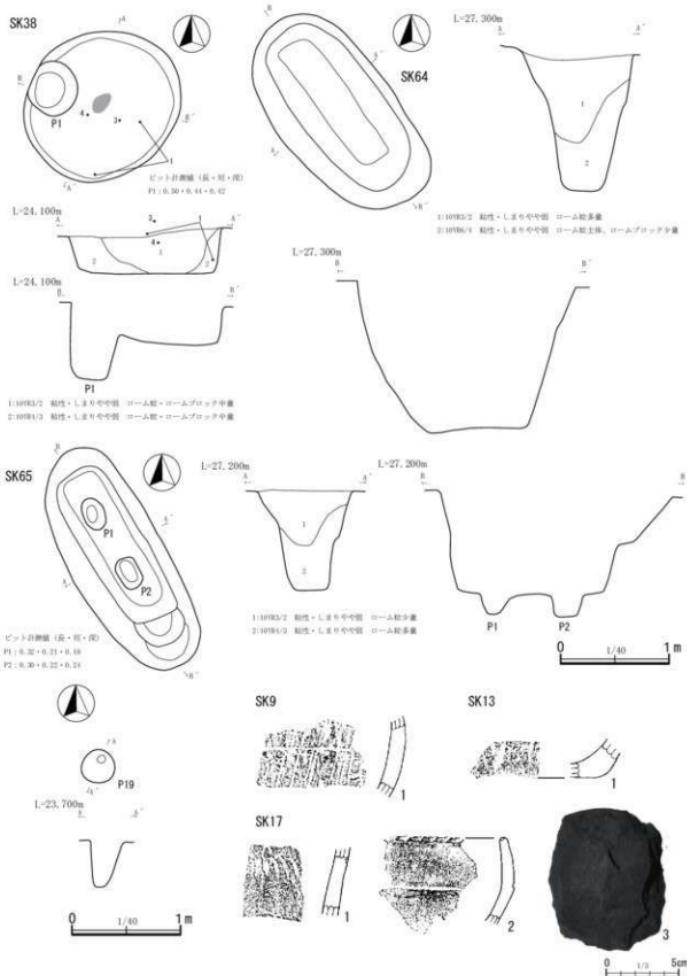
第65号土坑（陥穴・第7図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸2.19m、短軸0.90m、深さ0.95m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。南側は段差があり、緩やかに立ち上がる。底面から柱穴が2基検出された。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：遺物は出土していないが、形態から縄文時代の陥穴である可能性が高い。

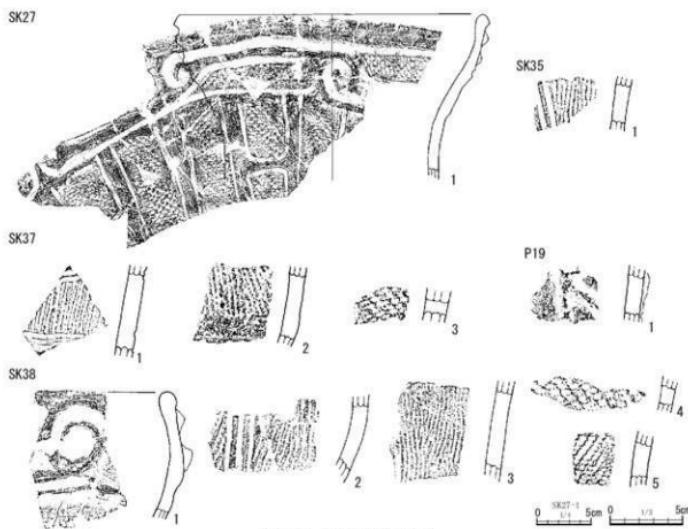
（4）柱穴

第19号柱穴（第7・8表、第7・8図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.31m、短軸0.30m、深さ0.43m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：覆土中から縄文土器が1点出土している。時期：出土遺物から阿玉台式期の可能性がある。



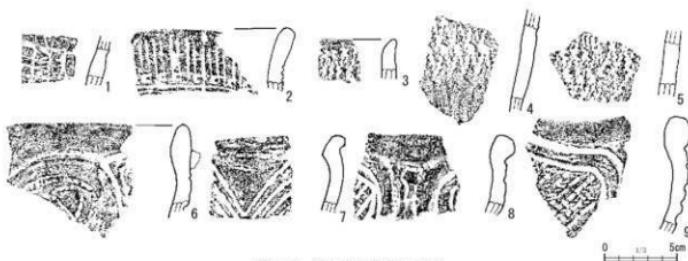
第7図 第38・64・65号土坑、第19号柱穴、土坑出土遺物（1）



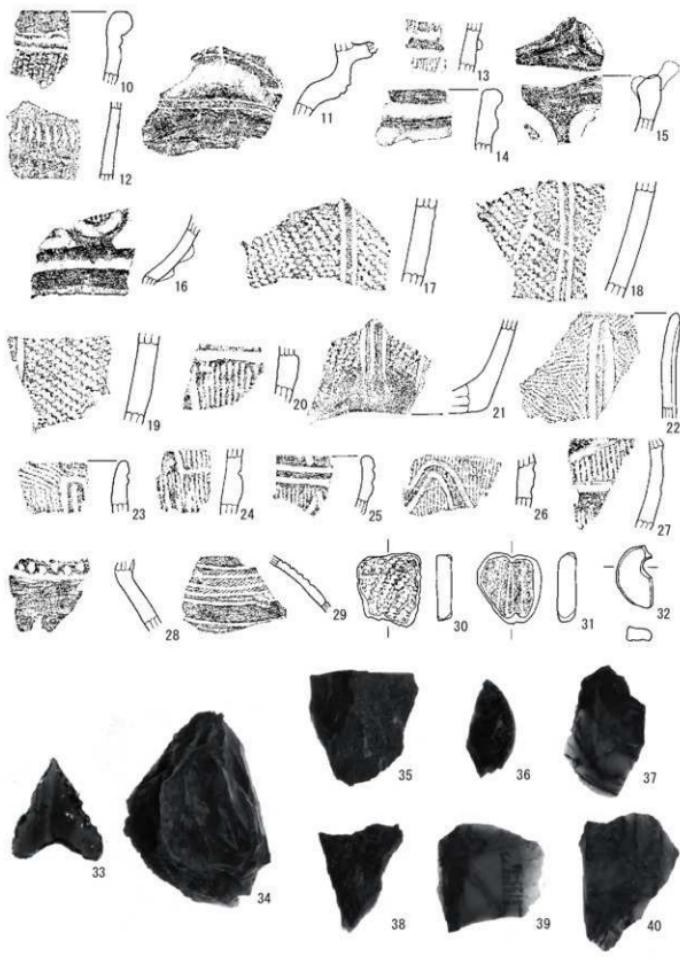
第8図 土坑出土遺物（2）

（4）遺構外出土遺物（第7・8表、第9・10図）

本調査で検出された縄文時代の遺構は竪穴建物跡1軒、土坑10基、柱穴1基だが、各遺構の覆土及び調査区内から縄文時代の土器・土製品・石器・石製品が検出されている。多く出土しているのは、阿玉台式期～加曾利E II式期であり、それ以外にも少量ではあるが前期前葉～後期までの時期幅がある。



第9図 縄文時代遺構外（1）



第10図 縄文時代遺構外(2)

0 10~32
1/3 5cm 0 33~40
1/3 1cm



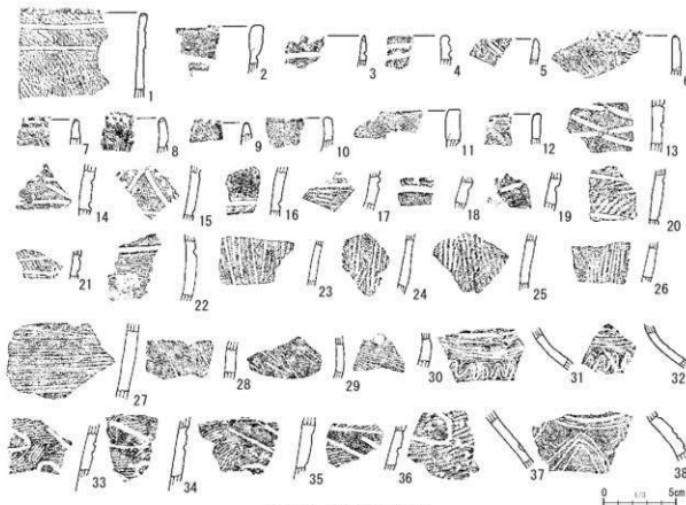
2 弥生時代（第7・8表・第11図）

（1）概要

弥生時代と特定できる遺構は検出されなかったものの、遺構外から少量ではあるが遺物が出土している。遺物の総数は集計表（第7表）に記載した。

（2）遺構外出土遺物（第7・8表・第11図）

遺構は検出されなかったものの、調査区内東部から集中して弥生時代の土器が出土している。特に第7・10号竪穴建物跡覆土に集中しており、近辺に遺構もしくは遺物集中区などがある可能性があるが、一括性は不明である。遺物の時期は弥生時代前期末葉の荒海式～中期後葉の宮ノ台式までの時期幅がある。中期初頭～前葉の土器は丸子式系や東北地方南部ないしは北関東地方のものが出土している。また、1点ではあるが宮ノ台式の可能性が高い資料が出土している。



第11図 弥生時代遺構外



3 古墳時代（第7・8表・第12～76図）

（1）概要

古墳時代後期の竪穴建物跡が24軒、土坑が21基検出された。遺構は台地の北縁側に集中し、重複がほぼ認められない。各遺構の遺物の総数は集計表（第7表）に記載した。

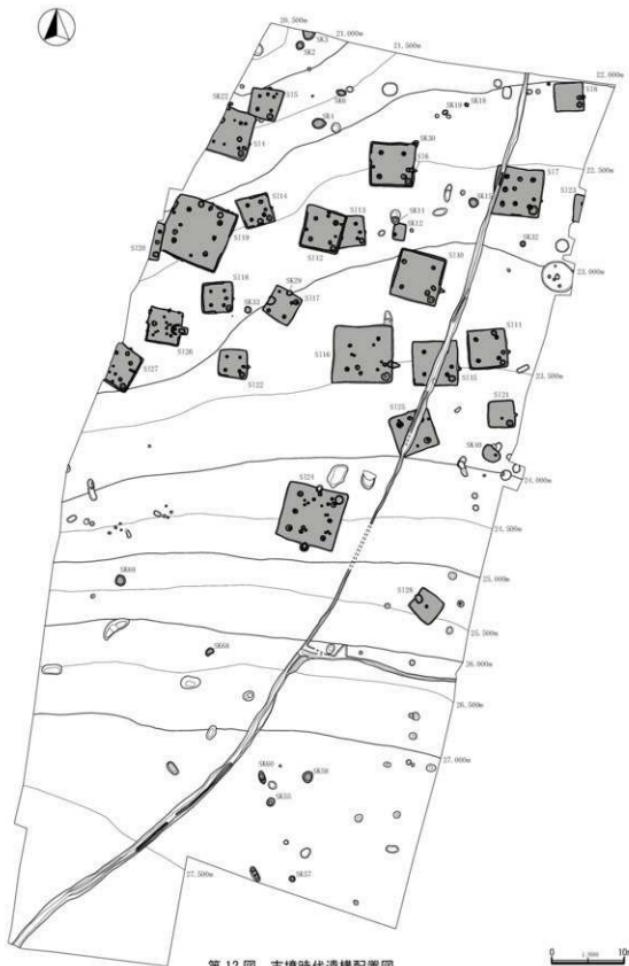
（2）竪穴建物跡

第4号竪穴建物跡（第7・8表、第13～15図）

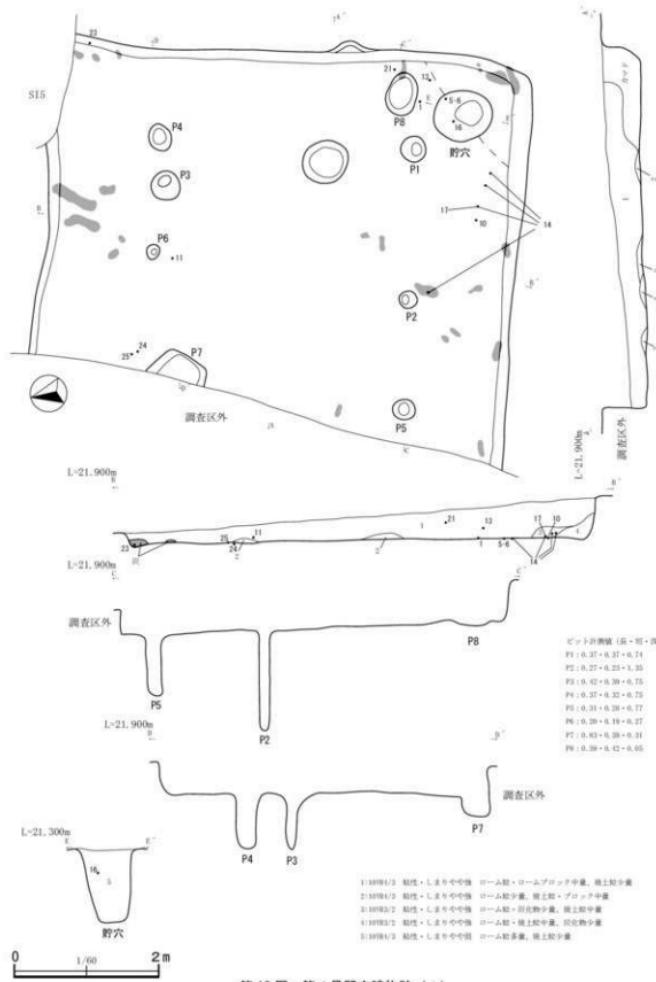
重複関係：第5号竪穴建物跡・第22号土坑と重複し、本遺構が最も古い。一部調査区外。平面形態：方形。規模：長軸6.42m、短軸5.27m、深さ0.49m。主軸方位：N-106°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、全体的に硬化していた。柱穴が8基検出され、壁溝は確認されなかった。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.80m、短軸0.73m、深さ1.02mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出された。床面付近からは焼土及び炭化材が検出され、床面及びカマド也被熱し、硬化している箇所が確認されたことから焼失住居と考えられる。覆土：覆土はロームブロックが混入し、均質的であることから、人為的な埋め戻しの可能性が高い。また、覆土下層からは焼土及び炭化材が検出されている。遺物：覆土からの遺物の出土は少ないが、床面付近からはややまとまった遺物の出土がある。特にカマド付近、東南壁際付近の床面からまとまって出土し、カマド燃焼面からは支脚が立った状態で出土した。残りの良い遺物もあるが、細片や摩耗・剥落・被熱しているものも多い。第15図16の甕は貯蔵穴内から出土している。第15図23～25は磨石類と考えられる石器である。古墳時代後期にこのような石器類の利用は盛んではないが、いずれも床面付近からの出土であり、本遺構に伴うものとして報告する。また、焼成粘土塊が多く出土している。時期：土師器窯、須恵器窯蓋の形態から古墳時代後期、MT15型式期。

第5号竪穴建物跡（第7・8表、第16～18図）

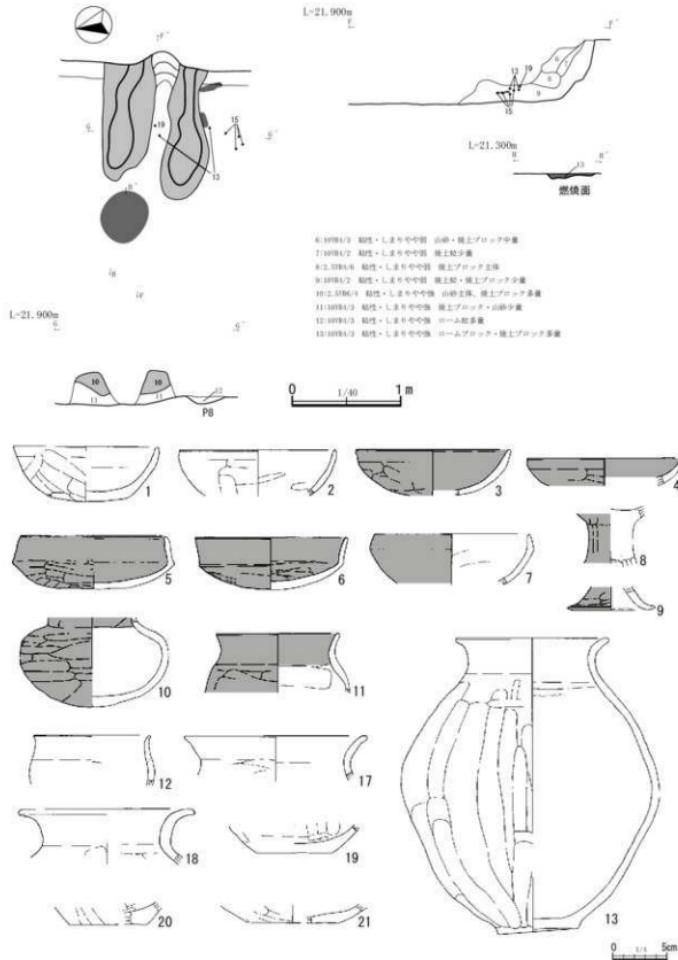
重複関係：第4号竪穴建物跡、第23・24号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：方形。規模：長軸4.55m、短軸4.19m、深さ0.62m。主軸方位：N-6°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、全体的に硬化していた。柱穴が5基検出され、壁溝は確認されなかった。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.81m、短軸0.80m、深さ0.74mを測る。カマドが北壁から検出されたが、ソデは残存していないかった。床面付近からは炭化材が少量ではあるが出土し、焼失住居の可能性がある。覆土：覆土はロームブロックが混入し、均質的であることから、人為的な埋め戻しの可能性が高い。また、覆土下層からは焼土及び炭化材が検出されている。遺物：覆土からの遺物の出土は少なく、摩耗・剥落しているものも多い。床面付近からはややまとまった遺物の出土がある。特にカマド西側から、甕・瓶・鉢類（第17図7・13、第8図15）が横倒しになった状態で出土している。カマド内からは第17図5・6の高杯が逆さにされ、第17図5の上に第17図6が重ねられた状態で出土しており、祭祀に伴うものと考えられる。上に置かれた第17図6は被熱が著しく、下に置かれた高杯の杯内部（第17図5）からは、被熱した結果と考えられる焼成粘土塊が杯の形狀になり検出された。また、貯蔵穴内からも比較的多くの土器が出土している。第18図23は砥石であり、金属器による使用痕が明瞭に残る。第18図24は磨石類である。第18図22は管状土



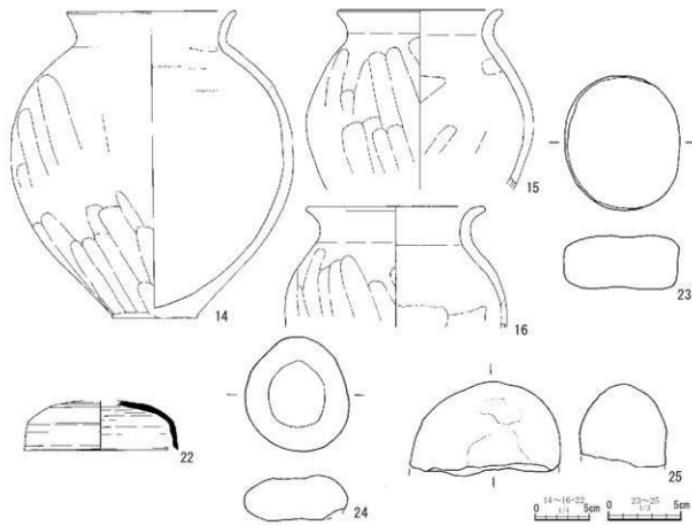
第12図 古墳時代遺構配置図



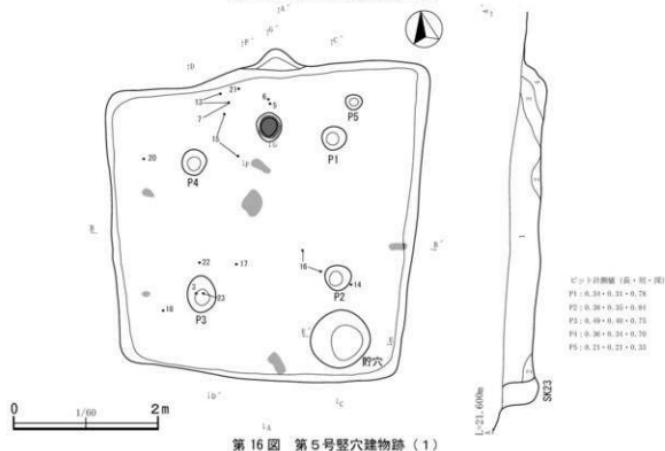
第13図 第4号豊穴建物跡（1）



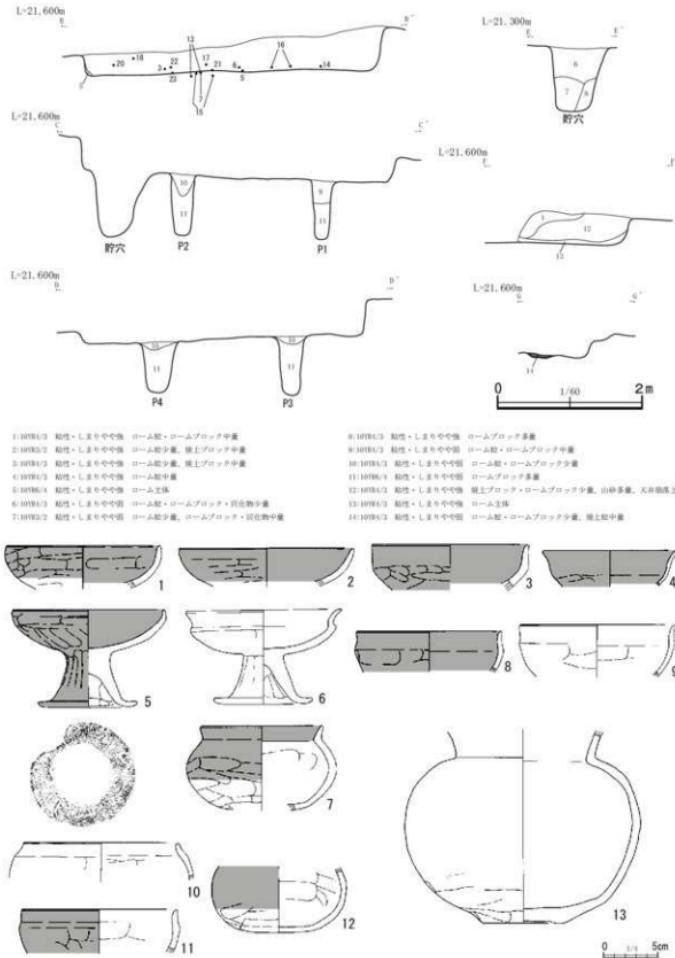
第14図 第4号竪穴建物跡（2）



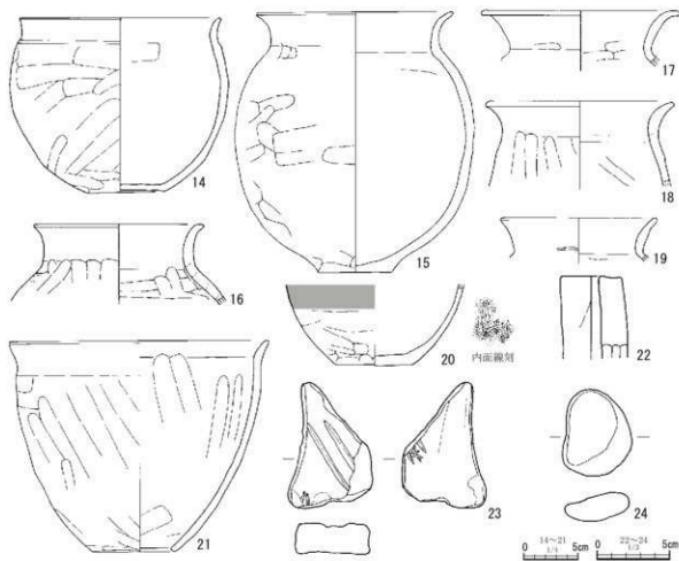
第15図 第4号竪穴建物跡(3)



第16図 第5号竪穴建物跡(1)



第17図 第5号竪穴建物跡(2)



第 18 図 第 5 号竪穴建物跡（3）

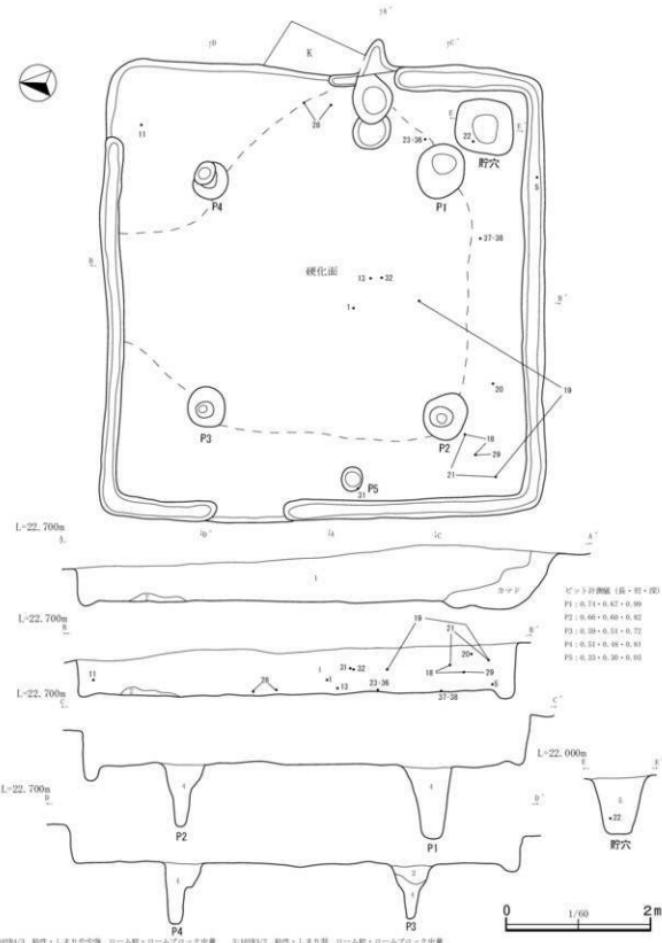
鍤である。時期：土師器坏・高坏・甕の形態から古墳時代後期、MT15 型式期。

第 6 号竪穴建物跡（第 7・8 表 第 19～21 図）

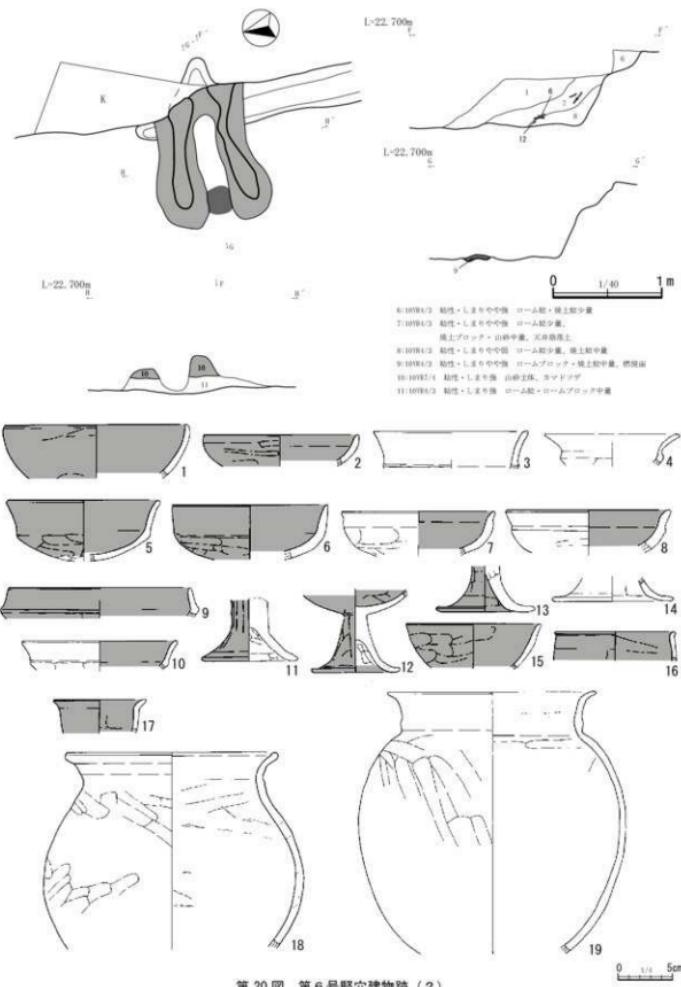
重複関係：第30号土坑と重複するが、新旧関係は把握できなかった。平面形態：方形。規模：長軸 6.63m、短軸 6.0m、深さ 0.78m。主軸方位：N-90° - E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。ピットが 5 基検出され、壁溝は全周せず、幅 0.32m、深さ 0.08m を測る。貯藏穴が 1 基南東側から検出され、長軸 0.78m、短軸 0.74m、深さ 0.81m を測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、天井部が一部残存していたが、確認調査の際に一部削られている。覆土：覆土 1 層はロームブロックが多く混入し、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。一部に焼土も混じっている。遺物：南西壁寄りの覆土上層から多量の遺物の出土があり、接合する破片も多いことから、投棄されたものと考えられる。基本的に覆土からの遺物の出土は少なく破片が多い。床面付近からはややまとった遺物の出土があり、カマドの南側からは第 21 図 36 の甕が、北側では第 21 図 28 の甕が潰れた状態で出土している。時期：土師器坏・高坏・甕の形態から古墳時代後期、MT15 ～ TK10 型式期。

第 7 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 22・23 図）

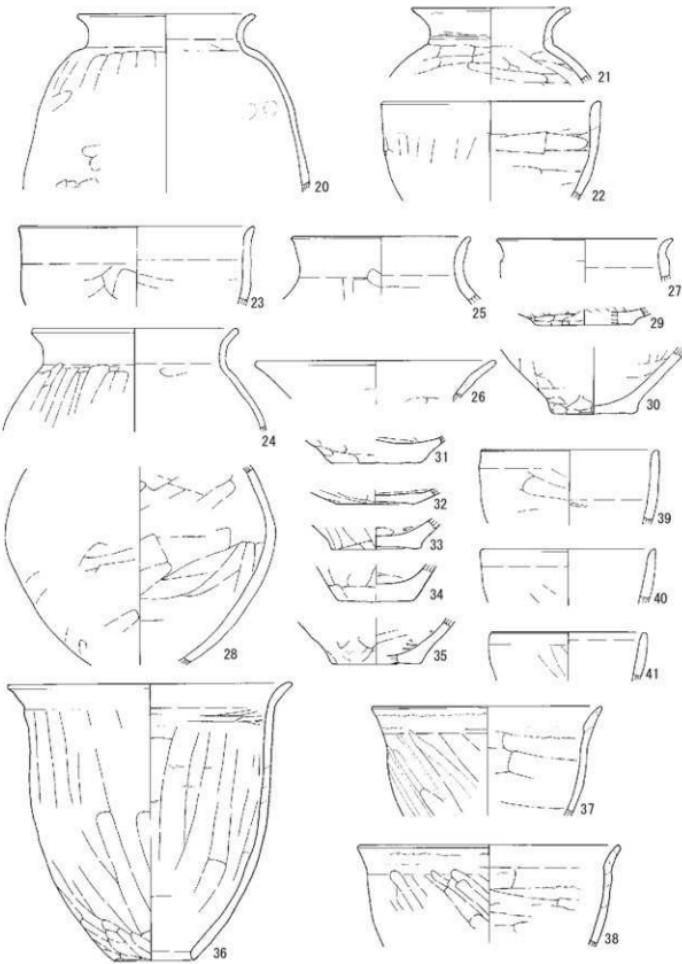
重複関係：第 2 号溝跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：方形。規模：長軸 6.87m、短軸 6.54m、



第19図 第6号竪穴建物跡（1）

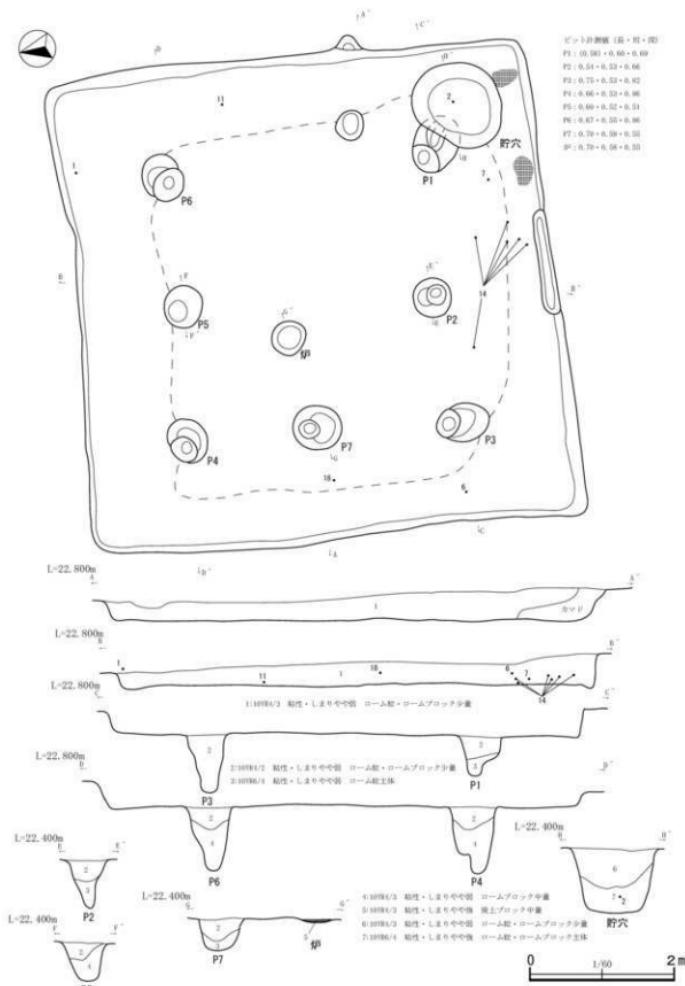


第20図 第6号竪穴建物跡（2）

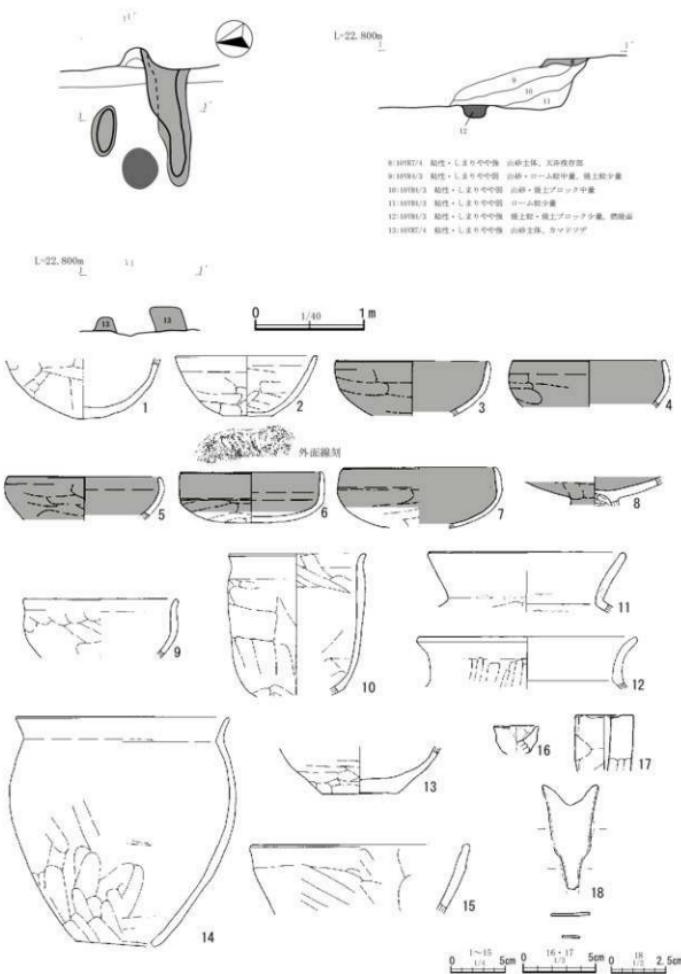


第21図 第6号堅穴建物跡（3）

0 1 2 3 4 5cm



第22図 第7号竪穴建物跡（1）



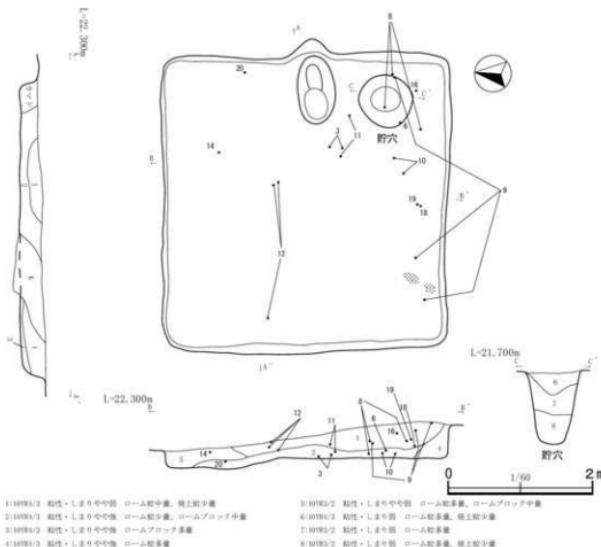
第23図 第7号竪穴建物跡 (2)



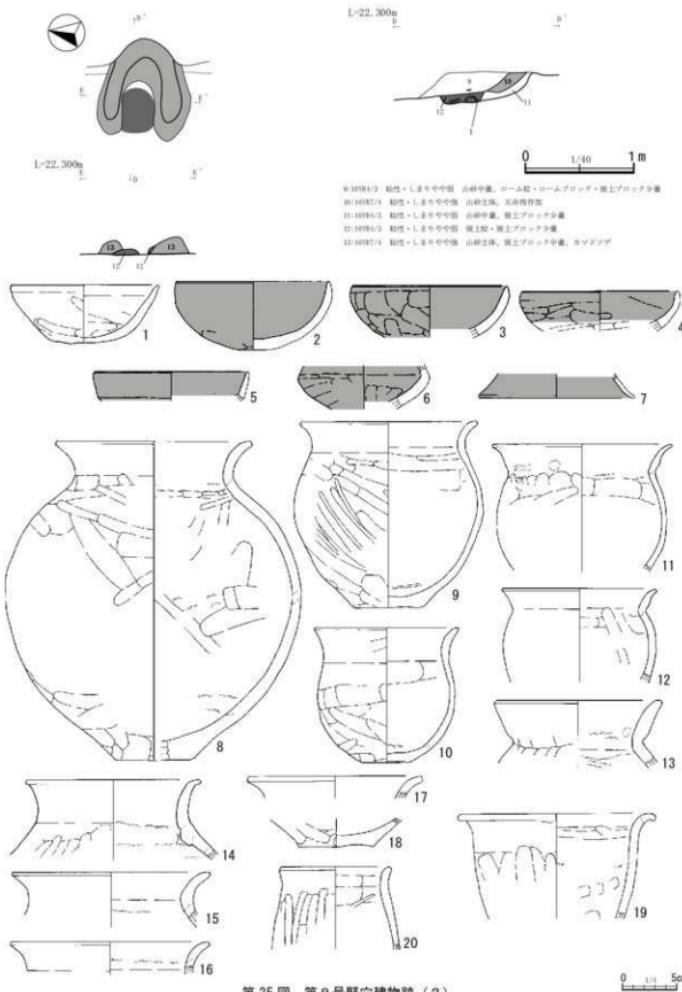
深さ 0.57m。主軸方位 : N -97° - E。構造 : 床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。ピットが 6 基検出され、壁溝は南壁で一部検出され、幅 0.20m、深さ 0.05m を測る。貯蔵穴が 1 基南東側から検出され、長軸 1.30m、短軸 1.08m、深さ 0.84m を測る。また、中央付近から炉跡と考えられる遺構が検出され、何らかの作業に用いられていた可能性がある。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソデが一部残存していた。覆土 : 覆土は均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物 : 覆土中からの遺物の出土は少なく、ほぼ破片で占められている。南壁寄りの床面付近からややまとった遺物の出土がある。第 23 図 3 の环はカマド内からの出土であり、第 23 図 2 の鉢は貯蔵穴内から出土したものとカマド内から出土したものが接合した。また、南東壁隅からは粘土塊（写真図版 6）が検出され、西壁寄りの覆土上層からは鐵鏃（第 23 図 18）が出土している。第 23 図 17 は管状土錐と考えられる。土玉が 1 点出土している。時期 : 出土した土器器环・甕の形態から古墳時代後期・MT15型式期。

第 8 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 24・25 図）

重複関係 : なし。平面形態 : 方形。規模 : 長軸 4.33m、短軸 3.90m、深さ 0.55m。主軸方位 : N -86° - E。構造 : 床面はやや凹凸があり、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、明確な硬化面は検出されなかった。また、床の一部は風倒木によって壊されていた。ピット・壁溝は検出されなかった。貯蔵穴が 1 基南東側から検出され、長軸 0.73m、短軸 0.73m、深さ 0.99m を測る。カマドが東壁から



第 24 図 第 8 号竪穴建物跡（1）



第25図 第8号竪穴建物跡（2）



検出され、ソデ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土1層は自然堆積だが、2層はロームブロックが混入し、人為的な埋め戻しと考えられる。3層は住居の掘方である。また、南西隅付近の覆土中に小規模なシオフキ主体の貝層が形成されていた。遺物：覆土中から比較的多くの遺物が出土し、床面付近からもまとまつた遺物の出土がある。特に南壁寄りからの出土が多い。また、カマド内からは第25図1の壺が伏せられた状態で出土し、祭祀に伴うものと考えられる。時期：出土した土師器壺・甕の形態から古墳時代後期、TK47型式期。

第10号竪穴建物跡（第7・8表、第26～28図）

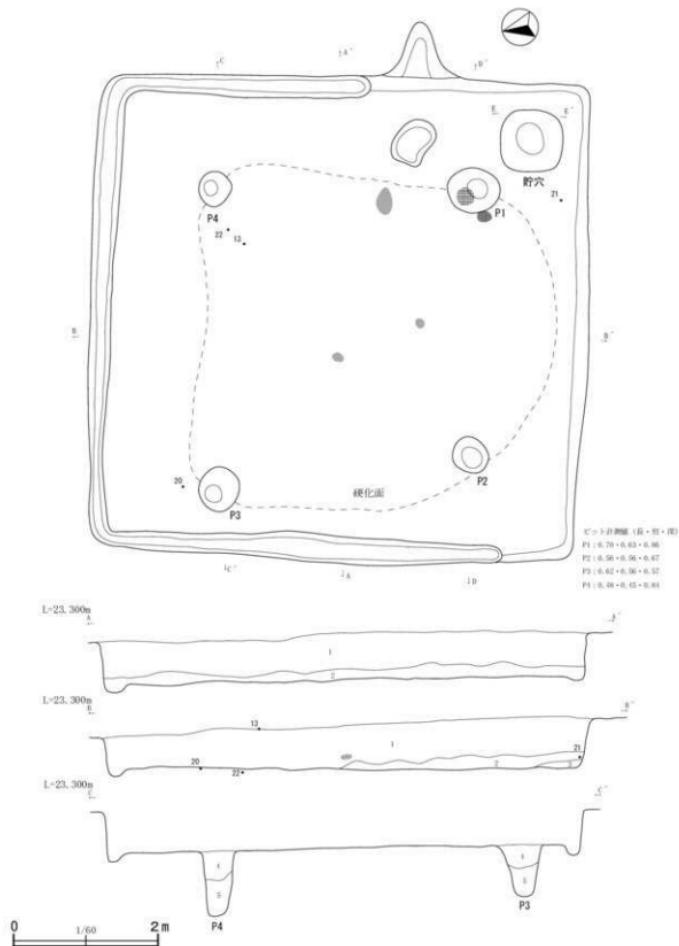
重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸7.46m、短軸6.87m、深さ0.69m。主軸方位：N-103°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。ピットが4基検出され、壁溝は全周せず、幅0.35m、深さ0.09mを測る。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.95m、短軸0.94m、深さ1.32mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソデ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土は均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。また、1・2層は色調に差はないが、2層はしまりが強かった。遺物：覆土中からの遺物の出土は比較的多いが、破片が多く接合しないものが多い。床面からの遺物の出土は少ないが、カマド周辺からやまとまつた遺物の出土がある。また、覆土及び床面付近から粘土塊・山砂が検出されている。第28図8の高杯は、カマド燃焼部に伏せられた状態で出土し、祭祀に伴うものと考えられる。時期：出土した土師器壺の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第11号竪穴建物跡（第7・8表、第29～31図）

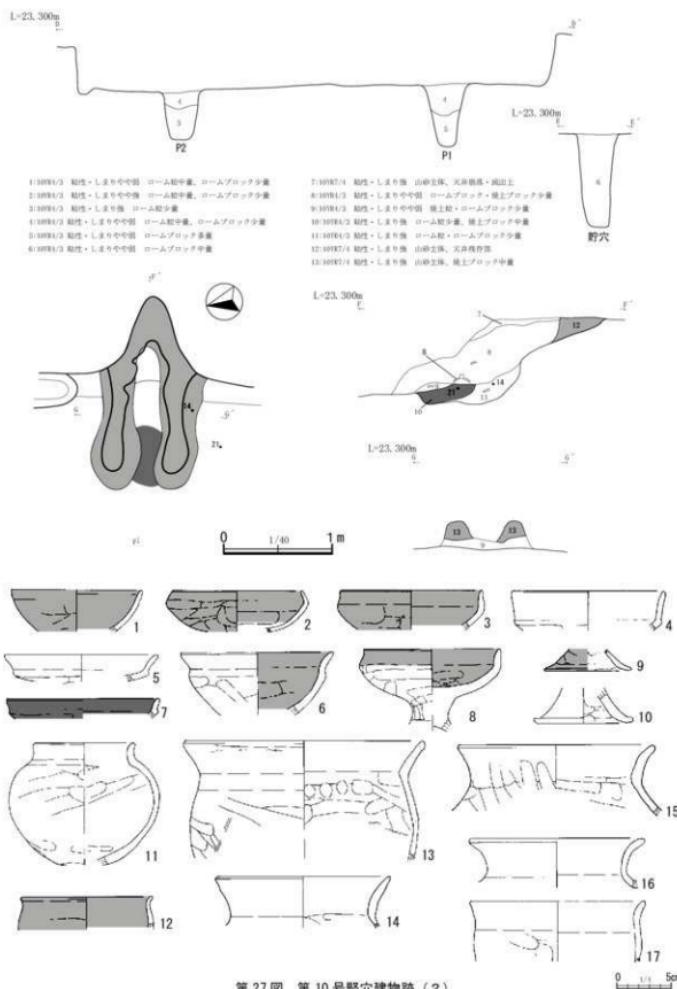
重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸5.91m、短軸5.44m、深さ0.67m。主軸方位：N-81°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。ピットが4基検出され、壁溝は全周せず、幅0.27m、深さ0.09mを測る。貯蔵穴が2基南壁側・北壁側から検出され、貯蔵穴1は長軸0.74m、短軸0.70m、深さ1.03m、貯蔵穴2は長軸0.79m、短軸0.70m、深さ0.62mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出されたが、ソデが一部残存するのみであった。覆土：覆土2層は均質的であり、3層はローム主体であることから人為的な埋め戻しと考えられるが、4・5層は自然堆積と考えられる。ある程度埋没した後に埋め戻したものと考えられる。4・5層は建物跡の西側のみで確認され、建物内でも埋没過程が異なっている。遺物：覆土中からの遺物の出土は少なく、破片が多いが、覆土下層、床面からやまとまつた遺物の出土がある。南壁際の床面からは第31図19が横倒しになった状態で出土している。時期：出土した土師器壺・高杯の形態から古墳時代後期、MT15型式期。

第12号竪穴建物跡（第7・8表、第32～36図）

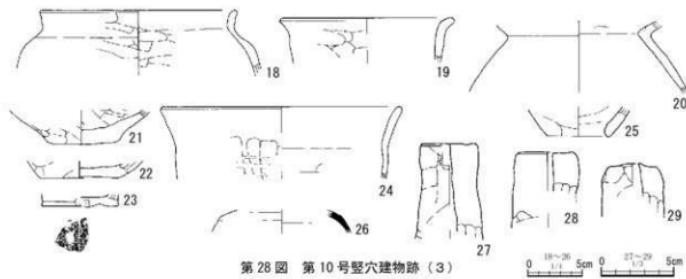
重複関係：第13号竪穴建物跡と重複し、本構造が新しい。平面形態：方形。規模：長軸5.77m、短軸5.67m、深さ0.73m。主軸方位：N-101°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、北壁側の一部を除き硬化していた。ピットが7基検出され、壁溝は全周せず、幅0.32m、深さ0.07mを測る。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.74m、短軸0.74m、深さ0.87mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソデが一部残存していた。また、床面付近から炭化材が検出されることから、焼失住居と考えられる。覆土：覆土1層は自然堆積と考えられるが、2～5層はロームブロックを含み、人為的な埋め戻しと考えられる。特に2層は焼土を多く含んでい



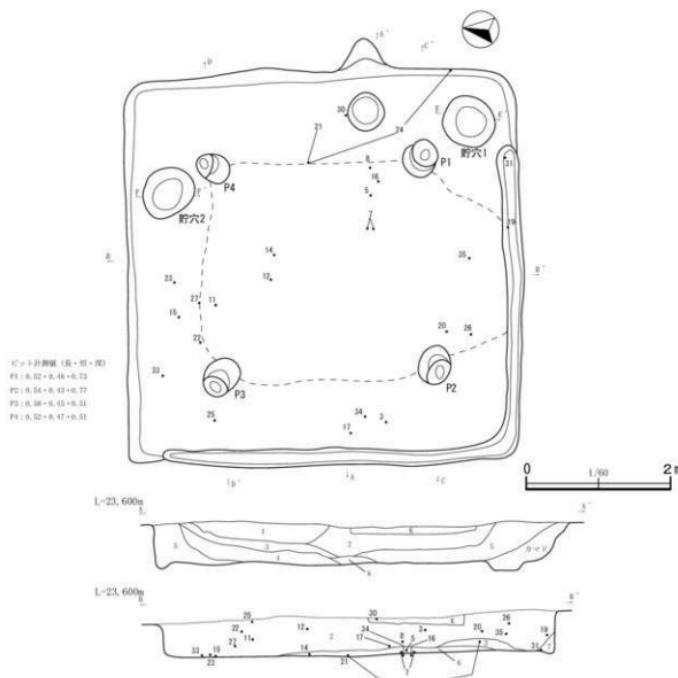
第 26 図 第 10 号竪穴建物跡 (1)



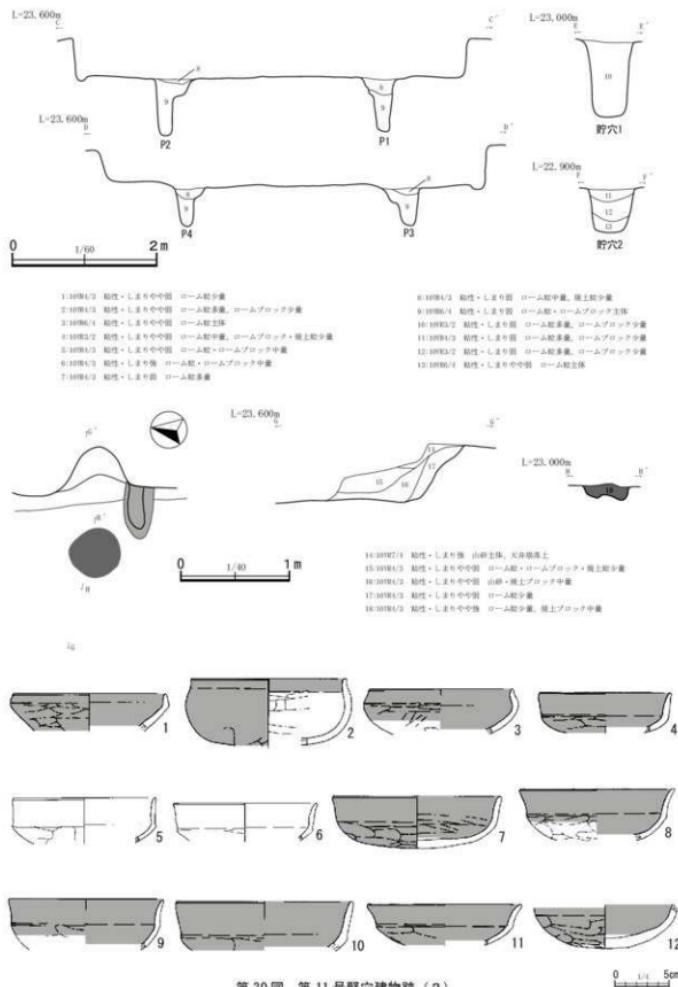
第 27 図 第 10 号豎穴建物跡 (2)

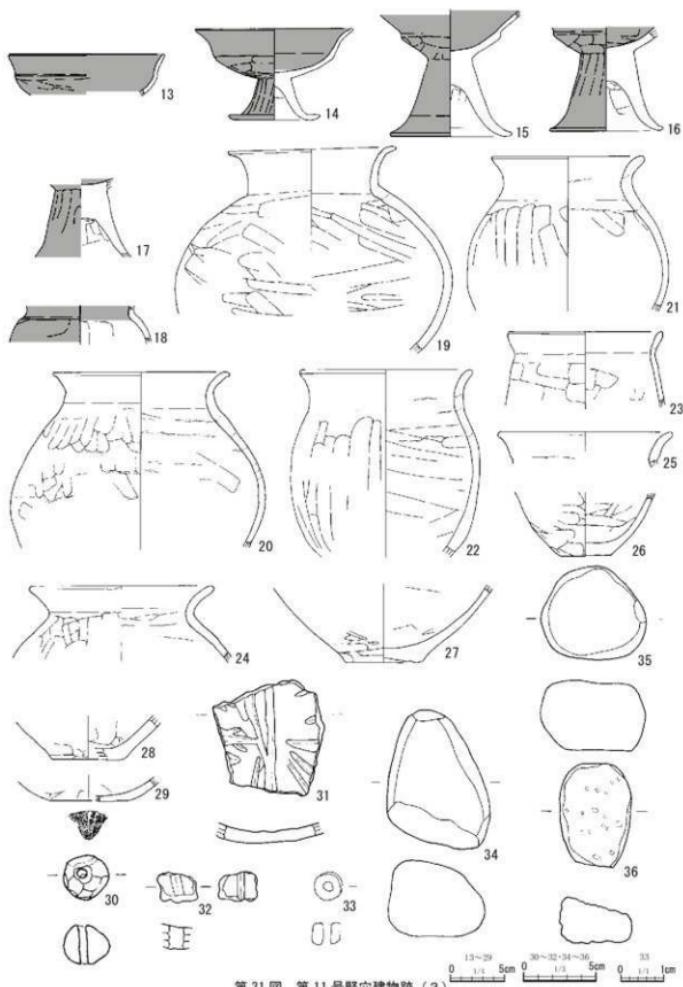


第28図 第10号竪穴建物跡(3)

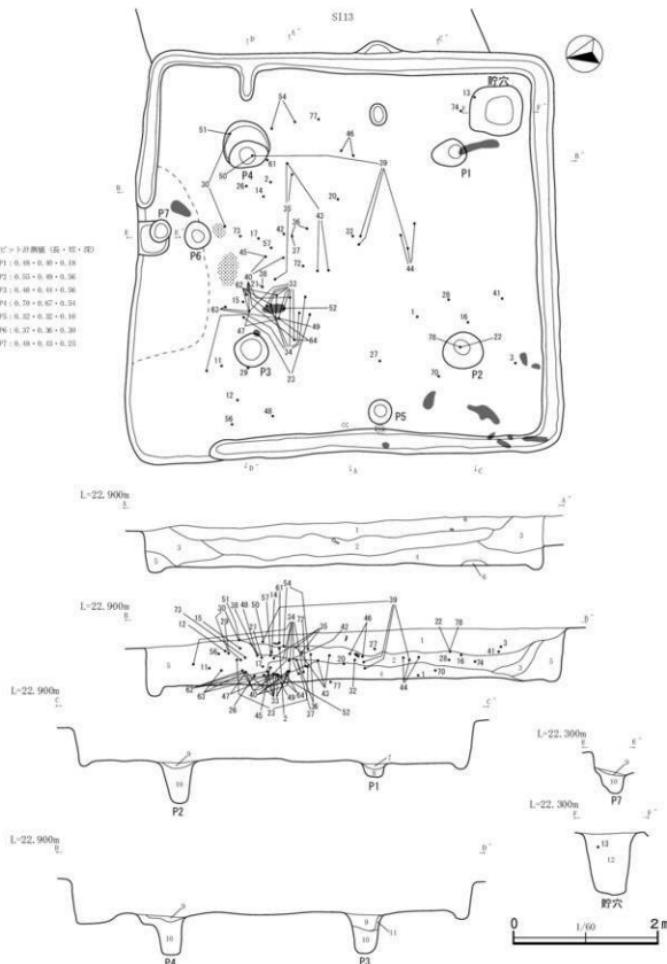


第29図 第11号竪穴建物跡(1)

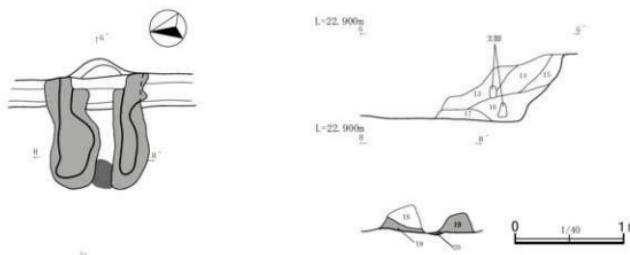




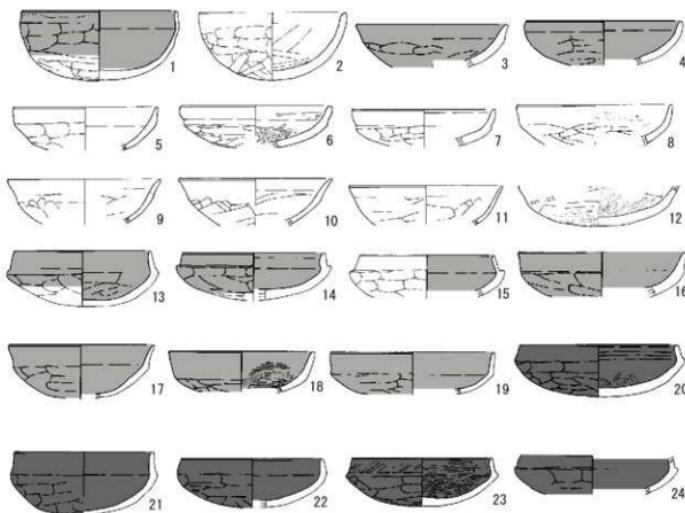
第31図 第11号竪穴建物跡(3)



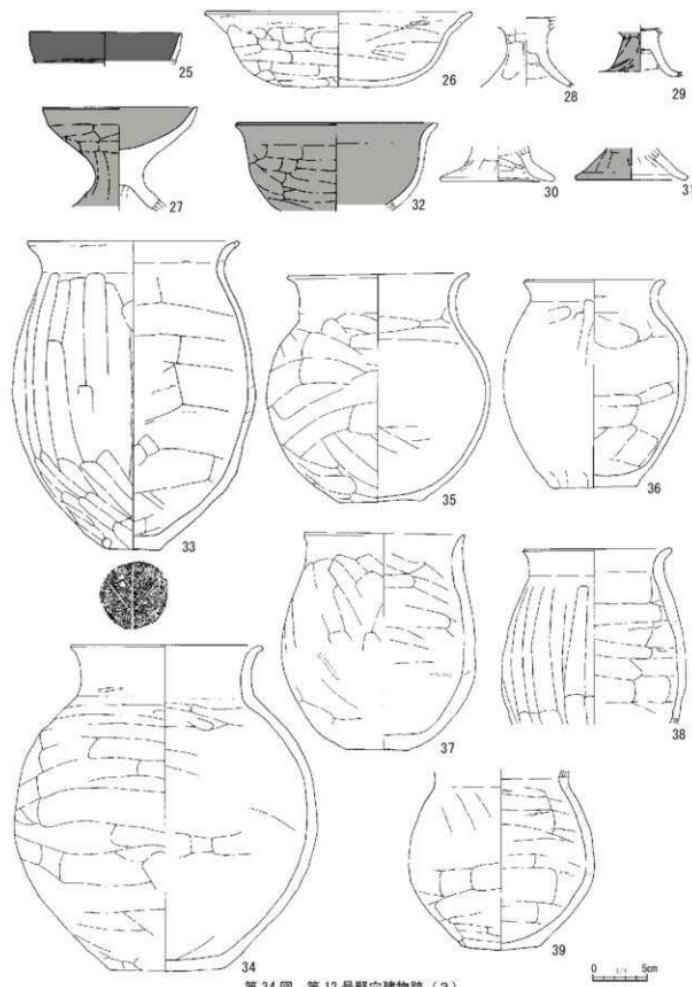
第 32 図 第 12 号竪穴建物跡 (1)



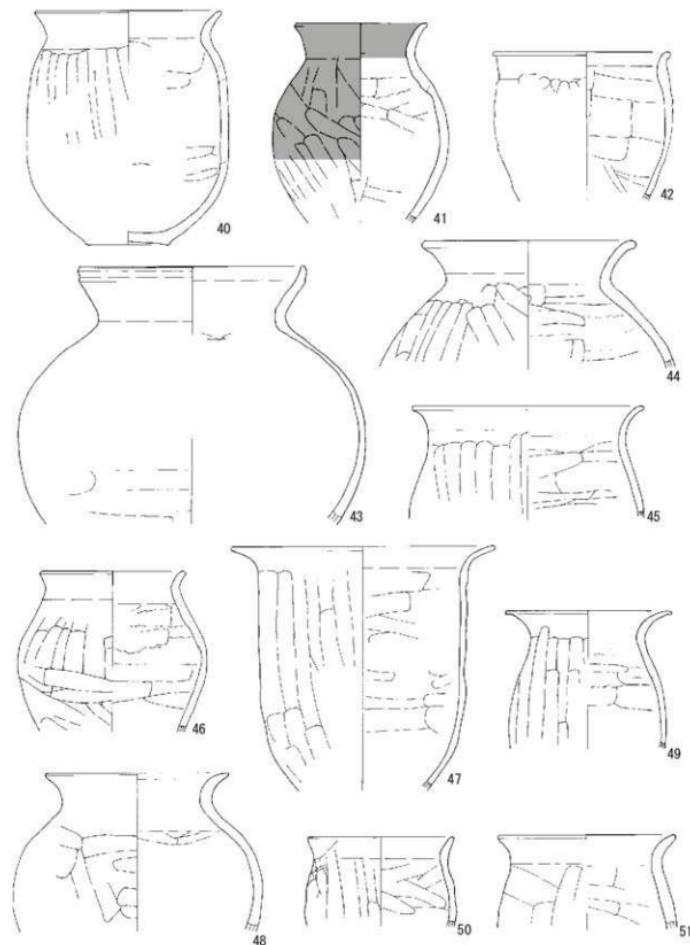
- 1) 10983/2 硬性・しまりやや固 ローム粘土層、植土和少量
ローム粘土層、植土少量
2) 10981/2 硬性・しまりやや固
3) 10981/3 硬性・しまりやや固
ローム粘土層、ロームブロック少量
4) 10981/2 硬性・しまりやや固
ローム粘土・ロームブロック少量
5) 10981/2 硬性・しまりやや固
ローム粘・ロームブロック中量、植土少量
6) 10982/2 硬性・しまりやや固
ローム粘土層
7) 10982/2 硬性・しまりやや固
ローム粘土層
8) 10981/4 硬性・しまりやや固
ローム粘土層、植土少量
9) 10981/2 硬性・しまりやや固
ローム粘土・ロームブロック多量、植土少量
10) 10981/2 硬性・しまりやや固
ローム粘・ロームブロック多量
11) 10986/4 硬性・しまりやや固 ローム粘土層、ロームブロック少量
12) 10981/3 硬性・しまりやや固 ローム粘土層、植土少量
13) 10981/2 硬性・しまりやや固 ローム粘土層、植土少量
14) 10981/2 硬性・しまりやや固 植土少量、山砂多量、天井崩落
15) 10981/2 硬性・しまりやや固 植土少量
16) 10981/2 硬性・しまりやや固 植土ブロック少量
17) 2, 10981/1 硬性・しまりやや固 植土粘多量、植土ブロック少量
18) 10981/2 硬性・しまりやや固 山砂・植土ブロック中量
19) 10981/2 硬性・しまりやや固 ロームブロック・植土ブロック少量
20) 10981/2 硬性・しまりやや固 ロームブロック・植土ブロック中量



第33図 第12号竪穴建物跡(2)

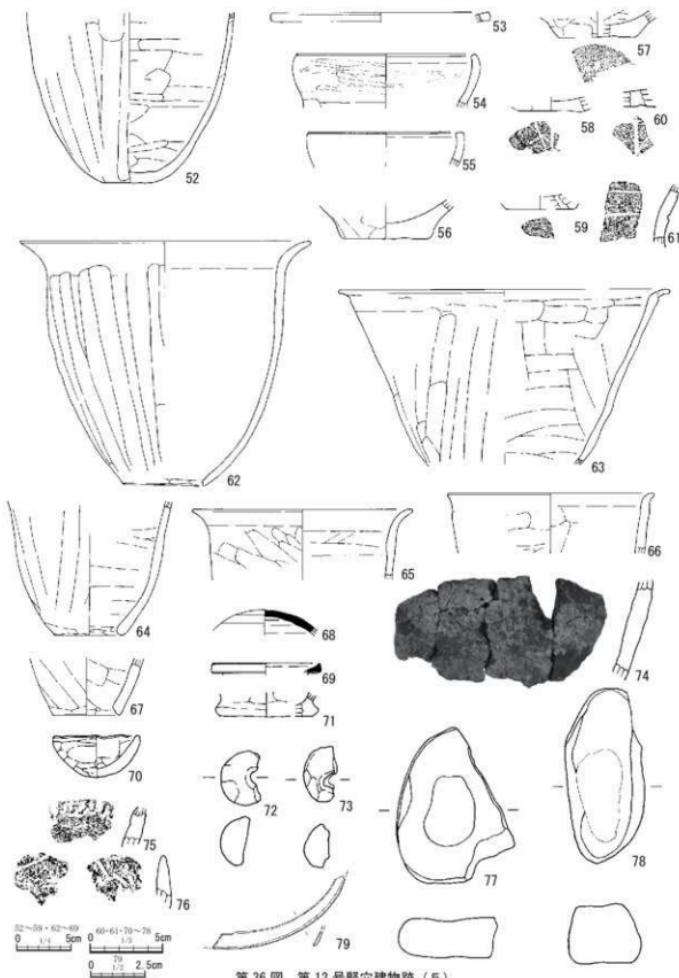


第34図 第12号竪穴建物跡(3)

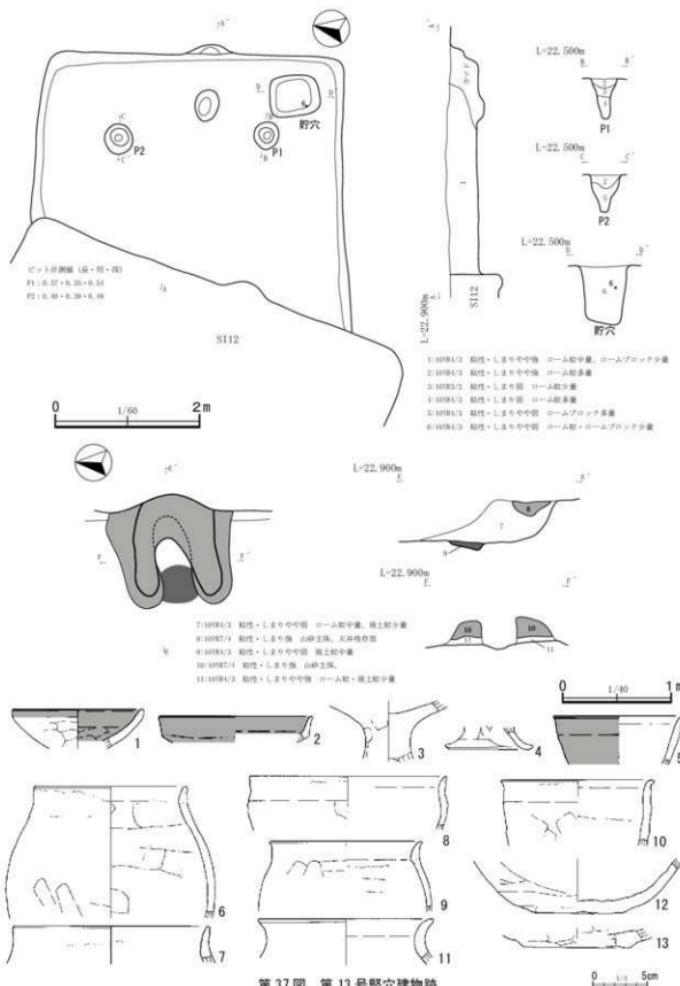


第35図 第12号竪穴建物跡(4)

0 1 5cm



第36図 第12号竪穴建物跡(5)



第37図 第13号竪穴建物跡



る。また、部分的ではあるがハマグリ主体のブロック状の貝層が検出された。遺物：覆土3～5層から多量の遺物が出土している。特に建物跡北側付近から集中して出土している。建物廃絶時に焼土や貝類と共に投棄されたものと考えられる。床面付近からの遺物の出土は少ない。時期：出土した土師器坏の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第13号竪穴建物跡（第7・8表、第37図）

重複関係：第12号竪穴建物跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：方形。規模：長軸4.28m、短軸<3.32m、深さ0.51m。主軸方位：N-81°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、明確な硬化面は認められなかった。ピットが2基検出され、壁溝は確認されない。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.57m、短軸0.56m、深さ0.77mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソゾ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土は均質的であり、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：遺物の出土は覆土・床面共にごく僅かであった。時期：出土した土師器坏の形態から古墳時代後期、MT15～TK10型式期。

第14号竪穴建物跡（第7・8表、第38・39図）

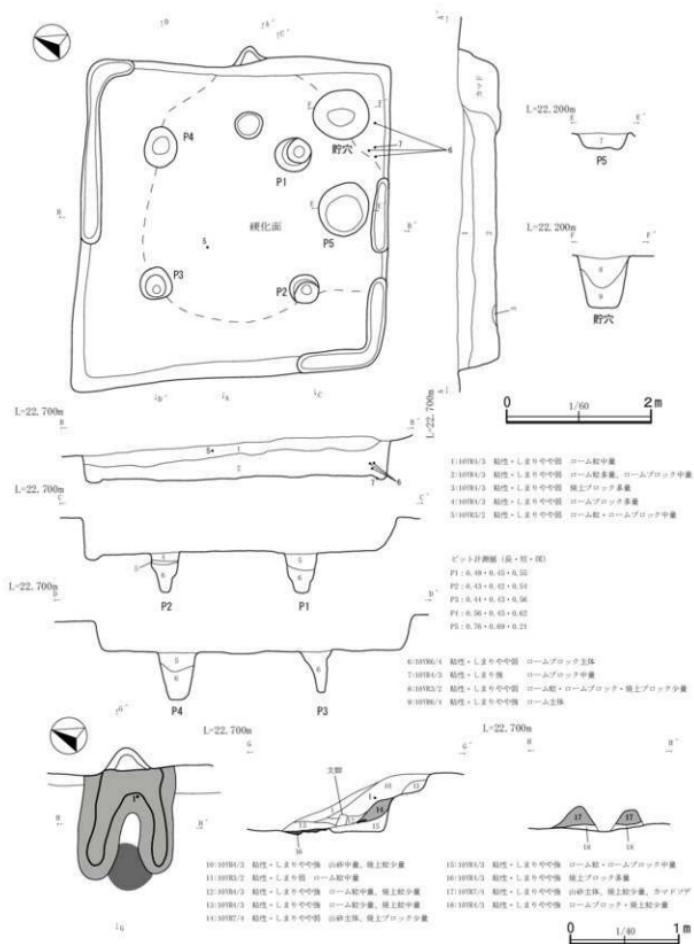
重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸4.55m、短軸4.23m、深さ0.58m。主軸方位：N-74°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。ピットが5基検出され、壁溝は全周せず、幅0.30m、深さ0.06mを測る。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.77m、短軸0.71m、深さ0.73mを測る。カマドが東壁から検出され、ソゾ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土は均質的であり、2層はロームブロックを多量に含み、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：遺物の出土は覆土・床面ともに少なく、破片が多い。カマド内からはやまとまつた遺物の出土があり、支脚が立った状態で出土し、第39図1の坏も出土している。坏は摩耗が著しい。第39図6は須恵器の坏蓋であり、貯蔵穴付近の壁際床面から出土している。第39図7は磨石類である。また、鉄滓が1点出土している。時期：出土した須恵器坏蓋の形態から、古墳時代後期、TK47型式期。

第15号竪穴建物跡（第7・8表、第40・41図）

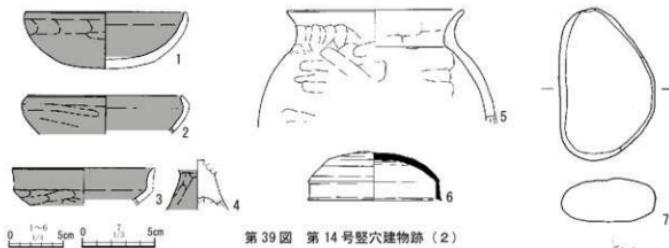
重複関係：第2号溝跡・第1号焼土跡と重複し、本遺構が最も古い。平面形態：方形。規模：長軸6.77m、短軸6.24m、深さ0.69m。主軸方位：N-82°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。ピットが4基検出され、壁溝は全周せず南西隅のみで確認され、幅0.22m、深さ0.05mを測る。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.95m、短軸0.81m、深さ0.88mを測る。カマドが東壁から検出され、ソゾ及び天井部が一部残存するが、確認調査の際に削平されている。覆土：覆土は均質的であり、人為的な埋め戻しと考えられる。床面付近、特に壁際付近からは焼土がや多く検出された。また、覆土中から山砂が部分的に検出されている。遺物：遺物の出土は覆土・床面ともに少ない。第41図20は有孔円盤、第41図21は砥石である。時期：出土した土師器坏の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第16号竪穴建物跡（第7・8表、第42～45図）

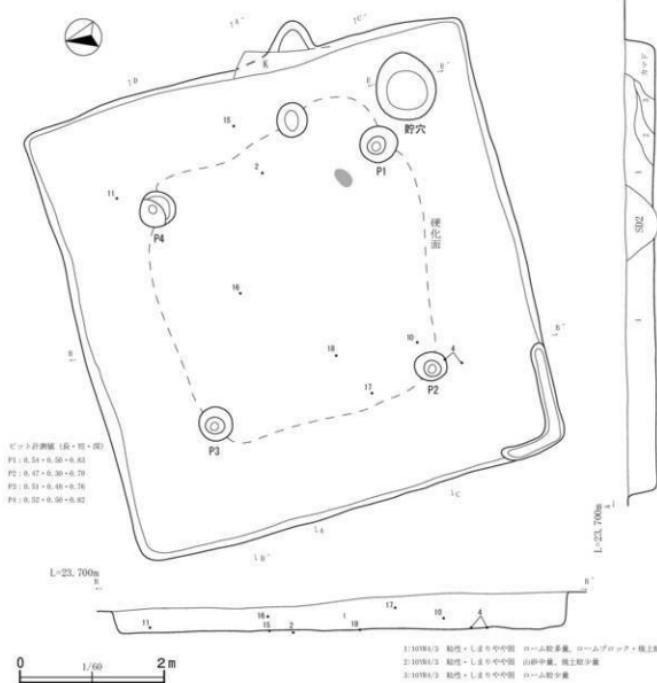
重複関係：第35号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形態：方形。規模：長軸9.30m、短軸7.84m、深さ0.69m。主軸方位：N-87°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が部分的に硬化していた。ピットが10基検出され、壁溝は検出されなかった。



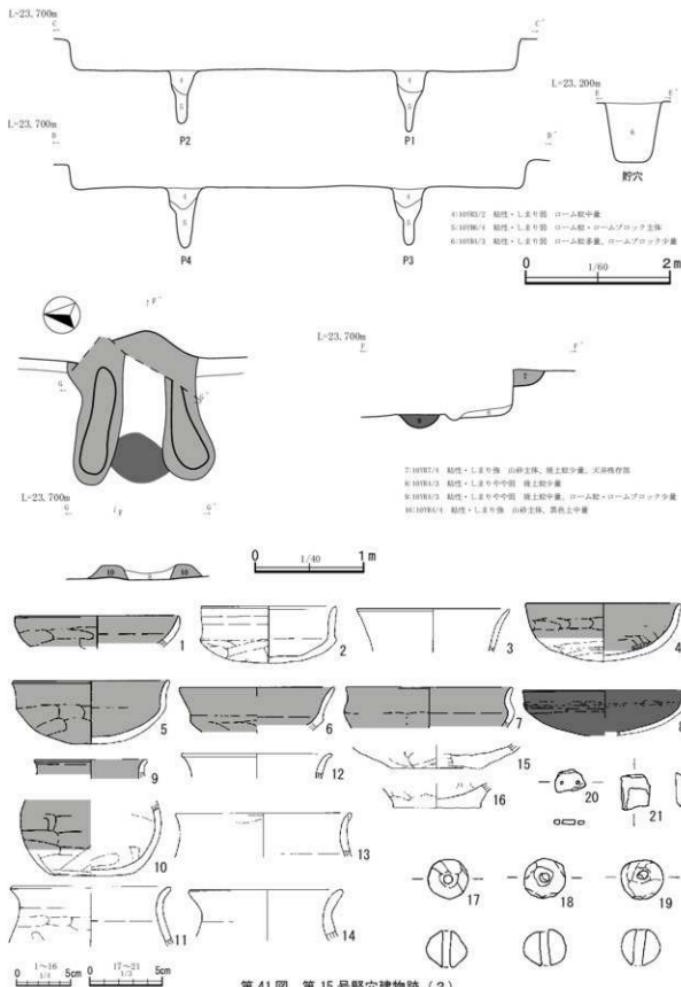
第38図 第14号豊穴建物跡(1)



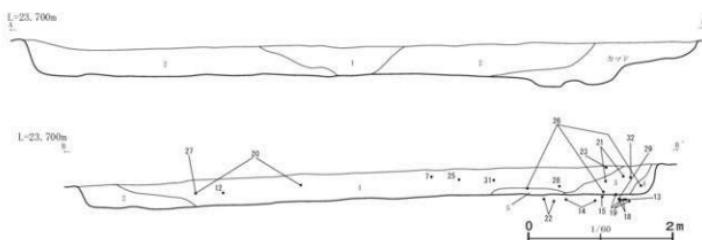
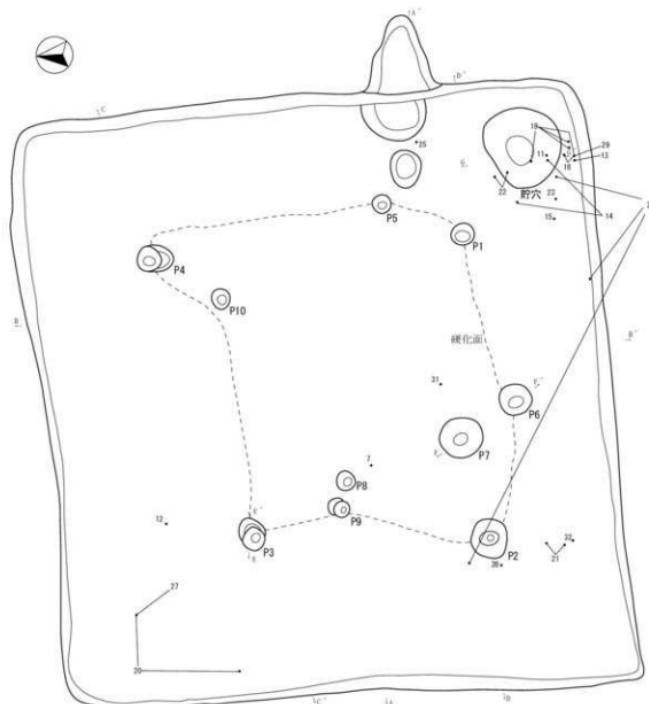
第39図 第14号竪穴建物跡（2）



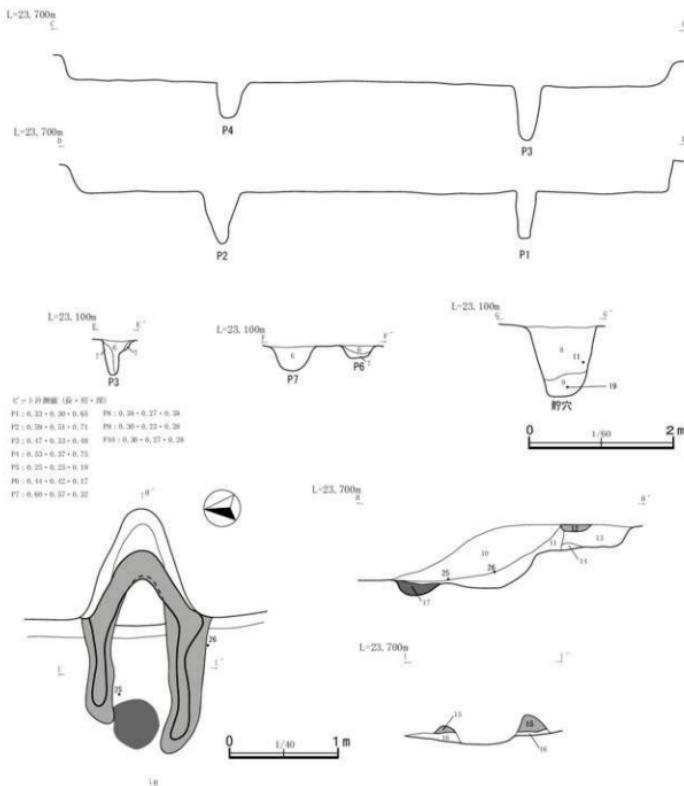
第40図 第15号竪穴建物跡（1）



第41図 第15号竪穴建物跡(2)

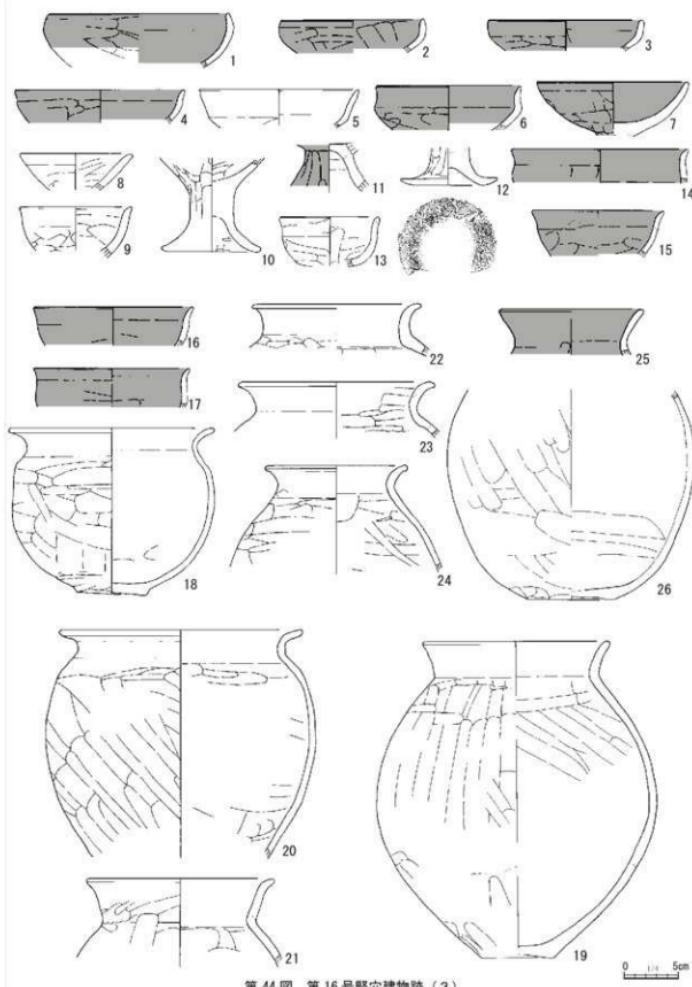


第42図 第16号竪穴建物跡（1）

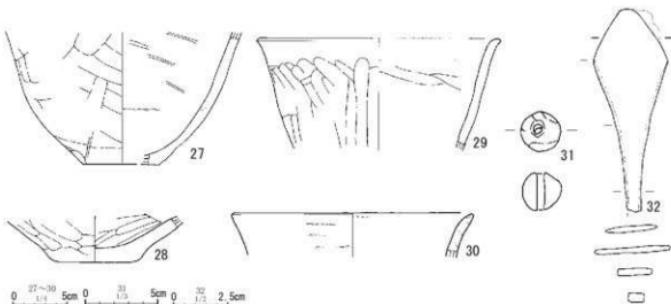


- | | | | | | |
|-----------|-----------|-------------------------|------------|-----------|-----------------------------|
| 1:10982/2 | 粘性・しまりやや弱 | ローム粘土層、ロームブロック・泥化物・礫土粒少 | 10:10983/3 | 粘性・しまりやや強 | ローム粘土層、ロームブロック・礫土ブロック少量 |
| 2:10983/1 | 粘性・しまりやや弱 | ローム粘土層、ロームブロック少量 | 11:10983/3 | 粘性・しまりやや強 | 山砂粘土層、ローム層・ロームブロック・泥土ブロック少量 |
| 3:10984/1 | 粘性・しまりやや弱 | ローム・ロームブロック少量 | 12:10987/4 | 粘性・しまり強 | 山砂粘土層、泥土背景 |
| 4:10983/2 | 粘性・しまりやや弱 | ローム粘土層 | 13:10989/2 | 粘性・しまりやや強 | 泥土層・地土ブロック少量 |
| 5:10984/2 | 粘性・しまり強 | ローム粘土層 | 14:10983/2 | 粘性・しまりやや強 | ローム粘土層 |
| 6:10989/1 | 粘性・しまり弱 | ローム粘土層 | 15:10987/1 | 粘性・しまり強 | 山砂土層、礫土ブロック・泥土ブロック少量 |
| 7:10986/1 | 粘性・しまり弱 | ローム粘土層 | 16:10987/2 | 粘性・しまり強 | 泥土ブロック少量 |
| 8:10982/2 | 粘性・しまり弱 | ローム粘土層、ロームブロック少量 | 17:10983/2 | 粘性・しまりやや強 | ローム層、ロームブロック少量、礫土ブロック少量 |
| 9:10981/3 | 粘性・しまり弱 | ローム粘土層 | | | |

第43図 第16号壁穿透跡(2)



第44図 第16号竪穴建物跡(3)



第45図 第16号竪穴建物跡(4)

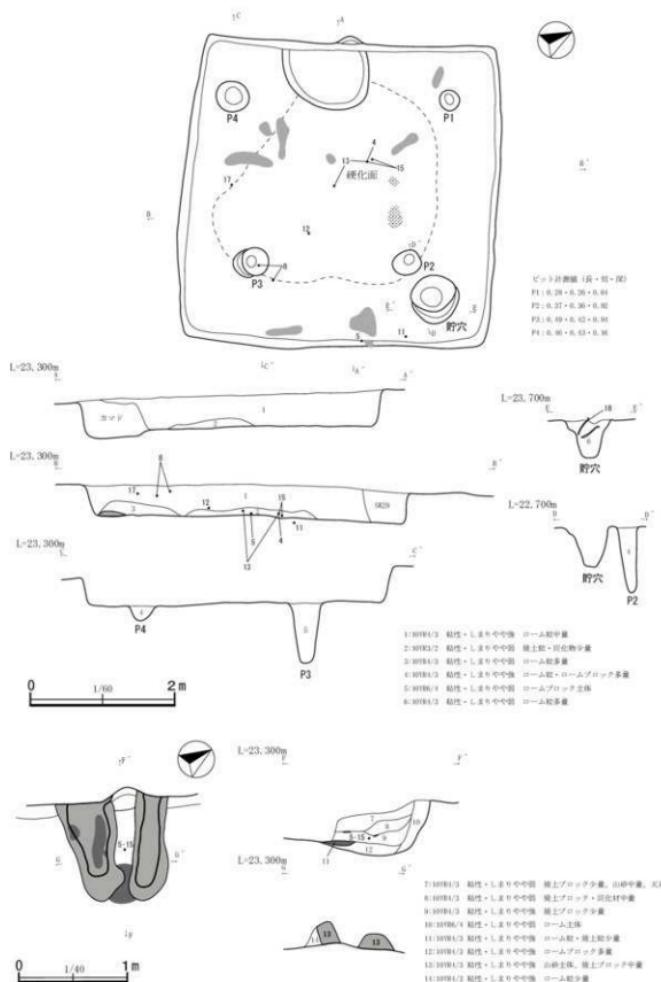
貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸1.12m、短軸1.01m、深さ1.06mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソデ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土1層は自然堆積と考えられるが、2・3層は人為的な埋め戻しと考えられ、人為的な埋め戻しの後に自然堆積し、埋没したと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は少ないが、貯蔵穴付近の床面からややまとまって出土している。第44図18・19は、貯蔵穴上面付近から重なった状態で出土している。時期：出土した土師器壺・甕の形態から古墳時代後期、TK47～MT15型式期。

第17号竪穴建物跡(第7・8表、第46・47図)

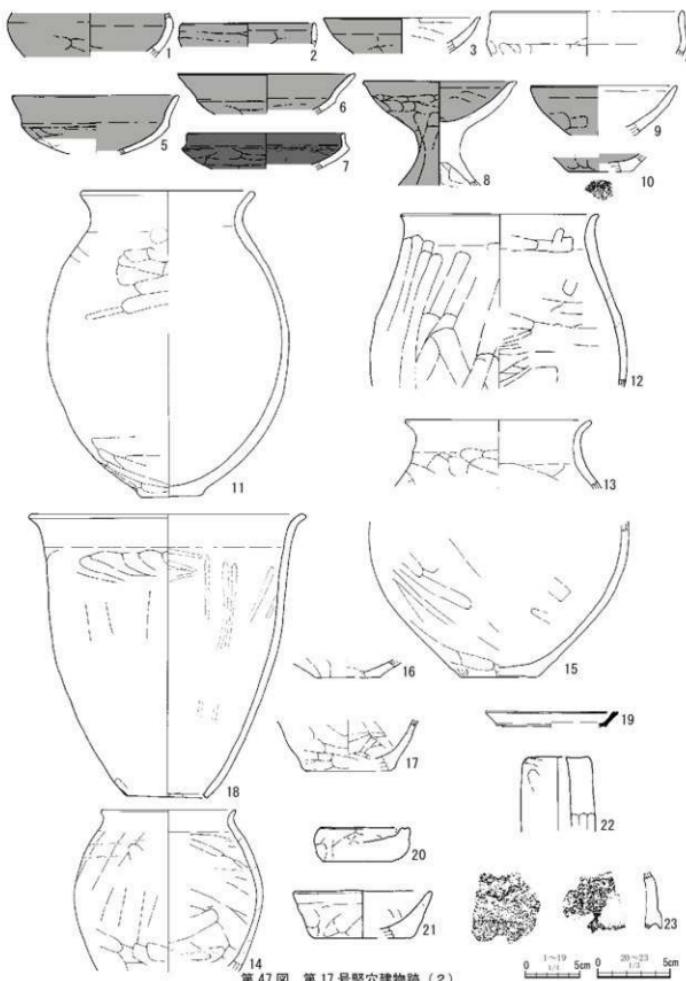
重複関係：第29号土坑と重複するが、新旧関係は判断できなかった。平面形態：方形。規模：長軸4.34m、短軸4.32、深さ0.62m。主軸方位： $N - 60^\circ - W$ 。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。ピットが4基検出され、壁溝は検出されなかった。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.67m、短軸0.67m、深さ0.59mを測る。カマドが西壁の南壁寄りから検出され、ソデが一部残存していた。カマドは被熱しており、山砂以外に粘土と纖維質を混ぜたと思われる構成材も被熱した状態で検出されている。床面付近から炭化材が検出されたことから、焼失住居と考えられる。覆土：覆土は均質的であり、人為的な埋め戻しと考えられる。また、覆土中からアサリ・ハマグリ主体の小規模な貝殻がプロック状に検出され、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は少なく、破片で占められ、摩耗・被熱しているものも比較的多い。床面付近からややまとまった遺物の出土があり、第47図11の甕は、東壁の壁際から横倒しの状態で出土し、第47図18の甕は貯蔵穴内から出土している。また、鉄滓が1点覆土下層から出土している。時期：出土した土師器壺・高壺・甕の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第18号竪穴建物跡(第7・8表、第48・49図)

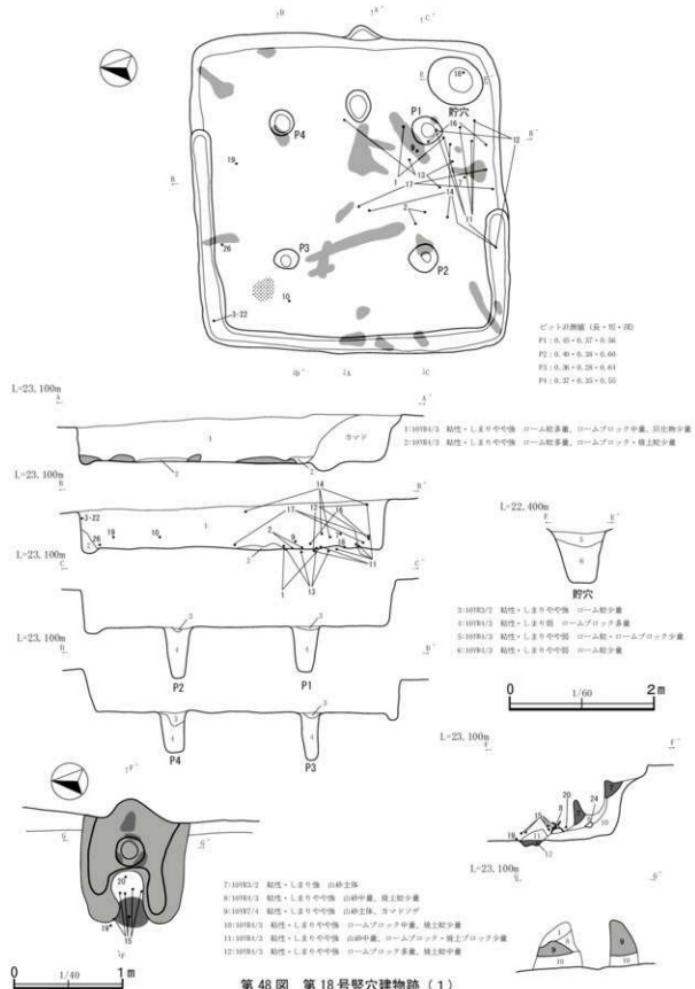
重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸4.52m、短軸4.24m、深さ0.72m。主軸方位： $N - 88^\circ - E$ 。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、全体的に硬化していた。ピットが4基検出され、壁溝は全周せず、幅0.32m、深さ0.07mを測る。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸0.77m、短軸0.66m、深さ0.73mを測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出され、ソデ及び天井



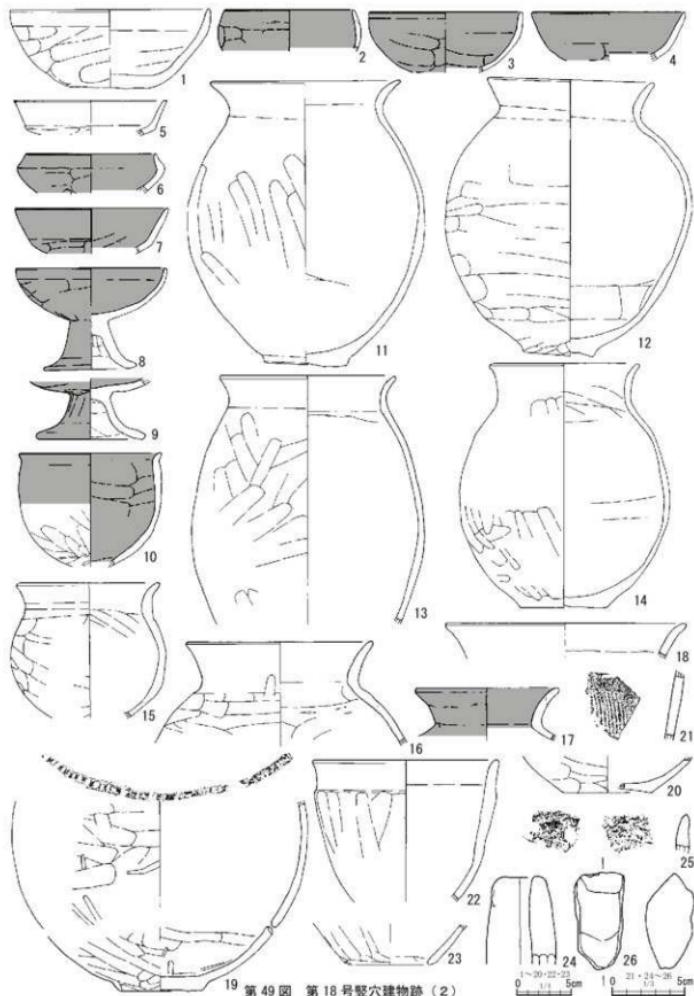
第46図 第17号竪穴建物跡(1)



第47図 第17号堅穴建物跡(2)



第48図 第18号堅穴建物跡(1)



第49図 第18号窓穴建物跡(2)



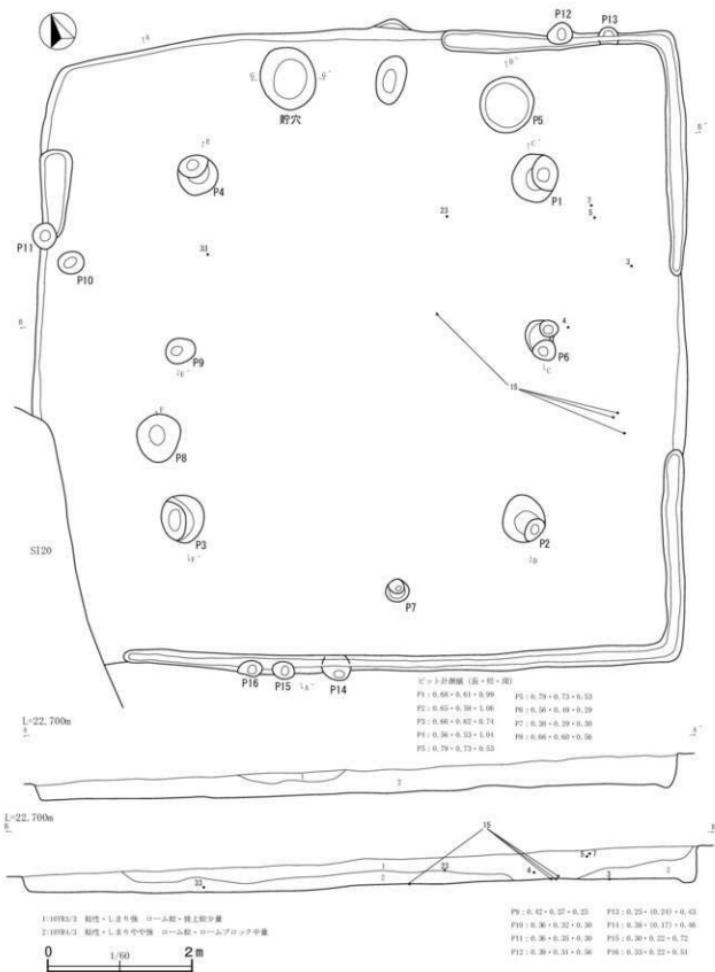
部が一部残存していた。カマドは部分的に強く被熱し、カマド中央付近は環状に被熱している。土器を据えた痕跡の可能性がある。下部からは羽口が出土していることから、カマドを製鉄遺構に作り替えた可能性もあるが、鉄滓などは出土しておらず、可能性の指摘に留めておく。床面付近から炭化材が検出されたことから、焼失住居と考えられる。覆土：覆土はロームブロックが混じり、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。また、覆土中からシオフキ主体の小規模な貝層がブロック状に検出され、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は僅かだが、床面付近からまとまって出土し、特に南壁側から多く出土している。また、カマド内及びカマド付近からの遺物の出土も多い。第49図8は高壺であり、カマド内に逆さに置かれた状態で出土し、祭祀に伴うものと考えられる。第49図24は羽口で、カマド内から出土している。時期：出土した土師器杯・高壺・壺の形態から古墳時代後期、TK47型式期。

第19号竪穴建物跡（第7・8表、第50～52図）

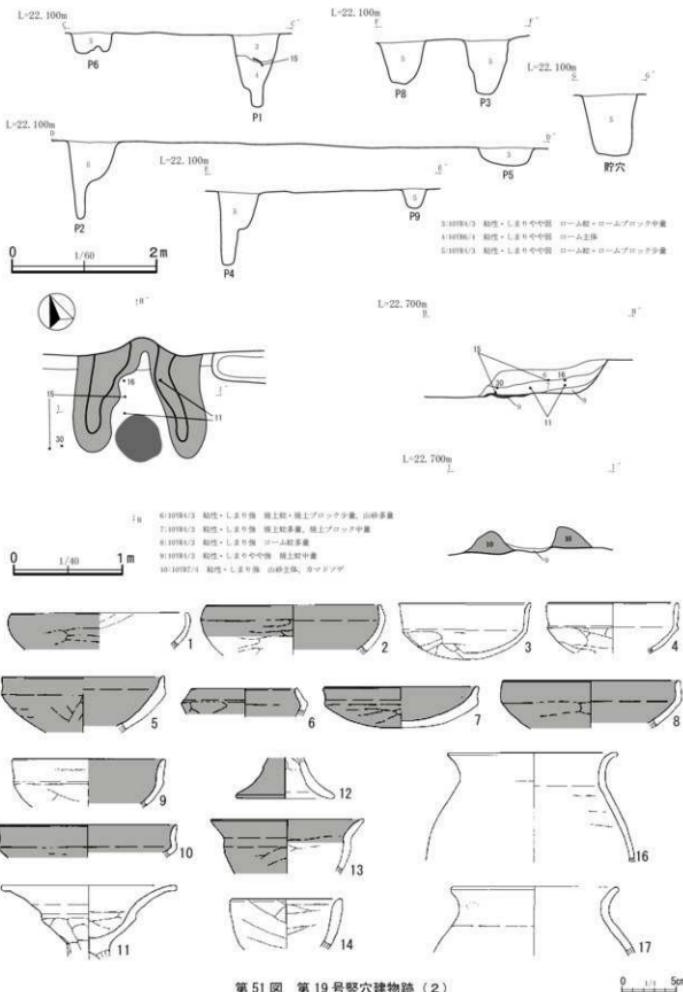
重複関係：第20号竪穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。平面形態：方形。規模：長軸9.04m、短軸9.02m、深さ0.38m。主軸方位：N-20°-E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、全体的に硬化していた。ピットが16基検出され、主柱穴以外の補助柱穴と考えられるものも検出された。壁柱穴も検出されている。壁溝は全周せず、幅0.28m、深さ0.07mを測る。貯蔵穴が1基北壁側の中央寄りから検出され、長軸0.87m、短軸0.75m、深さ0.87mを測る。カマドが北壁の東壁寄りから検出され、ソデが一部残存していた。カマドは焚口が広く、支脚が立った状態で2つ検出されたことから、煮沸具を2つ並列で使用していたと考えられる。覆土：覆土は大きめのロームブロックが混じることから、人為的な埋め戻しと考えられる。特に床面付近からは部分的にロームブロックが多量に検出された。遺物：覆土からの遺物の出土は比較的少なく、破片が多い。特に建物跡北東側からの出土が多い。床面付近からはやまとめて出土し、特に東壁側、カマド内及び周辺からの遺物の出土が多い。カマドから支脚が立った状態で2つ出土し、第51図6・11・16、第52図15はカマド内から出土している。第52図15はP1内から出土したものと接合した。第52図32は土器片転用砥石、第52図33は砥石である。また、鉄滓が出土している。時期：出土した土師器杯・高壺からある程度時期幅があると考えられるが、須恵器杯・壺蓋の形態から古墳時代後期、TK10～TK43型式期。

第20号竪穴建物跡（第7・8表、第53・54図）

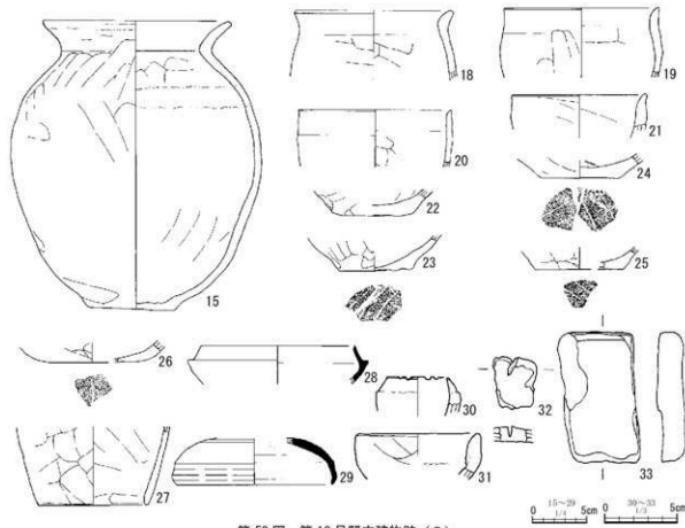
重複関係：第19号竪穴建物跡と重複し、本遺構が古い。一部調査区外。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸5.20m、短軸<1.28>m、深さ0.44m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、全体的に硬化していた。ピットが1基検出され、壁溝は検出されなかった。貯蔵穴が1基南壁側から検出され、長軸0.81m、短軸0.68m、深さ0.51mを測る。P1と対になるため、柱穴の可能性もあるが、平面・断面形から貯蔵穴と判断した。カマドが東壁から検出されたが、ソデ及び天井部は全く残存していないかった。覆土：覆土はロームブロックが混じり、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土及び床面からの遺物の出土は少なく、破片・摩耗・被熱しているものも多い。覆土中層からやまとった遺物の出土がある。第54図3・5の壺と第54図20の須恵器壺蓋は貯蔵穴からの出土である。時期：出土した土師器杯、須恵器壺蓋の形態から古墳時代後期、TK10型式期。



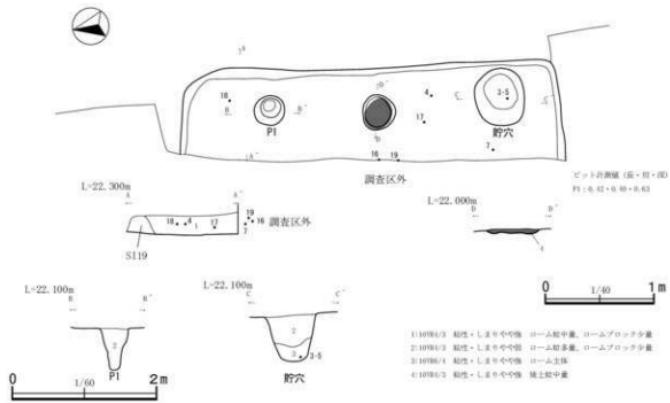
第 50 図 第 19 号竖穴建物跡 (1)



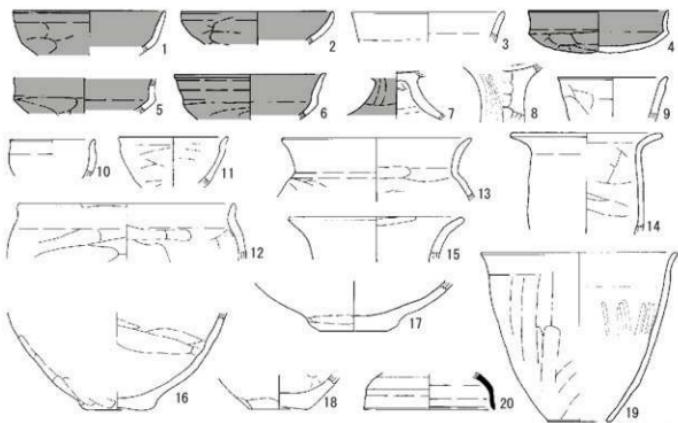
第 51 図 第 19 号竖穴建物跡 (2)



第52図 第19号竪穴建物跡（3）

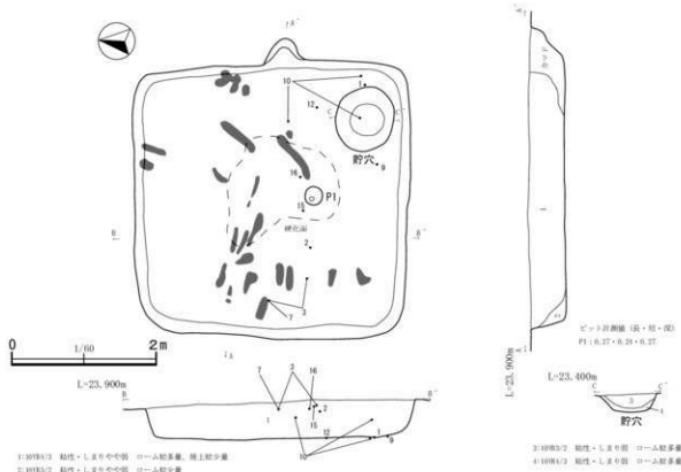


第53図 第20号竪穴建物跡（1）

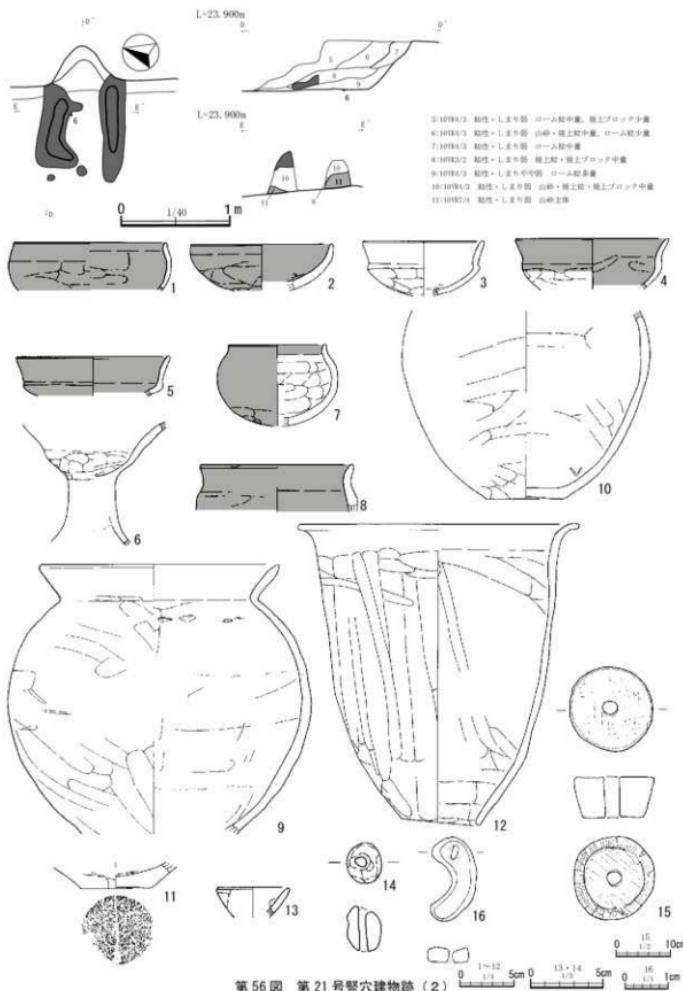


第 54 図 第 20 号竪穴建物跡 (2)

0 1/4 5cm



第 55 図 第 21 号竪穴建物跡 (1)



第 56 図 第 21 号整穴建物跡 (2)



第 21 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 55・56 図）

重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸 4.15m、短軸 3.81m、深さ 0.58m。主軸方位：N-82° - E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部のみ部分的に硬化していた。柱穴が 1 基検出され、壁溝は検出されなかった。貯蔵穴が 1 基南東側から検出され、長軸 0.92m、短軸 0.80m、深さ 0.27m を測る。カマドが東壁の南壁寄りから検出された。カマドの構築材は山砂だけではなく、山砂の上部に粘土と繊維質を混ぜたもので構築され、全体的に被熱していた。明確な燃焼面は確認できなかった。床面付近からは炭化材・焼土が検出され、焼失住居と考えられる。覆土：覆土は均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は僅かで細片が多いが、床面からは比較的まとまった遺物が出土している。特に貯蔵穴付近からの出土が多い。カマド南側からは第 56 図 12 の瓶が横倒しの状態で出土し、貯蔵穴西側からは第 56 図 9 の甕が横倒しの状態で出土している。また、カマド内からは第 56 図 6 の高壺が横倒しの状態で出土している。逆さにして置かれていたものと考えられ、祭祀に伴うものと考えられる。石製勾玉（第 56 図 1）・石製錘錐（第 56 図 15）が覆土上層から出土している。時期：出土した土師器・壺・甕の形態から古墳時代後期、TK10 型式期。

第 22 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 57・58 図）

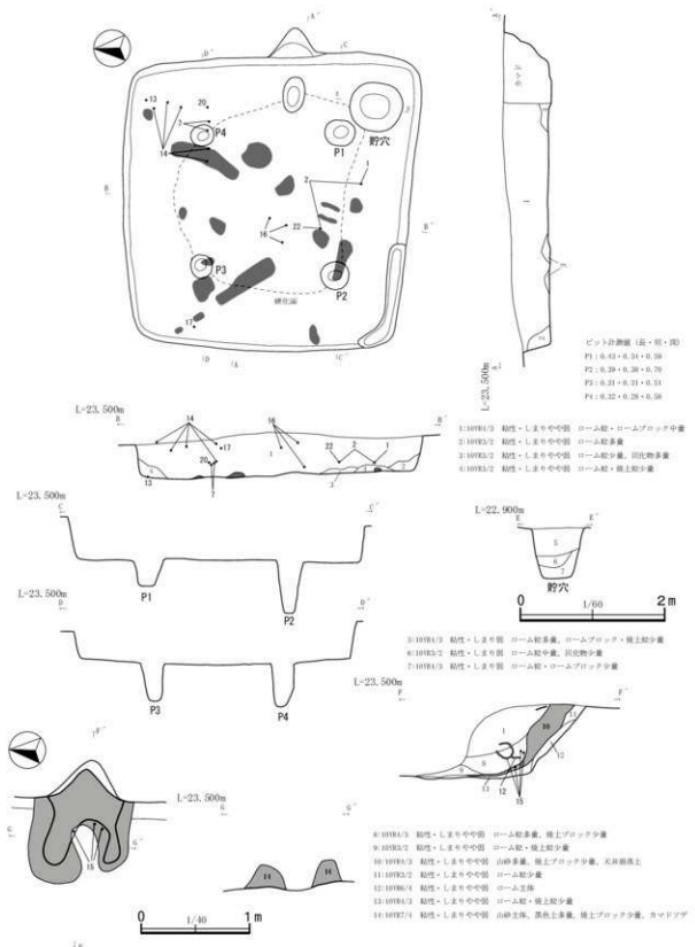
重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸 4.43m、短軸 3.94m、深さ 0.67m。主軸方位：N-90° - E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部が硬化していた。柱穴が 4 基検出され、壁溝は南西隅のみから検出され、幅 0.25m、深さ 0.04m を測る。貯蔵穴が 1 基南東側から検出され、長軸 0.73m、短軸 0.66m、深さ 0.73m を測る。カマドが東壁から検出された。カマドはソゾ及び天井部が一部残存していた。明確な燃焼面は検出されなかった。床面付近からは炭化材・焼土が検出され、焼失住居と考えられる。覆土：覆土はロームブロックが混在し、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土から床面にかけて、比較的多くの遺物が出土している。特に北壁寄りから多く出土している。カマドからは第 58 図 12 の高壺の上に第 58 図 15 の甕が乗せられた状態で出土し、祭祀に伴うものと考えられる。時期：出土した土師器壺・高壺の形態から古墳時代後期、TK10 型式期。

第 23 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 59・60 図）

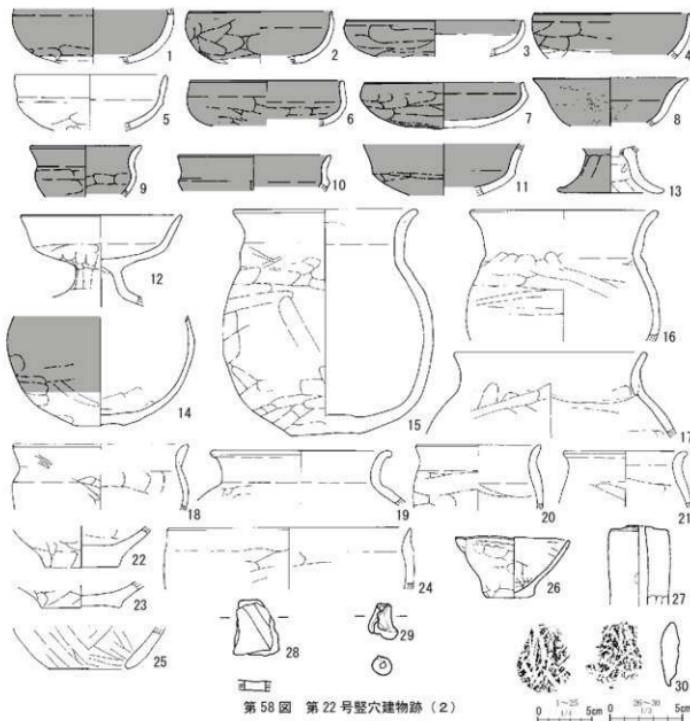
重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸 3.78m、短軸 <1.20>m、深さ 0.35m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、明確な硬化面は検出されなかった。ピットが 1 基検出され、壁溝は検出されなかった。覆土：覆土はロームブロックが混じり、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は少なく破片が多いが、床面からは第 60 図 5 の瓶が出土している。時期：出土した土師器壺の形態から古墳時代後期、TK10 ~ 43 型式期。

第 24 号竪穴建物跡（第 7・8 表、第 61 ~ 63 図）

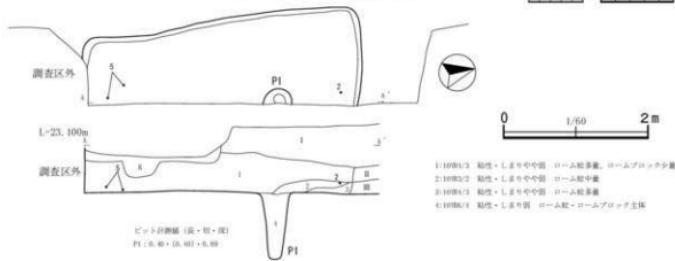
重複関係：第 39 号土坑と重複し、本遺構が古い。調査区内の傾斜地に位置している。平面形態：方形。南壁中央に張り出し部を持つ。規模：長軸 9.08m、短軸 8.34m、深さ 0.89m。主軸方位：N-12° - E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、明確な硬化面は検出されなかった。ピットが 21 基検出され、主柱穴以外の補助柱穴と考えられるものも検出された。壁溝は



第57図 第22号竪穴建物跡（1）



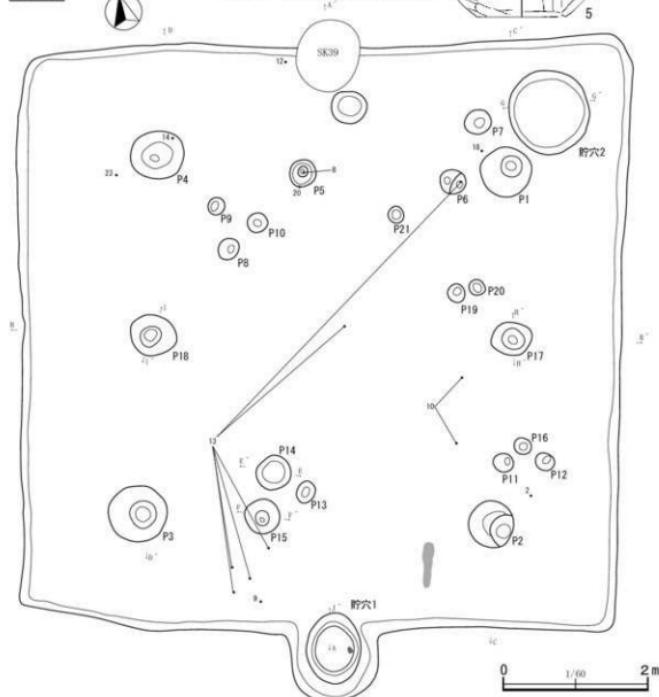
第58図 第22号整穴建物跡(2)



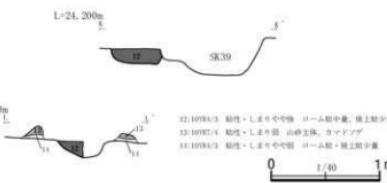
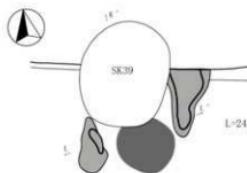
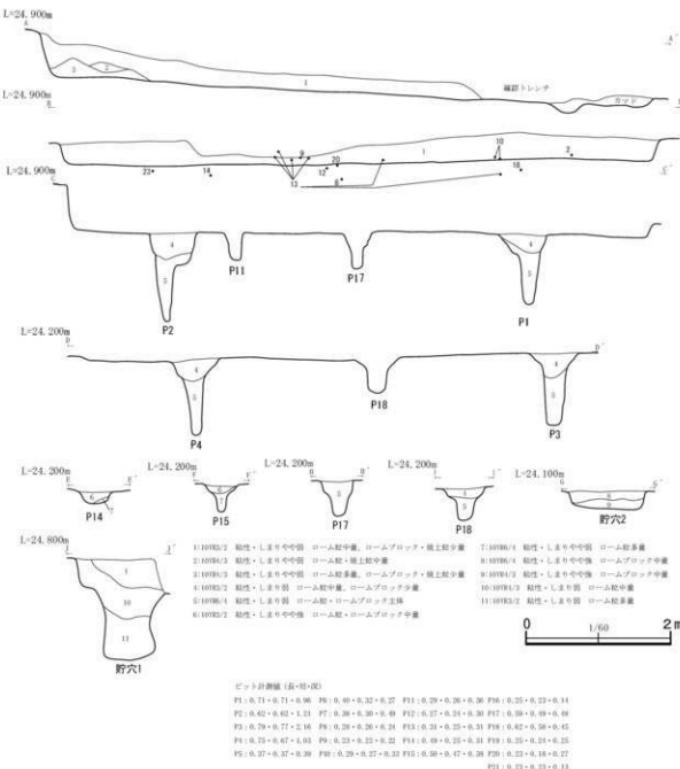
第59図 第23号整穴建物跡(1)



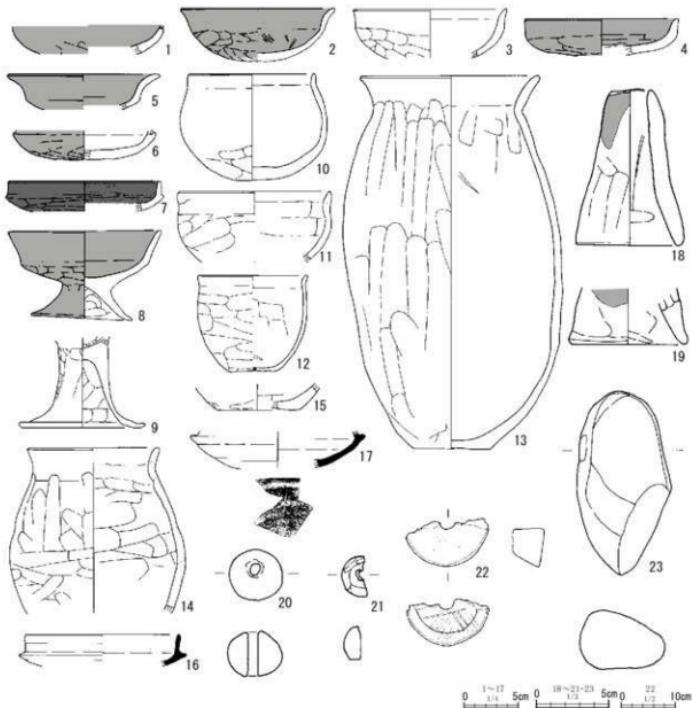
第 60 図 第 23 号堅穴建物跡 (2)



第 61 図 第 24 号堅穴建物跡 (1)



第 62 図 第 24 号竪穴建物跡（2）



第63図 第24号竪穴建物跡（3）

検出されなかった。貯蔵穴が1基北壁側と南壁側から検出され、南側の貯蔵穴1は張り出し部から検出されている。貯蔵穴1は長軸1.24m、短軸1.20m、深さ0.91m、貯蔵穴2は長軸1.15m、短軸1.10m、深さ0.29mを測る。カマドが北壁から検出されたが、第30号土坑に切られ、ソデが一部残存していたのみである。床面からは一部ではあるが炭化材が検出され、壁際の床面近くからは焼土も検出されることから、焼失住居の可能性がある。覆土：覆土はロームブロックが混じり、均質的であることから、人为的な埋め戻しと考えられる。壁際の床面近くからは焼土が検出されている。遺物：覆土からの遺物の出土は僅かであるが、南壁際の床面近くからやまとった遺物の出土がある。カマド前のP5内からは高杯が出土しており、祭祀に伴うものと考えられる。また、羽口が出土し、鉄滓も出土している。時期：出土した土器師坏、須恵器坏の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第25号竪穴建物跡（第7・8表、第64・65図）



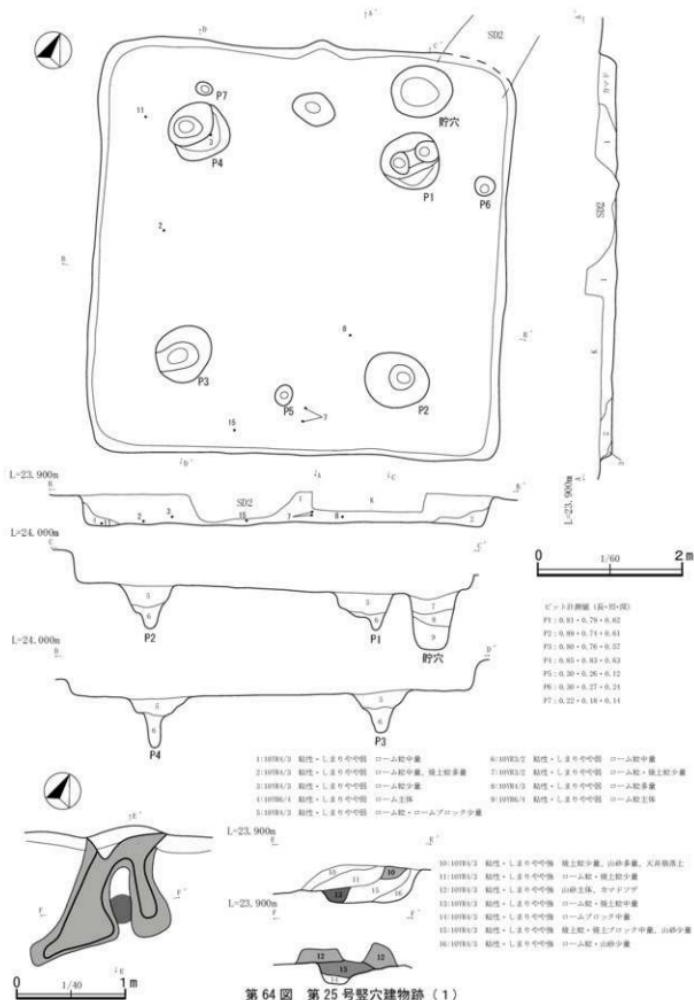
重複関係：第2号溝跡、第46号土坑と重複し、第2号溝跡より古く、第46号土坑より新しい。平面形態：方形、規模：長軸 5.69m、短軸 5.65m、深さ 0.60m。主軸方位：N -22° - W。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、明確な硬化面は検出されなかった。ビットが7基検出され、壁溝は検出されなかった。貯蔵穴が1基北壁側から検出され、長軸 0.83m、短軸 0.73m、深さ 0.78m を測る。カマドが北壁から検出され、ソデ及び天井部が一部残存していた。覆土：覆土は均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。壁際の床面近くからは焼土が検出されている。遺物：覆土及び床面からの遺物の出土は少なく、細片で占められほとんど接合しない。また、被熱・摩耗しているものも多い。第65図2の坪、第65図11の手捏ねは西壁寄りの床面から出土している。第65図15は磨石類で、南壁寄りの床面付近から出土している。軽石が比較的多く出土している。また、支脚がカマドソデの西側から出土し、カマド内からは第65図14の不明土製品が出土している。時期：出土した土師器壺の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第26号竪穴建物跡（第7・8表、第66・67図）

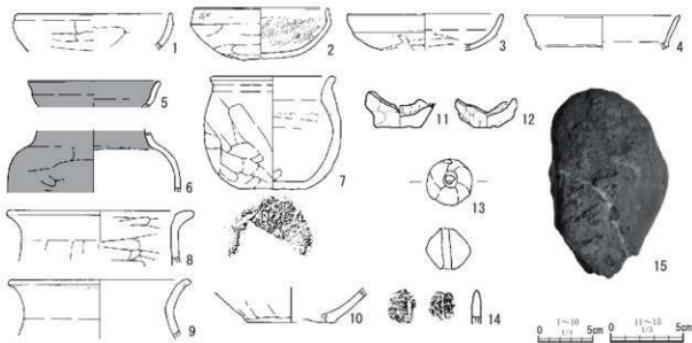
重複関係：なし。平面形態：方形。東壁中央に張り出し部を持つ。規模：長軸 5.89m、短軸 4.97m、深さ 0.43m。主軸方位：N -81° - W。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。ビットが17基検出され、明確な主柱穴は検出されなかった。また、壁柱穴が検出されている。壁溝は全周せず、南側のみで検出され、幅 0.29m、深さ 0.08m を測る。東壁の貯蔵穴前からは周堤状の高まりが検出された。貯蔵穴が1基東壁側の張り出し部から検出され、長軸 0.87m、短軸 0.56m、深さ 0.43m を測る。カマドが北壁から検出されたが、ソデが一部で残存していたのみであった。ソデは山砂を構築材としておらず、粘土と繊維質のものを混ぜた構築材で、被熱していた。床面からは焼土及び炭化材が検出され、床面も被熱しており、焼失住居と考えられる。床面付近からは炭化材以外に、建物の部材と考えられる茅状の炭化材も検出された。覆土：覆土はロームブロックが部分的に多量に混在することから、人為的な埋め戻しと考えられる。また、床面付近からは焼土及び炭化材が検出された。遺物：覆土からの遺物の出土はごく僅かであるが、南東側の床面近くからやまとまつた遺物の出土がある。また、カマド南側から第67図12の瓶が横倒しの状態で出土し、カマド内からは第67図9の甕に第67図1の坪が重ねられた状態で出土し、祭祀に伴うものと考えられる。燃焼面上からは支脚が立った状態で出土した。時期：出土した土師器壺・瓶の形態から古墳時代後期、TK23～47型式期。

第27号竪穴建物跡（第7・8表、第68・69図）

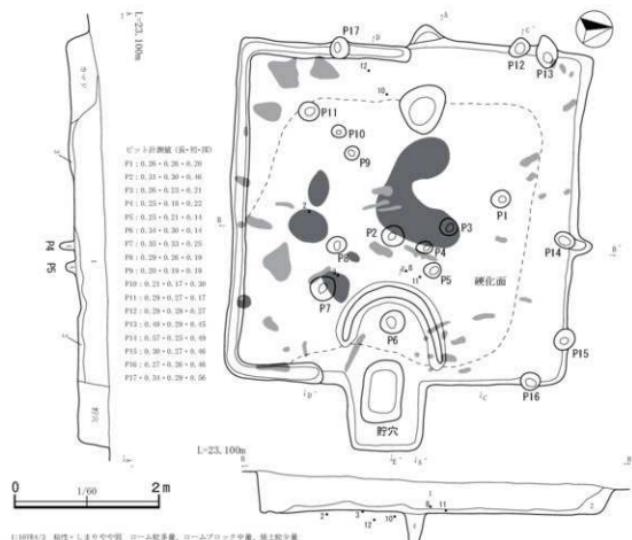
重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸 5.84m、短軸 <3.90m、深さ 0.69m。主軸方位：N -32° - E。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、中央部分が硬化していた。ビットが7基検出され、壁溝が南～東壁で検出され、幅 0.40m、深さ 0.06m を測る。また、東壁側から間仕切り溝が1条検出された。貯蔵穴が1基南東側から検出され、長軸 0.79m、短軸 0.74m、深さ 0.56m を測る。カマドが北壁から検出されたが、ソデが一部残存するのみである。覆土：覆土は均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：床面付近からの遺物の出土は多くないが、南壁寄りの覆土中～上層にかけて破片ではあるが比較的多量の遺物が出土し、投棄されたものと考えられる。第69図32は土器片転用砥石である。鉄滓が1点出土している。時期：出土した土師器壺の形態から古墳時代後期、TK47型式期。



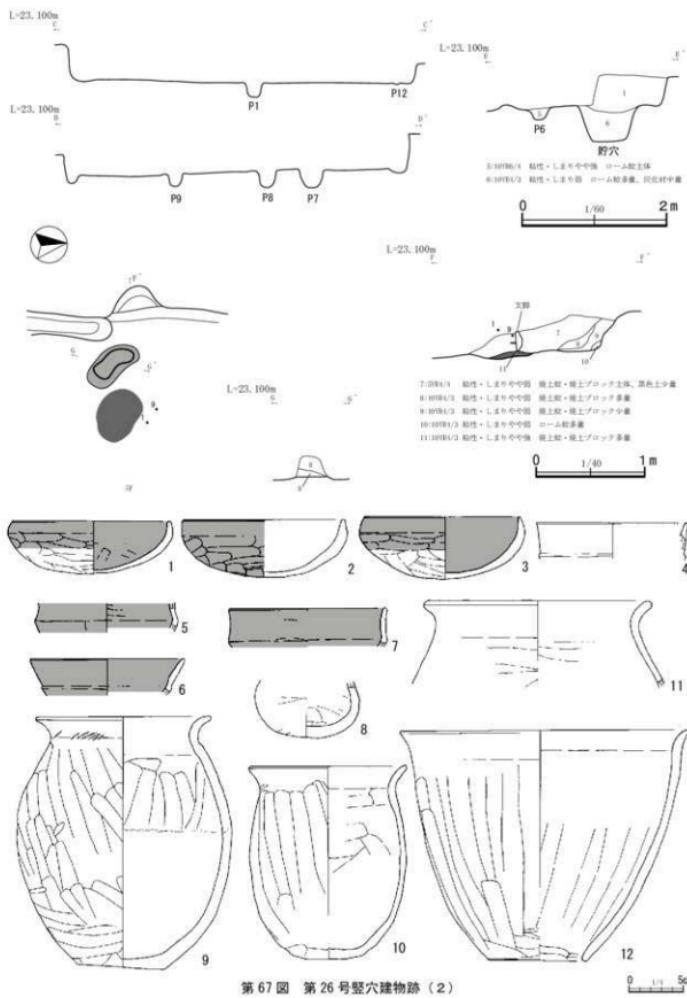
第 64 図 第 25 号竖穴建物跡 (1)



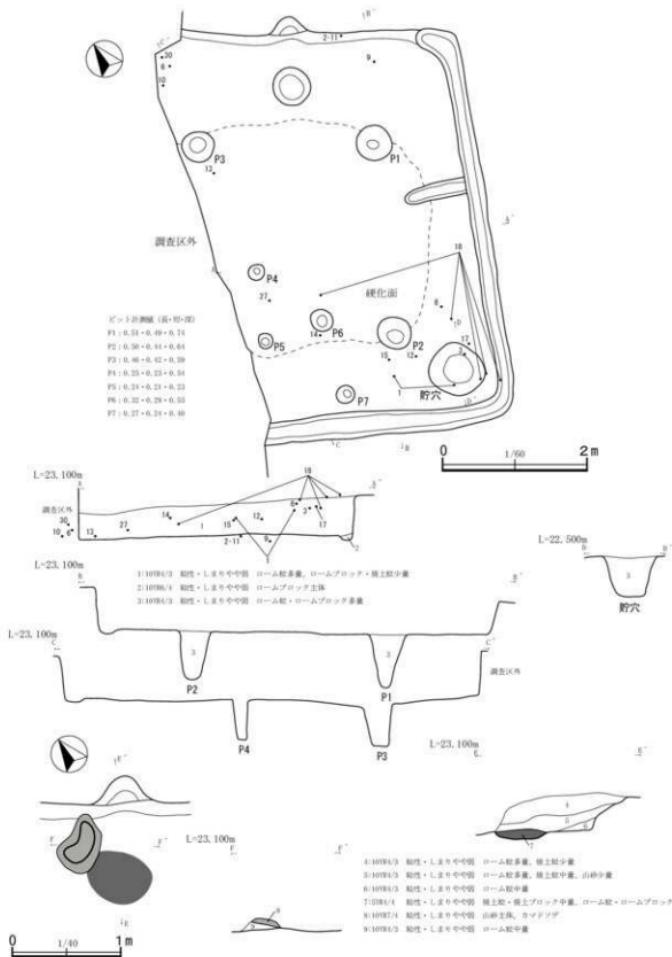
第65図 第25号竪穴建物跡(2)



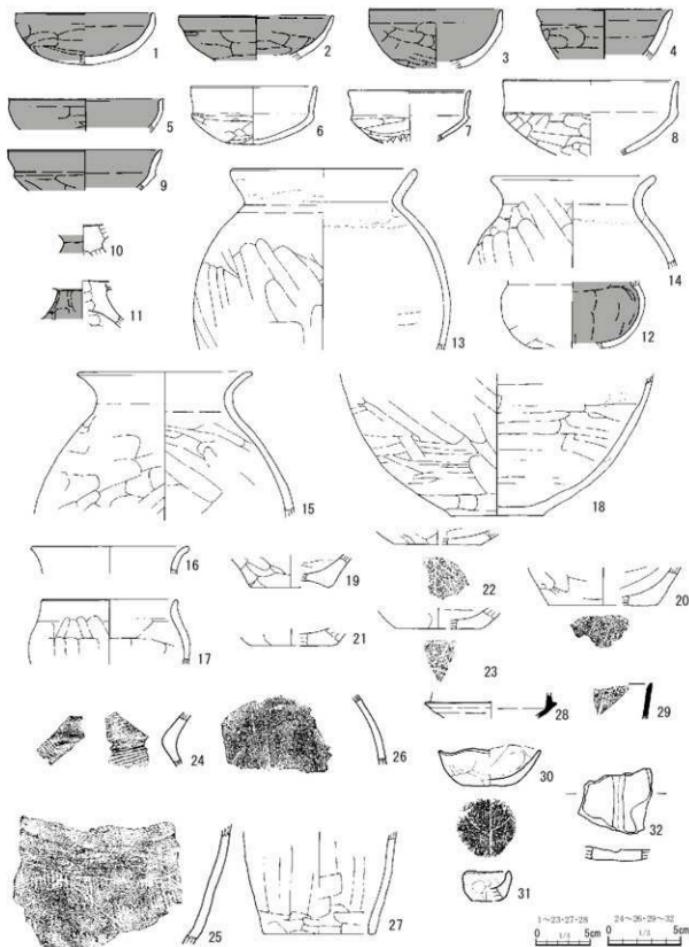
第66図 第26号竪穴建物跡(1)



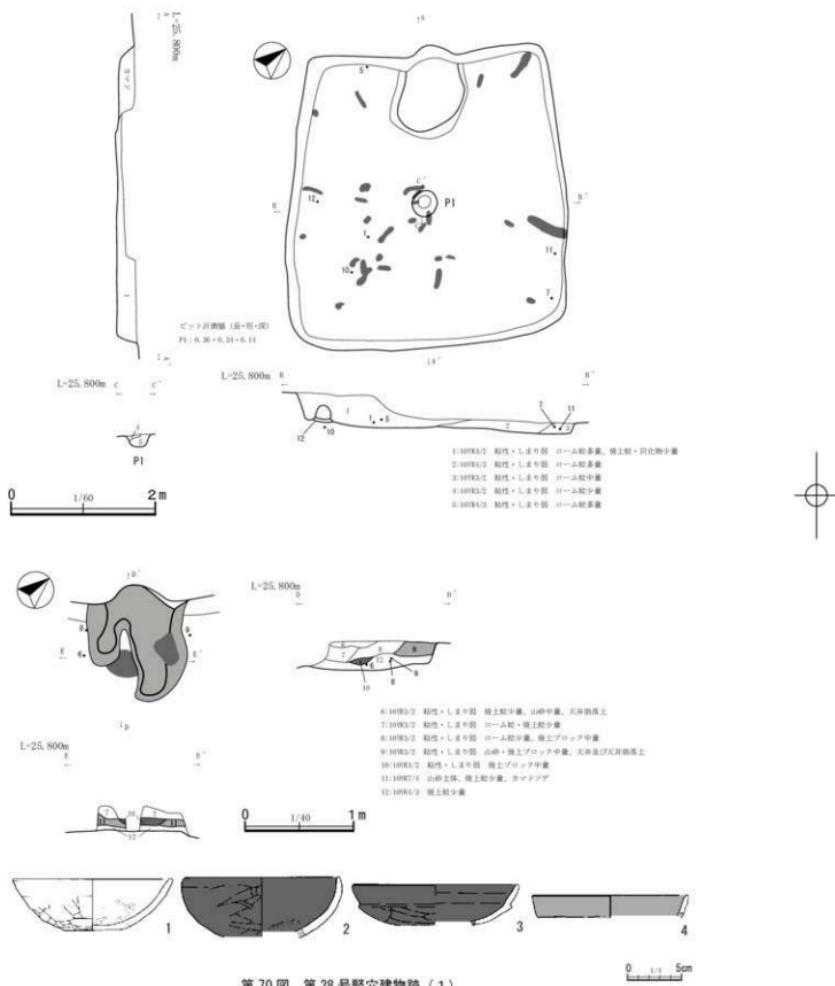
第 67 図 第 26 号竪穴建物跡 (2)

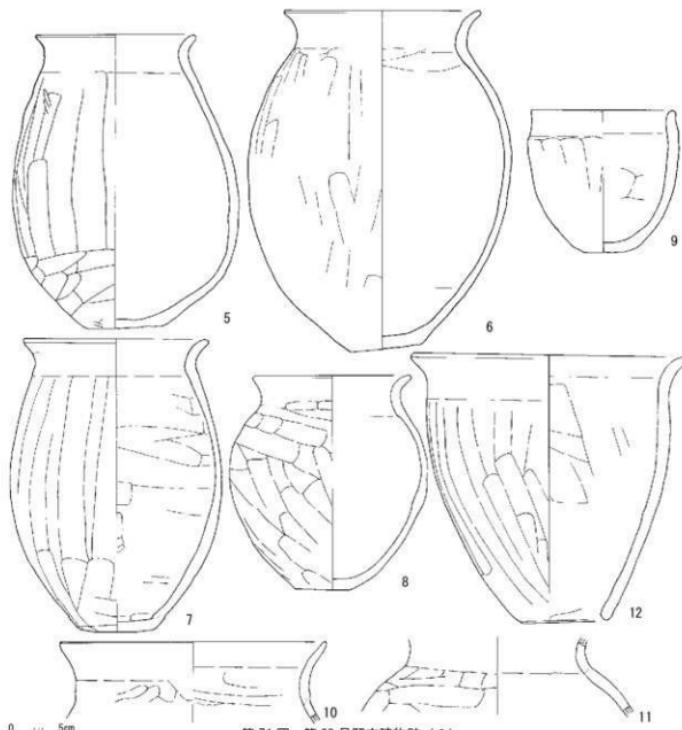


第 68 図 第 27 号竪穴建物跡 (1)

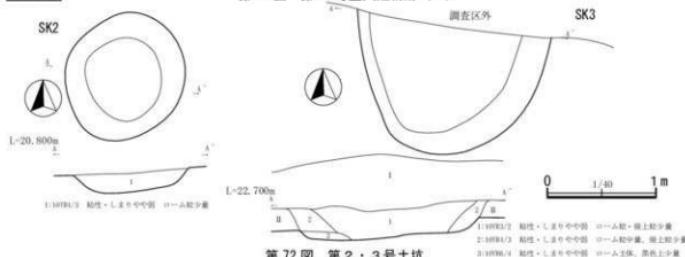


第69図 第27号竪穴建物跡(2)





第71図 第28号堅穴建物跡(2)



第72図 第2・3号土坑



第28号竪穴建物跡（第7・8表、第70・71図）

重複関係：なし。平面形態：方形。規模：長軸4.13m、短軸3.79m、深さ0.58m。主軸方位：N~40°~W。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、硬化面は確認されず、軟弱であった。ピットが1基検出され、壁溝・貯蔵穴は検出されなかった。カマドが西壁側から検出され、ソデ及び天井部が比較的の残存していた。また、カマドの構築材として山砂だけでなく、粘土と繊維質を混ぜたと思われる構築材が検出され、被熱していた。床面からは炭化材が検出されたことから、焼失住居と考えられる。覆土：覆土は均質であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土からの遺物の出土は僅かで、細片で占められるが、床面からはややまとった遺物の出土がある。特にカマド脇からは第71図6・8・9の甕が置かれた状態で一部横倒しになって出土し、被熱している。また、住居南壁際からは、第71図12の瓶が逆さまに置かれた状態で出土している。時期：出土した土師器壺・甕の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

（3）土坑

第2号土坑（第7・8表、第72・75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.21m、短軸1.08m、深さ0.29m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が少量出土している。細片が多い。時期：出土した須恵器壺蓋の形態から古墳時代後期、MT15~TK10型式期。

第3号土坑（第7・8表、第72・75図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸1.78m、短軸<1.15>m、深さ0.29m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：覆土中から焼土が検出され、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が比較的多く出土している。破片が多く、投棄されたものと考えられる。焼成粘土塊がやや多く出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第4号土坑（第7表、第73図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.97m、短軸1.40m、深さ0.32m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第6号土坑（第7表、第73図）

重複関係：なし。平面形態：不整円形。規模：長軸1.40m、短軸0.90m、深さ0.29m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第11号土坑（第7表、第73図）

重複関係：第10・12号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：円形。規模：長軸1.20m、短軸1.03m、深さ0.51m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第12号土坑（第7・8表、第73・75図）

重複関係：第11号土坑と重複し、本遺構が古い。平面形態：方形。規模：長軸2.40m、短軸1.76m、深さ0.40m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。柱穴が1基検出された。覆土：覆土



は均質的であることから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から縄文時代の土製品・弥生土器・古墳時代後期の土器が少量出土し、いずれも破片である。時期：出土遺物及び平面形態から、古墳時代後期。

第 15 号土坑（第 7 表、第 73 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.34m、短軸 1.30m、深さ 0.49m。構造：底面はやや傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。鉄滓が 1 点出土した。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 18 号土坑（第 7 表、第 73 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.61m、短軸 0.50m、深さ 0.36m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 19 号土坑（第 7 表、第 74 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.80m、短軸 0.65m、深さ 0.41m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 22 号土坑（第 7・8 表、第 74・75 図）

重複関係：第 4 号竪穴建物跡・第 3 号柱穴と重複し、第 4 号竪穴建物跡より新しく、第 3 号柱穴より古い。一部調査区外。平面形態：不整形と考えられる。規模：長軸 1.04m、短軸 <0.52>m、深さ 0.29m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入し、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 29 号土坑（第 7・8 表、第 74・75 図）

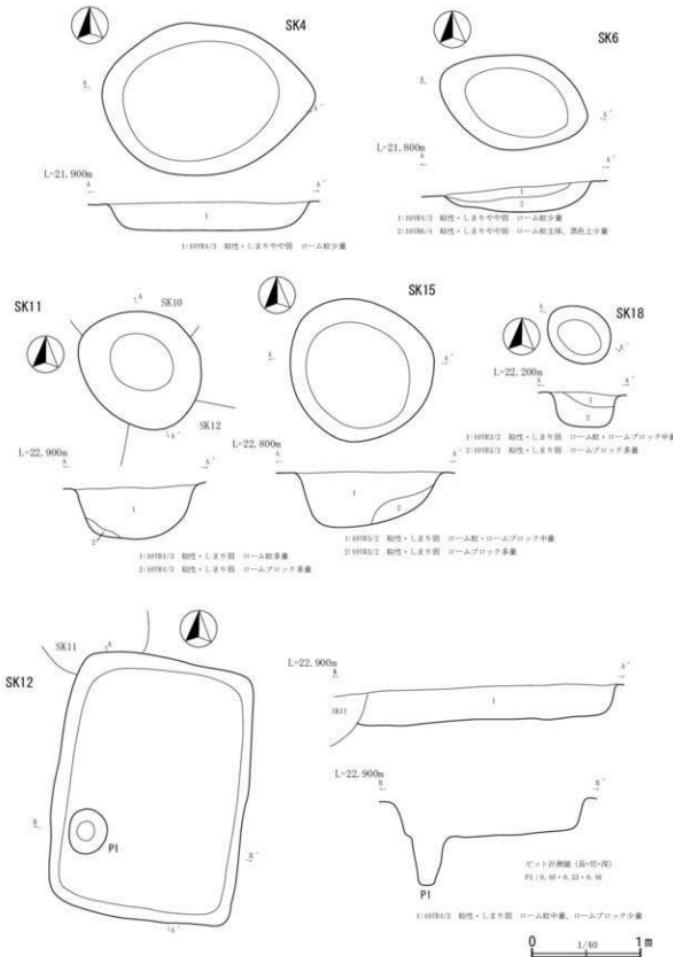
重複関係：第 17 号竪穴建物跡と重複するが、新旧関係は判断できなかった。平面形態：円形。規模：長軸 0.83m、短軸 0.68m、深さ 0.66m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入し、均質的であることから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。摩耗・剥落しているものが多い。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 30 号土坑（第 7 表、第 74 図）

重複関係：第 6 号竪穴建物跡と重複するが、新旧関係は判断できなかった。平面形態：楕円形と考えられる。規模：長軸 <1.13>m、短軸 0.90m、深さ 0.65m。構造：底面は段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第 32 号土坑（第 7 表、第 74 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.85m、短軸 0.79m、深さ 0.36m。構造：底面は平坦で、



第 73 図 第 4・6・11・12・15・18 号土坑



壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第33号土坑（第7・8表、第74・75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.00m、短軸0.93m、深さ0.27m。構造：底面はやや傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期・近世の遺物が僅かに出土している。第75図1は不明土製品である。時期：出土遺物から、古墳時代後期。
第40号土坑（第7・8表、第74・75図）

重複関係：第44・45号土坑と重複し、第44号土坑より新しく、第45号土坑より古い。平面形態：不整円形。規模：長軸2.68m、短軸1.87m、深さ0.38m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が1基検出された。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が少量出土している。摩耗・剥落しているものが多い。時期：出土した土師器壺の形態から古墳時代後期、TK43型式期。

第55号土坑（第7・8表、第75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.18m、短軸1.03m、深さ0.44m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第57号土坑（第7表、第75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.88m、短軸0.84m、深さ0.47m。構造：底面はやや傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第58号土坑（第7・8表、第75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.59m、短軸1.36m、深さ0.57m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第60号土坑（第7表、第75図）

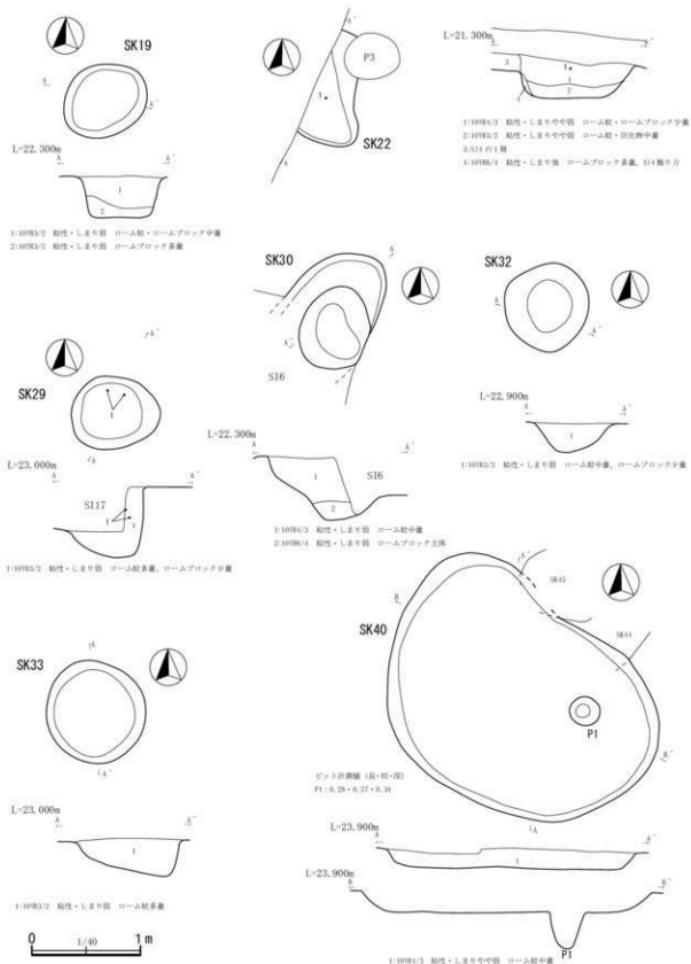
重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸1.85m、短軸0.86m、深さ0.48m。構造：底面は段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

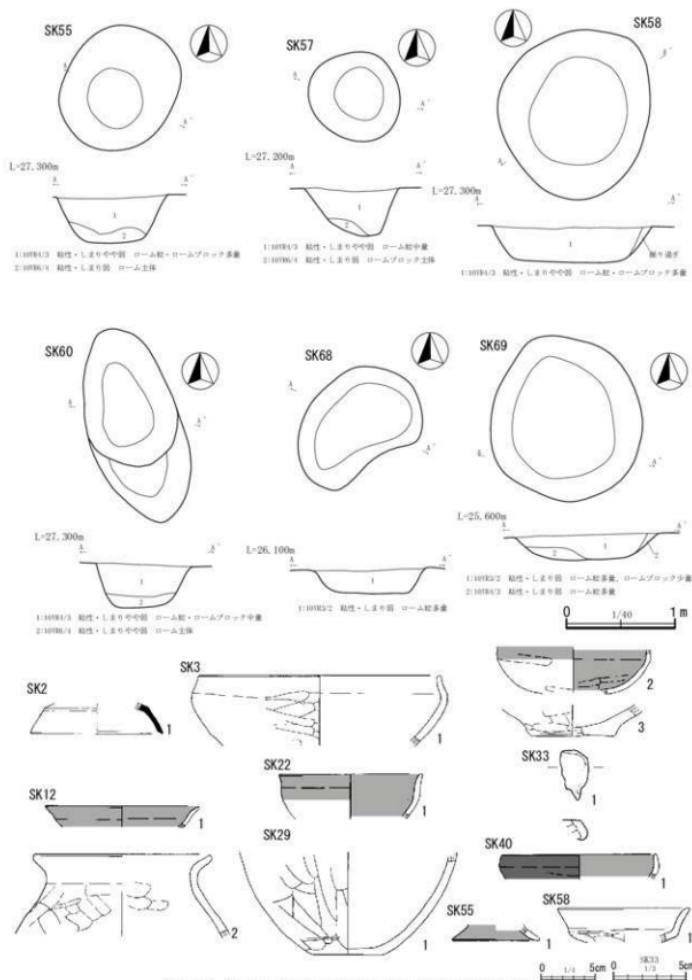
第68号土坑（第7表、第75図）

重複関係：なし。平面形態：不整円形。規模：長軸1.27m、短軸0.79m、深さ0.26m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

第69号土坑（第7表、第75図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.50m、短軸1.39m、深さ0.31m。構造：底面は平坦で、





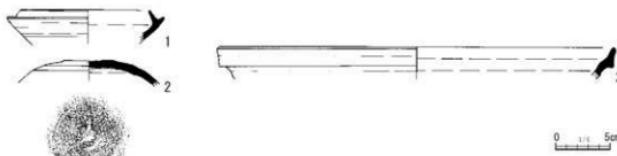
第 75 図 第 55・57・58・60・68・69 号土坑、土坑出土遺物



壁は緩やかに立ち上がる。覆土：覆土はロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：覆土中から古墳時代後期の遺物が僅かに出土している。時期：出土遺物から、古墳時代後期。

(4) 遺構外出土遺物（第7・8表、第76図）

本調査で検出された古墳時代の遺構出土の遺物以外に、他時期の遺構覆土及び調査区内から遺物が僅かに検出されている。遺物の総数は集計表（第1表）に記載した。



第76図 古墳時代遺構外



4 古代（第7・8表・第77図）

(1) 概要

遺構は検出されなかったが、調査区内から僅かに古代の遺物が出土している。

(2) 遺構外出土遺物（第7・8表、第77図）

過去の調査では、本調査区から隣接した斜面地から、奈良三彩や儀鏡をはじめとして大量の土師器・須恵器が出土しているが、本調査では遺構は検出されず、遺物も破片資料が僅かに検出されたのみであった。





5 近世（第7・8表、第78～81図）

（1）概要

近世の溝跡が1条、土坑が2基、焼土跡が3基検出された。各遺構の遺物の総数は集計表（第7表）に記載した。

（2）溝跡

第2号溝跡（第7表、第79・80図）

重複関係：第7・15・25号竪穴建物跡・第25号土坑・第1号焼土跡と重複し、第7・15・25号竪穴建物跡・第25号土坑より新しく、第1号焼土跡より古い。調査区外へ延びる。平面形態：直線状だが、調査区の南側で二又に分かれる。規模：長さ140.0m、幅0.39～1.71m、深さ0.47～0.67m。構造：調査区北側では逆台形状の掘り込みが確認され、掘り込みもやや深いが、南側に向かって掘り込みは浅くなる。また南側では轍状となる箇所がある。硬化面などは確認されなかった。覆土中から数ヶ所焼土跡が検出され、溝が埋没する過程で形成されたものと考えられ、第1号焼土跡もこれに該当すると考えられる。また、調査区内で一部擾乱などにより削平され、検出できなかった箇所がある。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土から縄文時代～古代にかけての遺物が出土している。古墳時代後期の遺物が最も多いが、いずれも細片である。時期：形態及び覆土から近世と考えられる。

（3）土坑

第48号土坑（第7表、第80図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.83m、短軸0.70m、深さ0.45m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土中から近世の陶磁器が1点出土している。時期：出土遺物から、近世の可能性がある。

第62号土坑（第7表、第80図）

重複関係：なし。平面形態：不整梢円形。規模：長軸4.16m、短軸1.48m、深さ0.98m。構造：底面は傾斜・段差があり、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。覆土下層から骨粉が検出された。遺物：なし。時期：形態から近世の可能性がある。

（4）焼土跡

第1号焼土跡（第7表、第80図）

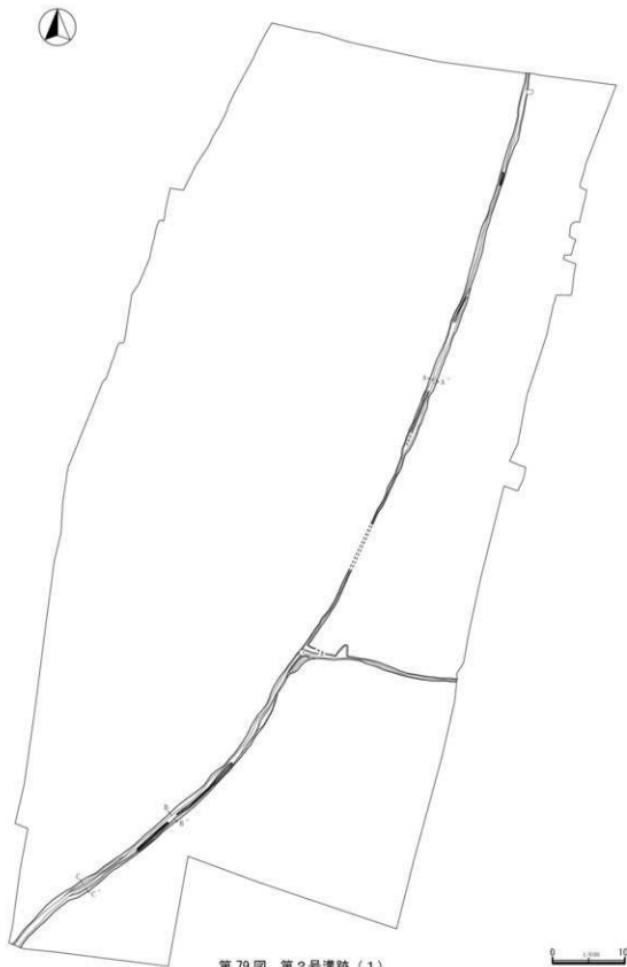
重複関係：第15号竪穴建物跡・第2号溝跡と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：円形。規模：長軸0.85m、短軸0.52m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。明確な燃焼面は検出されず、屋外炉のように使用されていたかは不明である。覆土：焼土ブロックが多量に検出された。遺物：覆土から古墳時代後期の土師器が僅かに出土している。時期：近世と考えられる第2号溝跡より新しいことから、近世以降。

第2号焼土跡（第7表、第80図）

重複関係：第37号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形態：不整梢円形。規模：長軸2.30m、短

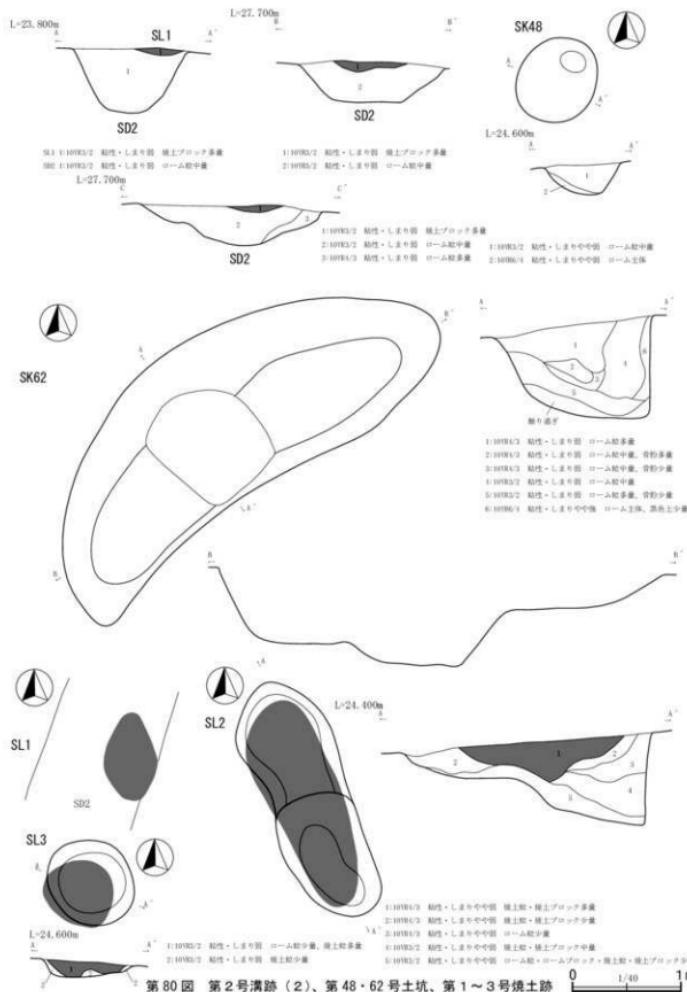


第 78 図 近世遺構配置図



第79図 第2号溝跡（1）

0 10m





軸 0.84m、深さ 0.75m。構造：床面は段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。南側は垂直気味に立ち上がる。明確な燃焼面は検出されず、屋外炉のように使用されていたかは不明である。覆土：上層から下層にかけて焼土粒・焼土ブロックが検出された。遺物：覆土から加曾利 E II 式、古墳時代後期の土師器が僅かに出土している。加曾利 E II 式は重複する第 37 号土坑に伴うものの可能性が高い。時期：第 1 号焼土跡と近接する時期のものと考えられ、近世以降の可能性が高い。

第 3 号焼土跡（第 80 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.84m、短軸 0.77m、深さ 0.16m。構造：床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。明確な燃焼面は検出されず、屋外炉のように使用されていたかは不明である。覆土：焼土粒が多量に検出された。遺物：なし。時期：第 1 号焼土跡と近接する時期のものと考えられ、近世以降の可能性が高い。

（5）遺構外出土遺物（第 7・8 表、第 81 図）

本調査で検出された近世の遺構出土の遺物以外に、各遺構の覆土及び調査区内から中・近世の遺物が僅かに検出されている。遺物の総数は集計表（第 1 表）に記載した。



第 81 図 近世遺構外



6 時期不明（第7表、第82～88図）

（1）概要

形態及び出土遺物からは時期が特定できなかった遺構を時期不明として記載する。各遺構の遺物の総数は集計表（第1表）に記載した。

（2）土坑

第5号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.02m、短軸0.81m、深さ0.23m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第7号土坑（第82図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸1.58m、短軸<0.93>m、深さ0.45m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第8号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.33m、短軸1.12m、深さ0.29m。構造：底面は傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第10号土坑（第82図）

重複関係：第11号土坑と重複し、本遺構が古い。平面形態：円形。規模：長軸1.40m、短軸1.37m、深さ0.47m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第14号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：不整橢円形。規模：長軸2.47m、短軸0.77m、深さ0.43m。構造：底面は傾斜し段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第16号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸1.15m、短軸1.05m、深さ0.40m。構造：底面は傾斜し、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

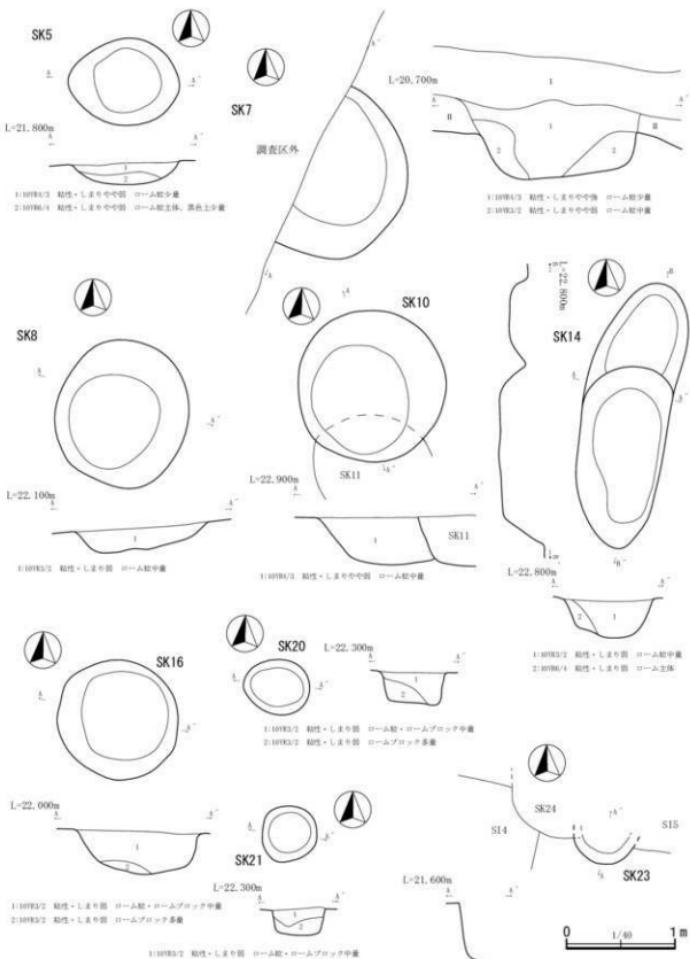
第20号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.62m、短軸0.51m、深さ0.29m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第21号土坑（第82図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.55m、短軸0.50m、深さ0.26m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第23号土坑（第82図）



第 82 図 第 5・7・8・10・14・16・20・21・23 号土坑



重複関係：第5号堅穴建物跡・第24号土坑と重複し、本遺構が最も古い。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸0.43m、短軸<0.19>m、深さ0.50m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第24号土坑（第83図）

重複関係：第4・5号堅穴建物跡・第23号土坑と重複し、第4・5号堅穴建物跡より古く、第23号土坑より新しい。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸0.71m、短軸<0.19>m、深さ0.48m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第25号土坑（第83図）

重複関係：第2号溝跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：楕円形と考えられる。規模：長軸<0.89>m、短軸0.63m、深さ0.31m。構造：底面は傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が1基検出された。覆土：自然堆積と考えられる。焼土が混じる。遺物：なし。時期：不明。

第26号土坑（第83図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.66m、短軸0.58m、深さ0.40m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第28号土坑（第83図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.72m、短軸0.62m、深さ0.28m。構造：底面は傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第34号土坑（第83図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸0.99m、短軸0.70m、深さ0.27m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第36号土坑（第83図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸0.75m、短軸<0.55>m、深さ0.18m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第39号土坑（第83図）

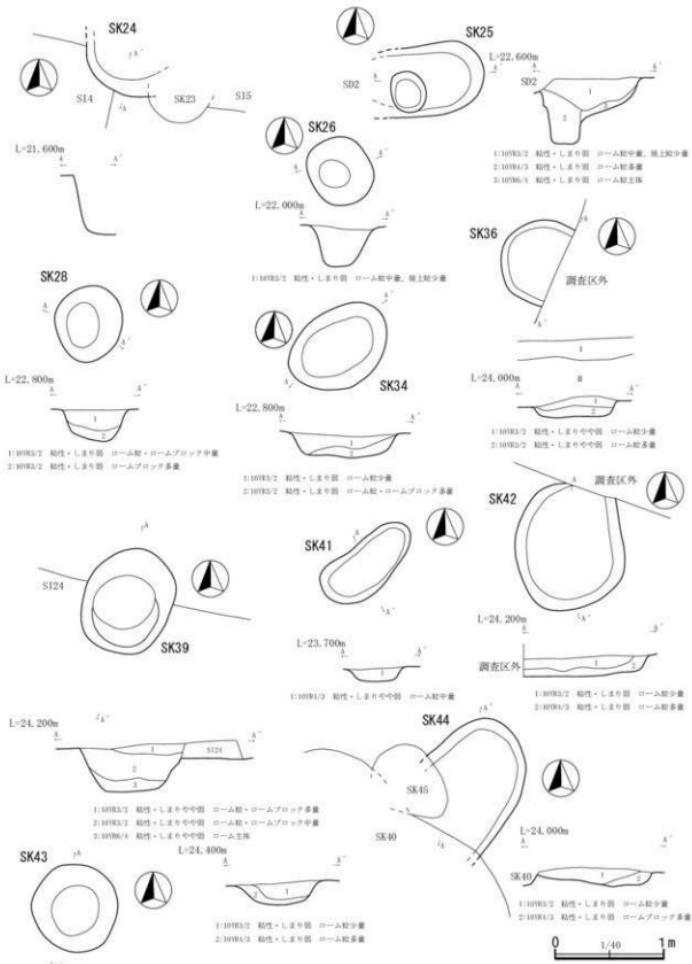
重複関係：第24号堅穴建物跡と重複し、本遺構が新しい。平面形態：円形。規模：長軸0.98m、短軸0.82m、深さ0.35m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックを多量に含み、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：古墳時代以降。

第41号土坑（第83図）

重複関係：なし。平面形態：不整規円形。規模：長軸0.97m、短軸0.45m、深さ0.23m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第42号土坑（第83図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：不整規円形。規模：長軸<1.18>m、短軸1.07m、深さ0.19m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。



第 83 図 第 24 ~ 26 · 28 · 34 · 36 · 39 · 41 ~ 44 号土坑



第 43 号土坑（第 83 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.83m、短軸 0.78m、深さ 0.27m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 44 号土坑（第 83 図）

重複関係：第 40・45 号土坑と重複し、本遺構が最も古い。平面形態：楕円形と考えられる。規模：長軸 <1.10m、短軸 0.94m、深さ 0.17m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 45 号土坑（第 84 図）

重複関係：第 40・44 号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：不整円形。規模：長軸 0.79m、短軸 0.53m、深さ 0.24m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 46 号土坑（第 84 図）

重複関係：第 25 号竖穴建物跡と重複し、本遺構が古い。平面形態：楕円形。規模：長軸 1.24m、短軸 0.60m、深さ 0.17m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 47 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。平面形態：不整椭円形。規模：長軸 2.74m、短軸 1.71m、深さ 0.44m。構造：底面は傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 49 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸 1.38m、短軸 0.78m、深さ 0.14m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 50 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：円形と考えられる。規模：長軸 1.11m、短軸 <0.43>m、深さ 0.53m。構造：底面は傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 51 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.59m、短軸 0.59m、深さ 0.20m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 52 号土坑（第 84 図）

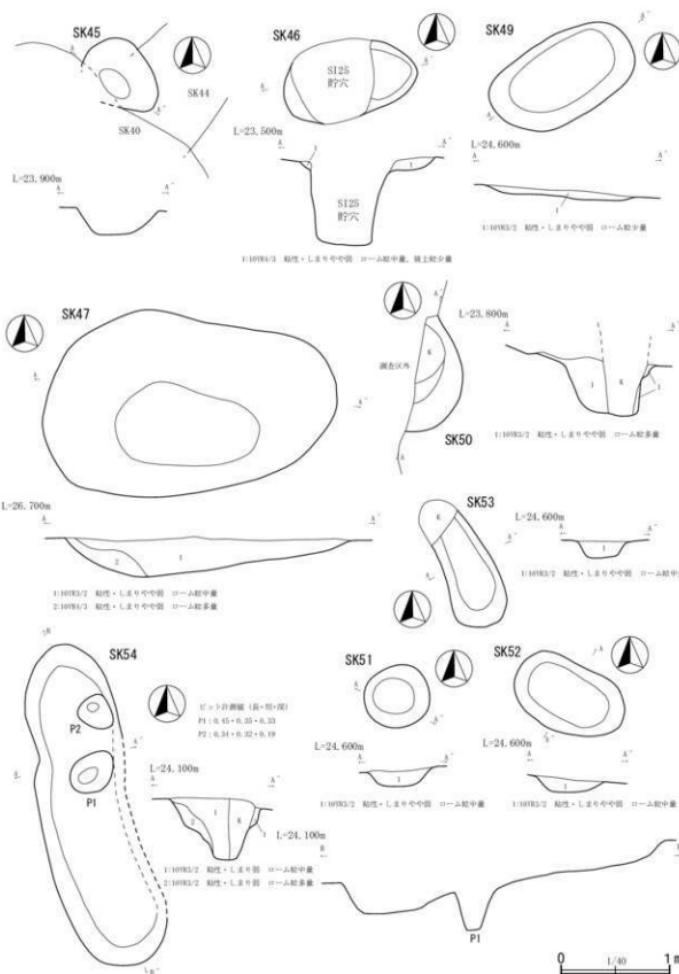
重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸 1.07m、短軸 0.64m、深さ 0.15m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 53 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。平面形態：不整椭円形。規模：長軸 1.29m、短軸 0.50m、深さ 0.28m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 54 号土坑（第 84 図）

重複関係：なし。平面形態：不整椭円形。規模：長軸 3.02m、短軸 0.86m、深さ 0.62m。構造：底面は段差、傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が 2 基検出された。覆土：自然堆積と考えられる。



第 84 図 第 45 ~ 47 · 49 ~ 54 号土坑



遺物：なし。時期：不明。

第 56 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.65m、短軸 0.65m、深さ 0.15m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 59 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.22m、短軸 1.00m、深さ 0.72m。構造：底面は傾斜があり、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 61 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.55m、短軸 1.29m、深さ 0.78m。構造：底面は柱穴状の掘り込みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 63 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：不整橢円形。規模：長軸 1.97m、短軸 1.14m、深さ 0.61m。構造：底面はやや傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 66 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.50m、短軸 1.18m、深さ 0.36m。構造：底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 67 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：橢円形。規模：長軸 0.76m、短軸 0.63m、深さ 0.25m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 70 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.05m、短軸 0.94m、深さ 0.60m。構造：底面は傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 71 号土坑（第 85 図）

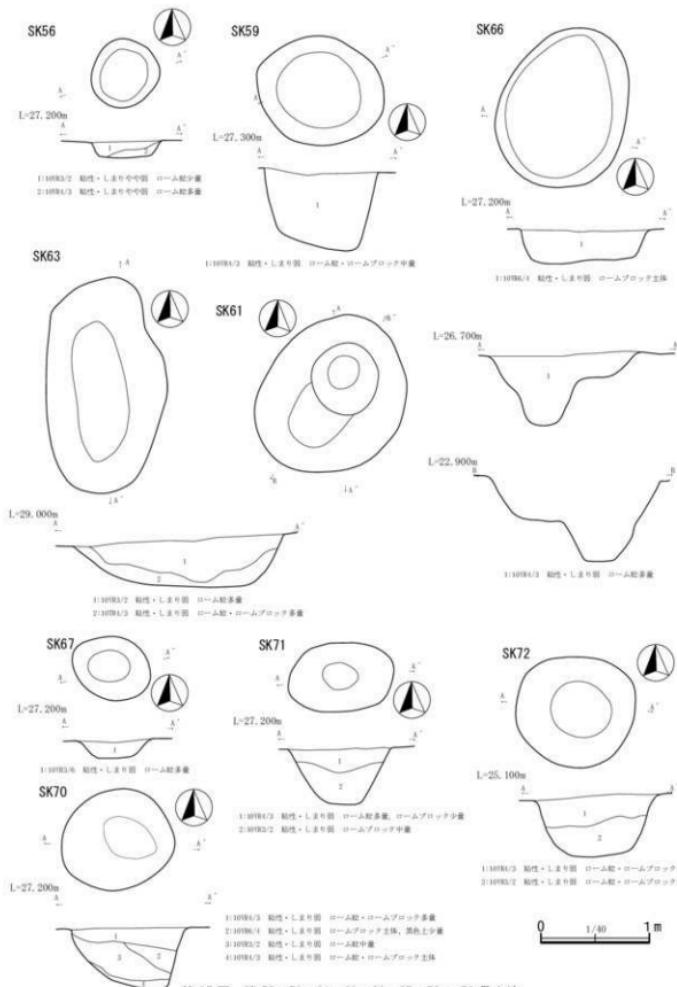
重複関係：なし。平面形態：橢円形。規模：長軸 0.99m、短軸 0.63m、深さ 0.60m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 72 号土坑（第 85 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.13m、短軸 1.12m、深さ 0.70m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 73 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：橢円形。規模：長軸 1.31m、短軸 1.01m、深さ 0.73m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが多量に混入することから、人為的な埋め戻



第 85 図 第 56・59・61・63・66・67・70～72 号土坑



しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 74 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.14m、短軸 1.03m、深さ 0.44m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 75 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.93m、短軸 0.91m、深さ 0.42m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：なし。時期：不明。

第 76 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.74m、短軸 0.64m、深さ 0.15m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 77 号土坑（第 7 表、第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：不整規円形。規模：長軸 1.50m、短軸 1.08m、深さ 0.56m。構造：底面は段差があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：ロームブロックが混入することから、人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物：覆土中から古墳時代後期の土器が僅かに出土している。時期：不明。

第 78 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.83m、短軸 0.77m、深さ 0.22m。構造：底面は傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 79 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.05m、短軸 0.88m、深さ 0.29m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 80 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.95m、短軸 0.85m、深さ 0.52m。構造：底面は柱穴状の掘り込みがあり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 81 号土坑（第 86 図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形。規模：長軸 1.38m、短軸 1.00m、深さ 0.42m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

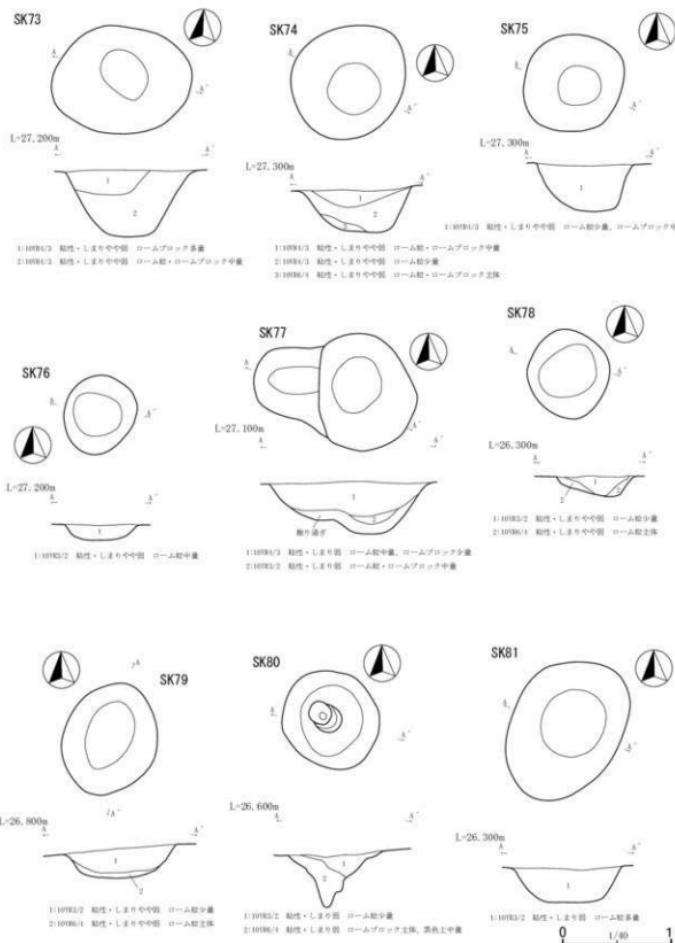
第 82 号土坑（第 87 図）

重複関係：なし。平面形態：楕円形と考えられる。規模：長軸 1.83m、短軸 <1.80>m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。北側は擾乱により壊されている。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

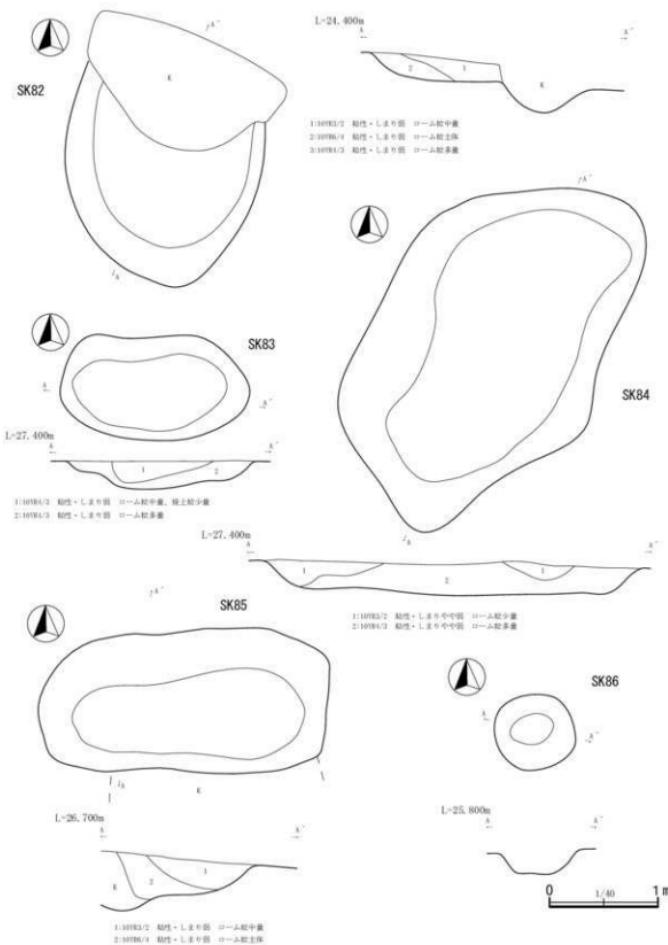
第 83 号土坑（第 87 図）

重複関係：なし。平面形態：不整規円形。規模：長軸 1.75m、短軸 0.86m、深さ 0.25m。構造：底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。焼土を含んでいる。遺物：なし。時期：不明。

第 84 号土坑（第 87 図）



第 86 図 第 73 ~ 81 号土坑



第 87 図 第 82 ~ 86 号土坑



重複関係：なし。平面形態：不整梢円形。規模：長軸 3.57m、短軸 2.19m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 85 号土坑（第 87 図）

重複関係：なし。平面形態：不整梢円形。規模：長軸 2.65m、短軸 1.20m、深さ 0.40m。構造：底面は傾斜があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 86 号土坑（第 87 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.77m、短軸 0.71m、深さ 0.26m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

（3）柱穴

第 1 号柱穴（第 7 表、第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.30m、短軸 0.26m、深さ 0.44m。構造：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：覆土から古墳時代後期の土師器が僅かに出土している。時期：不明。

第 2 号柱穴（第 7 表、第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.50m、短軸 0.45m、深さ 0.69m。構造：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：覆土から古墳時代後期の土師器・焼成粘土塊が僅かに出土している。時期：不明。

第 3 号柱穴（第 7 表、第 88 図）

重複関係：第 22 号土坑と重複し、本遺構が新しい。平面形態：円形。規模：長軸 0.52m、短軸 0.43m、深さ 0.54m。構造：床面は段差があり、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：覆土から古墳時代後期の土師器が僅かに出土している。時期：不明。

第 4 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.44m、短軸 0.41m、深さ 0.46m。構造：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 5 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.54m、短軸 0.47m、深さ 0.25m。構造：床面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 6 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.49m、短軸 0.35m、深さ 0.60m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 7 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.60m、短軸 0.47m、深さ 0.68m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 8 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.27m、短軸 0.26m、深さ 0.39m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 9 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.35m、短軸 0.33m、深さ 0.13m。構造：底面は平坦で、



壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 10 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.32m、短軸 0.29m、深さ 0.28m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 11 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.49m、短軸 0.41m、深さ 0.17m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 12 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.28m、短軸 0.27m、深さ 0.15m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 13 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.38m、短軸 0.36m、深さ 0.18m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 14 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.34m、短軸 0.33m、深さ 0.40m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 15 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.27m、短軸 0.25m、深さ 0.30m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 16 号柱穴（第 7 表、第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.32m、短軸 0.31m、深さ 0.13m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：覆土中から加曾利 E II 式の破片が 1 点出土している。時期：不明。

第 17 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.44m、短軸 0.37m、深さ 0.51m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 18 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.42m、短軸 0.37m、深さ 0.40m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 20 号柱穴（第 88 図）

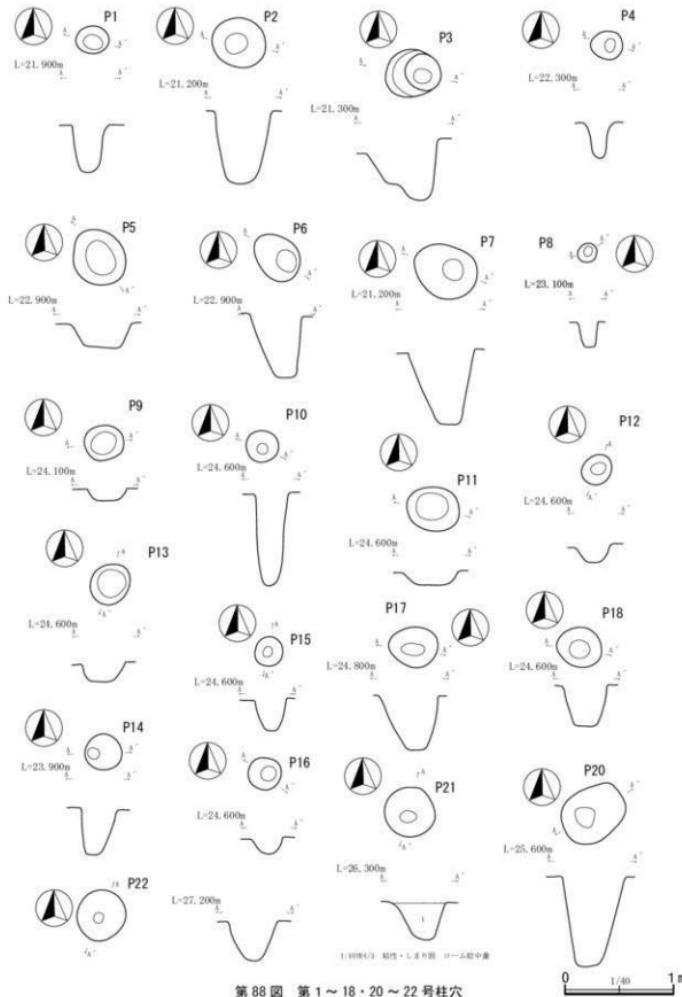
重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.62m、短軸 0.47m、深さ 0.83m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。

第 21 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.48m、短軸 0.47m、深さ 0.37m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：なし。時期：不明。

第 22 号柱穴（第 88 図）

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 0.47m、短軸 0.44m、深さ 0.36m。構造：底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。遺物：なし。時期：不明。



第 88 図 第 1 ~ 18・20 ~ 22 号柱穴



第3章 貝サンプルの分析結果

1 分析方法

縄文時代中期の土坑1基と、古墳時代後期の住居跡4軒の覆土内で貝層を検出した。いずれも小規模なブロック状の貝層であったため、ブロックごとに全量を採取し、全体で14か所・42.1リットルのサンプルを得た（第1表）。5mm・2.5mm・1mmメッシュのフライと、フロテーション法を使って全量を水洗し、通常の方法で貝類の分析を行ったところ、11科14種以上となり（第2表）、同定結果を第3表に示した。試料数が少ないため貝種組成（第4表）・計測値分布（第5表）の検討は遺構単位で行う。微小貝は739個体、炭化種子3点（2点は現生の可能性あり）を検出したが今回は分析対象外とした。動物骨は皆無であった。なお、SI12-2サンプルでハマグリの腹縁に使用痕をもつヘラ状製品を検出しており（第36図79・写真1）、本章で報告する。

2 貝層の概要

SK38は縄文時代中期中葉・加曾利E II式期の土坑（小竪穴）であり、覆土上層にイボキサゴ主体のごく小規模な貝層を形成していた（第7図）。「破碎イボキサゴ層」と呼ばれるものが主体を占めており、塊状に固結した部分がある。SI8・SI12・SI17・SI18は、いずれも古墳時代後期の竪穴建物跡であり、覆土内に小規模なブロック状貝層を形成していた。このうち、SI8（第24図）・SI17（第46図）・SI18（第48図）は覆土内にごく少量の貝が廃棄されたものであり、保存状態はごく悪い。試料数は比較に堪えない規模である。SI12は覆土内に小規模な貝層を多数形成していた（第32図）。図示した4か所の貝層のほかに、竪穴の北東隅付近にも4か所の貝層があり、平成29年度の確認調査の際にサンプルを採取している。「23トレンチ①～④」として取り上げたが、今回はSI12-5～8に振り替えた（第1表）。多くはごく小規模で保存状態が悪いが、SI12-2・6はまとまった数があって保存状態も比較的良好であった。

3 分析結果

（1）縄文時代

加曾利E II式期のSK38は、イボキサゴ1種が大半を占める。イボキサゴの組成率は98.1%だが、一部は破碎イボキサゴ塊を形成しており、10×6×5cm、4×2×3cm、径2cmのものがある。これらは同定できないため、本来の組成は大きく上回る。計測可能な5点の平均は10.6mm、最大でも11.5mmとすべて満1歳に満たない幼貝である。塊状の部分をみても成長のサイズは見られない。破碎イボキサゴ層が、幼貝の利用によるものであることは、既存の分析結果に合うものである（西野2017）。わずかに混じる二枚貝は、イボキサゴと同様に東京湾内湾干潟に多産した貝種であるが、小さな個体のみであった。おそらくイボキサゴ漁で混獲されたものであろう。

縄文時代中期の小竪穴と遺構内貝層の存在については、中期大型貝塚形成期の小規模な生活地点の様子を示す資料としてきわめて興味深い。近傍には北方約1.7kmに菱名貝塚、南東約1.5kmに有吉貝塚・有吉南貝塚の3つの大型貝塚が存在する。周辺を面的に発掘した有吉北貝塚・有吉南貝塚の周辺には中・小の集落が集中して単位群を形成しており、その南側約3kmの地点にある草刈貝塚を中心

第1表 貝サンプル一覧

サンプル名	時期1	時期2	遺構	採取法	採取・分析量	備考
SK38	縄文中期	加曾利EII	小窓穴	一括	4.5t	破碎イボキサゴ塊あり
SI08-1	古墳時代	後期	住居跡	一括	0.4t	
SI08-2	古墳時代	後期	住居跡	一括	2.0t	
SI12-1	古墳時代	後期	住居跡	一括	1.0t	
SI12-2	古墳時代	後期	住居跡	一括	10.0t	炭化種子、軽石あり
SI12-3	古墳時代	後期	住居跡	一括	1.2t	
SI12-4	古墳時代	後期	住居跡	一括	0.6t	
SI12-5	古墳時代	後期	住居跡	一括	2.0t	23トレーナー①
SI12-6	古墳時代	後期	住居跡	一括	10.0t	23トレーナー②
SI12-7	古墳時代	後期	住居跡	一括	0.5t	23トレーナー③
SI12-8	古墳時代	後期	住居跡	一括	3.5t	23トレーナー④
SI17-1	古墳時代	後期	住居跡	一括	1.6t	
SI17-2	古墳時代	後期	住居跡	一括	0.3t	
SI18	古墳時代	後期	住居跡	一括	4.5t	
合計			遺構	14箇所	42.1t	

第2表 貝類種名一覧

腹足綱	原始腹足目	ニシキウズガイ科	イボキサゴ	Umbonium (Suchium) moniliferum
	中腹足目	タニシ科	マルタニシ	Cipangopaludina chinensis laeta
新腹足目	ウミニナ科	ウミニナ科	Potamididae gen. & sp. Indet.	
	タマガイ科	ツメタガイ	Glossaulax didyma	
二枚貝綱	アキガイ科	アカニシ	Rapana venosa	
	ウグイスガイ目	イタボガキ科	マガキ	Crassostrea gigas
マルスダレガイ目	バカガイ科	シオフキ	Mactra quadrangularis	
	マテガイ科	マテガイ	Solen strictus	
二枚貝綱	フナガタガイ科	ウネナシトマヤ	Trapezium liratum	
	マルスダレガイ科	ハマグリ	Meretrix lusoria	
オオノガイ目	アサリ	アサリ	Ruditapes philippinarum	
	カガミガイ	カガミガイ	Phacussoma japonicum	
オオノガイ目	オキシジミ	オキシジミ	Cyclina sinensis	
	オオノガイ	オオノガイ	Mya arenaria oonogai	
計	11科	14種		

第3表 同定結果

種名	No.	SK38	古墳後期							
			SI08-1	SI08-2	SI12-1	SI12-2	SI12-3	SI12-4	SI12-5	
イボキサゴ	709				67	5			42	1
ソクタガニ				1			2		1	
マタニシ										1
ウミニナ						2				
アキガイ						3				
マガキ	1									
シオフキ	3		1	10	1	7			5	1
マテガイ				6	1	9			12	1
ウネナシトマヤ					12				1	6
ハマグリ	9		1	4	17	76	4	0	13	2
アサリ				1	3	21	4		4	27
カガミガイ										
オキシジミ	1									
オオノガイ					1					
合計	723				3	22	187	18	0	24
水生前体積(t)	45	0.4	20	10	100	12	0.6	2.0	10.0	0.5
微小貝	12	10	16	195	3			36	380	
土器		2		5					2	
軽石				○						
炭化種子				○						

第4表 貝種組成

種名	No.	縦文中期		古墳後期				全体	%
		SK38	%	SI8	SI12	SI17	SI18		
イボキサゴ		709	98.1%		127	1	128	20.6%	
ツメタガイ				1	4			5	0.8%
マルタニシ					1			1	0.2%
ウニニ科					5			5	0.8%
アカニシ					3			3	0.5%
マガキ	1	0.1%			33	3	9	45	7.3%
シオフキ	3	0.4%		11	34	16	61	9.8%	
マテガイ				6	29	1	36	5.8%	
ウネナットマヤ						1	1	0.2%	
ハマグリ	9	1.2%		1	224	8	4	237	38.2%
アサリ				5	61	9	4	79	12.7%
カガミガイ					15	1		16	2.6%
オキシジミ	1	0.1%							0.0%
オノガイ							3	0.5%	
合計		723	100%	25	536	23	36	620	100%
体積(0)		4.5		2.4	28.8	1.9	4.5	75.2	

第5表 貝類計測値分布

SK39イボキサゴ殻径		SI12二枚貝殻長			
mm	イボキサゴ	mm	ハマグリ	アサリ	シオフキ
-7.0		-40.0			
-8.0		-45.0			
-9.0		-50.0			
-10.0	2	-55.0	1	8	1
-11.0	1	-60.0	3	10	6
-12.0	2	-65.0	10	2	
-13.0		-70.0	17		
-14.0		-75.0	15		
-15.0		-80.0	8		
-16.0		-85.0	3		
-17.0		-90.0			
試料数	5	試料数	57	27	7
平均	10.6	平均	64.5	49.1	50.3
標準偏差	0.9	標準偏差	7.0	4.6	3.8
最小	9.7	最小	46.8	41.7	42.3
最大	11.5	最大	79.9	58.2	54.3

とした単位群との間に住居跡または小堅穴が単独で見つかる遺跡が点在する。当遺跡から菱名貝塚の間はまだ調査が及んでいないが、上記のあり方からみると、当遺跡は、菱名貝塚を中心とした単位群と有吉北貝塚・有吉南貝塚を中心とした二つの単位群の中間に構えられた一時的な居住地とみることができるだろう。破碎イボキサゴ層の形成は、こうした小規模な居住地でも、大型貝塚と同様の貝類の利用が行われたことを示している。

(2) 古墳時代

東京湾内溝干潟に多産した二枚貝 3 種、ハマグリ・アサリ・シオフキと、巻貝 1 種イボキサゴが 8 割以上を占める。ハマグリは平均 64.5 mm・最大 79.9 mm、アサリは平均 49.1 mm・最大 58.2 mm、シオフキは平均 50.3 mm・最大 54.3 mm と、いずれもきわめて大きい。東京湾沿岸の各時代の分析データをみると、最大となる弥生時代・中世のデータに近い。貝類の漁が低調な時期に大きな個体を選んで採取したものとみることができる。その他にマテガイ、カガミガイをはじめとした同様の海城で採取できる種が混じる。1 点であるが淡水種のマルタニシも見られた。

種ヶ谷津遺跡では、平成 5・6 年度に行われた県道実本納線の整備に伴う発掘調査でも 2か所で



貝層の調査・分析が行われている。一つは古墳時代後期（6世紀後半～7世紀）の住居跡内貝層（103号住居）だがサンプルは採取されていない。もう一つは奈良時代（8世紀後半）の祭祀にの場とみられる土器集中地点で見つかった混土貝層であり、10Q-33というグリッド番号でサンプルを採取している。貝類はハマグリとシオフキが主体で、ほかにこれらと同じ海岸で採取できる種がいくらか見られる。貝種に関係なく二次的に火を受けた痕跡をもつ個体が多いのは、焚火を伴う祭祀を示唆する。

第36図79は確認調査23トレンチ・貝サンプルSI12-5で検出した貝製品である。殻長9cmから10cmほどの大形で薄いハマグリ右殻を素材としている。腹縁部の小片だが、縁辺の形状が通常と異なるため顕微鏡で観察したところ、腹縁端部に縦方向の線状痕が無数に付いており、摩滅も認められた（写真1）。純貝層に特有の貝殻のカルシウムが線状痕の上を覆っているので、貝層形成以前の使用痕とみて間違いない。当地域では、縄文時代中期に同様の類例が多い。千葉市有吉北貝塚で多数発見されたのは、加工を施さず使用痕のみをもつ2つのタイプで、アリソガイ製のA型とハマグリ製のB型という2つの器種（スクレイパー）である。A型は主に腹縁外側の左右を横ないし斜めに強くこすりつける研磨用で、内面に爪による摩滅と弱い線状痕がみられる。B型は腹縁の中央付近を縦に擦り付けるヘラのような使用法が想定される（西野2002）。本資料はヘラ状貝製品B型にあたるが、摩滅が弱く丸みを帯びる。縄文時代のものは平坦な研磨面を形成しており、使用法ないし対象が異なるのであろう。

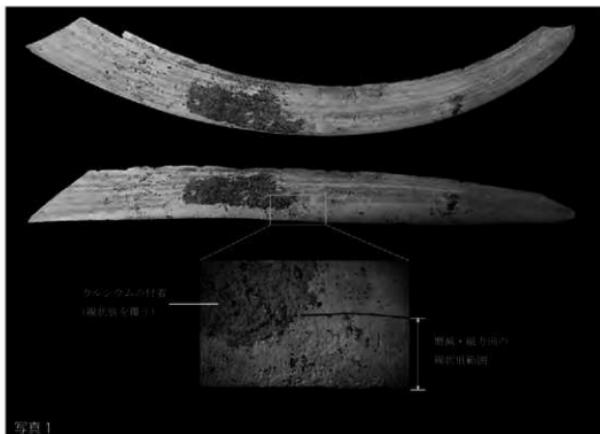


写真1



第4章 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（株式会社バレオ・ラボ）

1はじめに

東京湾に開口する赤井支谷に面する台地上の種ヶ谷津遺跡から出土した炭化材について、樹種同定を行なった。

2 試料と方法

試料は、6世紀前葉～中葉の竪穴建物跡SI4、SI5、SI18、SI21、SI22、SI26、SI28と、6世紀中葉～後葉の竪穴建物跡SI12、SI17、SI24から出土した炭化材、計41点である。内訳は、SI4から5点、SI5から3点、SI12から4点、SI17から4点、SI18から4点、SI21から5点、SI22から4点、SI24から1点、SI26から6点、SI28から5点である。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行なった。

3 結果

同定の結果、針葉樹ではカヤとイヌガヤの2分類群、広葉樹ではクスノキ科とサクラ属、エノキ属、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、ニシキギ属、カエデ属、サカキ、ツバキ属、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）、ヒイラギ、モチノキ属の12分類群の、計14分類群がみられた。

ツバキ属が9点で最も多く、サクラ属が6点、クヌギ節が5点、アカガシ亜属とシオジ節が各4点、クスノキ科とエノキ属、カエデ属、サカキが各2点、カヤとイヌガヤ、ニシキギ属、ヒイラギ、モチノキ属が各1点であった。同定結果を第6表に、一覧を付表1に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図版1 1a-1c(No. 6)

第6表 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種 遺構	6世紀前葉～中葉						6世紀中葉～後葉			合計	
	SI4	SI5	SI18	SI21	SI22	SI26	SI28	SI12	SI17	SI24	
カヤ	1										1
イヌガヤ								1			1
クスノキ科								2			2
サクラ属	1						3		1		6
エノキ属											2
コナラ属アカガシ亜属	2	1	1				1				4
コナラ属クヌギ節				4		1					5
ニシキギ属								1			1
カエデ属	1								1		2
サカキ		1									2
ツバキ属	1		3	1	1		2		1		9
トネリコ属シオジ節				2	2						4
ヒイラギ							1				1
モチノキ属							1				1
合計	5	3	4	5	4	6	5	4	4	1	41



仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、1～5細胞高である。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に2～4個みられる。また、仮道管の内壁には2本1対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

(2) イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K. Koch イチイ科 図版1 2a-2c (No. 12)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、1～3細胞高となる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、2～4個みられる。また、仮道管の内壁にはらせん肥厚が確認できる。

イヌガヤは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する常緑小高木の針葉樹である。樹木自体が小さいため、現在では顯著な木材利用は行われていない。

(3) クスノキ科 Lauraceae 図版1 3a-3c (No. 10)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1～2列となる。木部纖維内には、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帶を中心に分布する。主に常緑性の高木または低木である。

(4) サクラ属（広義） *Prunus* s. l. バラ科 図版1 4a-4c (No. 4)、5a-5c (No. 13)

小型の道管が単独ないし数個、放射方向または斜め方向に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、幅1～5列となる。

広義のサクラ属には、モモ属とスマモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定ではモモ属とバクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とはモモ属とバクチノキ属を除くサクラ属を指す。

(5) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版1、2 6a-6c (No. 40)

年輪のはじめに大型の道管が數列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は單穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帶に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとまって生育することはなく、現在では薪炭材などに利用される程度である。

(6) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版2 7a-7c (No. 2)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帶に分布する常緑高木の広葉樹である。



材は重硬かつ強靭で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(7) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aeglops* ブナ科 図版2 8a~8c(No.22)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では急に径を減じた厚壁で丸い道管が、放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

(8) ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 図版2 9a~9c(No.16)

小型の道管がほぼ単独で散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、単列となる。

ニシキギ属にはニシキギやマユミなどがあり、代表的なマユミは、北海道から九州までの山地にみられる落葉高木または小高木の広葉樹である。材は強靭で韌性がある。

(9) カエデ属 *Acer* ムクロジ科 図版2 10a~10c(No.1)

小型の道管が単独ないし2~3個複合してやや疎らに散在する散孔材である。木部纖維の壁の厚さの違いで、木口面に雲紋状の文様がみられる。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅1~6列となる。

カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(10) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. モッコク科 図版2、3 11a~11c(No.11)

小型の道管がほぼ単独で、やや密に散在する散孔材である。道管は20~40段程度の階段穿孔となる。放射組織は上下端1~4列が直立する異性で、単列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靭、坚硬で、切削加工は困難である。

(11) ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 図版3 12a~12c(No.17)、13a~13c(No.37)

角張った小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は上下端1~3列が直立する異性で、幅1~3列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

(12) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinuster* モクセイ科 図版3 14a~14c(No.28)

年輪の始めに大型で丸い道管が3~4列並び、晩材部では小型の道管が単独ないし2個複合する環孔材である。軸方向柔細胞は周囲型である。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、幅1~3列である。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の河岸や湿地などの肥沃な湿润地に分布する、落葉高木の広葉樹である。材の性質はどちらも中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等も容易である。

(13) ヒイラギ *Osmanthus heterophyllus* (G. Don.) P. S. Green モクセイ科 図版3 15a-



15c (No. 41)

小型の道管が単独ないし数個複合し、火炎状に配列する散孔材である。軸方向柔組織は成長輪界となる。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3個が方形となる異性で、幅1～2列となる。

ヒイラギは関東地方以西の本州、四国、九州、琉球に分布する、山地に生える常緑小高木の広葉樹である。材は堅硬であるが、現在では材利用は顕著ではない。

(14) モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 図版3 16a-16c (No. 39)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は20～40段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～5列となる。

モチノキ属にはモチノキやクロガネモチなどがあり、一般的なモチノキは宮城県、山形県以南の本州、四国、九州などの暖帯の沿海地に多く分布する常緑高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工は中庸である。

4 考察

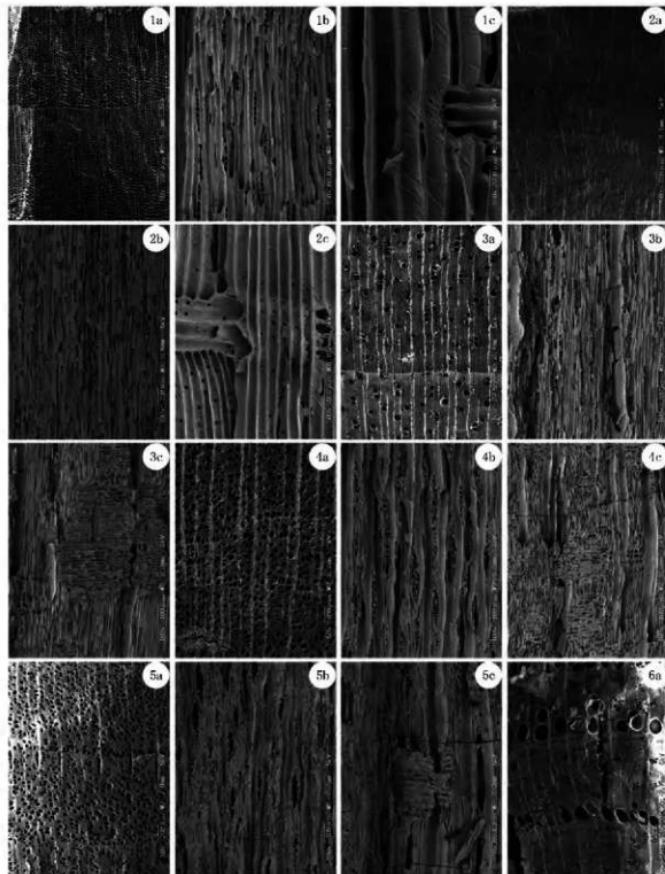
6世紀前葉～中葉の堅穴建物跡では、カヤとサクラ属、エノキ属、アカガシ属、クヌギ節、カエデ属、サカキ、ツバキ属、シオジ節、ヒイラギ、モチノキ属がみられた。また、6世紀中葉～後葉の堅穴建物跡では、イヌガヤ、クスノキ科、サクラ属、ニシキギ属、カエデ属、サカキ、ツバキ属がみられた。今回の試料では、6世紀前葉～中葉の堅穴建物跡と、6世紀中葉～後葉の堅穴建物跡の炭化材の樹種構成に大きな違いはみられなかった。いずれの試料も、焼けた建築材と考えられている。同定した樹種は、いずれも堅硬な部類に属する樹種であり（平井1996、伊東ほか2011）、遺跡周辺で硬い木材を伐採し、利用していたと考えられる。

また、今回みられた樹種では、クスノキ科やアカガシ属、サカキ、ツバキ属などが常緑広葉樹林の主要な樹種で、サクラ属やクヌギ節、カエデ属などが落葉広葉樹林に普通にみられる樹種である（伊東ほか2011）。また、エノキ属とシオジ節は、比較的湿った場所に生育しやすい樹種である（平井1996）。したがって、遺跡周辺の台地上にはカヤやイヌガヤといった針葉樹が混じった常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の混交林が生育し、谷内の河川近くにエノキ属やシオジ節といった湿地性の樹種がみられたと推測される。種ヶ谷津遺跡の人々は、この森林より堅硬な樹種を伐採し、利用していたと考えられる。



付表1 種々谷津遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

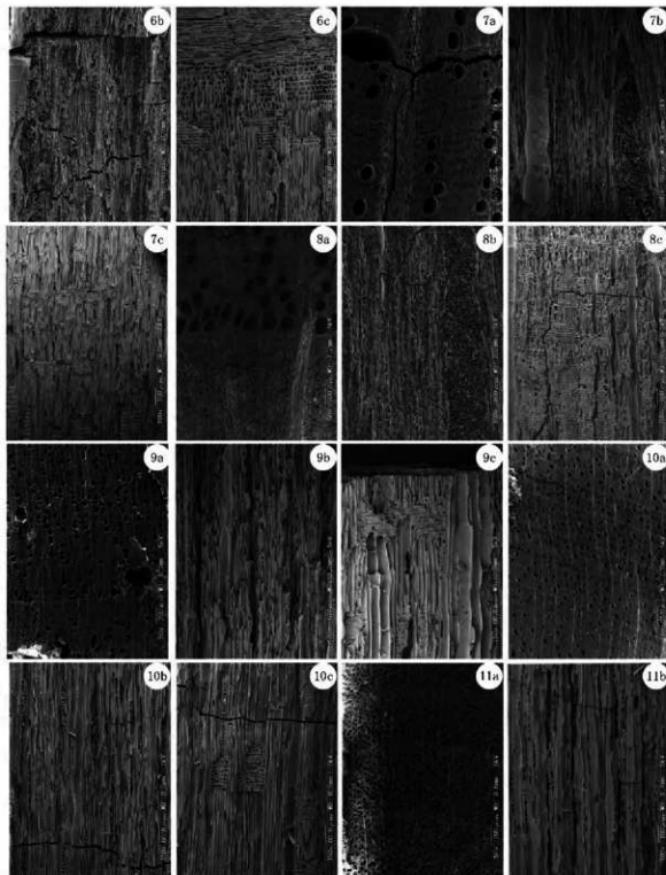
試料No.	遺構	遺物No.	種類	樹種	時期
1	S14	3	炭化材	カエデ属	6世紀前葉～中葉
2	S14	4	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	6世紀前葉～中葉
3	S14	5	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
4	S14	13	炭化材	サクラ属	6世紀前葉～中葉
5	S14	19	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	6世紀前葉～中葉
6	S15	1	炭化材	カヤ	6世紀前葉～中葉
7	S15	5	炭化材	サカキ	6世紀前葉～中葉
8	S15	6	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	6世紀前葉～中葉
9	S112	1	炭化材	クスノキ科	6世紀中葉～後葉
10	S112	2	炭化材	クスノキ科	6世紀中葉～後葉
11	S112	6	炭化材	サカキ	6世紀中葉～後葉
12	S112	8	炭化材	イヌガヤ	6世紀中葉～後葉
13	S117	5	炭化材	サクラ属	6世紀中葉～後葉
14	S117	7	炭化材	ツバキ属	6世紀中葉～後葉
15	S117	8	炭化材	サクランボ属	6世紀中葉～後葉
16	S117	9	炭化材	ニンキギ属	6世紀中葉～後葉
17	S118	4	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
18	S118	8	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	6世紀前葉～中葉
19	S118	15	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
20	S118	16	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
21	S121	1	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
22	S121	4	炭化材	コナラ属クヌギ節	6世紀前葉～中葉
23	S121	10	炭化材	コナラ属クヌギ節	6世紀前葉～中葉
24	S121	18	炭化材	コナラ属クヌギ節	6世紀前葉～中葉
25	S121	21	炭化材	コナラ属クヌギ節	6世紀前葉～中葉
26	S122	2	炭化材	エノキ属	6世紀前葉～中葉
27	S122	6	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
28	S122	15	炭化材	トネリコ属シオジ節	6世紀前葉～中葉
29	S122	16	炭化材	トネリコ属シオジ節	6世紀前葉～中葉
30	S124	1	炭化材	カエデ属	6世紀中葉～後葉
31	S126	8	炭化材	サクラ属	6世紀前葉～中葉
32	S126	11	炭化材	サクラ属	6世紀前葉～中葉
33	S126	12	炭化材	トネリコ属シオジ節	6世紀前葉～中葉
34	S126	15	炭化材	コナラ属クヌギ節	6世紀前葉～中葉
35	S126	25	炭化材	トネリコ属シオジ節	6世紀前葉～中葉
36	S126	36	炭化材	サクラ属	6世紀前葉～中葉
37	S128	18	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
38	S128	19	炭化材	ツバキ属	6世紀前葉～中葉
39	S128	21	炭化材	モチノキ属	6世紀前葉～中葉
40	S128	23	炭化材	エノキ属	6世紀前葉～中葉
41	S128	25	炭化材	ヒイラギ	6世紀前葉～中葉



図版1 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(1)

1a-1c. カヤ(No. 6)、2a-2c. イヌガヤ(No. 12)、3a-3c. クスノキ科(No. 10)、4a-4c. サクラ属(No. 4)、5a-5c. サクラ属(No. 13)、6a. エノキ属(No. 40)

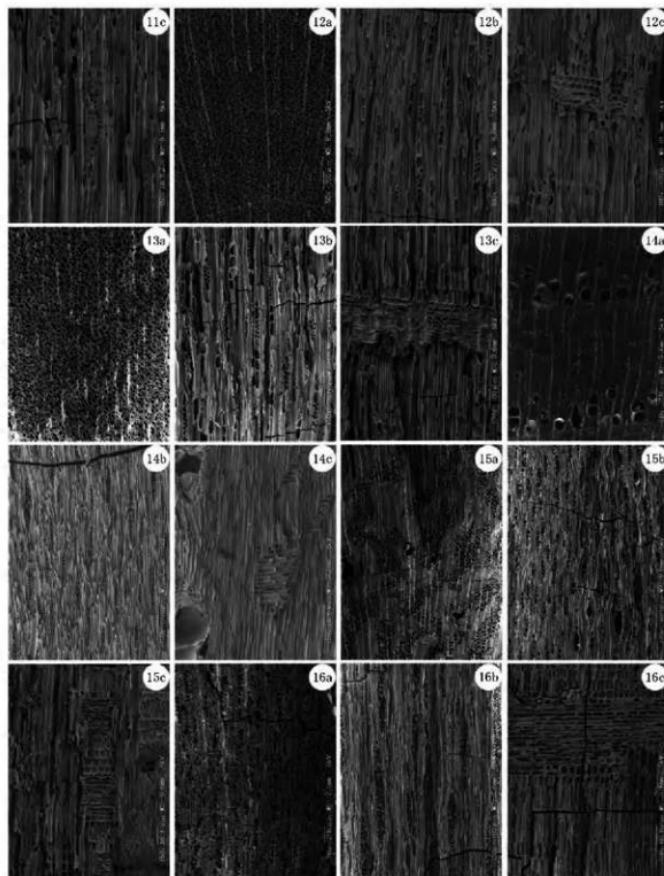
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



図版2 種ヶ谷沖道路出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(2)

6b-6c、エノキ属(No. 40)、7a-7c、コナラ属アカガシ亜属(No. 2)、8a-8c、コナラ属クヌギ節(No. 22)、9a-9c、ニシキギ属(No. 16)、10a-10c、カエデ属(No. 1)、11a-11b、サカキ(No. 11)

a:横断面、b:接縫断面、c:放射断面



図版3 種ヶ谷津遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真(3)

11c. サカキ(No. 11)、12a-12c. ツバキ属(No. 17)、13a-13c. ツバキ属(No. 37)、14a-14c. トネリコ属シオジ節(No. 28)、15a-15c. ヒイラギ(No. 41)、16a-16c. モチノキ属(No. 39)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



第5章 まとめ

1 繩文時代

繩文時代の遺構としては、堅穴建物跡1軒、土坑10基、柱穴1基が検出された。時期が特定できる遺構は、加曾利E II式期の堅穴建物跡1軒・小堅穴2基・土坑3基である。また、それ以外に縄文時代の可能性がある土坑・柱穴が検出された。遺構外出土の遺物は阿玉台式～加曾利E II式期の遺物が多いが、僅かに前期前葉～後期の遺物も出土している。

縄文時代中期中葉の東京湾沿岸には、拠点集落である多数の大型貝塚が形成されるが、その拠点集落の周辺には小規模集落が存在することが指摘されている（西野2008）。西野は拠点集落に隣接する比較的の遺構数の多い遺跡のまとまりを中心集落群、中心集落群の周囲に住居跡が少数存在する遺跡のまとまりを周辺集落群と呼称し、両者がひとつのまとまり形成して、周囲には集落の空白地帯をもつことから、このまとまりを小単位集落群と呼称した。そして、有吉北・南貝塚、草刈貝塚を中心とする2つの小単位集落群の中間付近に、住居跡が1～数軒程度見つかる遺跡が帶状に分布する状況から、2つの小単位集落群の間に境界、および何らかのテリトリーが存在したことを想定し、境界に位置する集落を中間域集落と呼称した。種ヶ谷津遺跡の北東には中期中葉の大型貝塚である菱名貝塚が位置し、周辺に調査が及んでいないため不明な部分が多いが、有吉北・南貝塚と草刈貝塚と周辺集落の様相を踏まえれば、種ヶ谷津遺跡は菱名貝塚、有吉北・南貝塚を中心とした2つの小単位集落群の境界に位置する、中間域集落と位置づけられる。

拠点集落と中間域集落を含めた小規模集落は、共通点と相違点があり、拠点集落は住居床面への遺物の廃棄例がほぼないが、小規模集落はしばしば住居床面に遺物を廃棄し、土器片錐製作関連の遺物が出土することが指摘されている（西野2008）。当遺跡の第9号堅穴建物跡からは、未成品を含む土器片錐が比較的多く出土し、土器片錐製作が行われていたことが明らかになったが、同じ中間域集落と考えられる御塚台遺跡でも土器片錐の出土が多く、土器片錐製作が行われていたことが分かつており、拠点集落の境界に位置する中間域集落の共通性が明らかになった。

今回の調査は、これまでの縄文時代中期中葉の集落研究の成果を補強するものと言える。また、縄文時代中期中葉の小規模集落における貝類の利用や、縄文時代前期～後期にかけての土地利用を考える上で貴重な成果を得ることができた。

2 弥生時代

弥生時代の遺構は検出されなかったが、調査区内から僅かに土器が出土している。時期としては弥生時代前期末葉～中期前葉・中期後葉の資料がある。調査区内でも北東部に集中し、特に第7・10号堅穴建物跡付近に集中し、遺物集中地点や包含層などがあった可能性があるが、明確な一括性は認められない。弥生時代前期末葉は在地の土器と考えられる荒海式であるが、中期初頭の資料は東海地方の丸子式系、中期前葉の資料は東北地方南部方面的資料と考えられ、遠隔地との交流が考えられる。丸子式系に関しては千葉県内でも太平洋沿岸に少量見られるのみであり、東京湾沿岸では非常に類例の少ない資料である。中期前葉の東北地方南部方面的土器は、へたの台貝塚（小林2016）や、やや時期は遅るが近隣の六通貝塚（小林2015）から出土している。



当該期の遺跡は、周辺ではおゆみ野地区の小金沢古墳群やバクチ穴遺跡、六通貝塚などで検出されているが、千葉県内を見渡しも数が少ない。今回の調査ではごく僅かな資料ではあるが、当該期の遺跡の分布や地域間交流を考える上で貴重な成果を得ることができた。

3 古墳時代

古墳時代の遺構としては、堅穴建物跡が24軒、土坑21基が検出された。検出された遺構は古墳時代後期で占められている。古墳時代後期の中でもやや時期差があり、本調査で最も古い遺構は第26号堅穴建物跡で、小沢洋の編年（小沢2008）を参考にすれば、古墳時代後期初頭のTK23型式期に遡る可能性がある。全体としてはTK47型式期～TK10型式期の遺構が多く、やや数を減じながらTK43型式期まで継続したものと考えられる。周辺遺跡を含め、前段階の古墳時代前・中期の遺構はごく少なく、古墳時代後期に新たに開発され集落域となったものと考えられる。この時期の遺構は、本調査で検出された範囲内に限らず、過去の調査や隣接する佐目沢遺跡、大道遺跡も含めて、堅穴建物跡間の重複が少なく、長期間に亘り土地利用が行われた訳ではないようであり、対岸の榎作遺跡とは対照的である。本遺跡はTK43型式期以降の遺構検出例は減少するが、おゆみ野地区では急激に遺構数が増加しており（白井2017）、様相を異にするようである。また、本遺跡の南東にあたる台地の尾根付近では、円墳を主体とした古墳群が検出されており（西野2020）、本集落の墓域の可能性が高い。

今回の調査では、過去の調査成果や周辺遺跡の調査成果を含め、より具体的に集落の消長を明らかにすることことができた。また、第8・12・17・18号堅穴建物跡からはごく小規模ではあるが、覆土内から小規模な貝ブロックが検出され、第12号堅穴建物跡からは類例の少ないヘラ状貝製品が検出された。類例の多くない当該期の水産資源利用を考える上で貴重な成果を得ることができた。

4 古代

種ヶ谷津遺跡の周辺では、古代の集落は検出されるもののごく小規模であるが、平成5・6年度に行われた本遺跡の調査では、今回の調査区北西部の台地斜面地から大量の奈良時代の遺物が検出されている。古墳時代後期の堅穴建物跡の sondage に土器が投棄されたものも含め、土器集積遺構と呼称される遺構が複数検出され、総遺物点数は92,960点を数える。

これらの遺物は壺などの供膳具が多い一方、甕などの煮沸具も多く出土している。しかし、甕には煮炊きに使用された痕跡がほとんど認められること、複数の三彩小壺が出土していること、儀鏡や銅製の垂飾が出土していること、完形品となるものが多く、破損品を投棄したのではなく、置かれた状態であったと考えられることから、日常的に使用した土器を廃棄した場所というよりは、祭祀に伴い土器を投棄した遺構と考えられている。このような遺構から本調査の地点は近接しているものの、古代と特定できる遺物は、甕などの古墳時代後期と見分けが難しいものを除けば5点に限られ、大量の土器を残した集団は当台地上を生活の場所としては利用していないことが明らかとなった。周辺の高沢遺跡や榎作遺跡で古代の集落は検出されているものの遺構数は多くなく、大量の土器を持ち込んだとは考えにくい。対岸の榎作遺跡の未調査区に集落が広がる可能性や、やや離れた場所から土器を持ち込んで祭祀を行ったものと考えられる。

今回の調査では、古代において集落の場所と祭祀の場所が区別されていたことが明らかになった。



5 近世

近世の遺構としては溝跡1条、土坑2基、焼土跡3基が検出された。時期を特定できる遺物の出土はないが、形態から近世の可能性が高いと考えられる。昭和54・56年度の調査でも調査区内で溝跡が検出されているが、遺構の時期を特定する遺物の出土はない。対岸の複数遺跡でも多くの溝状遺構が検出され、現在の道と重複する箇所があることや、形状から道である可能性が高い。今回の調査では、周辺を含めた台地上に近世の溝跡が広がることが明らかになった。

参考文献

- 伊東隆夫ほか2011『日本有用樹木誌』海賈社 pp.238-238
- 小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房
- 栗田則久ほか1982『千葉東南部ニユータウン13-上赤塚1号墳・狐塚古墳群-』住宅都市整備公团首都圏都市開発本部・財団法人千葉県文化財センター
- 栗本佳弘編1979『千葉東南部ニユータウン7-木戸作遺跡(第2次)』財団法人千葉県文化財センター
- 郷田良一ほか1982『千葉東南部ニユータウン10-小金井貝塚-』住宅・都市整備公团首都圏都市開発本部・財団法人千葉県文化財センター
- 小林清隆1989『千葉市種ヶ谷津遺跡-千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書』『千葉県文化財センター調査報告』第170集)
- 千葉急行電鉄株式会社
- 小林清隆ほか1992『千葉市桜作遺跡-千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書V-』『千葉県文化財センター調査報告』第216集) 千葉急行電鉄株式会社
- 小林嵩2015『「通貝塚」の弥生土器』『型式論の実践的研究』III『人文社会科学研究プロジェクト報告書』第290集) 千葉大学人文学系研究科 pp.57-60
- 小林嵩2016『千葉市への台貝塚平成8年度調査の報告』『貝塚博物館紀要』第42号 千葉市加曽利貝塚博物館 pp.1-24
- 佐久間豊吉(編)『千葉東南部ニユータウン17-高沢遺跡-』『千葉県文化財センター調査報告』第175集) 住宅・都市整備公团首都圏都市開発本部・財団法人千葉県文化財センター
- 佐藤順一ほか2001『千葉市 桜作遺跡、種ヶ谷津遺跡、立堀城跡、高有遺跡、宮ノ後遺跡、谷当、上ノ台遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉県文化財調査協会
- 島立桂ほか2004『千葉東南部ニユータウン29-千葉市バク穴遺跡・大勝野南貝塚・有吉城跡2(旧石器時代)』『千葉県文化財センター調査報告』第467集) 都市基盤整備公团千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 白井久美子2017『市川田北城・都川流域の古墳』『探・市原古墳群序説』市原古墳群刊行会 pp.117-130
- 清藤一朗(監修)1985『千葉市種ヶ谷津遺跡-千葉生糸納縫道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』千葉県土木部道路建設課
- 岡口達彦ほか2005『千葉東南部ニユータウン32-千葉市小金沢古墳群2-』『千葉県文化財センター調査報告』第514集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 立和明美1998『主要地方遺生実・本納縫埋藏文化財調査報告書2 恵日沢遺跡、種ヶ谷津遺跡、大道遺跡』『千葉県文化財センター調査報告』第317集) 千葉県教育公社・財団法人千葉県文化財センター
- 千葉市史編纂委員会編1976『千葉市史』史料編1 千葉市
- 西野雅人2002『縄文時代中・後期のヘラ状貝製品(2)』『往還する考古学 近江貝塚研究会論集』I 近江貝塚研究会 pp.53-62
- 西野雅人2007『千葉東南部ニユータウン37-千葉市六浦貝塚-』『千葉県教育振興財團調査報告』第572集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財團
- 西野雅人2008『千葉東南部ニユータウン30-千葉市有吉貝塚-』『千葉県教育振興財團調査報告』第604集) 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財團
- 西野雅人2008『縄文中期熱帯集落の消滅と小規模集落』『千葉縄文研究』2 千葉縄文研究会 pp.1-26
- 西野雅人2017『貝塚・丁字路・加賀利貝塚跡報告書』千葉市教育委員会 pp.722-733
- 西野雅人2020『埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-令和元年度-』千葉市教育委員会
- 井平信二1996『木の大百科-解説編-』朝倉書房 pp.612-612
- 山田貴久ほか1998『千葉東南部ニユータウン19-有吉貝塚1(旧石器・縄文時代)』『千葉県文化財センター調査報告』第324集) 住宅・都市整備公团千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター
- 山田貴久ほか1999『千葉東南部ニユータウン21-千葉市有吉遺跡(第4次)・高沢古墳群-』『千葉県文化財センター調査報告』第351集) 住宅・都市整備公团千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター

第7表 出土遺物集計表（遺物の出土がない遺構は除く）









统计										报告期	
项目	指标	单位	本期数	期初数	期末数						
资产	流动资产	元	47	48	49	50	51	52	53	54	55
	货币资金	元	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	应收账款	元	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	存货	元	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	流动资产合计	元	67	68	69	70	71	72	73	74	75
	长期投资	元	37	38	39	40	41	42	43	44	45
	长期股权投资	元	46	47	48	49	50	51	52	53	54
	长期债权投资	元	55	56	57	58	59	60	61	62	63
	长期投资合计	元	92	93	94	95	96	97	98	99	100
负债	流动负债	元	101	102	103	104	105	106	107	108	109
	短期借款	元	111	112	113	114	115	116	117	118	119
	应付账款	元	121	122	123	124	125	126	127	128	129
	预收账款	元	131	132	133	134	135	136	137	138	139
	应付工资	元	141	142	143	144	145	146	147	148	149
	应付福利费	元	151	152	153	154	155	156	157	158	159
	应交税金	元	161	162	163	164	165	166	167	168	169
	其他应交款	元	171	172	173	174	175	176	177	178	179
	流动负债合计	元	301	302	303	304	305	306	307	308	309
	长期负债	元	181	182	183	184	185	186	187	188	189
	长期应付款	元	191	192	193	194	195	196	197	198	199
	长期借款	元	201	202	203	204	205	206	207	208	209
	应付债券	元	211	212	213	214	215	216	217	218	219
	长期负债合计	元	581	582	583	584	585	586	587	588	589
所有者权益	实收资本	元	221	222	223	224	225	226	227	228	229
	股本	元	231	232	233	234	235	236	237	238	239
	资本公积	元	241	242	243	244	245	246	247	248	249
	盈余公积	元	251	252	253	254	255	256	257	258	259
	其中：法定公益金	元	261	262	263	264	265	266	267	268	269
	未分配利润	元	271	272	273	274	275	276	277	278	279
	所有者权益合计	元	721	722	723	724	725	726	727	728	729
损益类	营业收入	元	281	282	283	284	285	286	287	288	289
	营业成本	元	291	292	293	294	295	296	297	298	299
	营业税金及附加	元	301	302	303	304	305	306	307	308	309
	期间费用	元	311	312	313	314	315	316	317	318	319
	营业利润	元	321	322	323	324	325	326	327	328	329
	营业外收入	元	331	332	333	334	335	336	337	338	339
	营业外支出	元	341	342	343	344	345	346	347	348	349
	利润总额	元	351	352	353	354	355	356	357	358	359
	净利润	元	361	362	363	364	365	366	367	368	369











20-a		20-b		20-c		20-d		20-e		100-a		100-b		100-c		測定区		总计
個体	個 数	個体	個 数	個体	個 数	個体	個 数	個体	個 数	总计								
																		15
																		35
																		2
																		2
																		149
																		10
																		10
																		2
																		1
																		2
																		1
																		113
																		10
																		25
																		8
																		1
																		1
																		1
																		1
																		1
																		209
																		1
																		1
																		1002
																		2
																		1
																		1
																		1
																		0
																		0
																		0
																		36318
																		36318
																		198
																		122
																		117
																		98
																		212
																		11004
																		14
																		223
																		1
																		1
																		1
																		14
																		556
																		11
																		12
																		3
																		2
																		1
																		1
																		1
																		1
																		10
																		2
																		1
																		7
																		3
																		1
																		1
																		1220
																		1
																		62
																		100
																		100
																		16719
5	11	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	16719



第8表 出土遺物観察表

第9号窓穴建物跡

1	縄文土器 深鉢	(18.0) ~ (7.9)	口縁部へ胴部上半1/2残存。内面へラケズリ及びミガキ。外面部直下 と口縁部下部を沈線で区画し、内部は条縞を施文後、波状に磨り 消す。下端はミガキ。通気孔。	石英少量、纏中量、白色粒多量。 白色英・纏少量、石英中量。 石英・纏少量、白色粒中量。	外面：10YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
2	縄文土器 深鉢	~ (6.0)	口縁部。内面へラミガキ。口縁部外表面は沈線を添わせた隆帯で前 文及び横円文を描出する。横円文内部は原体單底型。下部は磨削 部。	白色英・纏少量、石英中量。 石英・纏少量、白色粒中量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/2	良好
3	縄文土器 深鉢	~ (13.2)	胴部片。内面へラミガキ。外面上端1/2条の横縫で区画し、下 部は磨削纏文（原体單底型）。加曾利E II式。	石英・纏少量、白色粒中量。	外面：7.5YR6/6 内面：10YR2/1	良好
4	縄文土器 深鉢	~ (6.3)	胴部片。内面ミガキ。外面部磨削纏文（原体複底型LR）。加曾利E II 式。	纏少量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR6/6 内面：10YR6/4	良好
5	縄文土器 深鉢	~ (3.7)	口縁部片。内面剥落。外面部波状の条縞を縱位に施文。加曾利E II 式。	石英・白色粒少量、纏中量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR4/3	良好
6	縄文土器 深鉢	~ (6.6)	胴部片。内面ミガキ。外面部横線を施文。加曾利E II式。	石英・白色粒少量。	外面：10YR3/1 内面：7.5YR3/2	良好
7	土製品 土器片捲		完形。長さ5.4cm、幅5.4cm、厚さ1.3cm、重量44.5g。	纏少量、石英・白色粒中量。	10YR5/4	良好
8	土製品 土器片捲		完形。長さ5.7cm、幅5.2cm、厚さ1.3cm、重量30.6g。	海綿骨針微量、纏少量、 石英・白色粒中量。	7.5YR4/4	良好
9	土製品 土器片捲		完形。長さ7.9cm、幅5.0cm、厚さ1.3cm、重量62.3g。	海綿骨針微量、纏少量、 石英・白色粒中量。	7.5YR5/6	良好
10	土製品 土器片捲		完形。長さ7.5cm、幅5.6cm、厚さ1.2cm、重量58.9g。	海綿骨針微量、纏少量、 石英・白色粒中量。	7.5YR5/6	良好
11	土製品 土器片捲		一部欠損。長さ7.4cm、幅5.2cm、厚さ1.2cm、重量50.6g	海綿骨針微量、纏少量、 石英・白色粒中量。	7.5YR5/6	良好
12	土製品 土器片捲		完形。長さ6.1cm、幅5.1cm、厚さ1.4cm、重量55.7g。	海綿骨針微量、纏少量、 石英・白色粒中量。	10YR4/1	良好
13	土製品 土器片捲 未完成		完形。長さ5.9cm、幅4.0cm、厚さ1.3cm、重量28.9g。抉りは確認されないが、 破断面が磨られ、整形されていることから土器片捲の未成品と判断した。	纏・白色粒微量、 石英中量。	10YR4/3	良好

第9号土坑

1	縄文土器 深鉢	~ (5.5)	胴部片。内面へラケズリ。外面部横縫に沈線を施す。縄文前期。	纏微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR6/4	良好
---	------------	------------	-------------------------------	---------------	--------------------------	----

第13号土坑

1	縄文土器 深鉢	~ (2.7)	底部片。内面へラミガキ。外面部磨削纏文（原体單底型LR）。底部ミガ キ。加曾利E II式。	石英・纏・白 色粒少量。	外面：7.5YR5/6 内面：10YR4/3	良好
---	------------	------------	--	-----------------	---------------------------	----

第17号土坑

1	縄文土器 深鉢	~ (4.8)	胴部片。内面へラケズリ後ナヂ。外面部股文が施文される。阿玉右 式。	纏中量、金雲母多量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/3	良好
2	縄文土器 鉢	~ (6.0)	口縁部。内面へラミガキ。口縁部外表面ミガキ。下部はヘラケズ リ。口縁部下部は沈線で区画される。口唇部に刻みが施される。加 曾利E II式。	石英・白色粒微量。	外面：7.5YR5/6 内面：7.5YR5/6	良好
3	石器 打製石斧		一部欠損。長さ5.5cm、幅4.4cm、厚さ1.5cm、重量47.4g。裏面は大きく自然面を残している。			

第27号土坑

1	縄文土器 深鉢	(28.0) ~ (11.4)	口縁部へ胴部上半1/3残存。内面へラケズリ及びナヂ。外面部直下 と口縁部下部を沈線で区画する。内部に沈線を添わせた隆帯で前 文による構造文と原体複底型LRを施す。下部は磨削纏文（原体複 底型LRを異方向施文）。加曾利E II式。	纏少量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/6 内面：7.5YR5/6	良好
---	------------	-----------------------	---	---------------	----------------------------	----

第35号土坑

1	縄文土器 深鉢	~ (3.7)	胴部片。内面剥落。外面部磨削纏文（撲殺文）。加曾利E II式。	纏微量、石英・白色粒少 量。	外面：7.5YR4/6 内面：7.5YR4/6	良好
---	------------	------------	---------------------------------	-------------------	----------------------------	----



第37号土坑

1	調文土器 深鉢	- (6.3)	銅部片。内面ヘタミガキ。外面磨消調文(燃系文)。連弧文系。	石英・白色粒 微量。	外面 : 10YR4/3 内面 : 10YR5/4	良好
2	調文土器 深鉢	- (5.7)	銅部片。内面ミガキ。外面燃系文(II)。下部は無文。	石英微量、白 色粒中量。	外面 : 10YR4/2 内面 : 10YR4/1	良好
3	調文土器 深鉢	- (2.4)	銅部片。内面ミガキ。外面原体複屈ILR。	石英・纖・白 色粒微量。	外面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好

第38号土坑

1	調文土器 深鉢	- (8.7)	口縁部片。内面ミガキ。外面沈縫を添わせた陸帯で満巻文を描出し、沈縫を添わせた陸帯で区画。下部は原体複屈ILR式。	石英・纖・白 色粒少量。	外面 : 7.5YR3/4 内面 : 7.5YR3/4	良好
2	調文土器 深鉢	- (4.8)	銅部片。内面ミガキ。外面磨消調文(燃系文)。加曾利EII式。	石英・白色粒 少量。	外面 : 7.5YR4/4 内面 : 7.5YR4/4	良好
3	調文土器 深鉢	- (6.9)	銅部片。内面ミガキ。外面磨消調文(燃系文)。加曾利EII式。	石英・白色粒 少量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
4	調文土器 深鉢	- (2.5)	銅部片。内面ヘタミガキ。外面原体複屈ILR。	纖・雲母中 量。	外面 : 7.5YR6/6 内面 : 10YR3/1	良好
5	調文土器 深鉢	- (3.7)	銅部片。内面ナデ。外面原体複屈ILR。	石英・白色粒 微量。	外面 : 7.5YR6/6 内面 : 10YR5/3	良好

第19号柱穴

1	調文土器 深鉢	- (4.0)	銅部片。内面ナデ。外面鏡面の陸帯による区画内に陸帯で文様を描出する。陸帯上に一部刻みが施される。阿玉台式。	石英・纖・白 色粒少量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 7.5YR5/6	良好
---	------------	------------	---	-----------------	--------------------------------	----

調文時代遺構外

1	調文土器 深鉢	- (3.4)	銅部片。内面ヘタケズリ及びナデ。外面は鏡面に沈縫が施される。前縁。S11出土。	石英・白色粒 少量。	外面 : 10YR5/2 内面 : 10YR6/4	良好
2	調文土器 深鉢	- (4.5)	口縁部片。内面ヘナナデ。外面半裁竹管により組紐の沈縫。下部に割込みを施し、半裁竹管による沈縫で区画する。外面媒付着。異律。S16出土。	石英少量、纖 中量。	外面 : 10YR7/4 内面 : 10YR7/6	良好
3	調文土器 深鉢	- (2.8)	口縁部片。内面ナデ。外面貝殻波状文。異律式。S10出土。	石英・長石微量、 白色粒少量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 10YR6/4	良好
4	調文土器 深鉢	- (7.2)	銅部片。内面ミガキ。外面貝殻波状文。下部はヘタケズリ。異律式。S10出土。	石英・白色 粒・纖多量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 10YR6/4	良好
5	調文土器 深鉢	- (4.0)	銅部片。内面ミガキ。外面貝殻波状文。下部はヘタケズリ。異律式。S17出土。	石英少量、白 色粒多量。	外面 : 10YR4/1 内面 : 10YR6/4	良好
6	調文土器 深鉢	- (6.6)	口縁部片。内面ナデ。外面沈縫及び押引文を添わせた陸帯により横円文を描出し、内部に押引文による内円文が施される。波紋口縁。阿玉台式。4P-a出土。	纖中量、金雲 母多量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
7	調文土器 深鉢	- (5.4)	口縁部片。内面ナデ。外面口唇直下に押引文により区画され、下部は押引文の施される。阿玉台式。4P-a出土。	纖中量、金雲 母多量。	外面 : 10YR5/3 内面 : 10YR6/4	良好
8	調文土器 深鉢	- (5.7)	口縁部片。内面ナデ。外面比縫及び押引文を添わせた陸帯により横円文を描出し。波紋口縁。阿玉台式。4P-a出土。	纖・金雲母中 量。	外面 : 10YR5/3 内面 : 10YR5/4	良好
9	調文土器 深鉢	- (8.4)	口縁部片。内面ナデ。外面貝殻文が施される。阿玉台式。4P-a出土。	纖中量、金雲 母多量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
10	調文土器 深鉢	- (5.1)	口縁部片。内面ナデ。外面口唇直下に沈縫により区画し、下部は押引文の施される。阿玉台式。4P-a出土。	纖・金雲母中 量。	外面 : 10YR6/4 内面 : 7.5YR6/6	良好
11	調文土器 深鉢	- (5.4)	口縁部片。内面ヘタケズリ及びナデ。外面は半円状の陸帯に1条の押引文を施し、下部を2条の押引文で区画する。阿玉台式。2P-a出土。	纖・金雲母中 量。	外面 : 10YR6/4 内面 : 10YR6/4	良好
12	調文土器 深鉢	- (5.4)	銅部片。内面ナデ。外面貝殻文が施される。阿玉台式。2P-a出土。	纖中量、金雲 母多量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 10YR5/3	良好
13	調文土器 深鉢	- (3.3)	銅部片。内面ナデ。外面条縫を施し、陸帯を貼り付ける。加曾利E I式。S125出土。	白色粒少量、 石英中量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 10YR5/2	良好



14	縄文土器 深鉢	- (4.5)	口縁部片。内面ヘタケズリ模ミガキ。外面上は口唇部直下に沈線を含むせた隆帯を施す。加曾利Ⅱ式。調査区出土。	石英・白色粒 微量。 外面上：10YR5/3 内面上：10YR5/2	良好
15	縄文土器 深鉢	- (4.8)	口縁部片。内面ナガ。突起部内面に弧状の沈線が施文される。外面上は沈線により横行文を描画する。波状口縁。加曾利Ⅱ式。3F-d出土。	白色粒少量、 石英中量。 外面上：10YR4/1 内面上：10YR4/2	良好
16	縄文土器 深鉢	- (4.8)	口縁部片。内面ミガキ。外面上部は沈線を添付した隆帯で円文を区画し、内部に燃失文（R）を施文。下部は沈線を添付した隆帯で区画する。加曾利Ⅱ式。4F-a出土。	織微量、石英 少量。 外面上：10YR7/6 内面上：10YR6/6	良好
17	縄文土器 深鉢	- (6.0)	胴部片。内面ナラミガキ。外面上は磨消彫文（原体複部RLR）。加曾利Ⅱ式。6F-d出土。18と同一個体。	石英・白色粒 少量、纏中量。 外面上：7.SYR6/6 内面上：10YR5/4	良好
18	縄文土器 深鉢	- (6.1)	胴部片。内面ヘラケズリ。外面上は磨消彫文（原体複部RLR）。加曾利Ⅱ式。S2-d出土。17と同一個体。	石英・白色粒 少量、纏中量。 外面上：10YR6/4 内面上：10YR6/4	良好
19	縄文土器 深鉢	- (6.3)	胴部片。内面ヘラケズリ及びミガキ。外面上は磨消彫文（原体複部RLR）。加曾利Ⅱ式。S14出土。	石英・白色粒 少量、纏中量。 外面上：10YR6/4 内面上：7.SYR6/4	良好
20	縄文土器 深鉢	- (6.2)	胴部片。内面ナガ。外面上沈線で区画された下部は磨消彫文（燃失文）。加曾利Ⅱ式。S16出土。	石英・白色粒 中量。 外面上：10YR5/4 内面上：7.SYR5/4	良好
21	縄文土器 深鉢	- (6.4)	底部片。内面ナガ。外面上は磨消彫文（原体複部RLR）。下端～底部はヘラミガキ。加曾利Ⅱ式。6E-c出土。	石英・織 微量、白色粒 少量。 外面上：7.SYR4/4 内面上：7.SYR5/4	良好
22	縄文土器 深鉢	- (7.2)	口縁部片。内面ナガ。外面上は磨消彫文（原体單部LRを異方向施文）。加曾利Ⅱ式。S15出土。	織微量、石 英・白色粒中量。 外面上：7.SYR5/4 内面上：7.SYR5/3	良好
23	縄文土器 深鉢	- (3.6)	口縁部片。内面ヘタケズリ。外面上は磨消彫文（燃失文Rを異方向施文）。加曾利Ⅱ式。S12出土。	石英・白色 粒・纏少量。 外面上：SYR5/6 内面上：SYR5/6	良好
24	縄文土器 深鉢	- (4.5)	胴部片。内面ヘタケズリ。外面上燃失文（R）を施文し、沈線で文様を描画する。加曾利Ⅱ式。S125出土。	石英・白色 粒・纏微量。 外面上：7.SYR4/2 内面上：7.SYR4/2	良好
25	縄文土器 深鉢	- (4.2)	口縁部片。内面ナガ。外面上口唇直下を2条の沈線で区画し、下部は磨消彫文（燃失文R）。連弧文系。S112出土。	白色粒微量、 石英少量。 外面上：SYR5/6 内面上：SYR5/6	良好
26	縄文土器 深鉢	- (3.6)	胴部片。内面ミガキ。外面上は波状磨消彫文（燃失文L）。連弧文系。6E-c出土。	織微量、石 英・白色粒少 量。 外面上：SYR5/4 内面上：SYR5/2	良好
27	縄文土器 深鉢	- (6.3)	胴部片。内面ミガキ。外面上は磨消彫文（燃失文R）。連弧文系。S110 出土。	石英・織 微量、白色粒少 量。 外面上：10YR6/1 内面上：10YR6/1	良好
28	縄文土器 深鉢	- (4.8)	胴部片。内外面ヘラミガキ。外面に互交刻突が施される。曾利Ⅱ式。5F-D-c出土。	石英・白色 粒少量。 外面上：7.SYR5/3 内面上：7.SYR5/4	良好
29	縄文土器 注口土器	- (4.2)	体部片。内外面ミガキ。外面上原体無道を施文後、横位の沈線が施文される。加曾利Ⅱ式。S111出土。	白色粒少 量、白 色粒微量。 外面上：10YR4/1 内面上：7.SYR6/4	良好
30	土製品 土器片 鍾	完形。長さ5.0cm、幅4.3cm、厚さ1.0cm、重量29.2g。		白色粒少 量、金雲母 微量。 外面上：10YR5/4	良好
31	土製品 土器片 鍾	完形。長さ4.7cm、幅4.4cm、厚さ1.2cm、重量28.3g。破断面が全周削られて整形されているため、完形と判断した。		石英・纏・白 色粒中量。 外面上：7.SYR6/6	良好
32	土製品 块状耳瓶	1/2残存。長さ4.2cm、幅2.5cm、厚さ1.7cm、重量10.0g。ヘラミガキ。孔部はヘタケズリにより整形される。		織微量、石英 少量。 外面上：10YR6/3	良好
33	石器 石器	完形。長さ2.4cm、幅2.1cm、厚さ0.4cm、重量1.5g。兩面共に剥離により成形される。黒曜石製。6E-d出土。			
34	石器 石器	長さ4.4cm、幅3.3cm、厚さ2.5cm、重量34.2g。チャート製。S17出土。			
35	石器 剥片	長さ2.2cm、幅2.4cm、厚さ1.3cm、重量7.8g。一部に自然面が残る。チャート製。S17出土。			
36	石器 剥片	長さ2.2cm、幅1.1cm、厚さ0.5cm、重量1.3g。一部に自然面が残る。黒曜石製。S17出土。			
37	石器 剥片	長さ3.1cm、幅1.8cm、厚さ0.6cm、重量3.3g。チャート製。S17出土。			
38	石器 剥片	長さ2.4cm、幅1.9cm、厚さ0.8cm、重量2.3g。チャート製。S18出土。			
39	石器 剥片	長さ2.4cm、幅2.5cm、厚さ0.8cm、重量4.4g。チャート製。S123出土。			
40	石器 剥片	長さ3.0cm、幅2.2cm、厚さ0.9cm、重量6.2g。チャート製。S112出土。			



弥生時代遺構外

1	弥生土器 深鉢	- (6.0)	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面部施文(原体R)を施文底、2条の沈線が横位に施される。口唇部に割みが施される。荒海式後半。S110出土。	石英・繊微量、白色粒少 量。	外面部 : 5YR5/6 内面部 : 7.5YR5/4	良好
2	弥生土器 深鉢	- (3.3)	口縁部片。内面ミガキ。外面部ナデ。下部に2条の沈線が横位に施文される。内面に輪摺痕が残る。外面に煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR7/4 内面部 : 10YR7/4	良好
3	弥生土器 深鉢	- (2.1)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。2条の沈線が横位に施文される。内面に輪摺痕が残る。外面に煤付着。荒海式後半。S12出土。	石英微量、白 色粒中量。	外面部 : 5YR5/6 内面部 : 5YR5/4	良好
4	弥生土器 深鉢	- (2.1)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。2条の沈線が横位に施文される。内面に輪摺痕が残る。外面に煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 7.5YR4/6 内面部 : 7.5YR5/4	良好
5	弥生土器 深鉢	- (1.8)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。2条の沈線が横位に施文される。内面に輪摺痕が残る。外面に煤付着。荒海式後半。S17出土。	海綿骨針微 量、石英・繊 白色粒少 量。	外面部 : 7.5YR5/6 内面部 : 7.5YR5/6	良好
6	弥生土器 深鉢	- (2.8)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。口唇部に割みが施され、焼成前穿孔が確認される。外面に煤付着。荒海式後半。S110出土。	石英・繊・白 色粒微量。	外面部 : 10YR6/4 内面部 : 10YR6/4	良好
7	弥生土器 深鉢	- (1.8)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。口唇部に割みが施される。外面に煤付着。荒海式後半。S110出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR4/1 内面部 : 10YR4/1	良好
8	弥生土器 深鉢	- (2.4)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ナデ。口唇部に割みが施される。荒海式後半。S110出土。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面部 : 10YR6/6 内面部 : 10YR5/3	良好
9	弥生土器 深鉢	- (1.5)	口縁部片。内面ナデ。外面部ナデ。口唇部に割みが施される。荒海式後半。S110出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR6/6 内面部 : 10YR6/4	良好
10	弥生土器 深鉢	- (2.2)	口縁部片。内面ナデ。外面部ナデ。荒海式後半。S110出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 5YR4/4 内面部 : 10YR6/4	良好
11	弥生土器 深鉢	- (2.8)	口縁部片。内面ミガキ。外面部ナデ。下部に1条の沈線が横位に施文される。荒海式後半。S17出土。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面部 : 10YR6/4 内面部 : 10YR7/4	良好
12	弥生土器 深鉢	- (2.1)	口縁部片。内面ヘナナデ。外面部ナデ。荒海式後半。S110出土。	石英・繊少 量、白色粒中 量。	外面部 : 7.5YR6/4 内面部 : 7.5YR6/4	良好
13	弥生土器 深鉢	- (3.6)	脚部片。内面ナデ及びミガキ。外面部菱形繩文。外面に煤付着。荒海式後半。S17出土。	白色粒・繊微 量、石英中 量。	外面部 : 10YR3/1 内面部 : 10YR5/2	良好
14	弥生土器 深鉢	- (3.6)	脚部片。内面ナデ及びミガキ。外面部菱形繩文。下部に横位の沈線で区画する。外面に煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR7/4 内面部 : 10YR7/4	良好
15	弥生土器 深鉢	- (3.9)	脚部片。内面ナデ及びミガキ。外面部斜位の沈線が内面に刺突文を形成する。下部は横位の沈線が確認される。荒海式後半。S92出土。	繊少 量、石 英・白色粒中 量。	外面部 : 5YR4/3 内面部 : 5YR5/6	良好
16	弥生土器 深鉢	- (3.6)	脚部片。内面ナデ及びミガキ。外面部ミガキ。下部は無施(原体L)を沈線で区画する。外面に彩か。外面部煤付着。荒海式後半。S18出土。	石英・繊・白 色粒微量。	外面部 : 7.5YR4/1 内面部 : 10YR6/4	良好
17	弥生土器 深鉢	- (2.8)	脚部片。内面ナデ。外面部12条の沈線が横位に施文される。下部は柔底、外面部煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR4/1 内面部 : 10YR5/3	良好
18	弥生土器 深鉢	- (2.4)	脚部片。内面ナデナダ。外面部は2条の沈線が横位に施文される。外面部煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・繊・白 色粒微量。	外面部 : 10YR7/4 内面部 : 10YR7/4	良好
19	弥生土器 深鉢	- (2.7)	脚部片。内面ヘラケズリ及びミガキ。外面部菱形繩文。荒海式後半。S18出土。	繊・白色粒微 量、石英少 量。	外面部 : 10YR7/4 内面部 : 10YR7/4	良好
20	弥生土器 深鉢	- (3.7)	脚部片。内面ナデ。外面部無施(原体L)を沈線で区画する。荒海式後半。S17出土。	繊・白色粒少 量、石英中 量。	外面部 : 10YR5/1 内面部 : 10YR4/1	良好
21	弥生土器 深鉢	- (2.1)	脚部片。内面ナデ及びミガキ。外面部柔底。菱形連繩文が施文され、交点と想われる箇所に割みが施される。荒海式後半。S110出土。	石英・白色粒 微量。	外面部 : 10YR5/4 内面部 : 10YR5/4	良好
22	弥生土器 深鉢	- (4.6)	脚部片。内面ヘラケズリ及びミガキ。外面部柔底。上部は無施。外面部煤付着。荒海式後半。S17出土。	石英・繊・白 色粒少 量。	外面部 : 10YR6/4 内面部 : 10YR6/4	良好
23	弥生土器 深鉢	- (3.3)	脚部片。内面ナデ。外面部柔底。荒海式後半。S17出土。	白色粒少量、 石英中量。	外面部 : 10YR4/1 内面部 : 10YR6/6	良好



24	弥生土器 深鉢	- (4.3)	胴部片。内面ミガキ。外面条痕。荒海式後半。S18出土。	白色粒少量、 石英中量。 外表面 : 10YR4/1 内表面 : 10YR4/1	良好
25	弥生土器 深鉢	- (4.2)	胴部片。内面ヘラナデ及びミガキ。外面条痕。荒海式後半。S17出土。	白色粒少量、 石英中量。 外表面 : 10YR5/3 内表面 : 10YR6/4	良好
26	弥生土器 深鉢	- (2.3)	胴部片。内面ナデ及びミガキ。外面条痕。荒海式後半。SD2出土。	石英・白色 粒・纏少量。 外表面 : 10YR5/4 内表面 : 7.5YR5/4	良好
27	弥生土器 深鉢	- (8.4)	胴部片。内面ナデ。外面細密条痕。外面煤付着。荒海式後半。2E-a出土。	石英少 量、 纏・白色粒多 量。 外表面 : 10YR7/4 内表面 : 10YR7/4	良好
28	弥生土器 深鉢	- (2.7)	胴部片。内面ヘラケズリ及びミガキ。外面条痕。荒海式後半。S110出土。	纏微量、 石英・白色粒少 量。 外表面 : 10YR4/3 内表面 : 10YR4/1	良好
29	弥生土器 深鉢	- (3.0)	胴部片。内面ミガキ。外面条痕及びミガキ。外面煤付着。荒海式後半。S17出土。	纏微量、 石 英・白色粒少 量。 外表面 : 10YR4/1 内表面 : 10YR5/3	良好
30	弥生土器 深鉢	- (2.4)	胴部片。内面ミガキ。外面条痕。押捺が施される。荒海式後半。S17出土。	纏・白色粒少 量。 外表面 : 7.5YR4/1 内表面 : 7.5YR5/4	良好
31	弥生土器 壺	- (3.0)	頸部片。内面ナデ。外面櫛擦横走文の下部に波状文が施される。丸子式系。31と同一個体。S18出土。	白色粒少量、 石英中量。 外表面 : 10YR7/4 内表面 : 10YR7/3	良好
32	弥生土器 壺	- (3.1)	頸部片。内面ナデ。外面櫛擦横走文の下部に波状文が施される。丸子式系。31と同一個体。S18出土。	白色粒少量、 石英中量。 外表面 : 10YR7/3 内表面 : 10YR7/2	良好
33	弥生土器 鉢	- (4.5)	体部片。内面ナデ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。中期前葉、東北南部~北関東系。S17出土。	石英・白色粒 微量、纏中 量。 外表面 : 10YR6/4 内表面 : 10YR6/3	良好
34	弥生土器 鉢	- (5.1)	体部片。内面ナデ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。中期前葉、東北南部~北関東系。S17出土。	石英・白色粒 微量、纏中 量。 外表面 : 10YR6/4 内表面 : 10YR6/3	良好
35	弥生土器 鉢	- (4.2)	体部片。内面ナデ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。中期前葉、東北南部~北関東系。S17出土。	石英・白色粒 微量、纏中 量。 外表面 : 10YR6/4 内表面 : 10YR6/3	良好
36	弥生土器 鉢	- (3.0)	体部片。内面ナデ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。中期前葉、東北南部~北関東系。S17出土。35~36は同一個体。	石英・白色粒 微量、纏中 量。 外表面 : 10YR6/4 内表面 : 10YR6/4	良好
37	弥生土器 壺	- (4.2)	体部片。内面ヘラケズリ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。曲巻文の可能性が高い。網が施される。外面煤付着。中期前葉、東北南部~北関東系。S17出土。	石英・白色粒 少量。 外表面 : 7.5YR7/6 内表面 : 7.5YR5/4	良好
38	弥生土器 壺	- (3.6)	体部片。内面ヘラケズリ。外面は曲線的な文様で磨り消す(原体単節LR)。網が施される。網の横位置で区画した下部に、沈殿で文様を描出する。結晶化の可能性が高い。肩/台式か。調査区出土。	石英微量、白 色粒少量。 外表面 : 5YR5/4 内表面 : 5YR5/4	良好

第4号堅穴建物跡

1	土師器 壺	13.0 5.0	ほぼ完形。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	纏微量、 石英・白 色粒少量。 外表面 : 5YR5/8 内表面 : 5YR5/8	良好
2	土師器 壺	(14.0) (4.1)	口縁部・体部片。内面ヘラナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	纏微量、 石英・白 色粒少量。 外表面 : 5YR5/8 内表面 : 5YR5/8	良好
3	土師器 壺	(14.0) (4.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤鉄。	纏微量、 石英・白 色粒中 量。 外表面 : 5YR4/6 内表面 : 5YR4/6	良好
4	土師器 壺	(14.0) (2.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤鉄。	石英・白色粒 少量。 外表面 : 5YR4/8 内表面 : 5YR4/8	良好
5	土師器 壺	13.2 4.8	ほぼ完形。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤鉄。	石英・白色粒 微量。 外表面 : 2.5YR6/6 内表面 : 2.5YR6/6	良好
6	土師器 壺	13.7 4.7	2/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤鉄。	海綿骨針・纏 微量、石英・白 色粒少量。 外表面 : 2.5YR6/6 内表面 : 2.5YR6/6	良好
7	土師器 壺	(14.0) (4.6)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。外面赤鉄。破面を砥石として転用している。	纏微量、 石 英・白色粒少 量。 外表面 : 5YR5/4 内表面 : 5YR5/6	良好
8	土師器 高壺	- (5.2)	脚部片。壺部内面剥落。外面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面赤鉄。	纏微量、 石 英・白色粒中 量。 外表面 : 2.5YR5/6 内表面 : 7.5YR5/4	良好



9	土師器 高环	~ (7.3) <2.1>	脚部。内面ナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。瓶部ヨコナゲ。内面輪 積痕が残る。外面部赤。	石英・白色粒 少量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : SYR5/6	良好
10	土師器 鉢	~ (8.1)	体部円形。内面ナゲ。頸部内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナ ゲ。頸部内面~外面部赤。体部に僅が付着する。	繊微量、海綿 骨針少量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 2.5YR5/8 内面 : 2.5YR5/8	良好
11	土師器 鉢	(11.0) ~ <5.4>	口縁部~体部上半1/3残存。内面ヘラナゲ。口縁部内外面共にヨコナ ゲ。外面部赤。内面輪積痕が残る。口縁部内面~外面部 赤。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
12	土師器 鉢	(11.5) ~ <4.6>	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケズリ 後ナゲ。内面輪積痕が残る。	石英・白色粒 少量。	外面 : 10YR4/3 内面 : 2.5YR4/2	良好
13	土師器 甕	13.8 7.4 26.5	2/3残存。内面ナゲ及びヨコナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部 及び底部ヘラナゲ。内面剥落が著しい。口縁部内面に輪積痕が残 る。外面部土に焼けた粘土が一部付着している。	繊少量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 2.5YR8/8 内面 : 2.5YR8/8	良好
14	土師器 甕	(14.2) ~ <27.7>	2/3残存。内面ヘラケズリ後ナゲ。剥落している。口縁部内外面共 にヨコナゲ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナゲ。内面及び口縁部外 面輪積痕が残る。外底部半裸付。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 7.5YR7/6	良好
15	土師器 甕	(14.7) (16.3)	1/3残存。内面ヘラケズリ後ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部 ヘラケズリ後ナゲ。	石英・白色粒 中量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
16	土師器 甕	15.8 ~ 11.0	1/2残存。内面ヘラケズリ後ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部 ヘラケズリ後ナゲ。内面輪積痕が残る。破壊断面は摩耗している。	石英・白色粒 少量、金雲母 中量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
17	土師器 甕	(16.4) ~ <4.3>	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケズリ 後ナゲ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 5YR6/8 内面 : 5YR6/6	良好
18	土師器 甕	(15.4) ~ <5.0>	口縁部片。内面ヘラナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケ ズリ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 10YR5/3 内面 : 10YR5/3	良好
19	土師器 甕	~ (6.8) <2.5>	底部/2/3残存。内面ヘラケズリ後ナゲ。外面部及び底部ヘラケズリ後 ナゲ。内面部共に剥落している。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 5YR4/8 内面 : 5YR4/8	良好
20	土師器 甕	~ (7.0) <2.0>	底部2/3残存。内面ナゲ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナゲ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
21	土師器 甕	~ (8.2) <1.7>	底部片。内面ナゲ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナゲ。	石英・白色粒 中量。	外面 : 10YR3/1 内面 : 10YR3/1	良好
22	須恵器 高环	(14.0) ~ <4.4>	1/5残存。内外面共にクロナゲ。体部上半回転ヘラケズリ。外面部 自然輪積痕。MT15~Tn10型式。	繊少量。	外面 : 10YR5/1 内面 : 10YR6/3	良好
23	石器 磨石	完形。長さ9.1cm、幅8.9cm、厚さ3.6cm、重量429.0g。側縁全周に研磨痕が確認される。				
24	石器 磨石	完形。長さ3.8cm、幅7.1cm、厚さ2.9cm、重量232.5g。側縁全周に研磨痕が確認される。				
25	石器 磨石	一部欠損。長さ6.1cm、幅10.3cm、厚さ5.9cm、重量468.0g。側縁及平坦面に敲打痕が確認される。				
第五号窓穴建物跡						
1	土師器 坪	(14.0) ~ <3.9>	1/3残存。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケズリ 後ナゲ。内面部半赤。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/4 内面 : 2.5YR4/4	良好
2	土師器 坪	(15.9) ~ <3.4>	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケズリ 後ナゲ。内面部外半赤。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
3	土師器 坪	(14.0) ~ <4.2>	口縁部~体部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラ ケズリ後ナゲ。内面部赤。全体的に剥落している。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
4	土師器 坪	(12.0) ~ <3.3>	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面部ヘラケズリ 後ナゲ。内面部赤。	石英・白色粒 少量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
5	土師器 高环	13.8 7.5 8.8	ほぼ完形。坪部内面ヘラケズリ後工車なナゲ。口縁部内外面共にヨ コナゲ。外面部ヘラケズリ後ナゲ。脚部内面ヘラケズリ。瓶部内外面 ヨコナゲ。瓶部内面ヨコナゲ。外面部ヘラケズリ後ナゲ。脚部内 面内外赤。坪部内面輪積痕。全体的にやや摩耗する。	繊中量、石 英・白色粒多 量。	外面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
6	土師器 高环	14.0 7.3 8.5	ほぼ完形。坪部内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。坪部外 面ヘラケズリ後ナゲ。脚部内面ヘラケズリ後ナゲ。瓶部内外面共にヨコ ナゲ。外面部ヘラケズリ後ナゲ。	繊中量、石 英・白色粒多 量。	外面 : 2.5YR6/8 内面 : 2.5YR5/4	良好



7	土師器 鉢	11.0 ~ <7.6)	4/5残存、内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ、外面へラケズリ後ナデ。口縁部内面共に脚部中半赤彩。内面上半へ外面煤付着。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
8	土師器 鉢	(13.0) ~ <3.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR5/4	良好
9	土師器 鉢	(14.0) ~ <4.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/4	良好
10	土師器 鉢	(14.0) ~ <3.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：2.5YR5/4 内面：2.5YR5/4	良好
11	土師器 鉢	(14.0) ~ <4.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面上赤彩。外面上煤付着。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/1	良好
12	土師器 鉢	- <6.0)	脚部中半へ底部2/3残存。内面へラケズリ後ナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面上半赤彩。被熱し。特に内面は剥落が著しい。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR5/6 内面：7.5YR7/6	良好
13	土師器 甕	7.4 17.5	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。外面上部に剥落が著しい。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
14	土師器 甕	18.0 7.0 15.8	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。底部へラケズリ。内外面共に剥落する。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR4/6 内面：7.5YR7/8	良好
15	土師器 甕	(17.6) 6.6 <23.7)	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。外面上部に剥落付着。	繊・赤褐色粒微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：7.5YR5/4	良好
16	土師器 甕	(15.1) ~ <7.1)	口縁部へ脚部上半1/3残存、内面ナデ。内面輪積痕が残る。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラナデ及びナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
17	土師器 甕	(17.0) ~ <5.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/4 内面：10YR5/4	良好
18	土師器 甕	(16.3) ~ <7.8)	口縁部片。内面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕が残る。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：7.5YR4/1	良好
19	土師器 甕	(14.0) ~ <4.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
20	土師器 甕	(7.0) ~ <5.0)	脚部下半へ底部2/3残存。内面ナデ。工具による刻削痕の痕跡が確認される。外面及び底部へラケズリ後ナデ。外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
21	土師器 甕	23.8 7.5 19.2	ほぼ完形。内面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上へラケズリ後ナデ。内外面共に摩耗が著しい。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
22	土製品 管状土器	1/2残存、長さ5.6cm、幅4.5cm、重113.6g。ナデにより整形される。上端に粘土の横模様有り。	石英・白色粒微量。	外面：7.5YR4/1 内面：10YR6/4	良好	
23	石器 研石	一部欠損。長さ5.5cm、幅5.8cm、厚さ2.1cm、重量122.3g。表裏・側縁に金属器で研いた痕跡が明瞭に確認できる。左側縁は使用により溝曲し、裏面も一部凹面が観察される。				
24	石器 磨石類	完形。長さ9.9cm、幅4.7cm、厚さ1.7cm、重量61.5g。側縁に研磨痕が確認される。				

第6号堅穴建物跡

1	土師器 壺	(16.4) ~ <4.9)	口縁部へ体部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ等なナデ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/4 内面：7.5YR5/4	良好
2	土師器 壺	(14.0) ~ <2.9)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ等なナデ。内外面赤彩。	繊・石英・白色粒微量。	外面：5YR4/4 内面：5YR4/4	良好
3	土師器 壺	(14.9) ~ <3.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊・石英・白色粒微量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
4	土師器 壺	(12.0) ~ <3.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面被熱。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/4 内面：5YR5/6	良好
5	土師器 壺	(13.6) ~ <5.6)	1/2残存、内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面上半へ外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
6	土師器 壺	(13.9) ~ <5.0)	1/2残存、内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。全体的に摩耗が著しい。内外面赤彩。	石英・白色粒微量、赤褐色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好



7	土師器 坪	(13.8) ~ (4.1)	口縁部～全体上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
8	土師器 坪	(14.7) ~ (3.9)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面 赤彩。	微量。石英・ 白色粒中 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 3YR6/6	良好
9	土師器 坪	(16.4) ~ (2.8)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ 後ナデ。内面赤彩。	微量。石英・ 白色粒中 量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 7.5YR5/4	良好
10	土師器 坪	(13.9) ~ (2.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ 後ナデ。内面ナデ。内面赤彩。	微量。石英・ 白色粒中 量。	外面 : 10YR4/2 内面 : 10YR6/4	良好
11	土師器 高坪	~ (8.0) ~ (5.7)	脚部残存。内面ヘラナデ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ 後ナデ。外面上赤彩。	海綿骨針微 量。石英・白 色粒少量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
12	土師器 高坪	~ (8.0) ~ (7.6)	1/3残存。瓶部内面ヘラナデ及びナデ、外面上ヘラケズリ後ナデ。脚部 内面ヘラナデ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。 脚部上面上半赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
13	土師器 高坪	~ (7.5) ~ (4.2)	脚部2/3残存。内面ヘラケズリ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面上 ケズリ後ナデ。内面上赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
14	土師器 高坪	(10.0) ~ (2.3)	瓶部片。内面ヘラケズリ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒 微量。	外面 : 5YR6/6 内面 : 5YR6/8	良好
15	土師器 鋸	(12.1) ~ (4.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ 後ナデ。内面赤彩。	微量。石英・白 色粒中量。	外面 : 5YR4/4 内面 : 5YR4/4	良好
16	土師器 鋸	(10.6) ~ (2.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外 面上赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
17	土師器 鋸	(8.0) ~ (3.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外 面上赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
18	土師器 鋸	(18.8) ~ (17.8)	3/5残存。内面ナデ。一部工具痕が残る。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面上ヘラケズリ後ナデ。内面一部剥離し剥落が著しい。	微量。石英・ 白色粒中量。	外面 : 2.5YR5/8 内面 : 2.5YR5/8	良好
19	土師器 鋸	(18.8) ~ (23.6)	口縁部～脚部上半2/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共 にヨコナデ。外面上ヘラケズリ後ナデ。内面及び口縁部内外面輪積痕が 残る。内面一部剥落する。	微量。石英・白 色粒少量。	外面 : 2.5YR8/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
20	土師器 鋸	(15.7) ~ (16.3)	口縁部～脚部上半1/4残存。内面ナデ。一部指痕残る。口縁部内外 面共にヨコナデ。外面上ハク及びヘラケズリ後ナデ。	微量。石英・白 色粒少量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 10YR5/4	良好
21	土師器 鋸	(14.0) ~ (7.0)	口縁部～脚部上半2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。 外面上ヘラケズリ後ナデ。	微量。石英・白 色粒中量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 10YR3/1	良好
22	土師器 鋸	(19.5) ~ (9.0)	口縁部～脚部上半1/3残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面上ナデ。外面上剥落が著しい。23と同一個体。	微量。石英・ 白色粒少量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 10YR2/1	良好
23	土師器 鋸	(21.0) ~ (7.4)	口縁部～脚部上半1/3残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面上ナデ。22と同一個体。	微量。石英・ 白色粒少量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 10YR2/1	良好
24	土師器 鋸	(18.5) ~ (9.5)	口縁部～脚部上半1/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。 外面上ヘラケズリ。	微量。石英・白 色粒少量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
25	土師器 鋸	(16.0) ~ (5.3)	口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面上ナデ。	石英・白色粒 微量。	外面 : 10YR6/4 内面 : 10YR6/4	良好
26	土師器 鋸	(21.5) ~ (4.0)	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上輪積 痕が残る。	微量。石英・白 色粒少量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
27	土師器 鋸	(15.8) ~ (3.9)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上ナデ。	海綿骨針微 量。石英・白 色粒少量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 7.5YR5/4	良好
28	土師器 鋸	~ (17.9)	脚部上半～下半残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面上ヘラケズリ後ナ デ。外面上共に剥落している。	微量。石英・白 色粒多量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
29	土師器 鋸	~ (8.6) (1.5)	底部片。内面ナデ。外面上刷毛。下端ヘラケズリ。底部ヘラケズリ後 ナデ。	石英・白色粒 微量。	外面 : 10YR3/1 内面 : 10YR6/4	良好
30	土師器 鋸	~ (7.0) (6.2)	底部片。内面ナデ。外面上刷毛。底部ヘラケズリ後ナデ。内面剥 落。	石英・石英中 量。白色粒多 量。	外面 : 5YR4/4 内面 : 7.5YR5/6	良好



31	土師器 甕	- (7.9) <2.3>	底部2/3残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後丁寧なナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面: 5YR5/6 内面: 7.5YR6/6	良好
32	土師器 甕	- (7.0) <1.5>	底部4/5残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊・石英微量、白色粒少量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 2.5YR5/6	良好
33	土師器 甕	- (8.0) <2.8>	底部2/3残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後一部ナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。	繊・石英少量、白色粒中量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 7.5YR5/4	良好
34	土師器 甕	- (6.5) <3.5>	底部2/3残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 10YR7/4	良好
35	土師器 甕	- (8.2) <4.2>	底部2/3残存。内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ及びナデ。底部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面: 5YR5/6 内面: 5YR5/6	良好
36	土師器 甕	25.8 7.3 25.0	ほぼ完形。内面ヘラケズリ後丁寧なナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後丁寧なナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 2.5YR5/6	良好
37	土師器 甕	(20.7) (10.0)	口縁部～胴部上半1/4残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ～ヘラミガキ。内面及び口縁部外面に輪状痕が残る。内外面環付着。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面: 2.5YR4/6 内面: 7.5YR4/1	良好
38	土師器 甕	(23.5) (9.3)	口縁部～胴部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面及び口縁部外面輪状痕が残る。内外面煤付着。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 10YR3/1	良好
39	土師器 甕	(15.8) (6.9)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面: 5YR4/6 内面: 5YR4/6	良好
40	土師器 甕	(15.7) (5.2)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面: 5YR4/6 内面: 10YR2/1	良好
41	土師器 甕	(13.8) (4.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面: 5YR5/4 内面: 5YR5/4	良好

第7号堅穴建物跡

1	土師器 甕	- (4.4)	4/5残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面一部剥落、被熱している。	海綿骨針微量、繊・石英少量、白色粒多量。	外面: 5YR5/6 内面: 10YR6/4	良好
2	土師器 甕	(12.6) (4.2) (5.5)	2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。外面上部に筋状の痕跡が確認される。	海綿骨針微量、繊・石英少量、白色粒多量。	外面: 5YR5/6 内面: 5YR5/6	良好
3	土師器 甕	(13.8) (5.0)	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外外面赤彩。	繊・石英中量、白色粒多量。	外面: 5YR5/6 内面: 5YR5/6	良好
4	土師器 甕	(14.0) (4.3)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外外面赤彩。	繊・石英中量、白色粒多量。	外面: 5YR4/6 内面: 5YR4/6	良好
5	土師器 甕	(13.8) (3.8)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外外面赤彩。	石英・繊・白色粒多量。	外面: 5YR5/6 内面: 5YR5/6	良好
6	土師器 甕	(12.8) (4.6)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後丁寧なナデ。内面上半～外面上半赤彩。	石英・繊・白色粒多量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 2.5YR5/6	良好
7	土師器 甕	(13.8) (5.5)	口縁部片～全体片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後丁寧なナデ。内面上半～外面上半赤彩。	石英・繊・白色粒多量。	外面: 2.5YR5/6 内面: 2.5YR5/6	良好
8	土師器 眞甕	- (2.7)	眞甕片。内面ナデ及びヘラナデ。眞甕外面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラケズリ。眞甕内外面赤彩。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面: 2.5YR5/8 内面: 2.5YR5/8	良好
9	土師器 絲	14.0 (5.3)	1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒少量。	外面: 10YR6/4 内面: 10YR6/4	良好
10	土師器 甕	(12.3) (12.7)	1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ及びナデ。	石英・白色粒少量。	外面: 5YR4/4 内面: 5YR4/4	良好
11	土師器 甕	(17.8) (5.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面及び外面上部に輪状痕がある。	石英・白色粒中量。	外面: 7.5YR4/3 内面: 7.5YR4/3	良好
12	土師器 甕	(19.7) (4.8)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	海綿骨針微量、石英・白色粒少量。	外面: 7.5YR5/4 内面: 10YR4/1	良好



13	土師器 甕	(6.9) <4.3>	底部1/2残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒中量。	外表面：2.5YR4/6 内面：7.5YR6/1	良好
14	土師器 甕	19.2 7.1 20.5	4/5残存。内面下端へ下半ヘラケズリ。上半ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ、下半ヘラケズリ。	繊少量、石英・白色粒中量。	外表面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
15	土師器 甕	(19.3) - (6.4)	口縁部片。内面ヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊少量、石英・白色粒中量。	外表面：2.5YR5/6 内面：5YR4/6	良好
16	土製品 手捏ね	(3.0) - (1.9)	1/2残存。内外面共に指削痕残る。	石英少數、白色粒多量。	7.5YR5/4	良好
17	土製品 管状土糞	1/5残存。長さ<4.8>cm、幅<4.4>cm、重量45.2g。ナデにより整形される。	石英・白色粒少量。	2.5YR5/6	良好	
18	鉄器 鉄錠	-	一部欠損。長さ<4.7>cm、幅2.6cm、厚さ0.4cm、重量4.8g。雁股錠である。非常に薄く、脆弱である。	石英・白色粒少量。	2.5YR4/2	良好

第8号施穴建物跡

1	土師器 壺	13.3 - 5.2	完形。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外表面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
2	土師器 壺	(13.9) - (6.1)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ、外面上半赤彩。外面上半有剥落が著しい。外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：10R4/4 内面：10R4/4	良好
3	土師器 壺	(14.0) - (4.6)	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	石英・白色粒少量。	外表面：10R4/4 内面：10R4/4	良好
4	土師器 壺	(14.1) - (3.6)	口縁部へ全体部。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	石英・白色粒少量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
5	土師器 壺	(14.0) - (2.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
6	土師器 壺	- - (4.1)	体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	石英・白色粒少量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
7	土師器 瓦片	(14.0) - (2.2)	底部片。内面ナデ及びヘタミガキ。外面上半ナデ。	石英・白色粒少量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR4/8	良好
8	土師器 甕	(17.9) (6.3) (28.8)	1/4残存。内面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	赤褐色粒微量、纖・石英・白色粒中量。	外表面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/6	良好
9	土師器 甕	(16.0) (6.0) <16.8>	2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒中量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
10	土師器 甕	(12.9) (4.2) <12.2>	2/3残存。内面ナデ。内面に輪積痕が残る。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	石英・白色粒中量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR4/4	良好
11	土師器 甕	(16.4) (1.5)	口縁部へ胴部1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：5YR4/6 内面：5YR5/6	良好
12	土師器 甕	(14.0) - (8.4)	口縁部へ胴部1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
13	土師器 甕	(14.7) - (6.1)	口縁部へ胴部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外表面：10YR6/4 内面：10YR6/6	良好
14	土師器 甕	(15.8) - (7.2)	口縁部へ胴部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
15	土師器 甕	(17.8) - (4.9)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。内面輪積痕が残る。	繊微量、石英・白色粒中量。	外表面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
16	土師器 甕	(17.9) - (3.0)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。内面輪積痕が残る。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：10YR6/4 内面：7.5YR6/6	良好
17	土師器 甕	(15.8) - (2.0)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外表面：10YR7/4 内面：7.5YR7/6	良好
18	土師器 甕	- (6.8) (2.6)	底部1/2残存。内面ナデ。外面上半ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外表面：5YR4/6 内面：7.5YR4/2	良好



19	土師器 瓶	(17.4) - <9.5>	口縁部へ脚部上半片。内面へラケズリ後丁寧なナデ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部が残す。	繊微量、石英、白色粒少 量。	外表面：10YR6/4 内面：7.5YR6/6	良好
20	土師器 瓶	(9.9) - <7.4>	口縁部片。内面へラケズリ後ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部が残す。	石英、白色粒少 量。	外表面：5YR5/6 内面：10YR5/3	良好
第10号堅穴建物跡						
1	土師器 壺	(11.8) - <3.8>	口縁部へ全体部。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラ ケズリ後ナダ。内面部赤彩。	繊微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR4/6 内面：5R4/6	良好
2	土師器 壺	(11.8) - <3.7>	1/4残存。内面へラケズリ後ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。内面上半へ内面赤彩。	繊微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR8/6 内面：2.5YR5/6	良好
3	土師器 壺	(12.8) - <3.6>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。内面部赤彩。	繊微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR8/6 内面：2.5YR5/6	良好
4	土師器 壺	(13.8) - <3.6>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。	繊微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR8/8 内面：5YR8/8	良好
5	土師器 壺	(13.8) - <2.4>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。	石英、白色粒少 量。	外表面：10YR5/4 内面：7.5YR6/6	良好
6	土師器 壺	(13.8) - <5.7>	1/4残存。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。内外共に被熱し、剥落している。内面赤彩。高壺の可能性がある。	繊微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：7.5YR6/6 内面：2.5YR5/6	良好
7	土師器 壺	(14.8) - <1.8>	口縁部片。内面ナダ及びミガキ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ及びミガキ。内面部黒彩。	石英燃燒量。	外表面：N1 内面：N3	良好
8	土師器 高壺	12.4 - 7.4	坪部残存。坪部表面へラケズリ後丁寧なナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。全体的にやや被熱し、外面部には焼けた粘土が一部に付着している。坪部表面へ口縁部外面赤彩。	繊少量、石 英、白色粒中 量。	外表面：5YR4/6 内面：2.5YR5/6	良好
9	土師器 高壺	- (7.7) <2.0>	脚部片。内面へラケズリ。瓶部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。外面部赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR6/6 内面：5YR6/6	良好
10	土師器 高壺	- (8.3) <3.2>	脚部残存。坪部表面へラケズリ後丁寧なナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後丁寧なナダ。	繊微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：2.5YR4/3 内面：10YR5/4	良好
11	土師器 鉢	(9.0) - <11.1>	2/3残存。内面ナダ及びヘラナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。外面部灰付着。	繊微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：2.5YR6/6 内面：2.5YR6/6	良好
12	土師器 鉢	(11.6) - <3.0>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へ内面赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
13	土師器 甕	(21.6) - <10.7>	口縁部へ脚部上半1/3残存。内面へラナダ及びナダ。指頭痕が残る。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へ口縁部外面に輪形痕が残る。	繊微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：10YR7/4 内面：10YR7/4	良好
14	土師器 甕	(15.6) - <4.7>	口縁部1/2残存。内面へラケズリ。口縁部内外共にヨコナダ。	南浦村判、赤 褐色燃燒量、石 英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR5/4 内面：2.5YR5/4	良好
15	土師器 甕	(17.5) - <6.5>	口縁部片。内面へラケズリ後ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。口縁部内部輪形痕が残る。	石英、白色粒中 量。	外表面：10YR4/6 内面：10YR5/3	良好
16	土師器 甕	(15.6) - <4.5>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部ナダ。	繊微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：10YR5/3 内面：10YR6/6	良好
17	土師器 甕	(15.8) - <5.5>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部へラケズリ後ナダ。	石英、白色粒少 量。	外表面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
18	土師器 甕	(17.8) - <5.9>	口縁部片。内面へラケズリ。口縁部内外共にヨコナダ。一部ナダ。外面部へラケズリ後ナダ。	石英、白色粒少 量。	外表面：10YR2/1 内面：10YR4/2	良好
19	土師器 甕	(15.5) - <4.1>	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部ナダ。	石英、白色粒少 量。	外表面：10YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
20	土師器 甕	- <6.5>	脚部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外面部ナダ。全体的に摩耗している。粉土が白色を呈し、他と明確に異なる。	石英燃燒量、石 英、白色粒多 量。	外表面：10YR8/8 内面：10YR8/3	良好
21	土師器 甕	- <3.1>	脚部下半～底部1/3残存。内面及び底部へラケズリ後ナダ。	繊微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好



22	土師器 甕	~ (7.1) ~ (1.5)	底部残存。内面ナデ。外面及び底部ヘタケズリ。外面及び底部復付着。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR5/6	良好
23	土師器 甕	~ (7.8) ~ (1.1)	底部片。内外面ナデ。底部木薙班が残る。	石英・白色粒微 量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
24	土師器 甕	(21.5) ~ (6.5) ~ (2.7)	口縁部片。内面ヘタケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面ヘタケズリ後一部ヘリミガキ。外面部復付着。	石英・白色粒微 量。	外面：7.5YR5/6 内面：5YR4/6	良好
25	土師器 甕	~ (5.7) ~ (2.7)	底部片。内面ナデ。下端ヘタケズリ。外面ヘタケズリ後ナデ。下端 ヘタケズリ。	石英・白色粒少 量。	外面：7.5YR4/1 内面：7.5YR4/3	良好
26	須恵器 杯蓋	~ (2.2)	体部片。内外面共にロクロナデ。	繊・白色粒微 量。	外面：10Y5/1 内面：10Y5/1	良好
27	土製品 管状土器	1/3残存。長さ6.5cm、幅4.6cm、重量85.1g。ナデにより整形される。	石英・白色粒少 量。	7.5YR4/4	良好	
28	土製品 管状土器	1/4残存。長さ5.1cm、幅4.5cm、重87.8g。ナデにより整形される。	石英・白色粒微 量。	10YR4/3	良好	
29	土製品 管状土器	1/6残存。長さ3.7cm、幅4.2cm、重量33.6g。ナデにより整形される。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	10YR4/3	良好	

第11号窓穴建物跡

1	土師器 甕	(13.9) ~ (3.5)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少 量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
2	土師器 甕	(14.0) ~ (6.1)	1/6残存。内面ヘタケズリ後ミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面剥落。口縁部内面～外面赤彩。	石英・白色粒少 量。	外面：2.5YR5/6 内面：10YR6/4	良好
3	土師器 甕	(13.0) ~ (4.1)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナ デ。内面及外面上半赤彩。口唇部に復付着。	石英・白色粒少 量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
4	土師器 甕	(12.0) ~ (3.7)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ後ナデ。全体的に摩耗している。内外面赤彩。	石英・白色粒微 量。	外面：7.5YR7/6 内面：7.5YR7/6	良好
5	土師器 甕	(13.0) ~ (4.2)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ。	繊・石英・白 色粒少 量。	外面：5YR8/6 内面：5YR8/6	良好
6	土師器 甕	(13.0) ~ (3.5)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケ ズリ後ナデ。内外面復付着。	繊・石英・白 色粒微量。	外面：5YR8/6 内面：5YR8/6	良好
7	土師器 甕	(15.2) ~ (4.8)	2/3残存。内面ナデ及ヒラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面ヘタケズリ後ナデ。内面剥落する。内面上半～外面赤彩。	繊微量、石 英・白色粒多 量。	外面：2.5YR8/4 内面：2.5YR8/4	良好
8	土師器 甕	(14.0) ~ (4.6)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ後ナデ。内面一部剥落。内面上半赤彩。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR8/4 内面：2.5YR8/4	良好
9	土師器 甕	(14.0) ~ (4.6)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ後ナデ。内面一部剥落。内面上半赤彩。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR8/4 内面：2.5YR8/4	良好
10	土師器 甕	(16.0) ~ (4.5)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナ デ。内外面赤彩。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
11	土師器 甕	(14.0) ~ (3.8)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタ ケズリ。内外面復付着。内面赤彩。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面：2.5YR8/8 内面：2.5YR8/8	良好
12	土師器 甕	~ (4.0)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケズリ後 ナデ。内面剥落。内面上半～外面上半赤彩。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面：2.5YR4/8 内面：2.5YR4/8	良好
13	土師器 甕	(14.0) ~ (3.8)	4/5残存。甕部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケ ズリ後ナデ。脚部内面ナデ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケズ リ後ナデ。甕部内面上半～脚部外面赤彩。甕部内外面一部黒彩、 脚部内面黒彩。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外：10YR2/1 内：5YR4/6	良好
14	土師器 高杯	(14.2) (6.8) (8.3)	4/5残存。甕部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケズ リ後ナデ。脚部内面ナデ。瓶部内外面共にヨコナデ。外面ヘタケズ リ後ナデ。甕部内面上半～脚部外面赤彩。甕部内外面一部黒彩、 脚部内面黒彩。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外：2.5YR4/6 内：2.5YR4/6	良好
15	土師器 高杯	~ (10.4) ~ (11.45)	3/5残存。甕部内面ヘタケズリ後ナデ。口縁部外ヨコナデ。外面ヘ タケズリ後ナデ。脚部内面ヘタケズリ。瓶部内外面ヨコナデ。外面ヘ タケズリ後ナデ。甕部内面剥落。脚部内面赤彩。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
16	土師器 高杯	~ (10.0) ~ (9.3)	2/5残存。甕部内面ヘタケズリ。口縁部外ヨコナデ。外面ヘタケズリ後 ナデ。甕部内面ヘタケズリ。瓶部内外面ヨコナデ。外面ヘタケズリ後 ナデ。甕部内面以外赤彩。	繊少量、石 英・白色粒中 量。	外：5YR8/6 内：5YR8/6	良好



17	土師器 高杯	- (7.1)	脚部4/5残存。坯部内面ナデ。外面へラケズリ後ナデ。脚部内面へラケズリ。外面へラケズリ後ナデ。脚部内面以外赤彩。	繊少量、石英・白色粒少量。 外面 : SYR6/8 内面 : SYR6/8	良好
18	土師器 鉢	- (3.5)	頭部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面削付着。口縁部内面～外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/8 内面 : 2.5YR6/6	良好
19	土師器 甕	14.9 -	3/5残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ及びヘラケズリ・ミガキ。内面輪積痕が残る。外面一部剥落。	繊・赤褐色粒少量、石英・白色粒中量。 外面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
20	土師器 甕	15.6 -	3/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ及びヘラケズリ・ミガキ。内面輪積痕が残る。外面一部剥落。	繊・赤褐色粒微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/6 内面 : 10YR7/6	良好
21	土師器 甕	(13.6) -	3/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後丁寧なナデ。内面輪積痕残る。	繊少量、石英・白色粒中量。 外面 : SYR6/6 内面 : SYR6/6	良好
22	土師器 甕	(15.4) -	1/3残存。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。内面輪積痕残る。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 7.5YR6/4 内面 : 10YR6/6	良好
23	土師器 甕	(13.9) -	口縁部～脚部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕残る。	繊微量、石英・白色粒中量。 外面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
24	土師器 甕	(16.4) -	口縁部～脚部上半1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。内面輪積痕残る。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
25	土師器 甕	(15.5) -	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。	繊微量、石英・白色粒中量。 外面 : SYR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
26	土師器 甕	(4.8) -	脚部下半～底部1/3残存。内面へラケズリ。外面へラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/1	良好
27	土師器 甕	(6.9) (7.1)	脚部下半～底部1/4残存。内面ナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面へラケズリ。外面部剥落。	繊・赤褐色粒微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
28	土師器 甕	(6.6) (4.0)	底部片。内面へラナデ。外面及び底部へラケズリ後丁寧なナデ。外面部剥着。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 2.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
29	土師器 甕	(6.9) (2.1)	底部片。内面ナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面剥落。底部木葉痕。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 10YR6/4 内面 : SYR5/4	良好
30	土製品 玉	完形。長さ2.6cm、幅0.5cm、重量21.7g。ナデにより整形される。	石英・白色粒少量。	7.5YR5/6	良好
31	土製品 砥石	長さ0.6cm、幅0.7cm、厚さ1.0cm、重量58.0g。男の胴部の内面を砥石に転用したものの、金属鋸刃による擦痕が顕著に確認される。	繊少量、石英・白色粒中量。	10YR2/1	良好
32	土製品 砥石	長さ1.8cm、幅0.9cm、厚さ0.7cm、重量4.0g。便の胴部の内面を砥石に転用したもの。金属鋸刃による擦痕が顕著に確認される。	石英・白色粒少量。	10YR7/4	良好
33	石製品 臼三	完形。長さ0.5cm、幅0.7cm、厚さ0.3cm、重量0.3g。側縁に研磨痕が顕著に確認される。			
34	石器 磨石類	一部欠損。長さ1.4cm、幅0.9cm、厚さ0.8cm、重量44.0g。側縁に研磨痕が確認される。			
35	石器 磨石類	一部欠損。長さ4.7cm、幅0.5cm、厚さ3.1cm、重量299.5g。側縁に一部研磨痕が確認される。			
36	石製品 研石類	完形。長さ6.8cm、幅0.9cm、厚さ0.3cm、重量33.2g。明確な使用痕は確認できないが、整形されている可能性が高い。			

第12号堅穴建物跡

1	土師器 坪	(14.0) -	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後丁寧なナデ。内面下半～外面上半半赤彩。	繊微量、石英・白色粒中量。 外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
2	土師器 坪	(13.1) -	2/3残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。一部剥落してている。	繊微量、石英・白色粒中量。 外面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
3	土師器 坪	13.4 -	内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : 7.5YR5/8 内面 : 7.5YR5/8	良好
4	土師器 坪	(14.0) -	口縁部～体部片。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面赤彩。外面に土柱が付着している。	繊微量、石英・白色粒中量。 外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
5	土師器 坪	(12.9) -	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後丁寧なナデ。内面は被熱し剥落している。	繊微量、石英・白色粒少量。 外面 : SYR5/6 内面 : SYR5/6	良好





6	土師器 环	(13.5) - (3.9)	1/5残存。内面ヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ後ヘラミガキ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。	石英・白色粒少量。	外面部 : 7.5YR6/4 内面部 : 7.5YR6/6	良好
7	土師器 环	(12.9) - (3.4)	口縁部へ体部片。内面ミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	石英・白色粒少量。	外面部 : 10YR6/4 内面部 : 10YR6/4	良好
8	土師器 环	(14.0) - (3.7)	口縁部へ体部片。内面ナデ及びヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ後ヘラミガキ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。	石英・白色粒少量。	外面部 : 10YR6/6 内面部 : 10YR6/6	良好
9	土師器 环	(13.8) - (4.2)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 5YR6/6 内面部 : 5YR6/6	良好
10	土師器 环	(13.8) - (4.3)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面部 : 7.5YR6/6 内面部 : 7.5YR7/4	良好
11	土師器 环	(13.8) - (4.3)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。外面部に粘土が付着している。	石英・白色粒少量。	外面部 : 7.5YR7/6 内面部 : 7.5YR7/6	良好
12	土師器 环	- (3.6)	1/3残存。内面ヘラミガキ。外面部ヘラケズリ後ヘラミガキ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 5YR5/6 内面部 : 5YR5/6	良好
13	土師器 环	12.4 - 5.1	4/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後丁寧なナデ。内面及び外面上半赤彩。内面に保付着。	海綿骨針・繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
14	土師器 环	(12.8) - (4.4)	1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後丁寧なナデ。口唇及び外面上は摩耗している。内面へ外面上半赤彩。	赤褐色粒・石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
15	土師器 环	(12.0) - (4.0)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後丁寧なナデ。内面赤彩。	赤褐色粒・石英・白色粒微量。	外面部 : 2.5YR6/6 内面部 : 2.5YR6/6	良好
16	土師器 环	(15.0) - (4.2)	1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ナデ。内外面赤彩。	赤褐色粒微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR6/6 内面部 : 2.5YR6/6	良好
17	土師器 环	(13.0) - (5.0)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。外面上半赤彩。	石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
18	土師器 环	(13.0) - (3.8)	口縁部へ体部片。内面ヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後丁寧なナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
19	土師器 环	(14.8) - (4.0)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 10YR5/6 内面部 : 10YR5/6	良好
20	土師器 环	14.1 - 4.8	ほぼ完形。内面ナデ及びヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後丁寧なナデ。外面上は摩耗している。内外面黒彩。	石英・白色粒微量。	外面部 : 10YR8/4 内面部 : 10YR8/4	良好
21	土師器 环	12.5 - 5.9	完形。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。外面上半黒彩。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部 : 5YR6/6 内面部 : 5YR6/6	良好
22	土師器 环	(12.8) - (4.5)	1/3残存。内面ミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ後ミガキ。外面部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内外面黒彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 5YR6/6 内面部 : 5YR7/6	良好
23	土師器 环	12.6 - 4.4	2/3残存。内面ヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ後ヘラミガキ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。内外面黒彩。	海綿骨針微量、石英・白色粒少量。	外面部 : M41 内面部 : N31	良好
24	土師器 环	- (3.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ナデ。内外面黒彩。	石英・白色粒微量。	外面部 : 2.5YR5/4 内面部 : 10YR4/1	良好
25	土師器 环	(13.6) - (3.0)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。	石英・白色粒微量。	外面部 : 5YR6/6 内面部 : 5YR6/6	良好
26	土師器 环	(23.8) - (7.7)	2/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。口縁部外面に横模様が残る。	非褐色粒微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
27	土師器 高环	(13.9) - (9.5)	2/3残存。环部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラケズリ。脚部内外面共にヨコナデ。脚部外面部ヘラケズリ後ナデ。脚部内面以外赤彩。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
28	土師器 高环	- (6.4)	脚部2/3残存。环部内面ナデ。脚部内面ヘラケズリ。脚部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面上に粘土が付着している。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好
29	土師器 高环	- (4.5)	脚部。环部内面ナデ。脚部内面ヘラケズリ。脚部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。施成や穿孔が確認されるが、器面調整の際に抉れた可能性もある。脚部内面以外赤彩。	石英・白色粒少量。	外面部 : 2.5YR5/6 内面部 : 2.5YR5/6	良好

30	土師器 高环	10.0 3.3	脚部。内面へラケズリ。外面へラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外表面 : 10YR6/6 内面 : 10YR8/1	良好
31	土師器 高环	- (10.0) (3.0)	脚部。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面赤褐色。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 2.5YR5/6 内面 : 5YR6/6	良好
32	土師器 鉢	(18.0) - (8.0)	口縁部へ体部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内外赤茶色。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR5/6	良好
33	土師器 盤	18.9 4.5 28.1	11(1)完形。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。下端はヘラケズリ。底面木葉斑。内面輪積痕有り。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
34	土師器 甕	(17.2) 3/5残存。 (9.5) (29.5)	3/5残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ及びミガキ。底部へラケズリ後ナデ。外面下半部粘着有り。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
35	土師器 甕	16.1 7.7 20.7	ほぼ完形。内面ナデ。上端はヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。口縁部内部輪積痕有り。	繊少量。石英・白色粒中量。	外表面 : 7.5YR6/6 内面 : 5YR6/6	良好
36	土師器 甕	12.2 7.3 18.9	4/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。	繊少量。石英・白色粒中量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
37	土師器 甕	14.3 5.7 19.7	11(2)完形。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ及びミガキ。底部へラケズリ後ナデ。内面剥落有り。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
38	土師器 甕	(13.3) (15.4)	口縁部へ胴部2/3残存。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
39	土師器 甕	- (7.1) (16.4)	胴部へ底部2/3残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。全体的に摩耗している。	繊微量。石英・白色粒多量。	外表面 : 5YR6/6 内面 : 5YR6/6	良好
40	土師器 甕	(16.8) (7.4) (20.3)	2/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。外面は熱し剥落が著しい。	繊少量。石英・白色粒多量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
41	土師器 甕	(11.6) - (18.2)	3/5残存。内面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面一部熱し剥落し。外側に火付有り。口縁部内外面へ赤茶色。	繊少量。石英・白色粒多量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
42	土師器 甕	(15.8) - (13.7)	口縁部へ胴部1/3残存。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。外面は剥落が著しい。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 2.5YR4/6 内面 : 7.5YR4/6	良好
43	土師器 甕	(20.2) - (23.4)	口縁部へ胴部上半1/6残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。口縁部内部及び外面剥落し落している。	繊少量。石英・白色粒中量。	外表面 : 10YR7/4 内面 : 10YR7/4	良好
44	土師器 甕	(18.6) - (11.8)	口縁部へ胴部上半1/3残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。外面は剥落している。	繊微量。石英・白色粒多量。	外表面 : 5YR6/6 内面 : 5YR6/6	良好
45	土師器 甕	(20.7) - (10.3)	口縁部へ胴部上半1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面は摩耗している。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 5YR4/4 内面 : 5YR4/3	良好
46	土師器 甕	(12.8) - (14.7)	1/6残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ及びミガキ。外面内に一部粘土が附着している。内面輪積痕有り。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 5YR4/4 内面 : 5YR4/3	良好
47	土師器 甕	(23.6) - (22.7)	1/6残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕有り。	繊・褐色粒微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 5YR4/4 内面 : 5YR3/4	良好
48	土師器 甕	(16.1) - (14.5)	1/6残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
49	土師器 甕	(14.6) - (12.6)	1/6残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後丁寧なナデ。内面輪積痕有り。	繊微量。石英・白色粒中量。	外表面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
50	土師器 甕	(13.1) - (8.2)	口縁部へ胴部上半片。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内外一部剥落する。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 2.5YR5/6 内面 : 7.5YR4/1	良好
51	土師器 甕	(16.0) - (8.5)	口縁部へ胴部上半片。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。	繊微量。石英・白色粒少量。	外表面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
52	土師器 甕	- (4.2) (15.4)	胴部下部へ底面部1/4残存。内面へラナデ。外面及び底部へラケズリ後丁寧なナデ。内面輪積痕有り。	石英・白色粒少量。	外表面 : 5YR4/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
53	土師器 甕	(19.7) - (0.9)	口縁部。内面共にヨコナデ。	石英・白色粒微量。	外表面 : 7.5YR6/6 内面 : 7.5YR6/6	良好



54	土師器 甕	(16.0) - (5.0)	口縁部片。内外面ヘラミガキ。胎土が白色を呈し、他と明らかに異なる。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR8/6 内面：7.5YR8/6	良好
55	土師器 甕	(13.8) - (3.2)	口縁部片。内外面ナデ。胎土が白色を呈し、他と明らかに異なる。	礫・石英・白色粒多量。	外面：7.5YR7/6 内面：7.5YR7/6	良好
56	土師器 甕	- (8.0) (3.5)	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ。底部ヘラケズリ後ナデ。	礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR8/6 内面：5YR8/6	良好
57	土師器 甕	- (7.2) (2.4)	底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部木葉痕。	礫微量・石英・白色粒中量。	外面：5YR8/4 内面：7.5YR5/6	良好
58	土師器 甕	- (5.6) (1.3)	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部木葉痕。内面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：10YR5/4 内面：7.5YR4/6	良好
59	土師器 甕	(6.0) (1.3)	底部片。内面ナデ。底部木葉痕。内面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/6 内面：5YR4/6	良好
60	土師器 甕	- (1.2)	底部片。内面ナデ。底部木葉痕。胎土が白色を呈し、他と明らかに異なる。	石英・白色粒微量。	外面：10YR8/3 内面：10YR8/3	良好
61	土師器 甕	- (4.5)	頸部片。内外面ナデ。外面に2条の疣状が発達する。胎土が白色を呈し、他と明らかに異なる。	礫・石英・白色粒多量。	外面：10YR8/4 内面：10YR8/4	良好
62	土師器 甕	(26.2) (7.4) (22.2)	ほぼ完形。内面ナデ。下端はヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。	礫微量・石英・白色粒中量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
63	土師器 甕	(29.5) - (15.9)	口縁部へ胴部上半1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面及び口縁部外輪積痕が残る。64と同一個体。	礫・赤褐色粒微量・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/6 内面：7.5YR5/6	良好
64	土師器 甕	- (12.2) (6.0)	胴部下半へ底部1/3残存。内面ナデ。下端はヘラケズリ後ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。63と同一個体。	礫・赤褐色粒微量・石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
65	土師器 甕	(18.8) - (6.4)	口縁部へ胴部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	礫微量・石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/6 内面：5YR4/6	良好
66	土師器 甕	(18.3) - (5.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	礫微量・石英・白色粒少量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
67	土師器 甕	- (6.0) (5.2)	底部片。内面ナデ。下端はヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。	海綿骨針・礫微量・石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：5YR4/6	良好
68	須恵器 壺蓋	- (2.3)	体部片。内面クロナデ。外面回転ヘラケズリ。	礫・白色粒中量。	外面：2.5YR5/1 内面：2.5YR5/1	良好
69	須恵器 蓋・瓶類	(9.8) (1.1)	口縁部片。内外面クロナデ。内外面に輪付着。	精良。	外面：2.5YR5/3 内面：2.5YR5/3	良好
70	土製品 手捏ね	6.8 - 2.8	完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面輪積痕が残る。	石英・白色粒少量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
71	土製品 手捏ね	(6.3) (1.6)	底部片。内面ナデ及びミガキ。外面及び底部ナデ。	礫微量・石英・白色粒少量。	外面：10YR5/6 内面：5YR5/6	良好
72	土製品 玉	1/2残存。長さ3.7cm、幅2.3cm、重さ22.2g。	ナデにより整形される。	石英・白色粒中量。	7.5YR6/6	良好
73	土製品 玉	1/2残存。長さ3.7cm、幅2.7cm、重さ26.5g。	ナデにより整形される。	石英・白色粒少量。	7.5YR6/6	良好
74	土師器 甕	- (6.9)	胴部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ。断面も含め、胎土が付着している。	石英・白色粒少量。	外面：10YR3/3 内面：10YR3/3	良好
75	土製品 不明	- (2.7)	一部欠損。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。上端に工具で刻みを施す。甕の輪積痕の可能性が高い。	海綿骨針・礫微量・石英・白色粒少量。	7.5YR4/4	良好
76	土製品 不明	- 3.6	一部欠損。内面に織維状の圧痕が残る。	石英・白色粒少量。	SY3/1	良好
77	石器 磨石類	一部欠損。長さ10.5cm、幅8.1cm、厚さ2.7cm、重さ327.0g。側縁の一部に研磨痕が確認される。平坦面の一部も研磨により凹む。				
78	石器 磨石類	一部欠損。長さ6.5cm、幅1.8cm、厚さ4.1cm、重さ384.5g。側縁及び平坦面の一部に敲打痕が確認される。				



79	貝製品 ヘル	一部欠損。ハマグリの腹様をヘラ状に使用したもの。擦痕・磨滅痕が確認できる。
----	-----------	---------------------------------------

第13号堅穴建物跡

1	土師器 坪	(11.9) - (3.5)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面ヘロ縁部内外赤彩。	石英・白色粒 微量。	外面：2.5YR5/6 内面：5YR6/6	良好
2	土師器 坪	14.0 - (2.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面赤彩。	石英・白色粒 中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
3	土師器 高坪	- (5.5)	坪部～脚部片。坪部内面ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。脚部内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR6/6 内面：10YR7/6	良好
4	土師器 高坪	- (7.3) (2.1)	脚部片。内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。脛部ナデ。	石英・白色粒 少量。	外面：2.5YR7/6 内面：10YR5/2	良好
5	土師器 絲	(12.0) - (4.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外面赤彩。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：5YR4/6 内面：2.5YR3/1	良好
6	土師器 甕	(13.8) (2.0)	口縁部～脚部上半1/4残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ及びナデ。口縁部に輪積痕が残る。	石英・白色粒 中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/1	良好
7	土師器 甕	(17.8) (3.4)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。内外面に輪積痕が残る。外面煤付着。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：10YR3/1 内面：10YR5/4	良好
8	土師器 甕	(17.9) (4.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外側に輪積痕が残る。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR4/6 内面：10YR3/1	良好
9	土師器 甕	(13.8) (6.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面に輪積痕が残る。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR5/4 内面：5YR4/6	良好
10	土師器 甕	(13.8) (6.8)	口縁部片。内面ヘラケズリ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ナデ。口脇部に輪積痕が残る。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：2.5YR5/4 内面：10YR5/3	良好
11	土師器 甕	(15.8) (4.8)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒 少量。	外面：2.5YR6/6 内面：7.5YR7/4	良好
12	土師器 甕	- (5.0)	底部1/3残存。内面剥落が著しい。外面・底部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	石英・白色粒 少量。	外面：5YR7/6 内面：10YR7/4	良好
13	土師器 甕	- (9.5) (1.7)	底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好

第14号堅穴建物跡

1	土師器 坪	(14.8) (5.2)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面下側～外面赤彩。内外面共に擦耗・被熱が著しい。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：2.5YR4/8 内面：2.5YR4/6	良好
2	土師器 坪	(14.1) (3.5)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒 中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/8	良好
3	土師器 坪	(12.8) (3.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	微量、石 英・白色粒少 量。	外面：2.5YR4/8 内面：2.5YR4/6	良好
4	土師器 高坪	- (4.5)	脚部片。坪部内面ナデ。脚部内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。脚部外側赤彩。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR4/6 内面：10YR5/4	良好
5	土師器 甕	(15.7) (10.8)	口縁部～脚部上半片。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ及びナデ。外側ナデ。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
6	須恵器 外蓋	(15.7) (4.3)	ほぼ完形。内外面共にロクロナデ。外側面部回転ヘラケズリ。MT15～TK10型式。	白色粒少 量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR6/1 内面：5YR6/1	良好
7	石器 磨石類	完形。長さ7.0cm、幅4.4cm、厚さ2.0cm。重量290.6g。側縁の一部に研磨痕及び敲打痕が確認される。				

第15号堅穴建物跡

1	土師器 坪	(14.8) (3.1)	1/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	微量、石 英・白色粒中 量。	外面：2.5YR4/6 内面：2.5YR5/6	良好
2	土師器 坪	(12.3) (5.1)	1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英少 量、石 英・白色粒中 量。	外面：5YR6/8 内面：5YR6/8	良好



3	土師器 坏	(13.8) - (3.9)	口縁部片。内外面共にナゲ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR6/8 内面 : 5YR6/8	良好
4	土師器 坏	(14.0) - (5.3)	ほぼ完形。内面ヘラナデ後ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ及びミガキ。内面下半～外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
5	土師器 坏	(14.0) - (5.7)	1/4残存。内面ナゲ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ及びミガキ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
6	土師器 坏	(14.0) - (4.0)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
7	土師器 坏	(15.0) - (3.7)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ナゲ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 10R4/6 内面 : 10R4/6	良好
8	土師器 坏	(15.0) - (4.5)	1/5残存。内面～口縁部外面ヘミガキ。外面ヘラケズリ後ナゲ及びミガキ。内外面黒彩。	石英・白色粒少 量。	外面 : 10R4/1 内面 : 10R4/1	良好
9	土師器 坏	(11.1) - (1.8)	口縁部片。内外面共にヨコナゲ。内外面赤彩。	石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
10	土師器 坏	- (4.3) - (6.8)	脚部下半～底部1/3残存。内面ヘラナゲ。外面及び底部ヘラケズリ。外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 10YR7/4	良好
11	土師器 壞	(14.3) - (5.5)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。ヘラケズリ後ナゲ。内面剥落。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 10YR4/1	良好
12	土師器 壞	(13.5) - (2.3)	口縁部片。内面共にヨコナゲ。	石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/6 内面 : 5Y4/1	良好
13	土師器 壞	(15.8) - (4.0)	口縁部片。内外面共にヨコナゲ。外面輪積斑残。	石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 10YR5/4	良好
14	土師器 壞	(13.8) - (4.6)	口縁部片。内外面共にヨコナゲ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR6/6 内面 : 2.5YR6/6	良好
15	土師器 壞	- (8.0) - (2.2)	底部片。内面ナゲ。外面及び底部ヘラケズリ後ナゲ。	石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR3/1 内面 : 5YR3/1	良好
16	土師器 壞	- (7.7) - (2.2)	底部片。内面ヘラナデ後ナゲ。外面及び底部ヘラケズリ後ナゲ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/4 内面 : 2.5YR5/6	良好
17	土製品 玉	完形。長さ2.5cm、幅2.7cm、重量16.4g。ナゲにより整形される。	石英・白色粒少 量。	10YR5/4	良好	
18	土製品 玉	完形。長さ2.3cm、幅2.9cm、重量19.3g。ナゲにより整形される。	石英・白色粒中 量。	10YR5/4	良好	
19	土製品 玉	完形。長さ2.5cm、幅2.6cm、重量18.1g。ナゲにより整形される。	石英・白色粒中 量。	10YR5/4	良好	
20	石製品 有孔円盤	1/2残存。長さ<1.5cm、幅<2.1cm、厚さ<0.3cm、重量1.6g。側縁には金属器による加工痕が残る。				
21	石器 貝石	一部残存。長さ(2.4)cm、幅(2.0)cm、厚さ<0.6cm、重量3.5g。裏面は削磨面を有す。側縁及び平面面を使用面としている。				

第16号竪穴建物跡

1	土師器 坏	(16.3) - (4.8)	口縁部～体部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。外面に煤付着。内面～外面上半赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR4/4 内面 : 2.5YR4/4	良好
2	土師器 坏	(13.0) - (2.8)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
3	土師器 坏	(14.0) - (2.8)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/4 内面 : 5YR4/4	良好
4	土師器 坏	(15.3) - (3.1)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好
5	土師器 坏	(14.4) - (3.3)	口縁部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内外面赤彩。	赤褐色・石英・白色粒微 量。	外面 : 2.5YR6/8 内面 : 2.5YR6/8	良好
6	土師器 坏	(13.0) - (4.1)	口縁部～体部片。内面ナゲ。口縁部内外面共にヨコナゲ。外面ヘラケズリ後ナゲ。内面上半～外面上赤彩。	繊微量、石英・白色粒中 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 2.5YR5/6	良好



7	土師器 高杯	(13.7) ~ <4.8>	环部/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ケズリ後ナデ。内部赤茶彩。全体的に摩耗している。环部と脚部の接合部で剥離している。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：2.5YR6/6 内面部：SYR6/6	良好
8	土師器 高杯	(10.0) ~ <3.4>	口縁部片。内面ヘラケズリ及びヘミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：7.5YR6/6 内面部：7.5YR6/6	良好
9	土師器 高杯	(10.0) ~ <4.0>	口縁部～体部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ケズリ後ナデ。	石英・白色粒少 量。	外面部：7.SYR5/3 内面部：7.SYR5/1	良好
10	土師器 高杯	(8.7) ~ <8.6>	1/3残存。环部内外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。脚部内面ヘラケズリ及びミガキ。脚部外表面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：SYR6/6 内面部：10YR6/6	良好
11	土師器 高杯	- <4.4>	环部～脚部片。环部内面ナデ。外面部ケズリ後ナデ。环部内外面及び脚部外表面赤茶彩。	石英・白色粒少 量。	外面部：2.5YR6/5 内面部：10YR5/3	良好
12	土師器 高杯	(6.7) ~ <3.5>	脚部/3残存。内面ナデ。脚部内面木葉底。外面部ナデ。脚部外表面ヘラケズリ。环部と脚部の接合部で剥離している。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：7.5YR5/4 内面部：10YR6/4	良好
13	土師器 鉢	(8.8) ~ <4.5>	1/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。口縁部外表面積痕が現る。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：5YR4/6 内面部：5YR4/6	良好
14	土師器 鉢	(16.0) ~ <3.1>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面部赤茶彩。外面部付着。	石英・白色粒少 量。	外面部：2.5YR4/4 内面部：2.5YR5/6	良好
15	土師器 鉢	(12.0) ~ <4.2>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ナデ。内面部赤茶彩。	石英・白色粒少 量。	外面部：2.5YR4/8 内面部：2.5YR8/8	良好
16	土師器 鉢	(14.3) ~ <3.5>	口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。内面部～体部上半赤茶。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：2.5YR4/6 内面部：2.5YR4/6	良好
17	土師器 鉢	(14.0) ~ <3.6>	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面部赤茶彩。	石英・白色粒少 量。	外面部：2.SYR4/6 内面部：2.SYR4/6	良好
18	土師器 甕	18.5 6.0 15.0	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。底部ヘラケズリ後ナデ。外面部付着。	繊微量、石英・白色粒中 量。	外面部：2.5YR4/6 内面部：SYR6/6	良好
19	土師器 甕	(16.8) (5.5) ~ <28.6>	3/4残存。内面ヘラケズリ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。内面輪積痕が現る。外面部ヘラケズリ後ナデ。	繊少量、白色粒多 量。	外面部：10YR7/4 内面部：10YR7/4	良好
20	土師器 甕	(22.0) ~ <20.6>	1/3残存。内面ヘラケズリ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面輪積痕が現る。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：5YR5/6 内面部：5YR5/6	良好
21	土師器 甕	(16.9) ~ <8.0>	口縁部～脚部上半1/4残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラナデ及びナデ。内面輪積痕が現る。	繊微量、石英・白色粒中 量。	外面部：2.5YR5/6 内面部：2.5YR5/6	良好
22	土師器 甕	(15.0) ~ <4.6>	口縁部～脚部上半1/5残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面部付着。	褐色色微 量、石英・白色粒中 量。	外面部：7.SYR7/6 内面部：10YR6/4	良好
23	土師器 甕	(17.0) ~ <5.2>	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。一部ヘラナデ。外面部ナデ。内面輪積痕が現る。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面部：10YR4/1 内面部：7.5YR4/1	良好
24	土師器 甕	(12.5) ~ <9.8>	口縁部～脚部上半片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。脚部内面に輪積痕が現る。	織・褐色色 微量、石英・ 白色粒少 量。	外面部：SYR5/6 内面部：SYR5/6	良好
25	土師器 甕	(12.8) ~ <4.2>	口縁部2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面部赤茶彩。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面部：2.5YR4/6 内面部：2.5YR4/6	良好
26	土師器 甕	- (7.8) ~ <19.0>	脚部下半～底部1/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面剥落が著しい。	赤褐色粒・繊 微量、石英・ 白色粒少 量。	外面部：10YR5/6 内面部：SYR5/6	良好
27	土師器 甕	- (7.0) ~ <12.0>	脚部下半2/3残存。内面ナデ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面部に一部ヘミガキ状の工具痕が現る。内面輪積痕が現る。内面加热・剥落が著しい。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面部：7.5YR6/6 内面部：SYR6/6	良好
28	土師器 甕	- (6.0) ~ <4.2>	底部2/3残存。内面輪積痕が現る。内面ヘラケズリ後ナデ。底部は摩耗している。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面部：SYR4/4 内面部：SYR4/3	良好
29	土師器 甕	(21.5) ~ <10.2>	口縁部～脚部上半1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。口縁部外表面積痕が現る。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面部：5YR5/6 内面部：5YR5/6	良好
30	土師器 甕	(21.5) ~ <4.0>	口縁部片。内面共にヨコナデ。内面輪積痕が現る。	石英・白色粒少 量。	外面部：10YR6/4 内面部：10YR6/4	良好



31	土製品 土玉	完形。長さ2.5cm、幅2.6cm、重量16.8g。ナデにより整形される。	石英・白色粒 微細。	10YR6/4	良好
32	鉄器 環	一部欠損。長さ9.3cm、幅3.5cm、厚さ0.4cm、重量24.5g。主頭形で、無闇である。			

第17号穴空建物跡

1	土師器 环	- (4.1)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面赤彩。	織微量、石英、白色粒中量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
2	土師器 环	(12.0) (2.2)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面赤彩。	石英、白色粒 微細。	外：2.5YR4/4 内：2.5YR4/4	良好
3	土師器 环	(14.0) (3.3)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面赤彩。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/4	良好
4	土師器 环	(17.0) (4.1)	1/6残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	織微量、石英、白色粒中量。	外：2.5YR4/6 内：2.5YR4/6	良好
5	土師器 环	(15.0) (5.5)	2/6残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面に埋葬し外面上に被熱した粘土が付着している。内面及び外面上半部赤彩。	海綿骨針、織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
6	土師器 环	(16.0) (3.5)	口縁部～体部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面赤彩。	海綿骨針微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
7	土師器 环	(14.3) (3.3)	1/6残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデの後ミガキ。外面上ヘラケズリ後ミガキ。内面赤彩。	海綿骨針微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR6/6 内：2.5YR5/2	良好
8	土師器 高环	(13.7) (9.8)	2/6残存。环部内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面以降赤彩。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
9	土師器 高环	(13.0) (4.6)	环部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面赤彩。	石英、白色粒中量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR6/6	良好
10	土師器 絲	(5.7) (1.7)	底部片。内面ナデ。底部木葉痕。底部以外赤彩。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/4 内：2.5YR5/4	良好
11	土師器 甕	15.4 4 27.8	完形。内面ナデ。口縁部の外側共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後下車ナデ及びミガキ。下車上ヘラケズリ。底部ヘラケズリ後ナデ。内面半平及び外側に堤付有。内面は剥落する。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
12	土師器 甕	(17.5) (15.7)	1/6残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面剥落が著しい。内面輪積痕が残る。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
13	土師器 甕	(16.7) (6.3)	口縁部～脚部上半1/4残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面剥落が著しい。	海綿骨針微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
14	土師器 甕	(12.0) (14.7)	1/8残存。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面半平ナデ。下車下ヘラケズリ。内面輪積痕が残る。	織少量、石英、白色粒中量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
15	土師器 甕	(6.8) (14.2)	脚部下車～底部1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面剥落が著しい。	織微量、石英、白色粒中量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
16	土師器 甕	(5.8) (1.6)	底部下車～底部1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	織微量、石英、白色粒中量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
17	土師器 甕	- (7.7) (4.7)	底部片。内面ヘラナデ。外面及底部分ヘラケズリ後ナデ。	織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/6 内：2.5YR5/6	良好
18	土師器 甕	24.6 7.6 25.7	完形。内面ナデ及びヘラケズリ。下車上ヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後丁寧ナデ。内面及び外側一部に保付有。	海綿骨針、織微量、石英、白色粒少量。	外：2.5YR5/8 内：2.5YR5/8	良好
19	須恵器 壺、瓶類	(1.4)	口縁部片。内面外クロナデ。内面に自然釉付着。	白色粒少量。	外：5Y6/1 内：5Y6/1	良好
20	土製品 手捏ね	(6.9) (4.7) (2.3)	2/3残存。内面ナデ。外面に輪積痕が残る。	石英、白色粒少量。	7.5YR6/6	良好
21	土製品 手捏ね	(9.4) (6.5) (3.2)	1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部ナデ。外側輪積痕が残る。	織微量、石英、白色粒中量。	7.5YR5/6	良好
22	土製品 管状土拂	1/4残存。長さ5.0cm、幅5.0cm、重量54.6g。ナデにより整形される。	石英、白色粒少量。	2.5YR4/1	良好	



23	土製品 不明	- (4.2)	上部破壊の底付近の被片だが、破断面に圧痕状の痕跡が残る。内 外面に剥落が著しい。	繊維量、石 英、白色粒少 量。	外表面：10YR6/6 内表面：7.5YR5/4	良好
第18号空穴標物群						
1	土師器 环	18.1 7.3 7.2	ほぼ完形。内面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面へラケズリ後ナデ及びミガキ。底部へラケズリ後ナデ。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：10YR6/6 内表面：7.5YR4/4	良好
2	土師器 环	(11.6) - (3.8)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラ ケズリ後ナデ。内面剥落する。外外面一部に埋付着。内外面赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：10YR4/6 内表面：10YR4/6	良好
3	土師器 环	(13.8) - (5.5)	U/S残存。内面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面 へラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：10YR4/8 内表面：10YR4/8	良好
4	土師器 环	(13.8) - (4.4)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナ デ。内外面赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR4/8 内表面：2.5YR4/8	良好
5	土師器 环	(14.0) - (3.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ 後ナデ。外面に剥落が著しい。	石英、白色粒少 量。	外表面：7.5YR6/6 内表面：7.5YR7/6	良好
6	土師器 环	(11.8) - (3.6)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラ ケズリ後ナデ。内外面赤彩。	石英、白色粒少 量。	外表面：7.5YR7/6 内表面：7.5YR7/6	良好
7	土師器 环	(13.9) - (4.2)	1/6残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後 ナデ。内外面赤彩。	繊維量、石 英、白色粒少 量。	外表面：10YR4/8 内表面：10YR4/8	良好
8	土師器 高环	13.6 7.4 9.2	1/2残存。环部前面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面へラケズリ後ナデ。脚部前面ナデ。腹部内外面共にヨコナ デ。外面へラケズリ後ナデ。脚部前面以外赤彩。环部内面及び口唇 部、脚部底面に摩耗が著しい。	海綿骨針・繩 微量、石英、白 色粒中量。	外表面：2.5YR4/8 内表面：2.5YR6/6	良好
9	土師器 高环	- (9.2) (5.5)	2/3残存。环部前面ナデ。外面へラケズリ後ナデ。脚部前面ナデ。腹 部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。脚部前面以外赤 彩。全体的に摩耗が著しい。	繊維量、石 英、白色粒少 量。	外表面：10YR4/8 内表面：10YR4/8	良好
10	土師器 錐	(12.7) - (10.3)	2/3残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面 へラケズリ後ナデ。内面へ半赤彩。全体的に摩耗が著しい。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：10YR4/6 内表面：10YR4/6	良好
11	土師器 錐	17.1 7.5 25.9	ほぼ完形。内面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。内外面一部剥落。内面は 一部剥落する。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：10YR4/6 内表面：10YR7/6	良好
12	土師器 錐	14.9 6.3 25.5	1/2残存。内面へラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面へラケズリ後ナデ及びミガキ。底部へラケズリ後ナデ。	繊維量、石 英、白色粒多 量。	外表面：2.5YR4/ 内表面：7.5YR4/6	良好
13	土師器 錐	(15.8) - (22.6)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後 ナデ及びミガキ。内面は一部剥落している。	海綿骨針・繩 微量、石英、白 色粒中量。	外表面：10YR5/4 内表面：10YR4/2	良好
14	土師器 錐	13.1 7.8 22.3	3/5残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面 及び底部ナデ。外面に一部剥落着。	繊維、赤褐色粒 少量、石英、白 色粒中量。	外表面：2.5YR5/6 内表面：2.5YR5/8	良好
15	土師器 錐	(12.6) - (13.3)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後 ナデ。口縁部直下は棒状工具による調整が窺える。内面は被熱により 剥落する。	海綿骨針・繩 微量、石英、白 色粒中量。	外表面：2.5YR4/8 内表面：2.5YR4/6	良好
16	土師器 錐	(16.7) - (9.2)	口縁部へ脚部上半1/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。 外面へラケズリ後ナデ。内面輪積痕が残る。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：7.5YR6/6 内表面：10YR5/3	良好
17	土師器 錐	(12.7) - (4.8)	口縁部へ脚部上半1/4残存。内面摩耗。口縁部内外面共にヨコナ デ。外面に摩耗。外外面一部に埋付着。口縁部内面へ半赤彩。	赤褐色粒・繩 微量、石英、白 色粒少量。	外表面：2.5YR4/8 内表面：2.5YR4/8	良好
18	土師器 錐	(21.6) - (3.2)	口縁部片。内面へラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：5YR3/2 内表面：10YR5/4	良好
19	土師器 錐	- (7.4) (16.6)	脚部下半へ脚部2/3残存。内面ナデ。一部へミガキ。外表面及び底部 へラケズリ後ナデ。被熱により割み状の痕跡が残る。輪積みの際の接 着面を考えられるが、その部分でおどり、効果は薄かったよう である。外外面に被熱し剥落している。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：7.5YR5/8 内表面：7.5YR5/6	良好
20	土師器 錐	- (8.1) (3.3)	底部1/2残存。内面ナデ。外表面及び底部へラケズリ後ナデ。内面被熱 し剥落する。	繊維量、石 英、白色粒中 量。	外表面：7.5YR3/4 内表面：5R3/6	良好
21	土師器 錐	- (4.8)	脚部部分。内面ナデ。外表面刷毛。	石英、白色粒少 量。	外表面：7.5YR4/6 内表面：7.5YR3/3	良好
22	土師器 錐	(16.7) - (12.9)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。 内外面共に被熱し、剥落が著しい。	繊維量、石 英、白色粒多 量。	外表面：10YR5/2 内表面：10YR5/3	良好



23	土師器 瓶	- (7.3) (3.7)	底部分。内面ヘラケズリ後ナデ。下端はヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。下端はヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面 : 7.SVR5/4 内面 : 7.SVR4/6	良好
24	土製品 羽口	一部火損。長さ5.9cm、幅4.7cm、重量127.0g。ナデにより整形される。被熱はしていないが、形態から羽口と判断した。		繊微量、石英・白色粒少量。	7.SVR3/1	良好
25	土製品 不明	一部火損。長さ3.0cm、幅0.9cm、厚さ0.9cm、重量6.7g。ナデにより整形され、指崩痕が一部確認される。被熱している。		石英・白色粒微量。	10VR5/4	良好
26	磨石類 不明	丸形。長さ6.5cm、幅3.5cm、厚さ3.3cm、重量98.0g。自然縫の上端に嵌打痕が確認される。				

第19号窓穴建物跡

1	土師器 坪	(16.0) - (3.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面部赤彩。	石英・白色粒少量。	外面 : SVR3/6 内面 : SVR4/6	良好
2	土師器 坪	(15.8) - (4.5)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面部へ外面上半赤彩。	石英・白色粒微量。	外面 : 2.SVR4/4 内面 : 2.SVR4/4	良好
3	土師器 坪	(11.9) - (5.0)	2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に剥落が著しい。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面 : 7.SVR6/8 内面 : 7.SVR5/8	良好
4	土師器 坪	(11.8) - (4.5)	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : SVR5/8 内面 : SVR5/8	良好
5	土師器 坪	(14.8) - (5.1)	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。丁寧なナデ。内面部赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : SVR4/6 内面 : SVR5/6	良好
6	土師器 坪	(9.7) - (2.5)	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面部赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.SVR5/6 内面 : 2.SVR4/6	良好
7	土師器 坪	(14.0) - (3.7)	2/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。丁寧なナデ。内面部赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.SVR4/8 内面 : 2.SVR4/8	良好
8	土師器 坪	(15.9) - (4.3)	口縁部へ体部片。内面ナデ。内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内面部赤彩。	石英・白色粒中量。	外面 : 7.SVR6/6 内面 : 7.SVR5/4	良好
9	土師器 坪	(13.9) - (4.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。口縁部外面部輪積痕がある。内面部赤彩。	石英・白色粒少量。	外面 : 7.SVR4/4 内面 : 7.SVR4/4	良好
10	土師器 坪	(16.2) - (3.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面部赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.SVR4/6 内面 : 2.SVR4/6	良好
11	土師器 高环	(15.7) - (6.7)	环認2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。脚部外面部ケズリ。内面ナデ。	繊・石英・白色粒少量。	外面 : SVR5/8 内面 : SVR5/8	良好
12	土師器 高环	- (8.7) (3.8)	脚部片。内面ナデ。腹部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面部赤彩。	石英・白色粒少量。	外面 : 7.SVR4/6 内面 : 7.SVR4/3	良好
13	土師器 钵	(13.9) - (5.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面部保有付。口縁部内面へ外面部赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : SVR3/6 内面 : SVR3/6	良好
14	土師器 钵	(10.0) - (4.6)	口縁部片。内面及び外面部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : SVR4/2 内面 : 10YR4/1	良好
15	土師器 甕	16.8 7.8 25.0	ほぼ完形。内面ヘラケズリ後ナデ。頭部付近は輪積痕、指痕痕が複数ある。口縁部内外面共にヨコナデ。口縁部外面部輪積痕が複数ある。外面部ケズリ後ナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 7.SVR4/6 内面 : 7.SVR5/6	良好
16	土師器 甕	(15.3) - (9.9)	口縁部へ胴部上半2/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	繊・赤褐色・繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : SVR4/6 内面 : 7.SVR5/3	良好
17	土師器 甕	(15.0) - (6.3)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊・石英・白色粒微量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
18	土師器 甕	(14.0) - (6.3)	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	海綿骨針・繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.SVR4/4 内面 : 2.SVR4/4	良好
19	土師器 甕	(14.0) - (6.3)	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒中量。	外面 : 10R4/6 内面 : 10R4/6	良好
20	土師器 甕	(14.0) - (5.2)	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒少量。	外面 : SVR5/6 内面 : SVR5/8	良好



21	土師器 甕	(12.3) - (3.9)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面付着。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.5V2/1 内面 : 2.5VS/4	良好
22	土師器 甕	- (5.1) (2.4)	底部2/3残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面 : 5VR4/2 内面 : 5VR4/1	良好
23	土師器 甕	(6.3) (3.1)	底部1/3残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ。底部木葉痕。内面剥落する。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 10VR3/2 内面 : 10VR4/2	良好
24	土師器 甕	(7.0) (1.7)	底部1/3残存。内面ナデ。外面ヘラケズリ。底部木葉痕。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面 : 5VR4/6 内面 : 7.5VR5/6	良好
25	土師器 甕	- (8.0) (2.1)	底部片。内面ミガキ。外面ナデ。下端はヘラケズリ。底部木葉痕。	石英・白色粒微量。	外面 : 2.5VS/4 内面 : 2.5VS/4	良好
26	土師器 甕	- (8.0) (1.9)	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部木葉痕。	石英・白色粒中量。	外面 : 5VR4/8 内面 : 2.5VR5/1	良好
27	土師器 甕	- (10.0) (7.1)	底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。下端はヘラケズリ。外面ヘラケズリ。外面付着。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 7.5VR4/6 内面 : 7.5VR5/6	良好
28	須恵器 环身	(14.0) -	口縁部片。内外共にロクロナダ。TK43型式。	繊・白色粒少量。	外面 : 5V1/1 内面 : 5V1/1	良好
29	須恵器 环蓋	(14.0) -	1/3残存。内面及び口縁部ロクロナダ。外面回転ヘラケズリ。内面に指捺痕残る。TK43型式。	繊・白色粒少量。	外面 : 2.5V6/2 内面 : 2.5V6/2	良好
30	土製品 手捏ね	(4.1) -	1/3残存。内面ナデ。外面上に輪積痕が残る。口縁部に刻みが施される。	石英・白色粒少量。	7.5VR4/6	良好
31	土製品 手捏ね	(8.2) (3.2)	口縁部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ。内面輪積痕が残る。	石英・白色粒少量。	5V3/1	良好
32	土製品 鏡石	完形。長さ5.3cm、幅5.1cm、厚さ1.0cm、重約11.7g。土師器の胸腹部を砾石に用いたもの。上端に金剛石を研ぐため前縫が1ヶ所確認される。	石英・白色粒少量。	10VR4/2	良好	
33	石器 砾石	形態。長さ8.7cm、幅5.0cm、厚さ1.0cm、重約126.4g。上端が平滑で、光沢があり、使用面と考えられる。左側縫は明確な使用痕は確認されない。裏面は未調整である。				

第20号堅穴建物跡

1	土師器 甕	(13.8) - (4.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面内面彩绘。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.5VS/6 内面 : 2.5VS/6	良好
2	土師器 甕	(13.8) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面内面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 5VR5/6 内面 : 5VR5/6	良好
3	土師器 甕	(13.8) - (2.7)	口縁部片。口縁部内外共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒微量。	外面 : 5VR6/8 内面 : 5VR6/8	良好
4	土師器 甕	(12.8) - (3.7)	1/6残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。外面上面赤彩。	繊・石英・白色粒微量。	外面 : 2.5VR4/8 内面 : 2.5VR4/8	良好
5	土師器 甕	- (3.2)	口縁部片。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.5VR4/8 内面 : 2.5VR4/8	良好
6	土師器 甕	(13.7) - (4.1)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面上面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.5VR4/8 内面 : 2.5VR4/8	良好
7	土師器 高杯	- (4.3)	脚部片。环部内面剥落。脚部内面ナデ。外面上半ヘラケズリ後ナデ。下半ナデ。环部及び脚部外面赤彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面 : 2.5VR4/8 内面 : 2.5VR4/8	良好
8	土師器 高杯	- (5.3)	脚部片。环部内面ヘラケズリ及びミガキ。脚部内面ヘラケズリ。外面上半ヘラケズリ及びミガキ。	赤褐色粒・石英・白色粒少量。	外面 : 5VR5/6 内面 : 5VR5/6	良好
9	土師器 鉢	(10.0) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面上ナデ。	石英・白色粒少量。	外面 : 7.5VR4/6 内面 : 7.5VR4/6	良好
10	土師器 鉢	(7.7) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面上ナデ。	赤褐色粒・石英・白色粒微量。	外面 : 10VR5/3 内面 : 10VR6/4	良好
11	土師器 鉢	(9.8) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面上ナデ及びミガキ。	赤褐色粒・石英・白色粒微量。	外面 : N31 内面 : 10VR6/4	良好



12	土師器 甕	(19.7) <5.2)	口縁部1/4残存。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。	赤褐色・石英・白色粒少量。	外面 : 10YR6/4 内面 : 10YR6/4	良好
13	土師器 甕	(17.0) ~ <5.7)	口縁部1/4残存。内面へラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。内面に輪積痕残る。	赤褐色・石英・白色粒少量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 5YR4/4	良好
14	土師器 甕	(13.5) ~ (9.1)	口縁部片。内面へラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒少量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
15	土師器 甕	(15.7) ~ (4.1)	口縁部片。内外面共にヨコナデ。一部へラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面 : 2.5YR4/1 内面 : 2.5YR4/1	良好
16	土師器 甕	~ (6.5) (8.8)	底部1/5残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ。底部は摩耗している。外面やく剥落する。外縁保付着。	褐色少、石英・白色粒多量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 7.5YR6/6	良好
17	土師器 甕	~ (6.6) (4.6)	底部1/3残存。内面は剥落する。外面及び底部へラケズリ後ナデ。底部は摩耗している。外縁保付着。	褐色微量、石英・白色粒中量。	外面 : 10YR7/4 内面 : 10YR7/4	良好
18	土師器 甕	(5.3) (3.1)	底部1/2残存。内面へラナデ。外面及び底部へラケズリ後ナデ及びミガキ。	褐色微量、石英・白色粒中量。	外面 : 2.5YR4/6 内面 : K31	良好
19	土師器 甕	(17.6) (6.5) (15.2)	1/6残存。内面へラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。	褐色微量、石英・白色粒中量。	外面 : 5YR4/4 内面 : 2.5YR3/6	良好
20	須恵器 灰蓋	(11.9) ~ (3.3)	口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面上端剥離へラケズリ。M115 ~TK10型式。	褐色・白色粒少量。	外面 : 7.5Y7/1 内面 : 7.5Y7/2	良好

第21号堅穴建物跡

1	土師器 壺	(13.7) ~ (4.4)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面へ赤茶。	褐色微量、石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR4/6 内面 : 2.5YR6/6	良好
2	土師器 壺	(12.7) ~ (4.2)	1/4残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外面一部輪積痕が残る。内面赤茶。	褐色微量、石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR6/6	良好
3	土師器 壺	(11.0) ~ (5.0)	1/4残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。	石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR6/6 内面 : 2.5YR6/6	良好
4	土師器 壺	(13.9) ~ (4.6)	1/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ。内面は一部剥落する。内面へ外面上半赤茶。	褐色微量、石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/6	良好
5	土師器 壺	(13.8) ~ (3.6)	口縁部へ体部上半片。内面は剥落する。口縁部内外面共にヨコナデ。外面は剥落する。内面赤茶。	褐色・石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
6	土師器 高杯	~ (11.0)	2/3残存。底部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。脚部内面ナデ。外面ナデ。底部は意図的に打ち欠かれた可能性が強い。脚部内面は底上がへんした状態で被焼したと考えられ、焼成された土塊が保存している。	褐色・石英・白色粒少、中量。	外面 : 5YR5/6 内面 : 5YR5/6	良好
7	土師器 鉢	(9.0) ~ (7.4)	1/5残存。内面へラケズリ後ナデミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。内面へラケズリ後ナデ。外面は摩耗が著しい。口縁部内外面へ外面上赤茶。	褐色微量、赤褐色・石英・白色粒少、中量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
8	土師器 鉢	(13.8) ~ (4.3)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面共にヨコナデ。内面赤茶。	褐色・褐色少、石英・白色粒少、中量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/6	良好
9	土師器 甕	(21.6) ~ (24.3)	1/4残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。内面及び口縁部外表面輪積痕が残る。内面下半は剥落が著しい。	褐色微量、石英・白色粒中量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 5YR4/8	良好
10	土師器 甕	~ (7.0) (17.0)	脚部下半～底部1/3残存。内面へラケズリ後ナデ。外面へラケズリ後ミガキ。底部へラケズリ後ナデ。内面一部保付着。	褐色微量、石英・白色粒少、中量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 7.5YR6/6	良好
11	土師器 甕	~ (5.8) (2.4)	底部1/2残存。内面ナデ。外面へラケズリ後ナデ。底部木葉裏。外面は摩耗している。	褐色微量、石英・白色粒少、中量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 2.5Y2/1	良好
12	土師器 甕	24.5 7.0 27.0	ほぼ完形。内面へラナデ及びナデ。下端はヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面へラケズリ後一部ナデ。	褐色微量、赤褐色・石英・白色粒少、中量。	外面 : 7.5YR5/6 内面 : 10YR5/6	良好
13	土製品 手捏ね	(4.8) ~ (2.0)	口縁部片。内外面へラケズリ後ナデ。	褐色微量、石英・白色粒中量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 7.5YR5/6	良好
14	土製品 土玉	完形。長さ3.0cm、幅2.7cm、重量18.0g。ナデにより整形される。	石英・白色粒微量。	7.SYR4/4	良好	
15	石製品 防護車	完形。長さ11.0cm、幅4.0cm、厚さ1.9cm、重量42.5g。表面面に微痕。側面に金属部により加工痕が残る。側面には周囲の痕跡が確認される。	褐色微量。			



16	石器品 勾玉	完形。長さ2.0cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重量1.1g。全体的に良く研磨される。縫線上や穴側面が残る。孔はやや歪んでおり、組れによる可能性もある。
----	-----------	--

第22号墳穴建物跡

1	土師器 壺	- <5.1> 1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面上半へ外面上半赤彩。	繊少量、石英、白色粒中量。 外側：7.5R4/8 内側：7.5R4/8	良好
2	土師器 壺	(13.0) - <4.7> 1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面上半へ外面上半赤彩。	繊少量、石英、白色粒中量。 外側：10R4/8 内側：10R4/8	良好
3	土師器 壺	(16.0) - <3.3> 口縁部へ体部片。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。口縁部内面へ外面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：10R3/6 内側：10R4/8	良好
4	土師器 壺	(14.0) - <4.1> 1/4残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：10R4/8 内側：10R4/6	良好
5	土師器 壺	(13.8) - <5.1> 口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。	繊、赤褐色 石英、白色粒少量。 外側：2.5R5/8 内側：2.5R5/6	良好
6	土師器 壺	(13.8) - <4.1> 口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ナデ。内外面赤彩か。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：3YR4/4 内側：3YR4/6	良好
7	土師器 壺	(14.5) - 3.9 4/5残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面上半へ外面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：10YR4/6 内側：2.5YR4/8	良好
8	土師器 壺	(14.0) - <4.4> 口縁部へ体部片。内外面ヘミガキ。内外面赤彩。	石英、白色粒微量。 外側：2.5R4/6 内側：2.5R5/6	良好
9	土師器 壺	(10.0) - <4.7> 口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面は被熱により剥落する。内外面赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：2.5R4/6 内側：2.5R4/8	良好
10	土師器 壺	(13.7) - <3.2> 口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内外面赤彩。	繊、石英、白色粒微量。 外側：5YR5/4 内側：2.5R5/6	良好
11	土師器 壺	- <4.8> 口縁部へ体部1/3残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。内面は一部剥落する。内外面赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：10R4/6 内側：10R4/8	良好
12	土師器 高壺	(14.8) - <8.2> 4/5残存。壺部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ナデ。脚部ヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：3YR4/6 内側：3YR4/8	良好
13	土師器 高壺	- <10.0> <4.3> 脚部/3残存。内面ヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。内面の一部及び外側付着。外面上赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：10R4/8 内側：5YR5/6	良好
14	土師器 鉢	- <4.3> <10.0> 体部/3残存。内面ナデ及びヒナナデ。外側及び底部ヘラケズリ後ナデ。内面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：2.5YR4/6 内側：2.5YR5/6	良好
15	土師器 甕	16.5 6.5 20.3 完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側及び底部ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面輪積痕が残る。内面は剥落している。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：10R4/6 内側：10R4/6	良好
16	土師器 甕	(16.7) <1.1> 口縁部へ脚部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。外面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：7.5YR5/4 内側：7.5YR2/1	良好
17	土師器 甕	(17.2) <7.8> 口縁部へ脚部上半片。内面ナデ及びヒナナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ナデ。外面上半赤彩。	石英、白色粒少量。 外側：7.5YR5/4 内側：7.5YR5/4	良好
18	土師器 甕	(15.9) - <6.0> 口縁部へ脚部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ナデ及びヒナナデ。口縁部外側輪積痕が残る。外側剥落付着。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：10YR5/4 内側：10YR5/4	良好
19	土師器 甕	(16.0) - <4.9> 口縁部へ脚部上半片。内面剥落が著しい。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。外面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：7.5YR3/3 内側：7.5YR4/3	良好
20	土師器 甕	(11.2) - <5.9> 口縁部へ脚部上半片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。外面上半赤彩。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：5YR4/6 内側：7.5YR6/6	良好
21	土師器 甕	(11.0) - <5.1> 口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外側ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英、白色粒少量。 外側：7.5YR5/4 内側：7.5YR5/3	良好
22	土師器 甕	- (6.6) <3.8> 底部2/3残存。内面ヘラナデ及びナナデ。外側及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：2.5YR3/6 内側：10YR3/2	良好
23	土師器 甕	- (7.0) <2.1> 底部4/5残存。内面はぼ剥落する。外側及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英、白色粒中量。 外側：10YR4/2 内側：10YR5/3	良好



24	土師器 瓶	(22.0) ~ (5.6)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	繊微量、石英・白色粒少 量。	外面 : 7.5YR6/4 内面 : 10YR4/1	良好
25	土師器 瓶	~ (7.1) (4.0)	底部。内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 7.5YR4/3	良好
26	土製品 手捏ね	7.7 2.3 4.2	111F完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外面 輪縁部が残る。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 7.5YR5/4 内面 : 10YR5/4	良好
27	土製品 管状土器	1/3残存、長さ<5.4cm、幅4.3cm、重量66.1g、ナデにより整形される。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	10YR5/4	良好	
28	土製品 砾石	一部欠損。長さ<3.8cm、幅3.2cm、厚さ0.6cm、重量10.1g。土師器環の内面を 一部砾石として適用したもの。	石英・白色粒少 量。	10YR3/2	良好	
29	土製品 不明	完形。長さ2.5cm、幅1.9cm、厚さ0.5cm、粘土を注口状に形成したもの。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	10YR5/4	良好	
30	土製品 不明	111F完形。長さ4.8cm、幅1.5cm、重量18.8g。円窓状を呈し、木葉痕・織維痕が 確認できる。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	10YR5/4	良好	

第23号堅穴建物跡

1	土師器 壺	~ (2.6)	体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後 ナデ。内外面赤色。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 5YR5/4	良好
2	土師器 壺	(15.0) ~ (6.3)	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。一部ナデ。 外表面及びミガキ。内面に輪縁痕残る。	繊・半色粒 微量、石英・ 白色粒少 量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
3	土師器 壺	(16.7) ~ (7.4)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。外面 に輪縁痕残る。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/4 内面 : 5YR4/4	良好
4	土師器 壺	~ (6.9) (2.8)	底部。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英・白色粒少 量。	外面 : 2.5YR5/6 内面 : 10YR2/1	良好
5	土師器 瓶	(26.9) (8.0) (24.9)	2/3残存。内面下端~下半ヘラケズリ。上半ヘラケズリ後一部ナデ。 口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 7.5YR6/4 内面 : 7.5YR6/6	良好

第24号堅穴建物跡

1	土師器 壺	~ (2.0)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内外面 赤色。	石英・白色粒少 量。	外面 : 10YR4/6 内面 : 2.5YR4/6	良好
2	土師器 壺	(13.8) ~ (4.8)	2/3残存。内面ヘラナデ及びナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面 ヘラケズリ後ナデ。内面下端半ヘラケズリ。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 7.5YR4/8 内面 : 7.5YR4/8	良好
3	土師器 壺	(13.8) ~ (4.4)	口縁部~体部片。内面ナデ。口縁部の外表面共にヨコナデ。外面ヘ ラケズリ後ナデ。内面は熱熱し剥落する。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 5YR4/6 内面 : 5YR4/6	良好
4	土師器 壺	(13.8) ~ (3.3)	1/4残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズ リ後ナデ。内面下端半ヘラケズリ。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 2.5YR4/8	良好
5	土師器 壺	(13.6) ~ (3.2)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。内面 赤色。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 10YR4/6 内面 : 2.5YR4/8	良好
6	土師器 壺	~ (2.7)	体部1/3残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ。外 面ヘラケズリ後ナデ。外面赤色。内面は剥落のため不明。内外面共に 剥落が著しい。	繊微量、石 英・白色粒多 量。	外面 : 2.5YR4/8 内面 : 7.5YR4/3	良好
7	土師器 壺	(13.8) ~ (2.7)	口縁部~体部片。内面ヘラミガキ。口縁部内外面共にヨコナデ及び ヘラミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。	石英・白色粒 微量。	外面 : 10YR1.7/1 内面 : 10YR1.7/1	良好
8	土師器 高壺	13.7 9.0 8.3	111F完形。底部内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケ ズリ後ナデ。脚部内面ヘラケズリ。腹部内外面及内脚部外面赤色。坏部 内面剥落が著しい。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 10YR6/4 内面 : 2.5YR4/6	良好
9	土師器 高壺	~ (10.8) (8.2)	脚部~被部2/3残存。坏部内面ヘラナデ。脚部内面ヘラケズリ。被部 内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外面 : 5YR6/8 内面 : 5YR6/8	良好
10	土師器 鉢	11.3 ~ 9.6	4/5残存。内面はほぼ剥落する。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘ ラケズリ後ナデ。外面摩耗が著しい。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 7.5YR6/6 内面 : 10YR6/4	良好
11	土師器 鉢	(13.4) ~ (6.4)	1/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面 ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外面 : 10YR5/4 内面 : 7.5YR4/3	良好



12	土師器 鉢	(9.8) (4.3) 8.7	1/3残存。内面ナデ及びヘナナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側 及び底部へラケズリ後ナダ。内面に剥落する。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外側：2.5YR4/6 内面：10YR6/6	良好
13	土師器 甕	16.0 (6.9) 33.3	2/3残存。内面巣巣のヘラケズリ。内面下半はほほ剥落する。口縁部 内外共にヨコナダ。外側及び底部へラケズリ。	赤褐色少 量、石 英・白色粒多 量。	外側：5YR4/6 内面：10YR6/4	良好
14	土師器 甕	(11.6) (15.0)	1/4残存。内面へラケズリ及びミガキ。内面輪積痕が残る。口縁部 内外共にヨコナダ。外側へラケズリ後ナデ及びミガキ。	白 色・赤褐色 少量、石 英・白色粒中 量。	外側：10YR5/4 内面：7.5YR4/6	良好
15	土師器 甕	- (7.0) (2.4)	底部片。内面へラケズリ後ナダ。外側及び底部へラケズリ後ナダ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：7.5YR4/6 内面：7.5YR5/6	良好
16	須恵器 环身	(13.8) (2.9)	口縁部片。外側共にロコナダ。外側自然輪付着。TK10～TK43型 式焼。	白色較微量。	外側：5RG5/1 内面：5RG5/1	良好
17	須恵器 环身	- (3.4)	体部片。外側共にロコナダ。外側下半回転へラケズリ。外側自 然輪付着。	繊・白色粒少 量。	外側：5RG6/1 内面：5RG6/1	良好
18	土製品 羽口	11.1H完形。長さ10.4cm、幅7.3cm、重量211.9g。外側共にヘナナダ及びナダ。 外側上端は暑しく被熱している。		繊少 量、石 英・白色粒多 量。	7.5YR5/6	良好
19	土製品 羽口	瓶部片。長さ3.8cm、幅8.1cm、重畠15.0g。外側共にナダ及びヘナナダ。 上端は暑しく被熱している。		石英・白色粒少 量。	7.5YR4/6	良好
20	土製品 玉王	完形。長さ3.1cm、幅3.6cm、重量39.7g。ナダにより整形される。孔の周囲 はヘタクナダ。		石英・白色粒 中量。	10YR8/4	良好
21	土製品 玉王	1/2残存。長さ2.2cm、幅1.5cm、重量10.2g。ナダにより整形される。孔の周囲 はヘタクナダ。		繊・石英・白 色粒微量。	10YR8/4	良好
22	石製品 筋押車	1/2残存。長さ2.2cm、幅3.8cm、厚さ1.4cm、重量14.2g。側縁及び下面は金属器による加工痕及び擦痕が確認され る。下端に削除した痕跡が確認される。被熱している。				
23	石器 筋押車	一部欠損。長さ12.5cm、幅6.5cm、厚さ4.0cm、重量425.5g。側縁の一部に研磨痕が確認される。				
第25号竪穴建物跡						
1	土師器 坪	(14.0) (3.3)	口縁部片。内面へラケズリ。口縁部内外共にヨコナダ。外側へラ ケズリ後ナダ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
2	土師器 坪	12.2 4.8	ほほH完形。内面へ口縁部外側へラミガキ。外側へラケズリ。外側中 位に輪付着。内外共に一部剥落する。	繊微量、石 英・白色粒中 量。	外側：5YR8/8 内面：5YR5/8	良好
3	土師器 坪	(14.0) (3.3)	口縁部片。内面へナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側へラケ ズリ後ナダ。内外共に一部剥落する。	石英・白色 粒微量。	外側：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
4	土師器 坪	(14.0) (3.1)	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側ナダ。	石英・白 色・赤褐色粒 微量。	外側：10YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
5	土師器 坪	(11.9) (2.4)	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側へラケズ リ後ナダ。内外共に剥落。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：2.5TR4/8 内面：2.5TR4/8	良好
6	土師器 鉢	- (5.8)	体部片。内面ナダ及びヘナナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側 へラケズリ。口縁部内外へ外側赤彩。外側へ剥落する。	繊・石英・白 色粒少 量。	外側：2.5TR4/8 内面：10YR6/4	良好
7	土師器 甕	10.8 6.0 10.2	1/3残存。内面ナデ及びヘナナダ。口縁部内外共にヨコナダ。外側 及び底部へラケズリ後ナダ。内外共に剥落が著しい。	繊・石英・白 色粒少 量。	外側：10YR4/3 内面：2.5TR3/2	良好
8	土師器 甕	(16.5) (4.8)	口縁部片。内面へラケズリ。口縁部内外共にヨコナダ。外側へラ ケズリ後ナダ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：10YR2/1 内面：7.5YR4/8	良好
9	土師器 甕	(16.2) (5.4)	口縁部片。口縁部内外共にヨコナダ。外側へラケズリ後ナダ。外 面に輪積痕残る。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：10YR5/4 内面：10YR3/2	良好
10	土師器 甕	(8.0) (3.2)	底部片。内面ナダ。外側及び底部へラケズリ後ナダ。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：10YR6/4 内面：10YR5/4	良好
11	土製品 手捏ね	3.1 (3.2)	ほほH完形。内外面及び底部ナダ。指痕痕残る。	海綿骨針微 量、白色粒中 量。	外側：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
12	土製品 手捏ね	(3.9) (2.0)	1/2残存。内外面及び底部ナダ。指痕痕残る。	繊微量、石 英・白色粒少 量。	外側：7.5YR5/4 内面：10YR3/1	良好
13	土製品 玉王	完形。長さ2.8cm、幅3.1cm、重量25.6g。ナダにより整形される。		石英・白色粒 少 量。	10YR5/4	良好



14	土製品 不明	- (2.4)	ほぼ完形。一部に木葉痕が確認される。	石英、白色粒 少量。	7.5YR6/6	良好
15	石器 磨石類	一部欠損	長さ<16.2cm、幅10.5cm、厚さ9.1cm、重さ1,649g。上端に一部敲打痕が確認される。一部被熱している。			

第26号穴窓建物跡

1	土師器 环	14.3 - 4.7	完形。内面ハラナデ及びナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある打ち欠きが確認される。口唇部の摩耗が著しい。	織中量、石 英、白色粒多 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
2	土師器 环	14.6 - 5.2	ほぼ完形。内面に被熱が著しく剥落している。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある打ち欠きが確認される。外面上部に赤色。	織中量、石 英、白色粒多 量。	外表面：5YR6/6 内面：2.5YR5/8	良好
3	土師器 环	14.0 - 5.7	2/3残存。内面ナダ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある打ち欠きが確認される。内面～外面上半部赤色。	織少量、石 英、白色粒中 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
4	土師器 环	13.8 - (3.5)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナダ。内面は剥落する。外面上部に打痕がある。	織微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
5	土師器 环	- (2.7)	体部片。内面ナダ。口縁部内面ナダ、外面上部ナダ。外面上部に打痕がある。内面赤色。	海綿骨針・織 微量、石英、白 色粒少量。	外表面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
6	土師器 环	(14.0) - (3.3)	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部ナダ。内面赤色。	石英、白色粒 少量。	外表面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
7	土師器 环	(14.2) - (3.5)	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。内面赤色。	石英、白色粒 少量。	外表面：5YR4/1 内面：5YR4/1	良好
8	土師器 环	- (5.1)	体部・底部残存。内面共にハラケズリ後ミガキ。外面上部に打痕がある。断面の摩耗が著しい。	海綿骨針・織 微量、石英、白 色粒少量。	外表面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
9	土師器 甕	15.6 7.8 22.9	完形。内面下半ナダ。上部ハラケズリ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。内面下半打痕。胴部下半に意図的に打痕がある。	織少量、石 英、白色粒中 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
10	土師器 甕	(14.2) - (2.4)	2/3残存。内面ハラケズリ後ナダ。被熱による剥落が著しい。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織少量、石 英、白色粒多 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
11	土師器 甕	(20.0) - (8.0)	口縁部・胴部上半片。ハラナデ及びナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	海綿骨針・赤 褐色粒微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
12	土師器 甕	26.2 9.1 20.8	ほぼ完形。内面ハラケズリ後ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	赤褐色粒微 量、織少量、石 英、白色粒多 量。	外表面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好

第27号壁窓建物跡

1	土師器 环	12.6 - 4.1	ほぼ完形。内面ハラナデ後ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織微量、石 英、白色粒中 量。	外表面：10R5/6 内面：10R5/6	良好
2	土師器 环	(14.1) - (4.1)	口縁部～体部片。内面ハラナデ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	石英、白色粒 中量。	外表面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
3	土師器 环	(12.0) - (5.4)	1/5残存。内面ナダ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織少量、石 英、白色粒中 量。	外表面：2.5YR4/6 内面：2.5YR4/6	良好
4	土師器 环	(12.0) - (4.5)	口縁部片。内面ハラケズリ後ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：2.5YR3/6 内面：2.5YR3/6	良好
5	土師器 环	(14.0) - (3.0)	口縁部片。内面ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織、石英、白 色粒微量。	外表面：2.5YR3/6 内面：2.5YR3/6	良好
6	土师器 环	11.5 - 5.3	2/3残存。内面ナダ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	赤褐色粒微 量、織、石 英、白色粒少 量。	外表面：7.5YR6/6 内面：2.5YR5/8	良好
7	土师器 环	(11.1) - (4.8)	1/3残存。内面ナダ及びミガキ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	赤褐色粒微 量、織、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR6/8 内面：5YR6/6	良好
8	土师器 环	(15.9) - (6.8)	1/3残存。内面ナダ。口縁部内外面共にヨコナダ。外面上部に打痕がある。	織微量、石 英、白色粒少 量。	外表面：5YR5/8 内面：5YR5/8	良好



9	土師器 坏	(14.0) (3.7)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。内外面赤銹。	繊・石英・白色粒少量。	外面：2.5YR8/8 内面：2.5YR4/8	良好
10	土師器 高坏	- (2.9)	脚部片。坏部内面ミガキ。外面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ナデ、外面部ヘラケズリ後ナデ。坏部内面及び外面赤銹。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：10R4/6 内面：5YR6/6	良好
11	土師器 高坏	- (4.2)	脚部片。坏部内面ヘラケズリ後ナデ。脚部内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ後ナデ。坏部内面及び外面赤銹。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：10R4/6 内面：10R4/6	良好
12	土師器 杯	- (6.0)	脚部片。内面ナデ及びヘリナデ。内面脚部ヘラケズリ。外面ヘラケズリ及びミガキ。外面剥落著しい。内面赤銹。	繊少量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR8/6 内面：10YR5/6	良好
13	土師器 甕	(16.6) <(16.5)	1/2残存。内面ナデ。一部指痕有る。口縁部内外面共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。内面及び口縁部外周部積植根が残る。	繊微量、石英・白色粒多量。	外面：2.5YR8/6 内面：7.5YR7/8	良好
14	土師器 甕	(14.4) <(8.3)	1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ及びミガキ。内面積植根がある。	繊微量、石英・白色粒多量。	外面：5YR6/6 内面：10YR6/4	良好
15	土師器 甕	(15.3) <(13.6)	1/4残存。内面ヘラナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ及びミガキ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR3/6 内面：5YR5/6	良好
16	土師器 甕	(14.0) <(2.5)	口縁部片。口縁部内外面共にヨコナデ。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/6 内面：7.5YR4/6	良好
17	土師器 甕	(12.1) <(5.9)	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：5YR3/6 内面：2.5YR3/6	良好
18	土師器 甕	- (8.4) <(13.0)	脚部下半～底部2/3残存。内面ナデ及びヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	赤褐色繊微量、石英・白色粒少量。	外面：10YR6/6 内面：10YR6/6	良好
19	土師器 甕	- (7.0) <(3.0)	底部1/2残存。内面ヘラケズリ後ナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR3/3 内面：7.5YR5/4	良好
20	土師器 甕	- (9.9) <(3.5)	底部片。内面ヘラケズリ及びナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/4 内面：2.5YR5/4	良好
21	土師器 甕	- (7.7) <(1.5)	底部片。内外面ナデ。底部木薬瓶。被熱している。	石英・白色粒少量。	外面：2.5YR8/6 内面：2.5YR5/6	良好
22	土師器 甕	- (8.0) <(1.4)	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部木薬瓶。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：N31	良好
23	土師器 甕	- (7.8) <(1.4)	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ。底部木薬瓶。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面：2.5YR4/4 内面：2.5YR6/2	良好
24	土師器 甕	- (3.4)	頸部片。内面ハケ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ハケ。外面に煤付着。	繊・石英・白色粒微量。	外面：2.5YR6/6 内面：2.5YR5/6	良好
25	土師器 甕	- (8.4)	胴部片。内面ヘラナデ及びナデ。外面ハケの後ナデ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/3	良好
26	土師器 甕	- (5.0)	胴部片。内面ナデ。外面ハケ。	繊・石英・白色粒微量。	外面：10YR2/1 内面：10YR6/6	良好
27	土師器 甕	- (10.1) <(9.3)	底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。下端ヘラケズリ。外面ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/4 内面：5YR4/8	良好
28	須恵器 坏身	- (2.4)	口縁部片。内外面共にロクロナデ。	白色粒少量。	外面：2.5YR4/1 内面：2.5YR5/4	良好
29	須恵器 ハソウ	- (2.7)	口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面に波状文が施される。	白色粒微量。	外面：5G5/1 内面：5G4/1	良好
30	土製品 手捏ね	6.8 2.0 2.7	ほぼ完形。内外面共にナデ。底部木薬瓶。	繊微量、石英・白色粒少量。	7.5YR4/6	良好
31	土製品 手捏ね	(3.0) - 2.0	1/2残存。内面ナデ。指痕痕有る。	石英・白色粒少量。	10YR5/6	良好
32	土製品 砥石	完形。長さ4.6cm、幅5.4cm、厚さ0.6cm。重量17.2g。土師器甕の胴部を砥石として再利用したもの。	繊微量、石英・白色粒少量。	7.5YR4/4	良好	



第28号堅穴建物跡

1	土師器 壺	14.4 5.4 (4.7)	2/3残存。内面ヘラミガキ。口縁部内外共にヨコナデ及びミガキ。外面部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：10YR5/4 内面部：5YR5/6	良好
2	土師器 壺	(14.0) -	口縁部へ体部片。内面ヘラミガキ。口縁部内外共にヨコナデ及びミガキ。外面部ヘラケズリ。内外面黒彩。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部：10YR3/1 内面部：10YR3/1	良好
3	土師器 壺	(15.0) -	1/4残存。内面ナデ及びミガキ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。内外面黒彩。	石英・白色粒少量。	外面部：10YR6/4 内面部：10YR2/1	良好
4	土師器 壺	(14.0) -	口縁部片。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。内面部赤彩。	石英・白色粒少量。	外面部：2.5YR5/6 内面部：2.5YR4/4	良好
5	土師器 甕	14.4 6.8 27.7	4/5残存。内面ナデ及びヘラナダ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。底部ナデ。全体的に被熱し剥落が著しい。外面部に僅付着。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部：5YR4/4 内面部：10R4/4	良好
6	土師器 甕	17.8 6.4 30.9	2/3残存。内面ナデ及びヘラナダ。頸部ヘラナダ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部下半に炭化物が付着している。	繊微量、石英・白色粒多量。	外面部：5YR5/4 内面部：10YR5/6	良好
7	土師器 甕	16.5 6.6 26.5	2/3残存。内面ヘラナダ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部及び底部ヘラケズリ。底部及び口縁部外面に転積痕が残る。内面部剥落が著しい。	赤褐色粒微量、纖少量、石英・白色粒中量。	外面部：5YR6/6 内面部：5YR6/6	良好
8	土師器 甕	14.0 4.9 19.5	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナデ。口縁部外面及び外面部は被熱により剥落する。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：2.5YR4/4 内面部：2.5YR4/4	良好
9	土師器 甕	13.0 3.8 13.0	完形。内面ヘラケズリ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部及び底部ヘラケズリ。外面部は被熱により剥落が著しい。	纖少量、石英・白色粒多量。	外面部：5YR5/6 内面部：5YR5/6	良好
10	土師器 甕	(24.0) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ナデ。内面部転積痕が残る。	石英・白色粒中量。	外面部：10YR6/4 内面部：10YR6/4	良好
11	土師器 甕	- (7.1) -	頸部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。全体的に摩耗が著しい。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部：5YR6/6 内面部：5YR6/6	良好
12	土師器 甕	24.6 7.5 24.3	完形。内面ヘラケズリ及びナデ。下端はヘラケズリ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。全体的に摩耗・剥落している。	纖少量、石英・白色粒少量。	外面部：5YR5/6 内面部：5YR5/6	良好

第2号土坑

1	須恵器 壺蓋	(11.9) -	口縁部片。内外面共にロクロナデ。外面部上部に自然釉付着。MT15～TK10型式。	精良。	外面部：7.5YR5/1 内面部：7.5YR5/1	良好
---	-----------	-------------	--	-----	------------------------------	----

第3号土坑

1	土師器 壺	(21.9) -	1/5残存。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ。	繊微量、石英・白色粒少量。	外面部：5YR6/6 内面部：7.5YK7/6	良好
2	土師器 壺	- (4.1)	口縁部へ体部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。内面上半部赤彩。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：2.5YR6/6 内面部：2.5YR5/6	良好
3	土師器 甕	- (7.3) -	底部片。内面ナデ。外面部及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：5YR5/4 内面部：10YR7/6	良好

第12号土坑

1	土師器 壺	(14.0) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ナデ。外面部赤彩。	石英・白色粒少量。	外面部：2.5YR4/8 内面部：2.5YR4/8	良好
2	土師器 甕	(16.0) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ヘラケズリ後ミガキ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：2.5YR3/1 内面部：5YR5/6	良好

第22号土坑

1	土師器 壺	(13.0) -	1/3残存。内面ナデ。口縁部内外共にヨコナデ。外面部ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。	石英・白色粒中量。	外面部：5YR4/6 内面部：5YR4/6	良好
---	----------	-------------	---	-----------	--------------------------	----

第29号土坑

1	土師器 甕	- (6.1) -	胴部下平～底部1/3残存。内面はほぼ剥落する。外面部及び底部ヘラケズリ後ミガキ。	繊微量、石英・白色粒中量。	外面部：10YR5/2 内面部：10YR5/2	良好
---	----------	-----------------	--	---------------	----------------------------	----

第33号土坑

1	土製品 不明	-	一部欠損。長さ33.4cm、幅1.9cm、厚さ1.4cm。ナデにより整形される。側面には研磨し整形されている。	繊微量、石英・白色粒少量。	5YR5/4	良好
---	-----------	---	---	---------------	--------	----



第40号土壙

1	土師器 环	(13.8) - (2.2)	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ 後ナデ。内面赤鉄、外面黒鉄。	石英・白色粒 微量。	外表面 : 5YR4/4 内表面 : 2.5YR4/6	良好
---	----------	----------------------	--	---------------	--------------------------------	----

第55号土壙

1	土師器 高环	- (7.7) (1.4)	脚部片。内外面共にヨコナデ。内外面赤鉄。	微量、石 英・白色粒中 量。	外表面 : 5YR4/4 内表面 : 5YR4/4	良好
---	-----------	---------------------	----------------------	----------------------	------------------------------	----

第58号土壙

1	土師器 环	(11.7) - (3.1)	口縁部～体部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラ ケズリ後ナデ。	微量・石英・白 色粒少量。	外表面 : 5YR6/6 内表面 : 5YR6/6	良好
---	----------	----------------------	---	------------------	------------------------------	----

古墳時代遺構外

1	須恵器 环身	(11.6) - (3.1)	口縁部片。内外面クロコナデ。外面下端回転ヘラケズリ。TK43～ TK209型式。SK59出土。	微量・白色粒微 量。	外表面 : 2.5Y5/2 内表面 : 2.5Y5/2	良好
2	須恵器 环蓋	- (2.3)	体部1/2残存。内面クロコナデ。外面回転ヘラケズリ。下部はクロコ ナデ。外面上部に算線状の痕跡が確認される。上面上部自然輪付 着。6F-c出土。	微量・白色粒少 量。	外表面 : NS1 内表面 : NS1	良好
3	須恵器 盤	(36.0) - (2.9)	口縁部片。内外面クロコナデ。内面自然輪付着。6F-c出土。	微量・白色粒微 量。	外表面 : M41 内表面 : 2.5Y6/2	良好

古代遺構外

1	土師器 环	(9.5) - (2.3)	口縁部片。内外面クロコナデ。SK59出土。	石英・白色粒 微量。	外表面 : 10YR6/4 内表面 : 10YR6/4	良好
2	土師器 环	- (6.1) (1.3)	底部片。内外面クロコナデ。底部回転糸切。S119出土。	石英・白色粒 微量。	外表面 : 10YR7/4 内表面 : 10YR7/4	良好
3	土師器 环	- (0.9)	底部片。内面ナデ。底部回転糸切。調査区出土。	石英・白色粒 微量。	外表面 : 10YR7/4 内表面 : 10YR7/4	良好
4	須恵器 环蓋	(15.8) (1.3)	口縁部片。内外面クロコナデ。S119出土。	白色粒微量。	外表面 : 5Y6/1 内表面 : 5Y5/1	良好
5	須恵器 环蓋	(11.2) (1.3)	口縁部片。内外面クロコナデ。外面自然輪付着。SK2出土。	白色粒微量。	外表面 : 7.5Y4/1 内表面 : 5Y6/2	良好

近世遺構外

1	常滑 碗	- (6.3)	銅部片。内外面共にヘラケズリ及びナデ。外面に輪付着。2F-b出 土。	鐵中量。	外表面 : 5YR3/4 内表面 : 5YR4/2	良好
2	石器 火打石	完形。	長さ3.2cm、幅2.4cm、重量10.5g。角に潰れた箇所が確認される。7B-a出土。			





写真図版 1



調査区遠景（北から）



調査区遠景（南から）



写真図版 2



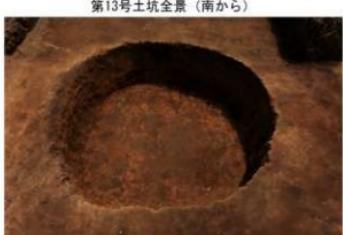
調査区全景（北側）



調査区全景（南側）



写真図版 3





写真図版 4



第37号土坑全景（北東から）



第38号土坑全景（南東から）



第38号土坑貝層検出状況（西から）



第64号土坑全景（東から）



第65号土坑全景（北西から）



第4号竪穴建物跡全景（南西から）



第4号竪穴建物跡カマド全景（南西から）



第4号竪穴建物跡遺物出土状況 1（西から）

写真図版 5



第4号竪穴建物跡遺物出土状況2（北西から）



第4号竪穴建物跡遺物出土状況3（南東から）



第4号竪穴建物跡遺物出土状況4（南東から）



第4号竪穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況（北西から）



第5号竪穴建物跡全景（南から）



第5号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



第5号竪穴建物跡2区遺物出土状況（南東から）



第5号竪穴建物跡カマド遺物出土状況1（南東から）



写真図版 6



第5号竪穴建物跡カマド遺物出土状況2（南東から）



第6号竪穴建物跡全景（西から）



第6号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（北西から）



第6号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（南西から）



第7号竪穴建物跡全景（南西から）



第7号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



第7号竪穴建物跡粘土出土状況（北西から）



第8号竪穴建物跡全景（西から）



写真図版 7



第8号竪穴建物跡カマド土層断面（南から）



第11号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）





写真図版 8



第13号竪穴建物跡全景（南西から）



第14号竪穴建物跡全景（北西から）



第14号竪穴建物跡カマド土層断面（南西から）



第14号竪穴建物跡 1区遺物出土状況（北東から）



第15号竪穴建物跡全景（南西から）



第16号竪穴建物跡全景（西から）



第16号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）



第17号竪穴建物跡全景（北東から）



第17号竪穴建物跡カマド全景（東から）



第17号竪穴建物跡貯蔵穴土層断面（西から）



第17号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）



第18号竪穴建物跡全景（南西から）



第18号竪穴建物跡カマド全景（西から）



第18号竪穴建物跡 1区遺物出土状況（南東から）



第18号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（東から）



第19号竪穴建物跡全景（南西から）



写真図版10



第19号竪穴建物跡カマド全景（南西から）



第20号竪穴建物跡全景（南西から）



第21号竪穴建物跡全景（西から）



第21号竪穴建物跡カマド全景（西から）



第21号竪穴建物跡カマド土層断面（南西から）



第21号竪穴建物跡遺物出土状況1（北西から）



第21号竪穴建物跡遺物出土状況2（北西から）



第22号竪穴建物跡全景（西から）



第22号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（南西から）



第23号竪穴建物跡全景（北西から）



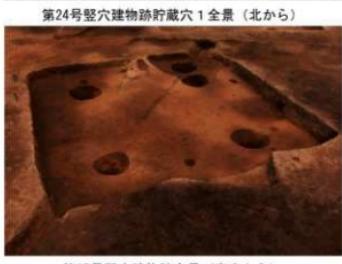
第24号竪穴建物跡全景（南から）



第24号竪穴建物跡貯蔵穴1全景（北から）



第24号竪穴建物跡P5遺物出土状況（南から）



第25号竪穴建物跡全景（南東から）



第25号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）



第26号竪穴建物跡全景（東から）



写真図版12



第26号竪穴建物跡貯蔵穴全景（東から）



第26号竪穴建物跡遺物出土状況 1（東から）



第26号竪穴建物跡遺物出土状況 2（東から）



第26号竪穴建物跡遺物出土状況 3（南東から）



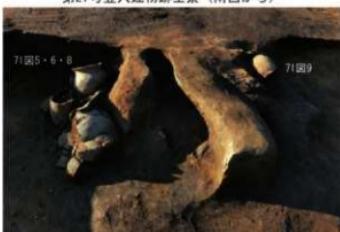
第26号竪穴建物跡遺物出土状況 4（南東から）



第27号竪穴建物跡全景（南西から）



第28号竪穴建物跡全景（東から）



第28号竪穴建物跡カマド全景（東から）



写真図版13



第28号竪穴建物跡遺物出土状況1（東から）



第28号竪穴建物跡遺物出土状況2（北西から）



第2号土坑全景（南西から）



第3号土坑全景（南西から）



第4号土坑全景（南東から）



第6号土坑全景（南東から）



第10・11号土坑全景（西から）



第12号土坑全景（東から）



写真図版14



第15号土坑全景（南から）



第18号土坑全景（南から）



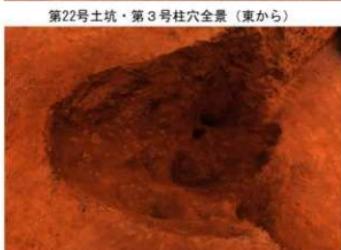
第19号土坑全景（南から）



第22号土坑・第3号柱穴全景（東から）



第29号土坑全景（西から）



第30号土坑全景（北西から）



第32号土坑全景（南東から）



第33号土坑全景（北東から）



第40号土坑全景（北東から）



第55号土坑全景（北から）



第57号土坑全景（北から）



第58号土坑全景（北から）



第60号土坑全景（北から）



第68号土坑全景（北から）



第69号土坑全景（北から）



第2号溝跡調査区北側土層断面（西から）



写真図版16



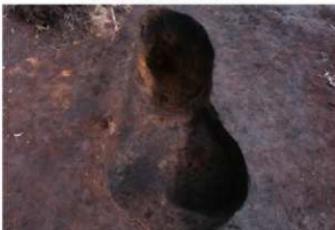
第2号溝跡・第1号燒土跡土層断面（南から）



第48号土坑全景（北から）



第62号土坑全景（北西から）



第2号焼土跡全景（北西から）



第2号焼土跡土層断面（南西から）



第3号焼土跡全景（北西から）



テストピット3土層断面（西から）



調査風景1



調査風景 2



調査風景 3



調査風景 4



調査風景 5



調査風景 6



調査風景 7



調査風景 8



調査終了状況 (南から)

写真図版18
第9号窓穴建物跡



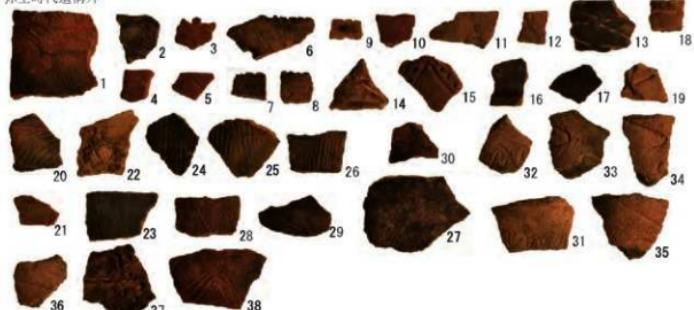


写真図版19

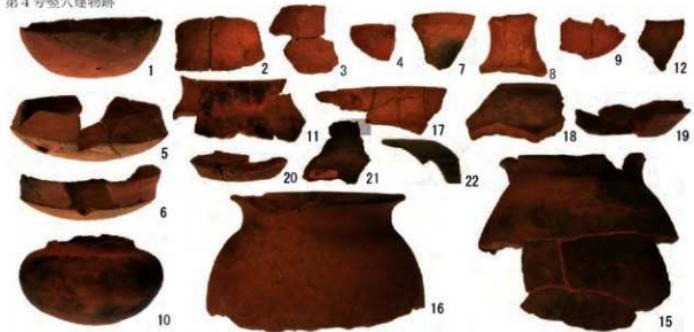
縄文時代遺構外



弥生時代遺構外

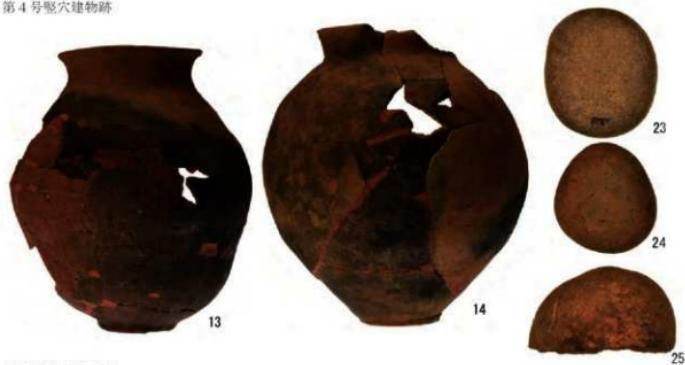


第4号堅穴建物跡

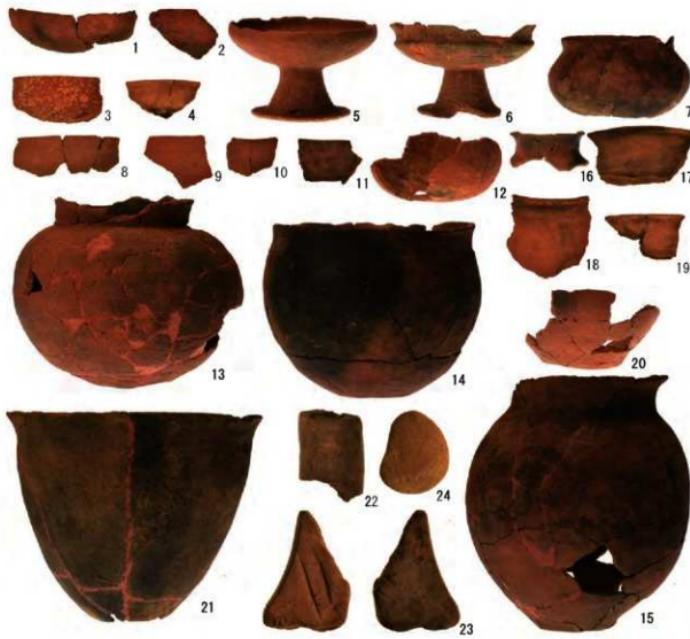




写真図版20
第4号窓穴建物跡



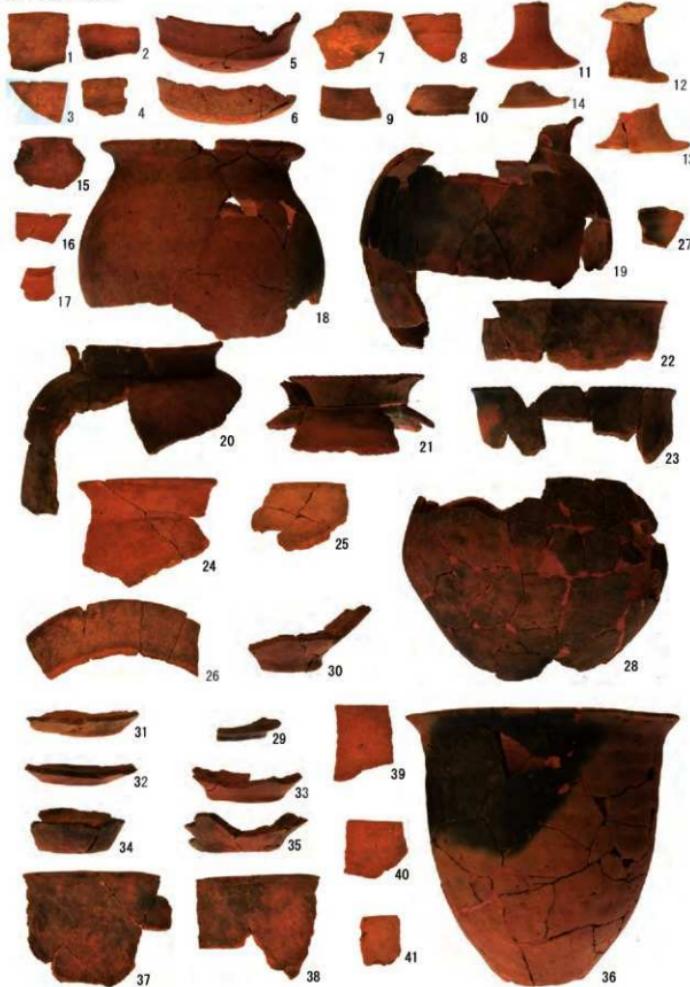
第5号窓穴建物跡





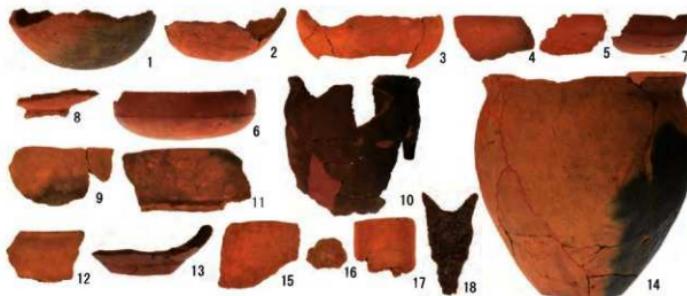
第6号堅穴建物跡

写真図版21

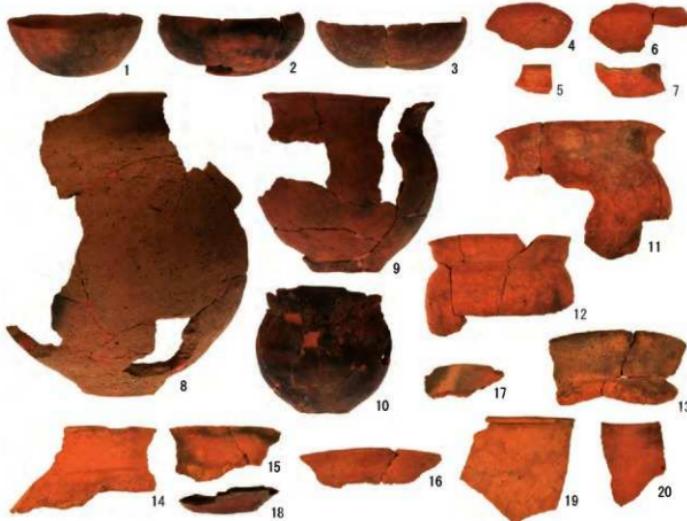




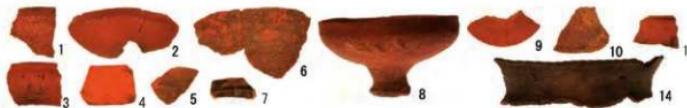
写真図版22
第7号堅穴建物跡



第8号堅穴建物跡



第10号堅穴建物跡



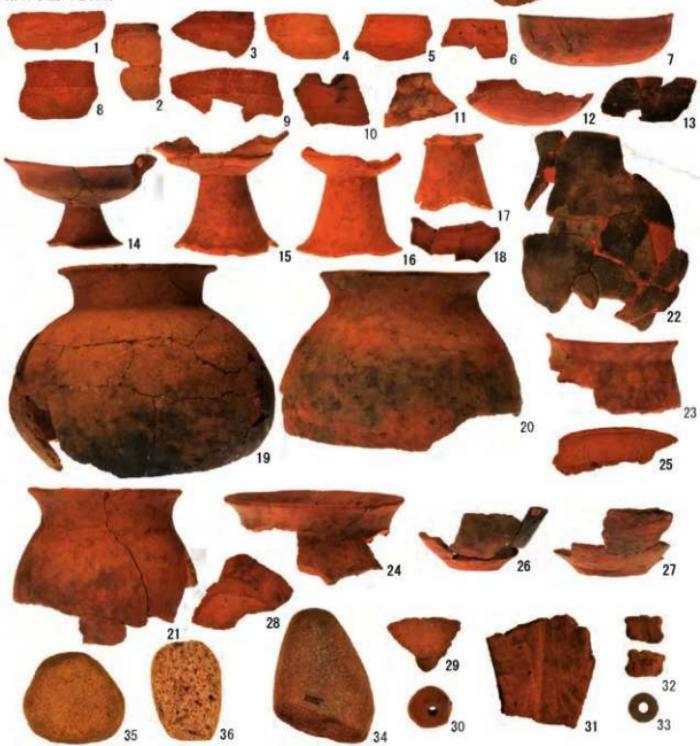


写真図版23

第10号堅穴建物跡

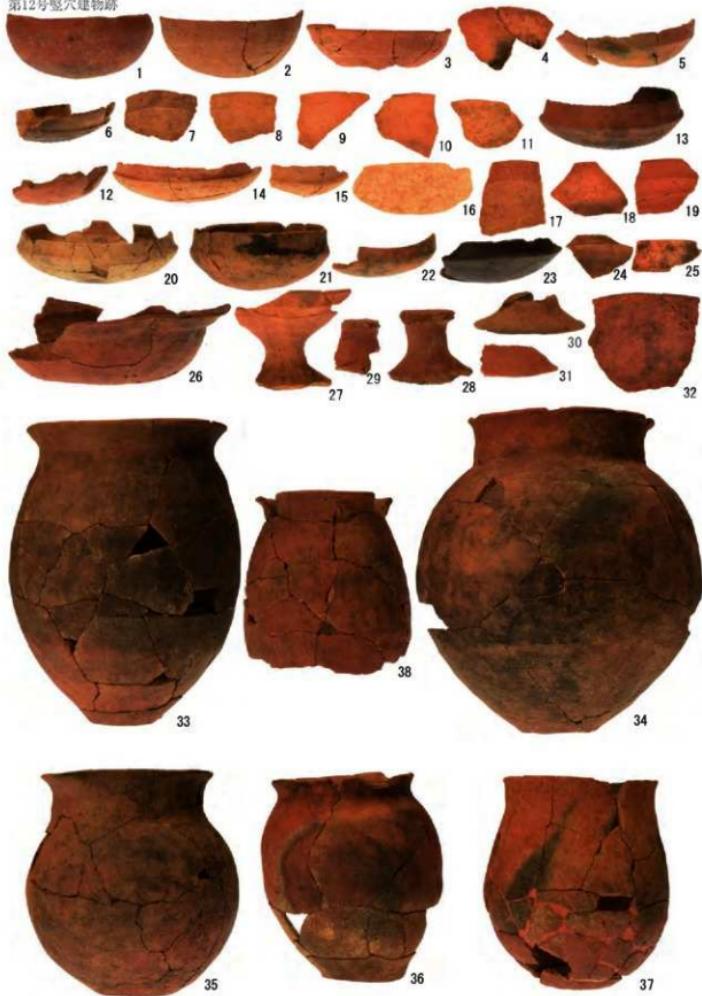


第11号堅穴建物跡





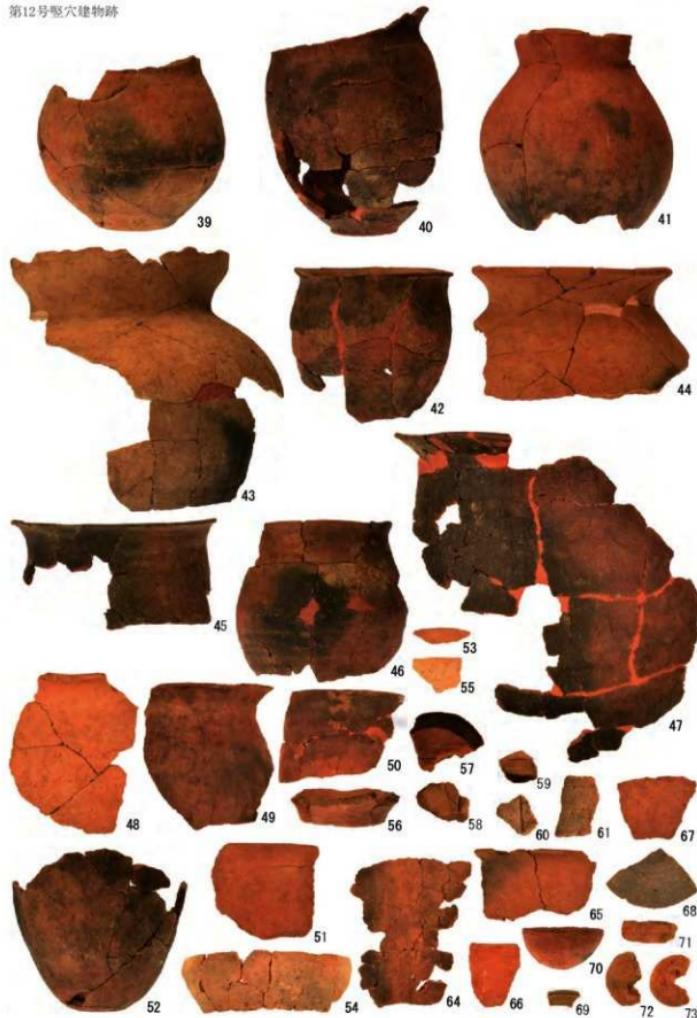
写真図版24
第12号堅穴建物跡



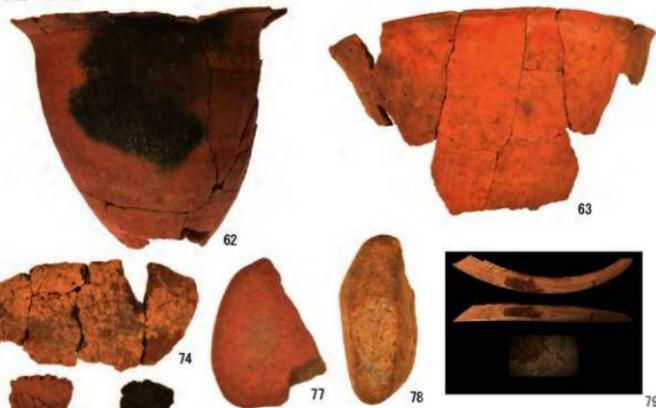


写真図版25

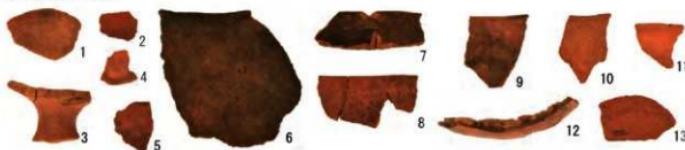
第12号堅穴建物跡



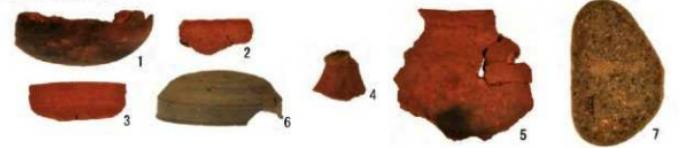
写真図版26
第12号堅穴建物跡



第13号堅穴建物跡



第14号堅穴建物跡



第15号堅穴建物跡





写真図版27

第16号窓穴建物跡



第17号窓穴建物跡

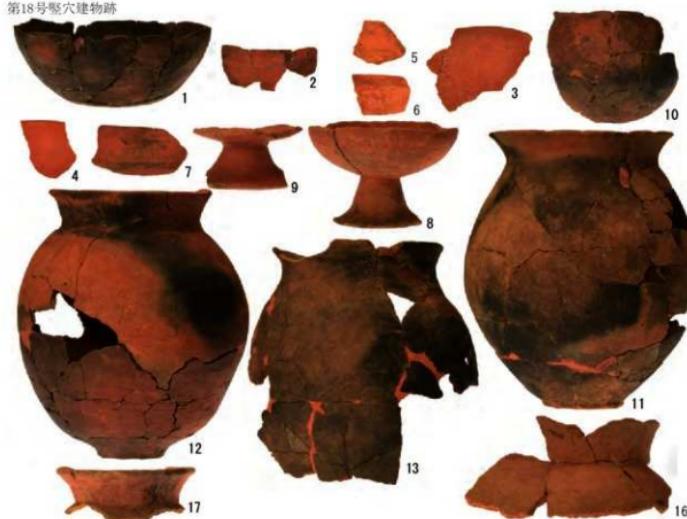




写真図版28
第17号堅穴建物跡



第18号堅穴建物跡



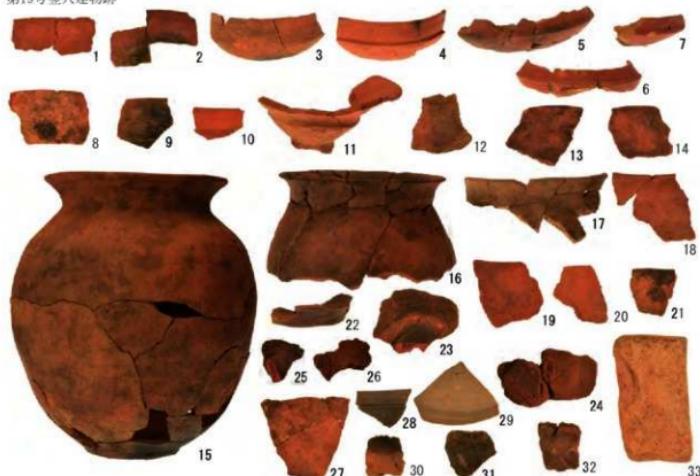


写真図版29

第18号窓穴建物跡



第19号窓穴建物跡



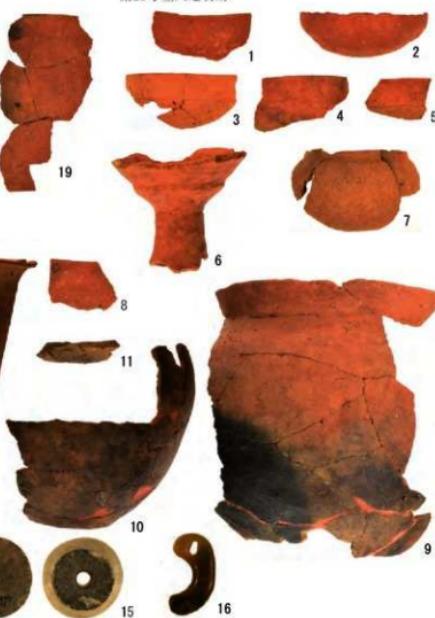
第20号窓穴建物跡



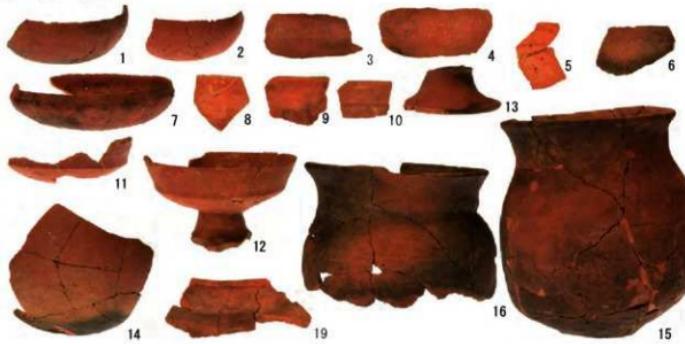
写真図版30
第20号堅穴建物跡



第21号堅穴建物跡



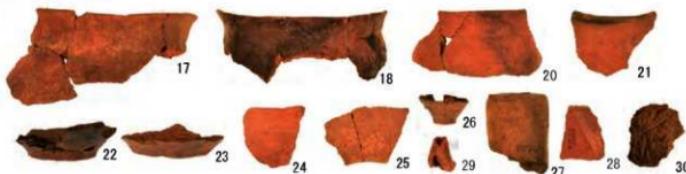
第22号堅穴建物跡



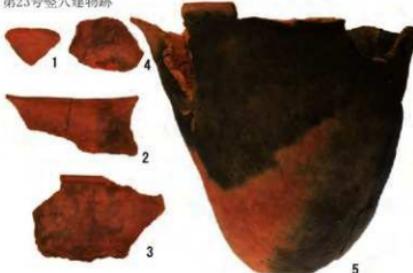


写真図版31

第22号堅穴建物跡



第23号堅穴建物跡



第24号堅穴建物跡



第25号堅穴建物跡

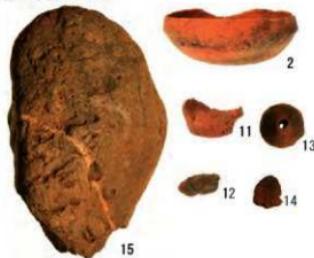


第25号堅穴建物跡

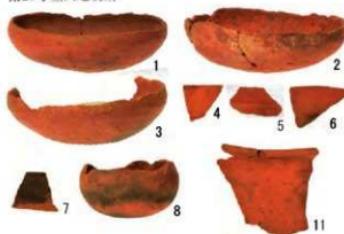




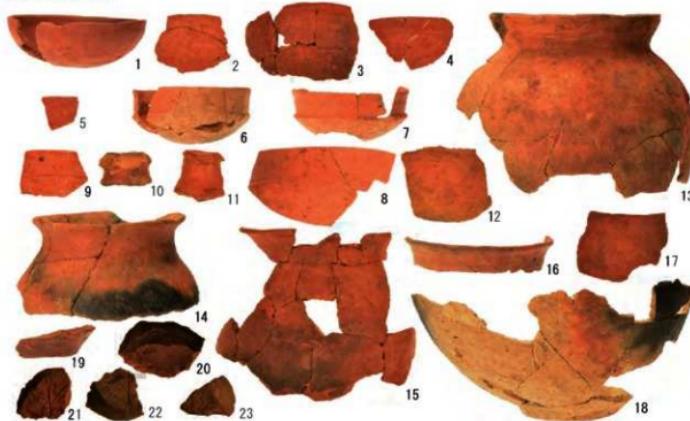
写真図版32
第25号堅穴建物跡



第26号堅穴建物跡



第27号堅穴建物跡





写真図版33

第27号窓穴建物跡



第28号窓穴建物跡



第2号土坑



第12号土坑



第3号土坑





写真図版34

第22号土坑



第33号土坑



第40号土坑



古墳時代遺構外



第29号土坑



第55号土坑



第58号土坑



3

古代遺構外



5

近世遺構外





報告書抄録

ふりがな	ちばしたねがやついせき							
書名	千葉市種ヶ谷津遺跡（第5次）							
副書名	廃棄物（木くず）中間処理施設の拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小林嵩・岸本高充・吉原大河							
編集機関	公益財団法人 千葉市教育振興財団 事務局 埋蔵文化財調査担当							
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター内 TEL: 043-266-5433							
発行年月日	2020年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	経緯度	調査期間	調査面積	調査原因		
所取遺跡名	所在地	面積	遺跡番号					
種ヶ谷津遺跡	千葉市中央区生実町	260-0814	12101	北緯 35° 56' 75"	20180409 ~ 20181217	7,380 m ² 施設拡張		
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
種ヶ谷津遺跡	集落	縄文時代前期～後期	堅穴建物跡 1軒	土器・土製品 石器・石製品	貝層 土器片疊未成品			
			土坑 10基					
			柱穴 1基					
	集落	弥生時代前期～中期後葉	遺構外	土器	丸子式系 東北地方南部			
			堅穴建物跡 24軒	土器類・質夷器 土製品・石製品 鉄製品	貝層 製鐵関連遺物			
	集落	古墳時代後期	土坑 21基					
		古代	遺構外	土器				
			溝跡 1条	陶磁器・石器				
要約		近世	土坑 2基					
			焼土跡 3基					
		1 縄文時代	縄文時代中期や、加曾利E II式期の堅穴建物跡 1軒、小堅穴 2基、土坑 3基が検出され、加曾利E II式期の小規模な遺構が隠してしまった。堅穴建物跡から土器片疊未成品、土坑内から貝層が検出されている。その他の遺構は、阿玉台式・阿玉台式・加曾利B2式期の可能性がある土坑・柱穴が検出された。また、詳細な時期は不明だが、柱穴が 3基検出された。遺構外出土の遺物は縄文時代前期～中期までの時期幅があり、阿玉台式～加曾利E II式が多い。					
		2 弥生時代	遺構は検出されなかったが、調査区内東部を中心に弥生時代前期末葉～中期前葉の土器が少量出土している。荒海式のほかに東海地方の丸子式系、東北地方南部の土器が検出された。また、1点だけが宮ノ台式の可能性がある土器が出土している。					
		3 古墳時代	古墳時代後期の堅穴建物跡 24軒、土坑 21基が検出された。これらの堅穴建物跡は一時期に形成されたものではなく、TK21～43型式期までの時期幅がある。最も遺構数が多いのはTK47～TK10型式期である。また、堅穴建物跡復土から小規模な貝層が検出され、製鉄に係る遺物も出土している。					
要約		4 古代	古代の遺構はなく、遺物もごく僅かである。過去の調査では台地縁辺部の斜面地から大量の遺物が出土しているが、台地上の利用はされなかったようである。					
		5 近世	近世と考えられる溝跡が 1条、土坑が 2基、焼土跡が 3基検出された。溝状遺構は道路の可能性が高い。					



千葉市種ヶ谷津遺跡
一棟墓物（木くぎ）中間処理施設の試験工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
令和2年3月31日発行

編集・発行 株式会社 グリーンアース
公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局 埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
T E L : 043-266-5433

印 刷 株式会社 弘報社
〒266-0026
千葉市緑区古市場町474-268 ちば印刷団地内
T E L : 043-268-2371